コートジボワール共和国
大アビジャン圏社会的統合促進
のためのコミューン強化
プロジェクトフェーズ2にかかる
基礎情報収集･確認調査（社会調査）
報告書

平成 29 年 4 月
（2017 年）

独立行政法人国際協力機構
社会基盤・平和構築部

基盤
JR
17-070

コートジボワール共和国
大アビジャン圏社会的統合促進
のためのコミューン強化
プロジェクトフェーズ2にかかる
基礎情報収集・確認調査（社会調査）
報告書

平成 29 年 4 月
（2017 年）

独立行政法人国際協力機構
社会基盤・平和構築部

目　　　　次

目　次
調査対象地域位置図
現地写真
略語表

第１章　調査の概要 …… 1
　１－１　調査実施の背景及び目的…… 1
　１－２　調査対象地域 …… 1
　１－３　調査日程 …… 1
　１－４　調査方法 …… 2

第２章　コートジボワールにおける社会統合の位置づけ …… 3
　２－１　コートジボワールにおける政治と民族の関係性 …… 3
　　２－１－１　コートジボワールの民族 …… 3
　　２－１－２　2014 年センサスにおける民族分類 …… 5
　　２－１－３　民族と政治のかかわり …… 7
　２－２　コートジボワール国家開発計画の枠組み …… 11
　２－３　社会的調和促進プログラムにおける社会統合の位置づけ …… 11

第３章　調査対象アボボ・ヨプゴン市の概要 …… 16
　３－１　対象国におけるアビジャンの位置づけ …… 16
　３－２　対象地域における行政区分の概要 …… 16
　３－３　アボボ市・ヨプゴン市の位置づけ …… 19
　　３－３－１　大アビジャン圏における両市の位置づけ …… 19
　　３－３－２　各市の概要 …… 21

第４章　アボボ・ヨプゴン市における調査地選定 …… 24
　４－１　両市に係る基礎情報の収集 …… 24
　４－２　アボボ市における調査対象地の選定 …… 26
　　４－２－１　基礎データの分析 …… 26
　　４－２－２　市役所職員との協議を踏まえた調査対象地の決定 …… 28
　４－３　ヨプゴン市における調査対象地の選定 …… 30
　　４－３－１　カルティエ区分のすり合わせ …… 30
　　４－３－２　基礎データの分析 …… 30
　　４－３－３　市役所職員との協議を踏まえた調査対象地の決定 …… 32

第５章　選定調査対象地域における調査 …… 33
　５－１　調査方法の検討 …… 33

５－２　調査内容の検討 ……………………………………………………………………………34

第６章　アボボ・ヨプゴン市の各調査対象地域の概要……………………………………………35
６－１　アボボ市における各調査対象地域の概要……………………………………………35
６－２　ヨプゴン市における各調査対象地域の概要…………………………………………42

第７章　社会統合の現状等に係る調査結果…………………………………………………………50
７－１　両市での調査における印象……………………………………………………………50
７－２　騒乱が地域に与えた影響………………………………………………………………51
７－３　騒乱前後のコミュニティ・住民の関係性……………………………………………51
７－３－１　騒乱前後のコミュニティ・住民の関係性………………………………………51
７－３－２　騒乱直後と現在の住民の緊張関係………………………………………………52
７－３－３　騒乱前後の住民の関係性に変化がないとされた地域の存在 …………………53
７－４　社会統合に係る阻害要因、その他不安定要因…………………………………………54
７－４－１　両市に存在する社会統合に係る阻害要因、不安定要因 ………………………54
７－４－２　一般的な事象への政治的・民族的な説明の付与…………………………………55
７－４－３　与党派への厚遇に対する不公平感………………………………………………56
７－４－４　治安問題 ……………………………………………………………………………56
７－４－５　土地問題 ……………………………………………………………………………59
７－５　社会統合に係る促進要因………………………………………………………………59
７－５－１　コミュニティ活動の実施…………………………………………………………60
７－５－２　インフラ整備 ………………………………………………………………………60
７－５－３　ビジネス支援 ………………………………………………………………………61
７－５－４　センシタイゼーションの実施……………………………………………………61

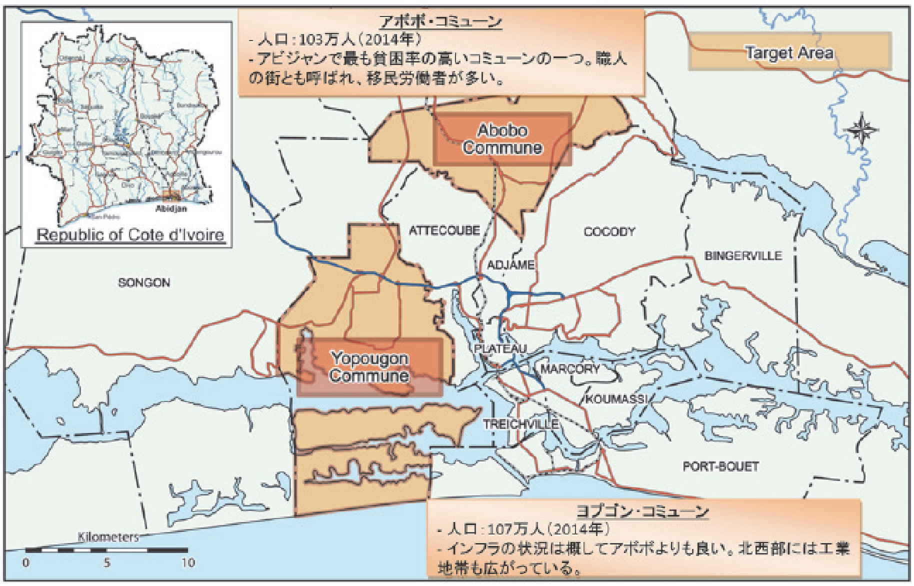
第８章　その他の調査結果 …………………………………………………………………………62
８－１　既存の住民組織に係る概要……………………………………………………………62
８－２　各住民組織の概要 ………………………………………………………………………63
８－３　伝統的統治体制 …………………………………………………………………………63
８－３－１　村における伝統的統治体制………………………………………………………63
８－３－２　カルティエにおける統治体制……………………………………………………64
８－４　住民からの管理委員会のメンバーに係る提案…………………………………………64
８－５　両市の選挙結果に係る情報……………………………………………………………67
８－６　開発計画及び公共事業に係る情報収集………………………………………………69
８－６－１　両市の３カ年計画策定プロセス…………………………………………………69
８－６－２　両市の３カ年計画に係る課題……………………………………………………70
８－７　両市の３カ年計画の内容………………………………………………………………71
８－７－１　アボボ市３カ年計画………………………………………………………………72
８－７－２　ヨプゴン市３カ年計画……………………………………………………………74
８－８　ベースライン調査の現地再委託先に係る情報収集……………………………………77

第９章　調査まとめ ……………………………………………………………………………………78
９－１　対象両市における社会統合の現状……………………………………………………………78
９－１－１　過去の経験に基づくコンフリクト……………………………………………………78
９－１－２　現状の不公平感に基づくコンフリクト………………………………………………78
９－１－３　社会統合に係る状況を把握するための指標…………………………………………78
９－１－４　調査対象地域の緊張度による 3 分類…………………………………………………79
９－２　対象両市で実施する社会調査の難しさと意義……………………………………………81
９－２－１　聞き取り等から得られた情報の信憑性………………………………………………81
９－２－２　重層的な対立構造の存在………………………………………………………………82
９－３　地域に内在するトリガー………………………………………………………………………82

第 10 章　COSAY フェーズ 2 実施における留意事項等……………………………………………83
10－１　COSAY フェーズ 2 における検討・留意事項 ………………………………………………83
10－１－１　Do no harm の徹底 ……………………………………………………………………83
10－１－２　住民へのインパクト、公平性の確保…………………………………………………83
10－１－３　行政能力強化 ……………………………………………………………………………83
10－２　情報収集先 ……………………………………………………………………………………84

付属資料
１．市役所によるヨプゴン市の区分…………………………………………………………………87
２．社会調査の実施に用いた調査票…………………………………………………………………90
３．住民組織に係る聞き取り調査結果………………………………………………………………92
４．日程表 …………………………………………………………………………………………… 103
５．調査対象者リスト ……………………………………………………………………………… 105
６．議事録 …………………………………………………………………………………………… 109

調査対象地域位置図



出所：COSAY フェーズ 1 完了報告書から転載

現地写真

アボボ市 Agbekoi 村における聞き取り調査
（写真右奥がエブリエ、左がその他の民族）

アボボ市 Abobo Sud 3S Tranche カルティエ
における聞き取り調査

フェーズ 1 道路改修サイトにおける
未舗装道路の浸食

ヨプゴン市 Gesco Manutention カルティエ
における聞き取り調査

ヨプゴン市 Adiapo Doume 村における
聞き取り調査

ヨプゴン市 Zone Industrielle カルティエ
聞き取り調査実施場所周辺の様子

略　語　表

略　語	正式名称	日本語
ADDR	Autorité pour le Désarmément la Démobilisation et la Réintégration des ex-combattants	元兵士の武装解除・動員解除・社会復帰のための機関
BNETD	Bureau National d'Etude Techniques et de Développements	技術・開発国家研究局
CCT	Centre de Cartographie et de Télédetection	地図製作・リモートセンシングセンター
CCGPP	Comité Conjoint de Gestion des Projet pilotes	パイロットプロジェクト共同運営委員会
CCSR	Cellule de Coordination, de Suivi et de Réinsertion	調整・追跡管理・再統合ユニット
CDVR	Comission Dialogue, Vérité et Réconciliation	対話・真実・和解委員会
CEDEAO	Communauté Economique des Etats de l'Afrique de l'Ouest	西アフリカ諸国経済共同体
CGQ	Comité de Gestion des Quartiers	カルティエ管理委員会
COGES	Comité de Gestion d'Écoles	学校管理委員会
CIAPOL	Centre Ivoirien Antipollution	コートジボワール公害防止センター
CNPS	Caisse Nationale de prévoyance Sociale	国家社会保障基金
CONARIV	Commission National pour la Réconciliation et l'Indemnisation des Victimes	和解・被害者補償委員会
COSAY	Cohésion Sociale Abobo Yopougon	大アビジャン圏社会統合促進のためのコミュニティ緊急支援プロジェクト
C/P	Counterpart	カウンターパート
DREN	Direction Régionale de l'Education Nationale	国民教育の地方総局
FPI	Front populaire ivoirien	イボワール人民戦線
GESCO	Groupement d'Entreprise Suisse pour la Construction de l'Autoroute du Nord	北部高速道路建設のためのスイス企業グループ
INS	Institut National de la Statistique	統計局
LMP	Ligue des mouvements pour le progrès	前進運動連合
MEMIS	Ministére d'Etat, Ministére de l'Intérieur et de la Sécurité	内務省
MESAD	Mouvement pour l'Education, la Santé et le Développement	教育・保健・開発のための運動
ONG	Organisations non gouvermentales	非政府組織（NGO）
ONUCI	Opération des Nations Unies en Côte d'Ivoire	国連コートジボワール活動
PDCI	Parti démocratique de Côte d'Ivoire	コートジボワール民主党

略　語	正式名称	日本語
PRE-CI	Projet de Renaissance des Infrastructures de Côte d'Ivoire	コートジボワールインフラ復興プロジェクト
RDR	Rassemblement des républicains	共和主義者連合
RHDP	Rassemblement des houphouëtistes pour la démocratie et la paix	民主主義と平和のためのウフエ主義者連合
ROFAF	Réseau des Organisations Féminines d'Afrique Francophone	アフリカフランス語話者の女性組織ネットワーク
SICOGI	Société Ivoirienne de Construction et de Gestion Immobilière	建設・不動産管理のコートジボワール人協会
SIDECI	Salon Ivoirien d'electricite et de commerce industiel	電力・産業貿易サロン
SDUGA	Schéma Directeur d'Urbanisme du Grand Abidjan	アビジャン都市開発計画
UFC	Union Federale des Cousommateurs	連邦消費者組合

第１章　調査の概要

１－１　調査実施の背景及び目的

コートジボワール共和国（以下、「コートジボワール」と記す）の大アビジャン圏では、アボボ市及びヨプゴン市（以下、両市）における現体制支持派と旧体制支持派間の対立が騒乱に発展し、インフラの破壊、政治的分裂及び住民間の関係悪化が大きな問題となった。かかる状況から、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」と記す）は社会インフラ整備を通じた社会統合を促進するための支援として「大アビジャン圏社会的統合促進のためのコミュニティ緊急支援プロジェクト（Cohésion Sociale Abobo Yopougon：COSAY）」（2013 年 7 月～2016 年 6 月）を実施した。COSAY フェーズ 1 で実施したインフラ整備事業にあたっては、行政と住民が民族や宗教の違いを超えたプラットフォームをつくり、合意形成を重ねたことが行政と住民間の関係強化に寄与したこととして評価された。

一方、COSAY フェーズ 1 の対象地域は両市の人口比に対して限定的であったため、コートジボワール政府は社会統合を促進するために、COSAY フェーズ 1 で施行した手法の他地域への展開及び定着に向けて、「大アビジャン圏社会的統合促進のためのコミューン強化プロジェクト フェーズ 2（以下、COSAY フェーズ 2)」をわが国に要請した。旧体制支持派層の選挙区における低い投票率、両市の若者層の失業問題や貧困地域の治安問題など、いまだ社会統合に係る懸念事項が残っていることが明らかになっており、引き続き対象地域における社会統合を進めていく必要性が高い。しかし、COSAY フェーズ 1 での両市における対象地域以外の社会統合の現状、課題、住民組織の構成などの実態は明らかになっていない。

本調査では、COSAY フェーズ 2 を実施するうえで必要な基礎的な情報収集や分析を行い、地域ごとの社会統合の傾向を確認するとともに、対象コミューンの開発計画、予算、公共事業の内容及び規模等を踏まえて、プロジェクト実施時の留意点を取りまとめる。

１－２　調査対象地域

対象国の地方行政区画は、独立以来、県（Department）、準県（sous-prefecture）の 2 層構造が取られてきたが、2000 年に県の上院単位としてレジオン（Region：地域）が設置され、レジオン、県、準県の 3 層構造となった。他方、首都ヤムスクロと最大都市であるアビジャンは、県と同格の特別区（District）が設置されており、両特別区には下位行政単位としてコミューン（Commune）が置かれている。

本調査では、Abidjan Autonomous District（以下、アビジャン特別行政区）の 13 のコミューンのうち、2010 年の大統領選挙後の騒乱において多大な影響を受け、かつ社会インフラ施設の不足等による高い失業率といった社会の不安定要因を抱えるアボボ市及びヨプゴン市の 2 市を対象としている。

１－３　調査日程

本調査は、2017 年 1 月 10 日～2017 年 2 月 28 日の 50 日間にわたり実施された。調査日程の詳細は、付属資料４.の日程表に示すとおりである。

１－４　調査方法

既存情報・資料の収集、分析に加え、上記現地調査期間において、政府機関（両市役所、内務省、連帯・社会統合・犠牲者補償省）を訪問し、既存データの収集及び社会統合等に係る聞き取りを行った（付属資料５.の調査対象者リストを参照）。また、対象両市において、市役所職員と協議のうえ調査カルティエ（村、スラム含む）を各市 9 サイト選定し、選定されたサイトでの聞き取り調査を行った。

第２章　コートジボワールにおける社会統合の位置づけ

COSAY では、社会統合の促進を目的にプロジェクトが遂行されるが、政治的な背景を内包することから、本調査においても、調査の目的については、フェーズ 2 の枠組みを作成するにあたって対象地域を理解するために必要な一般的な情報の収集と先方政府には説明をしている。COSAY フェーズ 2 においても、フェーズ 1 に引き続き、プロジェクトの実施による新たな紛争の火種の提供とならないような配慮が求められる。

2010 年の大統領選挙後の混乱が収束し始めた 2011 年以降、対象地域における社会統合は進み、表面上の平和は保たれているように見受けられる。しかし、COSAY フェーズ 2 における本調査でも、隣人や地域間の小競り合いが民族的・政治的な対立の文脈に置きかえられ、大きな問題に発展する可能性が指摘されている。

このような背景にかんがみ、政治的な意味合いの強い国民和解や社会統合について、対象国が抱える課題や、それらの課題に対応すべく対象国が掲げている政策の枠組みを理解することが重要である。

２－１　コートジボワールにおける政治と民族の関係性

２－１－１　コートジボワールの民族

コートジボワールには、一般に 60 以上の民族（言語）が存在しているといわれており、また移民を多く受け入れてきた国でもあることから、その数は 100 以上ともいわれる。

当国の民族分類については、原口武彦『部族と国家－その意味とコートジボワールの現実』（アジア経済研究所 1996）に詳しく書かれているため、当該著書から概要をまとめる。

当該著書では、コートジボワール計画省が 1967 年に公刊した人口調査報告書やアメリカの有名な人類学者である G. P. Murdock（以下、マードック）による分類を、表２－１のとおり比較している。

表２－１　コートジボワール諸民族の分類比較

<table>
<tr><th>『政府報告書』</th><th colspan="2">『ORSTOM 地図』</th><th colspan="2">マードック</th></tr>
<tr><td>Akan</td><td>Akan</td><td rowspan="2">Akan</td><td>Akan</td><td rowspan="2">Twi</td></tr>
<tr><td>Lagunaire</td><td>Lagunaire</td><td>Lagoon</td></tr>
<tr><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Kru</td></tr>
<tr><td>Mandé de Sud</td><td>Mandé de Sud</td><td rowspan="3">Mande</td><td>Mande</td><td rowspan="2">Peripheral Mande</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Malinké</td><td rowspan="2">Mandingue</td><td>(instrusive)</td></tr>
<tr><td>Nuclear Mande</td><td>Nuclear Mande</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Voltaïque</td><td>Sénoufo</td><td rowspan="4">Voltaïque</td><td>Senoufo</td><td rowspan="4">Voltaïc</td></tr>
<tr><td>Lobi</td><td>Lobi</td></tr>
<tr><td>Koulango</td><td>Mole</td></tr>
<tr><td></td><td>Grusi</td></tr>
</table>

このように、コートジボワールの民族が 4～6 に大別されていることがみてとれる。

なお、調査対象両市での聞き取り調査においても非常に多くの民族名が挙げられた。各民族がそれぞれどの民族グループに属するのかを理解するのに役立つと思われるため、同書で整理されている各民族構成の表も表２－２として添付しておく。なお、表２－２は、前出のコートジボワール計画省が公刊した人口調査報告書の部分を抜粋したものである。

なお、A 欄は『政府報告書』に記載されている民族名であり、B 欄は『政府報告書』で「その他」として省略されているもの、あるいは上記の民族名に含められているらしい民族の名をORSTOM が編纂した「文化・部族的グループ地図」（表中、『ORSTOM 地図』と略記）から拾い、C 欄は 1975 年の『アビジャン県人口調査報告書』から拾い出したものであることが、書籍中で明示されている。

表２－２　コートジボワールの民族構成（1965 年）

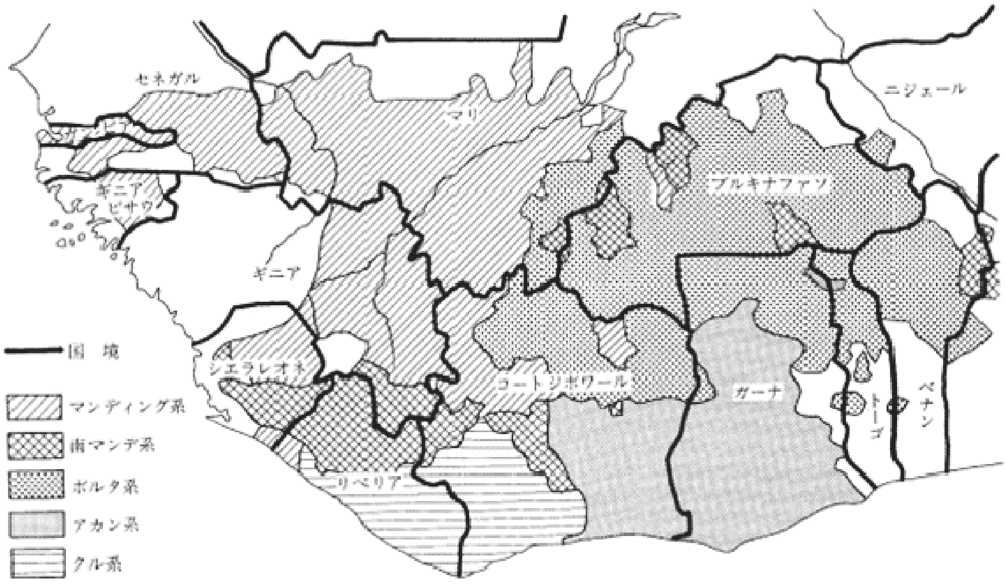
大分類	部族名 Ethnie		
	A	B	C
Akan	1.Abron(Doma) 2.Agni 3.Baoulé	4.Ega	
Lagunaires	5.Akié(Attié) 6.Abé 7.Abouré	8.Abidji 9.Adioukrou 10.Alladian 11.Avikam 12.Ebrie 13.Ahizi 14.Mbato 15.Nzima (Appolonien) 16.Eotilé 17.Essouma 18.Kroubou	
Kru	19.Bété 20.Dida 21.Godié 22.Guéré } (Wé) 23.Wobé(Ouobé) } (Wé)	24.Niaboua 25.Niédéboua 26.Kouya 27.Kouzié 28.Oubi 29.Krou 30.Bakwé 31.Wané 32.Néyo 33.Kotrohou 34.kodia	
Mandé du Sud	35.Dan(Yacouba) 36.Gouro 37.Gagou(Gban)	38.Toura 39.Mona (Nouam) 40.Ouan 41.Ngen	
Malinké	42.Malinké	43.Dioula	44.Foula 45.Koro 46.Koyara 47.Mahou 48.Ouorodougou 49.Bambara
Voltaïque	50.Lobi 51.Sénoufo	52.Gouin 53.Tégesié 54.Birifor 55.Siti 56.Nafana 57.Koulango	58.Bouna 59.Diamala 60.Djimini 61.Palaka 62.Syenambelé 63.Tagouana
	その他		

出所：Ministère du Plan, Côte d'Ivoire 1965, population, études régionales 1962-1965: synthèse, Abidjan, 1967, 及び ORSTOM-IGT,Ministère du Plan de Côte d'Ivoire, Atlas de Côte d'Ivoire, 1979, p. B2a.

表２－２にもあるように、"ジュラ（Dioula）" は、マリンケ（本報告書全体では Mande du Nord と分類）に属する一民族の名前であるが、本報告書議事録等でも頻出する "ジュラ" については、Mande du Nord 及び Voltaique の 2 つの民族グループの総称であることが多かった（ジュラの語源については諸説あり、もともと巡回商人を意味するこの言葉が民族的な意味合いで用いられるようになったともいわれる）。そのため、住民らの発言にある "ジュラ" が一民族を指すのか、主に北部出身者とされる上記 2 つの民族グループ全体を指すのかについては、留意が必要である。

次にコートジボワール周辺の国との民族的なつながりを俯瞰するため、周辺国も含めた各民族

グループの分布を図２－１に示す。



出所：原口武彦著『部族と国家－その意味とコートジボワールの現実』より転載

図２－１　コートジボワール周辺国を含めた民族グループの分布

当書籍では、Akan（Lagunaires を含む）、Kru、Mande 及び Voltaique の出自が表２－３のとおりまとめられている。

表２－３　言語分類の整理

言語グループ	出　自
Akan	17 世紀から 19 世紀にかけて今日のガーナの内陸部から移住してきた人々の子孫と、その文化的影響下に入った先住民グループによって形成された諸部族であり、今日のコートジボワールとガーナの両国にまたがって分布。
Kru	コートジボワールの南西部からリベリアの東部に至る大森林地帯にかなり古くから居住している諸部族。
Mande	ニジェール川の上流地域の本拠地から次第に拡散していったと考えられているグループで、今日のマリの南部を中心にコートジボワールの北西部から、ギニア東部、シエラレオネ、セネガルのカザマンス地方まで広く分布しているグループ。 マリンケと南マンデにも分けられ、マリンケはそれらの本拠地とみなされている地域に居住している諸部族であるのに対し南マンデは 16 世紀中葉頃から、周辺地域に押し出され移入してきた人々とその子孫によって形成された諸部族と考えられている。
Voltaique	かつてのオートボルタ（1984 年に国名改訂して、現在はブルキナファソ）側に存在しており、セヌフォ族、ロビ族などはそのグループが南下して形成された諸部族であると考えられている。

２－１－２　2014 年センサスにおける民族分類

次に、当国において各種データの収集、管理を一手に引き受けている、統計局（Institut national de la statistique : INS）が発行している各種 2014 年センサス報告書〔Recensement General de la

Population et de l'Habitat 2014（Secrtariat Technique Permanent du Comite Tecunique du RGPH）〕の情報を基に、当国の民族分布等について記載する。

INS のホームページの情報では、一番多いバウレ族で人口の 9.7%、マリンケ族の 8.5%、バウレ族の 6.6%が続く。このように一番多い民族でも国民に占める割合は 10%以下と非常に低く、圧倒的マジョリティが存在しないことがわかる（INS の他の報告書では、100 万人以上の言語話者を有する言語が 17 存在し、国民の 70%以上が Commercial Trading Language としてジュラ語を話す一方、ジュラ語を母語とする人も人口の 14.8%を占めるという記載もある）。

INS の分類によると、コートジボワールは 69 の民族から構成されており、これら民族は表２－４のように大きく 7 つ（5 民族区分＋ステータスが不明な 2 分類）に大別される（コートジボワール国籍をもたない人は除く）。また、コートジボワール国籍をもたない外国人も当国には多く居住しており、全体人口の 24.2%を占める。

表２－４　民族カテゴリー

民族カテゴリー	主な民族	2014 年人口	割合（%）
Akan（既出の Lagunaires を含む）	バウレ、アティエ、エブリエ等	6,540,553	28.9
Krou	ベテ、ゲレ、ディダ等	1,917,500	8.5
Mande du Nord	マリンケ、ジュラ等	3,276,186	14.5
Mande du Sud	グロ、ダン（ヤクバ）等	1,570,483	6.9
Gur（Voltaique）	セヌフォ、クラン、ロビ等	3,656,517	16.1
Natural Ivoarian	－	95,395	0.4
Ivoarian without precision	－	118,864	0.5
Non Ivoarian	ブルキナファソ、ガーナ、ギニア等	5,490,222	24.2

表２－４の INS による民族カテゴリーを既出の書籍における分類と照らし、本報告書では表２－５のとおり整理した。

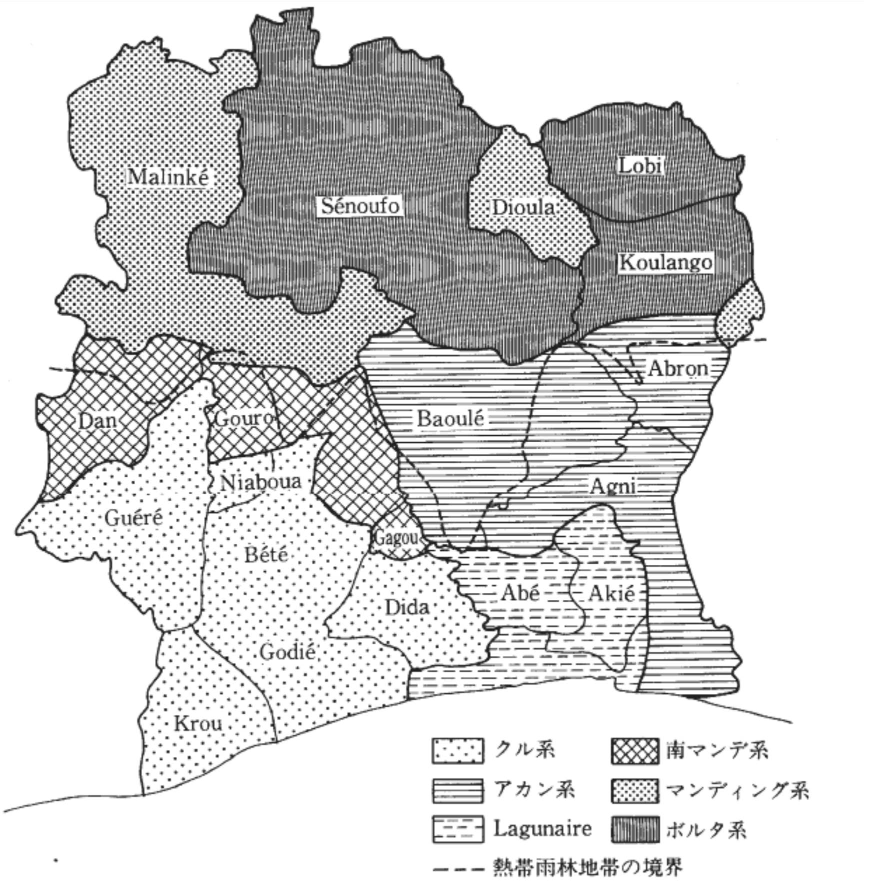
表２－５　本報告書での民族分類に係る記載の定義

<table>
<tr><th>『政府報告書』</th><th colspan="2">『ORSTOM 地図』</th><th colspan="2">マードック</th><th>INS</th><th>本報告書</th></tr>
<tr><td>Akan</td><td>Akan</td><td rowspan="2">Akan</td><td>Akan</td><td rowspan="2">Twi</td><td rowspan="2">Akan</td><td rowspan="2">Akan</td></tr>
<tr><td>Lagunaire</td><td>Lagunaire</td><td>Lagoon</td></tr>
<tr><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Kru</td><td>Krou</td><td>Krou</td></tr>
<tr><td>Mandé de Sud</td><td>Mandé de Sud</td><td rowspan="3">Mande</td><td>Mande</td><td rowspan="2">Peripheral Mande</td><td>Mandé de Sud</td><td>Mande de Sud</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Malinké</td><td rowspan="2">Mandingue</td><td>(instrusive)</td><td rowspan="2">Mandé de Nord</td><td rowspan="2">Mande de Nord</td></tr>
<tr><td>Nuclear Mande</td><td>Nuclear Mande</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Voltaïque</td><td>Sénoufo</td><td rowspan="4">Voltaïque</td><td>Senoufo</td><td rowspan="4">Voltaïc</td><td rowspan="4">Gur (Voltaïque)</td><td rowspan="4">Voltaique</td></tr>
<tr><td>Lobi</td><td>Lobi</td></tr>
<tr><td>Koulango</td><td>Mole</td></tr>
<tr><td></td><td>Grusi</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Naturalisés</td><td>－</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Ivoiriens sans précision</td><td>－</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Autre nationalité</td><td>Foreigner (CEDEAO 含む)</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Non defini</td><td>－</td></tr>
</table>

ここまでで整理してきた主な民族の分布を地図でみると図２－２のようになる。

図２－２で示されているアカン系及び Lagunaire が本報告書では Akan、クル系が Krou、南マンデ系が Mande du Sud、マンディング系が Mande du Nord、ボルタ系が Voltaique に相当する。

国土の北側に Mande du Nord 及び Voltaique（聞き取りでしばしば“ジュラ”と語られる人たち）、南側に Mande du Sud、Krou 及び Akan が位置しているのがわかる。



出所：原口武彦著『部族と国家－その意味とコートジボワールの現実』より転載

図２－２　コートジボワール主要民族の分布

２－１－３　民族と政治のかかわり

対象地域における住民間の分断の背景を理解するために、簡単にコートジボワールの政治的歴史と民族のかかわりをみておきたい。なお、以降の記述は、主に以下の 3 つの資料をまとめたものである。

- 原口武彦『部族と国家-その意味とコートジボワールの現実』アジア経済研究所、1996 年 3 月
- 佐藤章『国レベルの平和構築アセスメント（PNA）-平和構築に係る情報収集・分析-コートジボワール共和国』独立行政法人国際協力機構　アフリカ部、2010 年 3 月
- 佐藤章『国レベルの平和構築アセスメント（PNA）-平和構築に係る情報収集・分析-コートジボワール共和国（アップデート版）』独立行政法人国際協力機構　アフリカ部、2012 年 3 月

対象両市において大きな負の影響を及ぼした 2011 年の騒乱の発端となったイボワール人民戦線（Front populaire ivoirien : FPI）のローラン・バグボ前大統領及び共和主義者連合（Rassemblement des républicains : RDR）のアラサン・ワタラ現大統領を含め、1960 年の独立以降、以下の 5 名が大統領を務めてきた（選挙を経ない暫定大統領を含む）。

表２－６　コートジボワールの歴代大統領と当時の情勢等

大統領	所属政党	出自（民族）	在任期間	備　考
ウフエ・ボワニ	コートジボワール民主党（Parti démocratique de Côte d'Ivoire : PDCI）	ヤムスクロ（バウレ）	1960 年 11 月～1993 年 12 月	初代大統領（独立～1960 年 11 月まで暫定大統領に就任）。1993 年 12 月に在任中に死去。 1990 年 5 月に複数政党制に移行した後、10 月に複数政党制のもとでの初の大統領選を実施。
コナン・ベディエ	PDCI	中央部：ダウクロ（バウレ）	1993 年 12 月～1999 年 12 月	1995 年の大統領選挙で苦戦が予想されたことからワタラの立候補そのものを阻止する戦略をとり、"イボワリテ"の思想を称揚した。 待遇改善を求める兵士反乱の収拾に失敗し亡命（2001 年に亡命先のパリより帰国を果たし復権）。
ロベール・ゲイ	-	リベリア国境に近い西部：カバクマ（ヤクバ）	1999 年 12 月～2000 年 10 月	ベディエ政権を倒して権力を掌握し、2000 年 1 月にゲイ元参謀総長を首班とする暫定政府が設置される。 イボワリテの思想を引き継ぎ、2000 年の大統領選へのワタラ氏の立候補届を却下した。2000 年 10 月に実施された大統領選で自ら捏造した選挙結果を発表し、大統領当選を宣言。開票過程で優位に立っていたバグボ、立候補を無効とされたワタラの両支持者が選挙の無効等を訴えて抗議行動を開始。FPI、RDR 派国民の衝突に発展し、多くの死者を出す事態に発展した。 2000 年 10 月、ゲイ元参謀総長が失脚。
ローラン・バグボ	FPI	中西部：ガニョア（ベテ）	2000 年 10 月～2010 年 12 月	2000 年 10 月の大統領選の結果を受けて、大統領に就任。 2002 年 9 月に反乱軍による武装蜂起が起こり、これ以降、コートジボワールにおける南北分断が固定化する。 2005 年に予定されていた大統領選挙が内戦の影響により実施されず、延期となる。 マルクーシ合意、ワガドゥグ合意等を経て、バグボがワタラの出馬を認めたうえでの選挙が 2010 年に実現する。

ローラン・バグボ、アラサン・ワタラ両氏が大統領就任を宣言し2名の大統領が存在する事態となる。			2010年12月～2011年4月	2010年10月に第1回投票、2010年11月にバグボとワタラの決選投票が実施されたが、独立選挙委員会はワタラの当選を、憲法院がバグボの当選を発表。 **⇒アボボ市・ヨプゴン市が多大な影響を受ける騒乱に発展する。** 2011年4月にバグボの身柄が拘束されたことを受け、大統領の2名体制に終止符が打たれる。
アラサン・ワタラ	RDR	中西部：ディンボクロ（ジュラ）	2011年5月～現在	“生粋のイボワール人”でないとして、ベディエ政権時代から2010年にバグボによって大統領選への出馬が認められるまで立候補資格を長期にわたり剥奪された。 2015年の大統領選挙でPDCIほか2政党と結成している選挙協力組織RHDPが83.66%の得票を獲得､再選を果たし、現大統領を務めている。

現在においても、対象地域において政治が語られる際に登場するのは、歴代大統領の所属政党であるコートジボワール民主党（Parti démocratique de Côte d'Ivoire：PDCI)、FPI、RDRである。実際に、2010年選挙における第1回投票では、3政党の獲得票数が全体の約95%、2015年選挙においてRDRとPDCIが中心となって結成した与党連合の民主主義と平和のためのウフエ主義者連合（Rassemblement des Houphouetistes pour la democratie et la paix：RHDP）及びFPIの得票率が約93%となっている。それ以外の政党への支持について住民から何かが語られることは本調査中においても皆無であった。表２－７に、これら3つの政党について、その特徴等を整理した。

表２－７　３大政党の概要

政　党	概　要
PDCI（コートジボワール民主党）	独立以来、約30年にわたって一党制を敷き、1990年代も国民議会の9割近い議席を独占する一党優位体制を築いたが､2000年選挙で94議席を獲得するも第2党に転落した。当国の大統領選挙は2回投票制であり、第1回投票で過半数獲得者がいない場合は、上位2名による決選投票が実施されることとなっている。決選投票が実施される見込みとの情勢認識から、2005年にRDRと選挙協力組織RHDPを結成した。 2011年の国民議会選挙では86議席を獲得し、第2党となった（議会定数は225議席)。
FPI（イボワール人民戦線）	一党制下にあった1980年代に非合法政党として結成。1990年5月に複数政党制への意向を主張してきたバグボ率いる当政党が公認される。複数政党制への移行後わずか半年足らずで実施された1990年10月の大統領選挙では、2～3の野党の支持を取りつけて立候補し、ウフエ大統領との一騎打ちの末、18.3%の支持を得たが落選。国民議会選挙における選挙制度等に阻まれ、1990年、1995年での獲得議席数はそれぞれ9議席、13議席（議会定数は両年とも175議席）にとどまった。 2000年のバグボの大統領当選を受けて実施された国民議会選挙で96議席を獲得し、第1党となる（議会定数は225議席)。 2011年の国民議会選挙をボイコット、2016年の国民議会選挙ではボイコット派と立候補派に分裂し、30議席の獲得をめざしたが、わずか3議席の獲得にとどまった。

RDR (共和連合)	ウフエ大統領の末期政権において首相を務めたワタラの擁立をめざす改革派とよばれた勢力が 1994 年に PDCI より分派して結成した政党。1995 年の国民議会選挙では、FPI を上回る 14 議席を獲得した。 2000 年の国民議会選挙では党首の立候補が却下されたことへの抗議からボイコット戦術をとり、わずか 5 議席の獲得にとどまる。既述のとおり 2005 年に PDCI と選挙協力組織 RHDP を結成している。 2011 年の国民議会選挙では、バグボ派のボイコット等もあり、138 議席を獲得し、単独過半数を占める第 1 党に躍進した。 直近の 2016 年の選挙では 167 議席を獲得している。

なお、1990 年の国民議会選挙において、アボボ市では PDCI と FPI の得票率がそれぞれ 63.3%、36.0%、ヨプゴン市では 52.0%、44.7%となっており、どちらも PDCI が全議席を獲得しているものの、ヨプゴン市において FPI の得票率が高くなっている。

既述のとおり、コートジボワールは、長く紛争によって南北に分断されてきた歴史を有し、民族によって支持政党が異なるなど、政治的な文脈に民族の違いが引用されやすい。これは、近年構築された概念ではなく、複数政党制への以降ののちに実施された 1990 年の大統領選挙時には既に、PDCI の民族主義的性格が指摘されている。

このような歴史的な背景にも関連し、現在の国民の政治的分断＝民族的分断につながるわけであるが、現在、当国で一般的に語られる民族ごとの支持政党を含めた特徴を表２－８にまとめた。

表２－８　各民族カテゴリーの特徴

民族カテゴリー		歴代大統領の出自	宗　教	支持政党	
				現与党	現野党
南部	Akan	ウフエ・ベディエ	キリスト教	PDCI、FPI〔(前進運動連合（Ligue des mouvements pour le progrès：LMP)〕	
	Krou	バグボ	キリスト教	－	FPI（LMP）
	Mande du Sud	ゲイ	キリスト教	PDCI、FPI（LMP）	
北部	Mande du Nord	ワタラ	イスラム教	RDR（RHDP）	－
	Voltaique	－	イスラム教	RDR（RHDP）	－

Akan 及び Mande du Sud については、支持政党が民族間でも異なることが調査によって明らかになっている。Akan 及び Mande du Sud に属する主要民族について、人々が一般的に分類する支持政党を表２－９にまとめる。

表２－９　Akan 及び Mande du Sud の人たちの支持政党による区分

民族カテゴリー	FPI	PDCI	PDCI または FPI
Akan	Agni, Attie, Abe, Abidji, Ebrie (FPI or RDR)	Baule	Abron (Doma), Aboure, Adiokrou, Alladian, Avikam, Mabato, Nzima, Eotile
Mande du Sud	-	Toura	Dan (Yacouba), Gouro

2014 年のセンサスでは、人口の 38%がイスラム教と最も多く、カソリック 22%、プロテスタントが 5.5%、伝統的宗教が 17%、その他 17%という割合になっている。

なお、前出の書籍においては、ディダ族、ベテ族、ゲレ族、グロ族、エブリエ族、バウレ族、ジュラ族、セヌフォ族の 8 民族について、文化的背景等も併せて記載されており、COSAY フェーズ 2 の実施に際して必要に応じて参照されたい。

２－２　コートジボワール国家開発計画の枠組み

COSAY において対象となる両市では、3 カ年計画を作成するにあたり、国家開発計画との整合性が図られている。

国家開発計画のなかでは、2012 年から 2015 年の成果についても記載されており、4 年間の活動実施により平和が回復し、社会的結束が達成され、国民和解が進捗したと記載されている。このような成果のもと、国連によって定義されたコートジボワールの現在の安全指数は、ニューヨークやジュネーブに相当するものであり、多くの国際機関がアビジャンに事務所を戻していると記載されている。

このようなレビューがされているものの、2016 年から 2020 年の計画においても、引き続き社会統合等に係る活動が定められており、対象国が策定した国家開発計画における国民和解や社会統合に係る記載を表２－10 にまとめた。

２－３　社会的調和促進プログラムにおける社会統合の位置づけ

コートジボワール政府は、国家における持続的な平和の実現をめざし、連帯と社会統合のためのオブザバトリー（OSCS）によって連結と社会統合に係る国家政策に位置づけられる文書 “連帯と社会的統合に係る国家政策 : National Policy on Solidarity and Social Cohesion（PNSCS 2016-2020）” を策定している。

当該政策においては 3 つの軸が定められ、それぞれの軸に対するアウトカム、アウトプット、それらを達成するために求められる活動が記されており、それをまとめたものを表２－11 に示す（JICA コートジボワール事務所にて整理された資料より）。なお、当プログラムに係る特別予算はなく、UNDP やアフリカ開発銀行等の外部資金により、住民へのセンシタイゼーション等に係るプロジェクトが実施されているのが現状である。

表２－10　国家開発計画における社会統合に係る活動

（単位：100 万 FCFA）

	目　標	指　標	責任機関	予　算				
				2016	2017	2018	2019	2020
Strategy 1:Strengthening the quality of institutions and governance.				308,331	691,793	666,107	642,985	627,256
Impact 1	The rule of law is strengthened.	Level of satisfaction (in percentage) of the democracy functioning.	INS	82,627	402,114	363,278	319,014	338,120
Effect 1	Communities have recourse to operational mechanisms for the peaceful resolution of conflicts.	Rate of inter-communal conflicts reduction.	PNCS/ MSFFE	12,507	19,065	13,703	18,473	15,696
Output1.1	A climate of trust and peace is established among the populations.	Level of people's perception of cohesion and reconciliation actions.	PNCS/ MEMIS/ MSFFE	12,374	18,921	13,597	18,364	15,578
Action 1.1.1	Strengthen the legal framework to promote social cohesion and national reconciliation.	Law and texts relating to social cohesion which is taken and vulgrised.	PNCS/ MSFFE	3	13	6	8	10
Action 1.1.3	Build and strengthen the technical and operational capacities of the infrastructure for peace building.	Number of structures for peace and social cohesion revitalized. Number of structures for functional peace and cohesion.	PNCS/ MSFFE	55	100	100	100	100
Action 1.1.4	Promote the values of cohesion, peace and peaceful coexistence.	Number of training courses organized in the peaceful management of conflicts. Number of conflicts handled by grassroots organizations.	PNCS/ MSFFE	100	100	100	100	100
Action 1.1.5	Promote the values of cohesion, peace and peaceful coexistence.	Number of campaigns to raise awareness of peace and social cohesion organized in regions. Number of functional consultation platforms put in place.	PNCS/ MSFFE	65	82	38	50	62
Action 1.1.14	Establish the coherent and inclusive framework for the development, safeguarding and promotion of solidarity and social cohesion.	Existence of coherent and inclusive framework.	MSFFE	0	0	0	0	0
Effect 3	The people exercise their rights and duties in a context of promoted democracy.	Level of the human rights violation. Rate of the populations' participation in the different elections. Average length of pre-trial detention for criminal offenses/ crimes.		60,995	95,895	60,714	27,575	41,406

	目　標	指　標	責任機関	予　算				
				2016	2017	2018	2019	2020
		Proportion of temporary detainees in the prisoner. Opinion on respect for human rights. Percentage of children under 5 registered in the civil register.						
Output 3.4	The culture of human rights is developed.	Number of cases of observed rights violation. Average length of pre-trial detention for crime/ criminal offenses.		1,013	8,520	8,098	4,266	5,071
Action 3.4.2	Strengthen the capacity of constituted groups on human rights for a successful national reconciliation and social cohesion.	Number of strengthened groups.	MJDHLP	199	100	100	100	101

表２－11　連帯と社会的統合に係る国家政策（PNSCS 2016-2020）の内容

軸	アウトカム/成果	アウトプット	活　動
1．連帯及び社会調和に係る法的・制度的枠組みの強化	1.1　連帯及び社会調和に係る法・法規が強化される。	1.1.1　連帯及び社会調和に係る法文書が採用される。	1．法令の見直し・改訂 2．分権化の文脈への法令の適用 3．分権化当局間の協力の強化 4．投資・リソース動員に係る分権化当局の能力強化 5．土地法（1998 年）の適用状況の評価
		1.1.2　社会保障へのアクセスが強化される。	1．フォーマルセクターの社会保障に係る法令の強化 2．農業・インフォーマルセクターの社会保障に係る法令の整備 3．社会保障アクセスに係る法令の普及
	1.2　連帯及び社会調和に係る制度的・人的体制が強化される。	1.2.1　紛争・危機の予防・管理・解決メカニズムが強化される。	1．既存の平和委員会の再活性化 2．新たな平和委員会の設置（各市に設置） 3．社会調和に係るアクターのプラットフォーム形成 4．連帯省地方部局の能力強化 5．社会調和にかかわる諸アクターの能力強化 6．紛争・危機の予防・管理・解決について人々を啓発
		1.2.2　社会統合に関する活動が地方開発プロセスに貢献する。	1．地方自治体の財政・物質・人的条件の改善 2．地方自治体と分散化当局との協働を強化 3．土地問題に関する職員・宗教リーダー等の能力強化 4．地方開発プロセスへの若者・女性・メディア等の参加強化 5．住民への説明責任について議員を啓発 6．土地法問題についての議員の能力強化
		1.2.3　人々が正確な情報・質の伴ったコミュニケーションへのアクセスを有する。	1．コミュニケーションセクターの調整当局の能力強化 2．コミュニケーションセクターのアクターの能力強化 3．IT に関する人々のアクセスを改善
		1.2.4　伝統的連帯メカニズムが推進・実践される。	1．全国レベルで連帯の好事例を特定する 2．法令に照らして好事例を分析・調和化する 3．伝統的連帯の実践を促進・普及する
2．公正・公平な基本的人権へのアクセスの促進	2.1　人々が司法への公正・公平なアクセスを有する。	2.1.1　司法へのアクセスが改善・強化される。	1．インフラ及び司法人材の能力を強化 2．司法補助を改善
		2.1.2　司法に関する文書・手続きが人々に周知される。	1．司法問題・手続きに関する情報へのアクセス改善 2．司法の独立を促進
	2.2　国内における人々及び財産の安全・保護が	2.2.1　人々及び財産の安全が強化される。	1．治安セクター改善プロセスを完遂 2．不処罰問題への対策を強化 3．危機による犠牲者への補償

	確保される。	2.2.2　脆弱層がさらなる保護を享受する。	1. 脆弱層の特定・保護に必要な法的・技術的・制度的能力の強化 2. 脆弱層の保護に係る法令を脆弱層に普及 3. 脆弱層の保護・補償の実効化
	2.3　人々が基本的な社会サービスへの公平・公正なアクセスを有する。	2.3.1　人々の食糧安全保障が強化される。	1. 食糧自給政策を再活性化 2. 野菜栽培の集約化 3. 農産品の加工・栄養価
		2.3.2　人々が適切な住居及び住居環境へのアクセスを有する。	1. 住居セクターに係る法令を整備する 2. 環境保全の強化 3. 都市開発及び環境に関する規範順守を徹底 4. 建設物・住居の質を改善
		2.3.3　人々が保健医療サービスへのアクセスを有する。	1. 保健セクターの受け入れ能力・ガバナンス・サービスの質を改善する 2. 母子保健政策を強化する 3. 予防・受診の必要性について人々を啓発する
		2.3.4　人々が教育へのアクセスを有する。	1. 国民教育の法的・制度的枠組みを強化 2. 教育へのアクセス及び教育学的環境の改善 3. 識字化活動の強化
		2.3.5　失業対策及び適切な雇用へのアクセスが強化される。	1. 雇用市場のニーズに適応した研修 2. 起業仕上げに必要な銀行借り入れへのアクセス向上 3. 既存の企業の保護 4. プロジェクトの促進者の支援 5. 大学・企業間の連携促進 6. 若者・女性の起業促進 7. 脆弱層のための収入創出活動の創造
		2.3.6　文化及び信教の自由が強化される。	1. 文化・宗教を享受する権利の促進 2. 多様性・寛容・表現の自由について啓発 3. 民主的プロセスの管理を担う当局の能力強化（選挙結果への意義申し立て対策など） 4. 文化・スポーツ団体の促進 5. 宗教間の連携強化
3．国益及び社会契約の保存に向けた市民的義務の促進	3.1　コートジボワール社会の道徳的・市民的・共和主義的価値が促進される。	3.1.1　人々が道徳・公民精神に基づいて市民権を表明する。	1. ネイション（国民）への帰属意識の醸成 2. 人権教育の促進 3. 公共財及び市民としての義務について啓発
		3.1.2　社会に対する市民の責任感が醸成される。	1. 当局・政策決定者に対する説明責任に係る啓発 2. 公的リソースの管理に係る透明性・説明責任の促進
	3.2　人々の間の社会的調和が確保される。	3.2.1　連帯の価値・活動に向けた諸アクターが活動する。	1. 連帯・社会調和に関する活動への連帯強化 2. 連帯・社会調和に係るアクターの協議・諮問の場の提供
		3.2.2　団体・組合が市民権の強化に参加する。	1. 団体・組合活動への啓発 2. 市民的価値の促進に向けた団体活動の強化

第３章　調査対象アボボ・ヨプゴン市の概要

３－１　対象国におけるアビジャンの位置づけ

コートジボワールは、31 のレジオン（Region）と 2 つの特別区から構成されており、大アビジャン圏は、2 つの特別区のうちの 1 つ、アビジャン特別行政区である。アビジャン特別行政区はコートジボワールの商業の中心であり、面積わずか 2,119km^2（国土面積の約 0.7%）のところに、国全体の 20.8%に当たる約 471 万人が居住している（既出の 2014 年センサス報告書）。

暴力の背景として語られる、Microbe (以下、ミクロブ)[1]の存在や貧困、政治的な対立について、ミクロブの数は大都市であるアビジャンで多く報告されている一方、貧困については、アビジャンの貧困率は 22.7%と他地域に比して低くなっている（同報告書の他の記載部分では、絶対的貧困がアビジャンで 1.9%、その他都市部で 7.2%とある)。ただし、これは絶対的貧困を「1 日 737FCFA で暮らす人」との定義に沿ったものであり、農村部と生活形態の異なるアビジャンにおいては、1 日 737FCFA の支出がどの程度の生活を可能にするものなのか、また、国全体の人口の 20.8%を占めるアビジャンにおいては、貧困者の割合が低くても絶対数は必然的に多くなってしまうことも考慮されるべきである。

また 2014 年のセンサスデータでは、アビジャン特別行政区の識字率は、全国平均の 56.1%を大きく下回る 30.7%であり、全国で最低の水準となっている。

政治的な対立の有無については、センサスの結果から導き出すことは困難であるが、INS の報告書[2]においても、アビジャンやその他都市部においては、農村部に比べて特に地域内の連帯や相互扶助が欠如しており、孤立や侮蔑、コミュニティからの疎外をもたらしやすい環境にあることが明記されている。

３－２　対象地域における行政区分の概要

アビジャン特別行政区には、下位行政単位としてコミューンが設置されている。既出の 2014 年センサス報告書によると、アビジャン特別行政区は、10 のコミューンと 4 つの sub-prefecture で構成されるとされているが（表３－１参照)、市役所職員の説明では、従来の 10 のコミューンの区分から 2001 年に新たに加わった 3 つのコミューンを加えた現在 13 のコミューンで構成されると説明される（表３－２参照)。10 コミューンと 3 コミューンの違いについては、市として確立された年度が異なるのみで、3 カ年計画の策定・実施等を含め、市としての機能等はすべて同等であるとの回答を市役所職員より得ている。なお、INS の資料においてアビジャン特別行政区が 14 コミューンに分類されていることについては、両市役所の職員とも認識をしておらず、なぜそのような分類になっているのかはわからないとのことであった。

[1] 人を襲い強奪等を繰り返す青少年のグループ
[2] Enquête sur le Niveau de vie des Menage en Côte d’Ivoire (ENV 2015), p74

表３－１　2014 年センサスにおけるアビジャン特別行政区の行政区分

IDENTIFIANT COMMUNE ou S/P		RESULTATS GLOBAUX DU RGPH 2014						RGPH 1998	Taux accroisement annuel moyen
CODE_COM ou SP	Commune ou S/P	Population résidente recensée au 15 mai 2014	Poids démographique (en %)	Hommes	Femmes	Rapport de masculinité (en %)	% de Non-Ivoiriens	Effectifs	1998-2014 (en %)
01	ABOBO	1 030 658	23,4	521 803	508 855	102,5	15,0	638 237	3,2
02	ADJAME	372 978	8,5	193 856	179 122	108,2	37,3	254 290	2,5
03	ATTECOUBE	260 911	5,9	133 310	127 601	104,5	36,5	207 586	1,5
04	COCODY	447 055	10,2	206 436	240 619	85,8	21,1	251 741	3,8
05	KOUMASSI	433 139	9,9	212 483	220 656	96,3	32,1	317 562	2,0
06	MARCORY	249 858	5,7	122 893	126 965	96,8	36,1	177 748	2,2
07	PLATEAU	7 488	0,2	3 599	3 889	92,5	17,3	10 365	-2,1
08	PORT-BOUET	419 033	9,5	208 450	210 583	99,0	34,4	211 658	4,5
09	TREICHVILLE	102 580	2,3	51 191	51 389	99,6	39,5	120 526	-1,0
10	YOPOUGON	1 071 543	24,4	523 493	548 050	95,5	8,8	688 235	2,9
VILLE D'ABIDJAN		4 395 243	100,0	2 177 514	2 217 729	98,2	22,6	2 877 948	2,8
02	ANYAMA	148 962		75 892	73 070	103,9	13,1	142 679	0,3
03	BINGERVILLE	91 319		44 322	46 997	94,3	19,2	56 356	3,2
04	BROFODOUME	15 842		8 177	7 665	106,7	22,5	13 191	1,2
05	SONGON	56 038		28 487	27 551	103,4	41,2	43 434	1,7
ABIDJAN S/P		312 161		156 878	155 283	101,0	20,4	255 660	1,3
DISTRICT D'ABIDJAN		4 707 404		2 334 392	2 373 012	98,4	22,4	3 133 608	2,7

表３－２　アビジャン都市開発計画（Schéma Directeur d'Urbanisme du Grand Abidjan : SDUGA）
レポートにおけるアビジャン特別行政区の行政区分

Abidjan Autonomous District (AAD)	10 Central Communes	Northern Abidjan	II. Cities in the peripheral area	Abobo Attecoube Yopougon
			I. Existing central cities	Adjame Plateau Cocody
		Southern Abidjan		Koumassi Marcory Treichville
			II. Cities in the peripheral area	Port-Bouet
	3 Communes incorporated into AAD after 2001		III. New cities	Bingerville Anyama Songon

出所：SDUGA レポートより引用

アボボ市、ヨプゴン市は、最下位行政区分として存在しているが、両市には INS においても市役所によっても認識されているカルティエ、または村と呼ばれるさらに下位の区分が存在し、多くのカルティエはさらにサブカルティエや村によって構成されている。なお、ヨプゴン市役所の技術局ではカルティエ、サブカルティエ、スラムの名前などについての情報が提供される一方、アボボ市役所の技術局では、サブカルティエについては、住民が勝手に新設することが可能なものであり、スラムの存在を含め、市役所では情報を保有していないという回答であった。

本調査における聞き取りでは、一般に、カルティエの分類については、市役所職員内、市役所職員と実際の住民の認識の間には大きな乖離がみられた。この地に古くから居住してきたエブリエやアティエの人たちが居住する地域を村と呼称すること、村から派生した地域をカルティエ・

サブカルティエと呼称していることについては、INS、市役所職員、住民とも認識は共通しているように思われる。村の住民は、自身の居住地である村の名前は認識しており、それらの名前に係る認識にも差はみられない。一方、居住地が村ではない場合、住民が認識する地域の名前がカルティエとして認識されているのかサブカルティエとして認識されているのか、またその名前についても、行政・住民間で差がみられるということが散見された。村の場合は当該村が行政区分のなかではカルティエの一部に分類されるのか、村そのものとして独立して成立しているのかについて、行政との認識が異なる場合も多く、また、村から派生した地域についてはそれがカルティエに当たるのか、サブカルティエに当たるのかについて、行政との認識も異なるが、その事実について特に頓着していないような印象であった。このような背景のもと、それぞれの居住地が、行政が区分するどのカルティエに属するのかなどについては、住民から正確な情報を得るのは困難であった。

他方、市役所では、技術局が主にカルティエの区分を決定しているが、市役所においても、その区分が必ずしも周知されているとはいいきれず、所属の局が異なる職員によって認識が異なっているという事象が散見された。

さらにヨプゴン市においては、2014年にセンサスを実施したINSが定める区分とも異なっており、INSから得られる各カルティエのデータが、市役所が区分するどのカルティエに相当するのか、ヨプゴン市役所技術局職員等への聞き取りから付属資料１.のようにまとめたが、現地での聞き取りにおいて住民との認識が異なること、住民から訂正を受けることも多く（付属資料１. にてサブカルティエの欄に記載されている名前の地域を訪ねた際に、当該サブカルティエの上位区分として記載されているカルティエの名前を確認したところ、当該地域からは離れた場所にあるカルティエの名前であると回答するなど)、本対応表については参考程度の資料として扱う必要がある。

住民への聞き取り及び市役所における情報から総合すると、対象地域は次のような変遷をたどってきたものと思われる。

1700～1800年代、もともと対象地域にはエブリエやアティエの人たちが農業等を営みながら生活してきた。その頃の人口は現在に比べて極端に少なく、未開墾地などが多く残されていた。その地域に、早いところでは1900年代初め頃から、一般には独立した1960年以降から、年月をかけてそこに多くの入植者が流入した。入植者の多くは、未開墾地等に居住を開始したり、エブリエの人たちから土地を購入するなどして、人口密集地がたくさん形成されるに至った。村から土地を譲り受けて形成された人口密集地は、村から派生した“extension”となり、“extension”の拡大に伴いそれぞれに名前がつき、地域としてカルティエまたはサブカルティエと呼ばれるようになる。それら地域について、市役所が、便宜上カルティエの区分として整理した。

すべてのパターンを網羅することは、語る人が変わることによって認識も変わることから難しいと思われるが、現在の区分に至るまでの大まかな3パターンの概念図を図３－１に示す。概念図左の例は、村の中にサブカルティエが存在するもので、概念図中央は、村から派生したエクステンションの部分が村から分離された地域、概念図右は、村から派生したエクステンションの部分も含めてカルティエの中に内包されている例である。

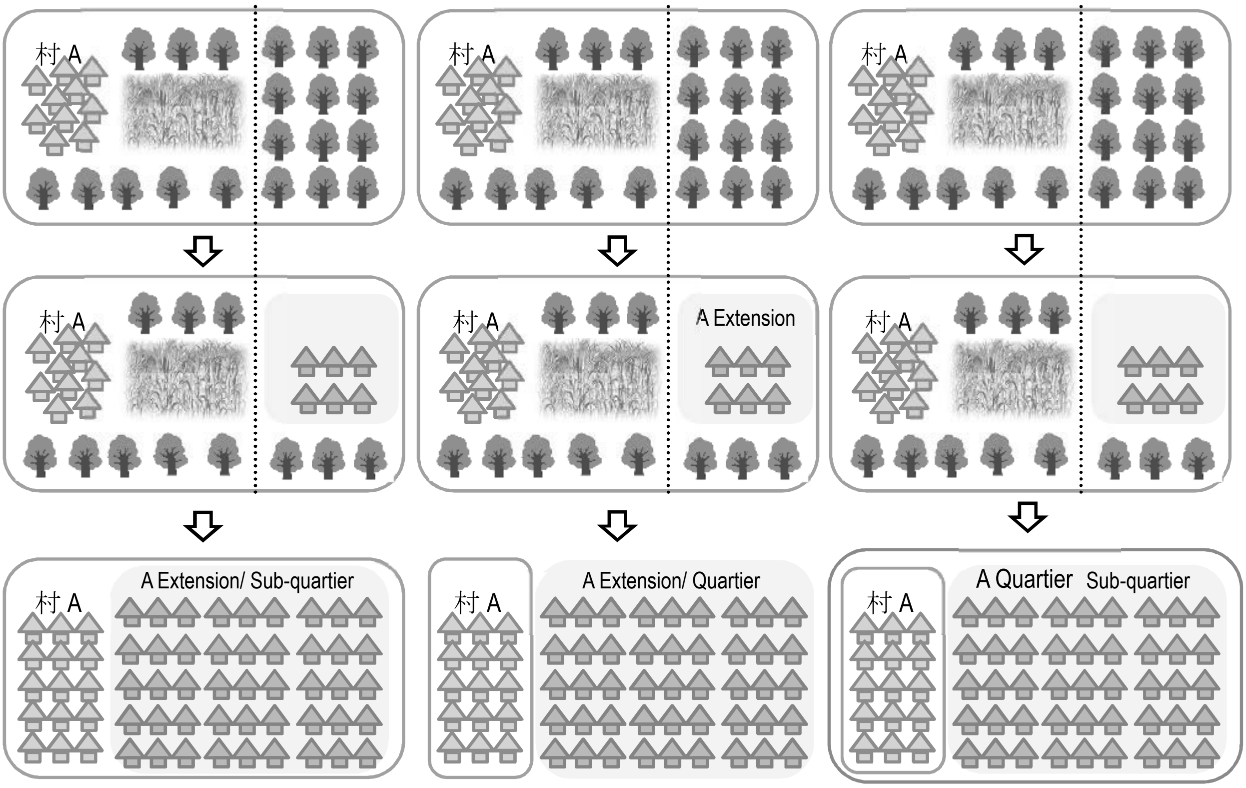


図３－１　村、カルティエ形成に係る変遷

なお、エブリエやアティエの人たちは、未使用地を入植者や政府機関に無償または有償で譲り、自身の土地を切り崩す形で人々を受け入れてきた（一部、所有者がはっきりしない森林地帯等への入植の場合は、だれの土地にも属さないと解釈され、交渉等なしに入植者によって居住されている地域も存在している）。これに対し、期限つきで貸与した土地に居座り続けられている、期限を設けず貸与していた結果、その土地の所有権が現在の居住者に帰属すると解釈されている、政府が約束した補償を遂行しないといった不満もエブリエやアティエの村の人々から挙げられている。

３－３　アボボ市・ヨプゴン市の位置づけ

３－３－１　大アビジャン圏における両市の位置づけ

既出のセンサス報告書によると、アビジャンには全国の 20.8％を占める人口が生活している。アビジャン特別行政区に属するコミューンは、アボボ市、ヨプゴン市を除いて最大の人口を有するココディ市で人口が約 45 万人程度であるのに対し、アボボ市、ヨプゴン市はともに人口が 100 万人を超えており、両市の合計で大アビジャン圏全体の約 45％を占めている。また、1998 年から 2014 年までの人口増加率がマイナスや 1％台のところもあるなかで、Port-Bouet の 4.5％、Cocody の 3.8％に次いで、アボボ市、ヨプゴン市で増加率が高くなっている。さらに、両市の特徴として、アビジャン特別行政区全体で人口に占める外国人（コートジボワール人でない人）の割合が 22.4％であるのに対し、ヨプゴン市は全コミューンの中で 1 番割合が低く 8.8％、アボボ市はアニャマ市（アボボ市に隣接）に続き 3 番目に低い 15.0％であり、どちらもアビジャン特別行政区平均に比して外国人の割合が少ないことがわかる。

表３－３　両市の人口、人口増加率及び外国人の割合

Commune	人　口	人口増加率（%）	外国人の割合（%）
アボボ市	1,030,658	3.2	15.0
ヨプゴン市	1,071,543	2.9	8.8
District 全体	4,707,404	2.7	22.4

INS では、2011 年 12 月に、貧困率や住民の支出実績、教育や保健へのアクセス等について、2010 年の選挙後に発生した騒乱の影響を特に強く受けたとされるアボボ市、ヨプゴン市及び西部山岳地域（都市部と地方部）において調査を実施しており、本調査に基づき、2011 年に“ENQUETE NIVEAU DE VIE DES MENAGES DE 2011 A ABOBO, A YOPOUGON ET A L'OUEST（ENV2011）”という報告書を公刊している。2002 年及び 2008 年においても、同様の調査が実施されており、2011 年の調査では 2008 年の調査において対象となった地域（クラスター）を踏襲している。アボボ市及びヨプゴン市については、400 ずつのサンプル（20 クラスター×20 世帯）を分析したものである。

当該報告書によると、アボボ市においては、当該地域への居住歴が 10 年という回答が最も多く全体の 7.3%を占めている。10 年未満の居住歴が半数以上の 52.0%を占め、1 年以下（1 年未満＋ちょうど 1 年）に限っても 10.4%であった。住民の居住歴が浅い理由として、家族の事情（29.7%）、2002 年の騒乱の影響（22.7%）、仕事探し（13%）、婚姻（10.0%）、選挙後の騒乱（8.8%）が挙げられている。ヨプゴン市においては、5 年の居住歴が最も多く全体の 7.2%を占めており、こちらも半数以上の 55.4%の住民がこの 10 年未満の間にヨプゴンにおいて居住を始めた人たちであり、1 年以下（アボボ市に同じ）の人は 10.4%であった。その理由は、学校の事情（21.7%）、家族の事情（13.7%）、2002 年の騒乱（10.8%）、仕事探し（9.8%）、選挙後の騒乱（9.1%）となっている。

2002 年、2008 年、2011 年のアボボ市及びヨプゴン市における貧困率（P0）、貧困ギャップ率（P1）、二乗貧困ギャップ率（P2）はそれぞれ表３－４のとおり推移している。

表３－４　両市における貧困にかかる指標の推移

	P0			P1			P2		
	2002	2008	2011	2002	2008	2011	2002	2008	2011
アボボ市	24.3	16.1	23.3	5.2	3.4	7.4	1.6	1.1	3.5
ヨプゴン市	11.7	16.7	10.3	2.9	4.9	2.3	0.9	1.8	0.8

出所：報告書“ENV2011”より抜粋

サンプル数が限定的であるため本データをもって、コミューン全体を語ることにはやや危険を伴うが、2002 年と比較して、両市において貧困率は微減しているものの、アボボ市においては、貧困の深刻さを示す指標とされる二重貧困ギャップ率が倍にまで上昇していることがみてとれる。

貧困率にも関連する失業率については、アボボ市全体では 2008 年の 20.1%から 2011 年の 20.5%と微増しており、特に男性の失業率が 17.6%から 19.3%に増加している。さらに年齢別にみると、30～44 歳が 19.0%から 16.4%に改善しているのに対し、14～29 歳においては、すべての年齢階

層において悪化しており、特に若年層の失業率に悪化の傾向がみられることがわかる。他方、ヨプゴン市では、性別に関係なく失業率は減少しており、市全体でも 2008 年の 25.7%から 2011 年の 22.5%に改善している。年齢別に失業率をみると、14～19 歳で 18.1%から 15.6%、30～44 歳で 22.6%から 20.0%と改善しているのに対し、20～29 歳においては、すべての年齢階層において悪化している。アボボ市と同様、ヨプゴン市においても特に若年層における失業率に悪化の傾向がみられる。

また、本報告書では、2010 年の大統領選挙後の騒乱による影響についても記載がある。

表３－５　選挙後騒乱の影響に係る回答者の割合

（単位：%）

	Loss of plantation	Loss of livestock	Loss of production activities	Sleep disturbance/ nightmare	Fear for no reason	Having consultation by psychologist
アボボ市	0.6	0.5	11.4	24.3	26.1	0.5
ヨプゴン市	3.4	2.7	9.5	23.0	27.0	0.2
西部地域	12.2	12.9	23.6	40.5	47.1	0.6

表３－６　選挙後騒乱の影響度合いに係る回答者の割合

（単位：%）

	Fully destroyed	Partially destroyed	Abyss
アボボ市	15.1	39.8	45.1
ヨプゴン市	35.2	37.4	27.4
西部地域	48.9	38.0	13.2

表３－５、表３－６より、具体的に物理的・心理的に影響を受けた人の割合は、西部地域に比してアボボ市及びヨプゴン市で低くなっているものの、影響の深刻度に対する回答では、最も深刻な度合いを示す“Abyss（どん底）”と答えた人の割合は、西部地域よりもアボボ市及びヨプゴン市で高くなっていることがみてとれる。なお、悪夢や不安・ストレスに悩まされる被害者について、年齢別に分析がなされているが（各年齢層の回答者に占める被害者の割合ではなく、被害者であると答えた人の年齢階層別の割合）、すべての地域で 21～35 歳、36～99 歳のカテゴリーで割合が高くなっている。

なお、本報告書にはほかにも、男女別世帯主の割合や世帯サイズ、世帯における意思決定者、国民と外国人の割合、国籍申請の阻害要因、識字率や保健に係る各種指標、インフラへのアクセス状況等、アボボ市及びヨプゴン市における有用な基礎情報がまとめられており、COSAY フェーズ 2 に係る計画及び事業実施に際し、必要に応じて参照されたい。

３－３－２　各市の概要

INS の 2014 年センサスにおける分類では、アボボ市及びヨプゴン市はそれぞれ、29 カルティエ、25 カルティエ（それぞれカルティエと同列に存在する村を含む）に分割される。アボボ市においては、市役所提供のものと INS データに齟齬がなく、市役所においてもサブカルティエの数、

スラムの数は不明であるのに対し、ヨプゴン市では、INS のセンサスにおける分類とは大きな乖離がみられた。市役所の分類では、まず 25 のカルティエまたは村に分類され、カルティエの下にサブカルティエが 100、村が 8（13 の村から成るといわれる Ile Bouley を除く）、スラムが 56 スラムから成るコミューンとなっている（付属資料１.を参照）。

各市の概要を表３－７、表３－８に示す。

表３－７　アボボ市の概要

項　目	概　況
地　理	北をアニャマ市、東をココディ市、南をアジャメ市及び Banco 国立公園（アテクベ市）に接し、西をヨプゴン市に接する。人口密度が高く、ほぼすべてが居住地として占有されている。また、市を南北に鉄道が走っている。
面　積	45.65km^2
人　口	1,030,658 人（男性：521,803、女性：508,855）（2014 年センサス）
人口密度	22,577 人/km^2
民族分布	1998 年センサスデータ Akan : 32.7%、Krou : 11.3%、Mande du Nord : 21.2%、Mande du Sud : 5.4%、Voltaique : 9.3%、外国人：20.0%
宗　教	1998 年センサスデータ ムスリム : 46.8%、キリスト教 : 36.7%（カソリック : 22.3%、プロテスタント : 2.6%、その他キリスト教：5.3%）、アニミズム：3.8%
主要職種	小売業、タクシーやバカ（中型バス）の運転手・呼び子等が多い
その他特記事項	国連コートジボワール活動（Opération des Nations Unies en Côte d'Ivoire : ONUCI）での聞き取りにおいて、暴力的な事象が起こりやすい地域とされている。 アボボに始まりヨプゴンに終わったといわれる 2011 年の騒乱において大きな被害を受けた地域。 産業が発達しておらず、大アビジャン圏各市の中でも特に貧困度が高いとされており、若者の雇用にも大きな課題を抱えている。 アビジャンで最も貧困率の高いコミューンの 1 つ。職人の街ともよばれ、移民労働者が多い（COSAY フェーズ 1 報告書より）。

表３－８　ヨプゴン市の概要

項　目	概　況
地　理	北をアボボ市及びアニャマ市に接し、西を Songon 市、東をアテクベ市、南を大西洋に接する。
面　積	127.44km^2
人　口	1,071,543 人（男性：523,493 人、女性：548,050 人）（2014 年センサス）
人口密度	8,408 人/km^2
民族分布	1998 年センサスデータ Akan : 38.3%、Krou : 20.4%、Mande du Nord : 14.6%、Mande du Sud : 8.8%、Voltaique : 5.8%、外国人：11.0% 2014 年センサスデータ Akan : 36.9%、Krou : 20.5%、Mande du Nord : 14.7%、Mande du Sud : 9.6%、Voltaique : 6.2%、外国人：11.7%

宗　教	1998 年センサスデータ ムスリム : 27.5%、キリスト教 : 47.4%（カソリック : 30.7%、プロテスタント : 10.0%、その他キリスト教 : 6.6%）、アニミズム : 3.9%
主要職種	工業地帯での雇用者、小売業等
その他特記事項	ヨプゴン市 3 カ年計画では、ヨプゴン市は 14 のカルティエと 11 の村（エブリエの村 7、アティエの村 4）で構成されており、25 のスラムを含むと記載されている。 人口・面積ともに国内最大のコミューンとされる。アボボ市同様、ONUCI での聞き取りにおいて、暴力的な事象が起こりやすい地域とされている。また、アボボに始まりヨプゴンに終わったといわれる 2011 年の騒乱において大きな被害を受けた地域。 インフラの状況は概してアボボよりも良い。北西部には工業地帯も広がっている（COSAY フェーズ 1 報告書より）。

第４章　アボボ・ヨプゴン市における調査地選定

４－１　両市に係る基礎情報の収集

内務省や市役所において、対象市、特にカルティエ別のデータは整理、蓄積されておらず、必要な情報があればその都度 INS にデータの提供依頼を行っているのが現状である。

そのため、本調査では、入手データのほとんどを INS からの提供に頼らざるを得なかった。

INS では、1998 年に実施されたセンサスののち、紛争等の影響から長くセンサスの実施が実現しなかったが、16 年後の 2014 年に実施に至っている。しかし、INS は調査実施時点で、全国レベル（一部アビジャン特別行政区内各市）のデータ解析を終えたばかりで、カルティエレベルでの分析は未実施の状態であった。

このような状況から、まずは 1998 年に実施されたセンサスデータから、対象地域を概観するため、また調査対象地域の絞り込みを行うために必要な最低限のデータとして、年齢別人口、民族グループ別人口、宗教別人口、有職・無職別人口（失業率を求めるため）、教育レベル別人口のデータを入手した。なお、当初はサブカルティエレベルでのデータ収集を予定していたが、①そもそもアボボ市においては市役所がサブカルティエを把握していないこと、②データ量が膨大になるため INS からのデータ提供に時間がかかること、③住民が勝手にサブカルティエを新設するなどの理由から、必ずしも現状に即したデータではないとの見解が INS から示されたことから、本調査ではカルティエレベルでの情報収集にとどめることとした。

また、INS へのデータ提供依頼と並行し、対象地の地図や 2010 年及び 2015 年の選挙結果、市役所に登録されている住民組織のリストについて、両市役所職員に依頼し、入手した。

入手したデータ及び情報提供機関について、表４－１にまとめた。

表４－１　入手データ及び入手元

データの対象	入手データ	入手元
アボボ市	1998 年センサスデータより （市全体）：民族別人口 （カルティエごと）：性別人口、年齢別人口、民族グループ別人口、宗教別人口、教育レベル別人口、職業ステータス別人口	INS
	地図（1995 年のデータ（2007 年に発行？）、2015 年大統領選挙結果に係るデータ、既存組織等のリスト、2015 年大統領選挙の結果（選挙区 5 区分のデータ）	アボボ市役所
	2015 年大統領選挙の結果（より詳細な選挙区区分のデータ）	選挙管理事務所
ヨプゴン市	1998 年センサスデータより （市全体）：民族別人口 （カルティエごと）：性別人口、年齢別人口、民族グループ別人口、宗教別人口、教育レベル別人口、職業ステータス別人口 2014 年センサスデータより カルティエごとの各民族グループの人口	INS
	地図〔地図製作・リモートセンシングセンター（Centre de Cartographie et de Télédetection：CCT）発行〕、2015 年大統領選挙結果に係るデータ、既存組織等のリスト、2016 年国民議会議員選挙の結果（選挙区 5 区分のデータ）	ヨプゴン市役所
	2015 年大統領選挙の結果（より詳細な選挙区区分のデータ）	選挙管理事務所

なお、本調査中には入手できなかったものの、INS よりコミューン別、カルティエ別に入手可能と回答があったデータは表４－２のとおりである。

表４－２　INS にて入手可能とされるデータ

Information	Commune Level		Quartier Level	
	1998	2014	1998	2014
Population by ethnic group	✓	✓	✓	
Population by religion	✓	✓	✓	
Population by age	✓	✓	✓	
Population by sex	✓	✓	✓	
Area（km^2）				
GINI index	✓	✓		
Poverty rate（P0）	✓	✓		
Poverty rate（P1）	✓	✓		
Poverty rate（P2）	✓	✓		
Enrollment	✓	✓	✓	
Literacy rate			✓	
Accessibility to school	✓	✓	✓	
Accessibility to water	✓	✓	✓	
Accessibility to health facility				
Maternal mortality	✓	✓		
Under-five mortality rate	✓	✓		
Infant mortality	✓	✓		
Unemployment rate	✓	✓		
Population by work type	✓	✓	✓	
Household income	✓	✓	✓	
Ownership ratio of TV	✓	✓	✓	
Ownership ratio of radio	✓	✓	✓	
Head of household	✓	✓	✓	

INS が実施した 2014 年のセンサスにおいては、①紛争や騒乱で家を追われたことがあるか、②家を追われたのは 2002 年か 2010 年か、③以前はどこに居住していたか、④以前の居住地に帰還したかまたは、帰還意思があるかという項目が質問に含まれており、当該情報についても可能な限り収集すべきと考える。なお、上記情報から判断すると、③については、アボボ市及びヨプゴン市から避難した人がどの地域に居住しているのかについてはわかるが、アボボ市及びヨプゴン市から避難しながら帰還できていない人の数はアボボ市及びヨプゴン市のセンサスデータを参照してもつかめないと思われる。他方、④の帰還意思については、③と同様、アボボ市及びヨプゴン市の情報からはアボボ市及びヨプゴン市からの避難者であり、かつ未帰還の住民の数についてはわからないものの、以前の居住地に帰還したかという質問を“現在の居住地＝以前の居住地”

と理解すれば、騒乱中に避難したもののその後帰還を果たした住民の数は押さえることができると思われる。

アボボ市及びヨプゴン市の地形図については、技術・開発国家研究局（Bureau National d'Etude Techniques et de Développements : BNETD）において地図の提供を求めた際、JICA の支援を受けて作成されたものであり、JICA に所有権が属するため、JICA からのレターがあれば入手可能との回答をもらっている。また、両市のカルティエの境界がわかる地図の提供を依頼した際には、コートジボワールインフラ復興プロジェクト（Projet de Renaissance des Infrastructures de Côte d'Ivoire : PRE-CI）が実施に先立ち BNETD へカルティエの境界を入れた地図の作成を依頼し、作成されているとのことであったが、各市データに対しておよそ 450 ユーロの支払いを求められたため断念した。PRE-CI とのコンタクト先についても、本調査中において得ることができなかった。なお、BNETD の地理技術エンジニア部局のルイス氏によると、市内カルティエの区分は統一見解がなく、機関やプロジェクトによってそれぞれ独自に行われているとのことであり、PRE-CI のデータを入手できたとしても、必ずしもそれが INS や市役所が認識するものと同一であるとは限らないとのことで、留意が必要である。

さらに、選挙管理事務所にて 2010 年及び 2015 年の大統領選挙結果、2016 年の国民議会議員選挙結果の提供を依頼したが、本プロジェクト期間中には 2015 年の大統領選挙結果しか入手できなかった。しかし、選挙管理事務所の General secretary より、時間があれば探すことは可能かもしれないとの回答を頂いている。

入手できた情報を基に、市役所職員と協議のうえ調査対象地を選定した。選定に際しては、両市とも政治的な分断に強く関係する民族グループによる分類を試み、各カテゴリーから偏りないように選定するよう心がけた。なお、COSAY フェーズ 1 でパイロットプロジェクトを実施したカルティエについては、本調査対象の選定からはあらかじめ除外している。

４－２　アボボ市における調査対象地の選定

４－２－１　基礎データの分析

INS より入手した 1998 年のセンサスデータより、各カルティエのデータを集計し、調査対象地の選定に係る協議資料として市役所職員と共有するため、表４－３のとおり整理した。

表４－３　調査対象地の選定に係る協議資料

	Quartier	Total	Area (km^2)	Population density	Major Ethnic Group	Major Religion	No. of group/ association	Unemployment rate (%)	Rate of youth population (%)	Rate of uneducated population (%)	Percentage of Foreigner (%)	Poverty
	Total	638,237	45.65	13,981	Akan (<10%)	Muslim	98	13.7	30-40	25-40	20.0	
1	**ABOBO-BAOULE**	12,289	4.76	2,582	Akan	Christian (<10%)	2	17.0	30-40	25-40	25.1	Relatively worth
2	ABOBO-NORD SETU	11,662	0.79	14,762	Akan	Christian (<10%)	-	14.2	30-40	25-40	9.1	
3	**ABOBO-TE**	40,309	1.91	21,104	Akan	Christian	1	14.3	30-40	25-40	19.0	Relatively worth
4	***AGNISSANKOI AVOCATIER***	48,405	3.15	15,367	Akan	Christian	7	14.0	30-40	25-40	9.6	
5	**AKEIKOI**	53,959	2.76	19,550	Akan	Christian	6	12.9	30-40	<25%	8.1	Poor
6	***ANONKOI-KOUTE***	25,314	3.97	6,376	Akan	Christian	3	13.3	30-40	25-40	11.1	
7	**DJIBI**	1,446	4.95	292	Akan	Muslim (<10%)	-	12.5	<30	>40%	36.0	
8	AVOCATIER N'GUESSANKOI	16,584	1.19	13,936	Akan	Christian	5	15.2	30-40	<25%	9.4	
9	ABOBO-DOKUI	13,361	1.17	11,420	Akan	Christian	3	13.5	>40	<25%	17.3	Relatively worth
10	SOGEFIHA HABITAT	16,263	0.56	29,041	Akan	Christian	7	13.4	>40	<25%	4.1	Relatively worth
11	ANONKOI III	3,027	0.35	8,649	Akan	Christian	5	14.5	30-40	<25%	4.1	
12	ABOBO-SUD 2ème TRANCHE	24,479	0.53	46,187	Mande	Muslim	-	13.8	30-40	25-40	34.9	
13	BANCO 1& 2	22,651	0.59	38,392	Mande	Muslim	4	13.3	30-40	>40%	30.4	
14	CLOUETCHA KENEDY	25,817	1.10	23,470	Mande	Muslim	2	14.0	30-40	25-40	23.7	Poor
15	SAGBE Center (<-- SAGBE)	37,858	0.98	38,631	Mande	Muslim	1	15.9	30-40	>40%	21.3	Poor
16	SAGBE-NORD (<-- SAGBE)	27,709	1.86	14,897	-	Muslim (<10%)	3	14.0	-	25-40	-	Poor
17	SAGBE SUD (<-- SAGBE)	22,297	2.01	11,093	-	Muslim	8	14.1	-	25-40	-	Poor
18	ANADOR	5,255	1.10	4,777	Mande	Muslim	7	14.8	30-40	25-40	26.5	
19	CENT DOUZE HECTARES	44,748	1.03	43,445	Mande	Muslim	-	11.7	30-40	>40%	39.4	Poor
20	ABOBO-CENTRE	15,682	0.58	27,038	Akan (<10%)	Muslim (<10%)	9	11.4	30-40	25-40	14.7	Poor
21	**AGBEKOI**	51,428	1.34	38,379	Akan (<10%)	Muslim (<10%)	2	11.9	30-40	25-40	18.4	
22	AGOUETO	30,391	4.08	7,449	Akan (<10%)	Muslim	8	14.5	30-40	25-40	28.1	
23	N'PONON	18,150	0.51	35,588	Akan (<10%)	Muslim	-	12.3	30-40	25-40	12.1	
24	*PLAQUE 1& 2*	12,077	0.69	17,503	Akan (<10%)	Christian (<10%)	3	13.2	30-40	25-40	12.1	
25	ABOBO SUD 3S TRANCHE	246	0.57	432	Akan (<10%)	Muslim	-	20.7	>40	>40%	38.2	Poor
26	HOUPHOUET BOIGNY	15,388	0.59	26,081	Akan (<10%)	Muslim	-	13.6	30-40	25-40	15.7	
27	SANS MANQUER	31,659	0.54	58,628	Akan (<10%)	Muslim	8	16.8	30-40	25-40	28.9	
28	Abobo Nord (<-- non defini)	9,783	1.60	6,114	Akan (<10%)	Muslim	-	13.3	30-40	25-40	19.4	
29	Biabou (<-- EXTENSION)	-	0.39	-	-	-	1	-	-	-	-	Poorest

Boldface: village, ***Italic type: pilot poject sites in COSAY I***　　<10%: less than 10% difference

４－２－２　市役所職員との協議を踏まえた調査対象地の決定

1998 年のデータしか入手できなかったため、現在の状況とは必ずしも合致していないが（実際に多くの調査地で、各民族グループや各宗教人口の割合等において、INS データと聞き取り情報との乖離がみられている）、市役所職員と協議の末、対象カルティエを以下の 3 つに分類した。

①Akan の人が Mande（Mande du Sud 及び Mande du Nord の合計）よりも 10%以上割合が多いカルティエ

②Mande（Mande du Sud 及び Mande du Nord の合計）の人が Akan の人よりも 10%以上割合が多いカルティエ

③両者の差が 10%未満のカルティエ

アボボ市役所職員との協議において、民族や支持政党の別による区分を色濃く出すことがためらわれたことから、上記のような区分としたが、その後の職員との協議から、それらの情報を前面に出すことに対するためらいはあまりないような印象を受けており、次に調査対象地やプロジェクト対象地選定の際に市役所職員と協議するに際しては、北部州出身者と南部出身者、またはジュラの人々（一般に北部出身者全体を指す）とジュラ以外の人々という区分としても問題はないかもしれない。しかし、これは住民の前においてはその限りではない。

ジュラ（Mande du Nord 及び Voltaique）及びそれ以外の人々という指標での分類を行うと、前ページに示した表４－３は次ページの表４－４のように修正される。

アボボ市における社会調査に 5～6 日程度しか割けないことから、既述の 3 分類から、それぞれ 3 サイトを選定し、計 9 サイトにおいて調査を実施することとした（表４－３にて灰色で示されたカルティエ）。選定に際しては、民族分布のほか、宗教による人口分布や教育を全く受けていない人の割合、青年層（18～34 歳としたが、INS が示す資料によっては、15～34 歳の区分等があり、特に決まった年齢の範囲はない模様）の割合、失業率の割合も参考にしている。また、カウンターパート（Counterpart：C/P）には共有していないが、2015 年の大統領選挙結果との比較が調査後に可能となるよう、選挙区にも偏りなく調査対象地が選定されるよう配慮した。

市役所職員との協議において、COSAY プロジェクト実施の目的が社会統合であることから、社会統合に係る状況を知っていればその情報も参考に選定を行いたいと申し出たところ、社会統合を測る指標についてはアイデアがないが、唯一 Agbekoi 村については、他の民族ともコミュニティ活動を行うなど、住民間の関係性が良いといえるとの発言があった。また、アボボ市の特徴として、"暴力"というキーワードが ONUCI や現地調査での聞き取りから得られていた点に関して、市役所職員からは、①ミクロブの存在、②貧困、③政治的な分断、の 3 つがその背景にあるとの発言があった。そのため、市役所職員の印象ではあるが、カルティエの貧困度についても選定に際しての参考指標とすることとした。また、カルティエだけでなく、村も対象地に含まれるよう配慮した。①、③については、どこにでもあり、強弱がつけられないとの回答であった。

このような分析及び協議を経て、以下のとおり 9 サイトが選定された。

①Akan の人の割合が多い：Abobo Baoulé (village), Akeikoi (village), and Sogefiha Habitat

②Mande の人の割合が多い：Banco 1&2, SAGBE, and Cent Douze Hectares

③両者に大きな差がみられない：Agbekoi (village), Agueto, and Abobo Sud 3S Tranche

表４－４　調査対象地の選定に係る協議資料（修正後）

	Quartier	Total	Area (km^2)	Population density	Akan + Krou +Mande du Sud	Mande du Nord + Voltaique	Foreigner	No. of group/ association	Unemployment rate (%)	Rate of youth population (%)	Rate of uneducated population (%)	Percentage of Foreigner (%)	Poverty
	Total	638,237	45.65	13,981	49.4%	30.5%	19.7%	98	13.7	30-40	25-40	20.0	
1	**ABOBO-BAOULE**	12,289	4.76	2,582	53.3%	21.5%	25.1%	2	17.0	30-40	25-40	25.1	Relatively worth
2	ABOBO-NORD SETU	11,662	0.79	14,762	64.0%	26.0%	9.1%	-	14.2	30-40	25-40	9.1	
3	**ABOBO-TE**	40,309	1.91	21,104	58.3%	22.3%	19.0%	1	14.3	30-40	25-40	19.0	Relatively worth
4	***AGNISSANKOI AVOCATIER***	48,405	3.15	15,367	66.0%	24.2%	9.6%	7	14.0	30-40	25-40	9.6	
5	**AKEIKOI**	53,959	2.76	19,550	67.2%	24.3%	8.1%	6	12.9	30-40	<25%	8.1	Poor
6	***ANONKOI-KOUTE***	25,314	3.97	6,376	65.0%	23.9%	11.1%	3	13.3	30-40	25-40	11.1	
7	**DJIBI**	1,446	4.95	292	41.1%	22.9%	36.0%	-	12.5	<30	>40%	36.0	
8	AVOCATIER N'GUESSANKOI	16,584	1.19	13,936	70.7%	19.7%	9.4%	5	15.2	30-40	<25%	9.4	
9	ABOBO-DOKUI	13,361	1.17	11,420	59.0%	22.8%	17.3%	3	13.5	>40	<25%	17.3	Relatively worth
10	SOGEFIHA HABITAT	16,263	0.56	29,041	72.6%	22.6%	4.1%	7	13.4	>40	<25%	4.1	Relatively worth
11	ANONKOI III	3,027	0.35	8,649	81.0%	14.9%	4.1%	5	14.5	30-40	<25%	4.1	
12	ABOBO-SUD 2ème TRANCHE	24,479	0.53	46,187	26.7%	37.9%	34.9%	-	13.8	30-40	25-40	34.9	
13	BANCO 1& 2	22,651	0.59	38,392	26.2%	42.7%	30.4%	4	13.3	30-40	>40%	30.4	
14	CLOUETCHA KENEDY	25,817	1.10	23,470	36.8%	39.1%	23.7%	2	14.0	30-40	25-40	23.7	Poor
15	SAGBE Center (<-- SAGBE)	37,858	0.98	38,631	40.6%	37.7%	21.3%	1	15.9	30-40	>40%	21.3	Poor
16	SAGBE-NORD (<-- SAGBE)	27,709	1.86	14,897				3	14.0	-	25-40	-	Poor
17	SAGBE SUD (<-- SAGBE)	22,297	2.01	11,093				8	14.1	-	25-40	-	Poor
18	ANADOR	5,255	1.10	4,777	29.4%	43.4%	26.5%	7	14.8	30-40	25-40	26.5	
19	CENT DOUZE HECTARES	44,748	1.03	43,445	23.0%	37.0%	39.4%	-	11.7	30-40	>40%	39.4	Poor
20	ABOBO-CENTRE	15,682	0.58	27,038	51.5%	33.4%	14.7%	9	11.4	30-40	25-40	14.7	Poor
21	**AGBEKOI**	51,428	1.34	38,379	50.8%	30.0%	18.4%	2	11.9	30-40	25-40	18.4	
22	AGOUETO	30,391	4.08	7,449	43.3%	28.1%	28.1%	8	14.5	30-40	25-40	28.1	
23	N'PONON	18,150	0.51	35,588	53.4%	33.9%	12.1%	-	12.3	30-40	25-40	12.1	
24	*PLAQUE 1& 2*	12,077	0.69	17,503	59.2%	30.1%	10.5%	3	13.2	30-40	25-40	12.1	
25	ABOBO SUD 3S TRANCHE	246	0.57	432	34.1%	27.6%	38.2%	-	20.7	>40	>40%	38.2	Poor
26	HOUPHOUET BOIGNY	15,388	0.59	26,081	50.1%	34.0%	15.7%	-	13.6	30-40	25-40	15.7	
27	SANS MANQUER	31,659	0.54	58,628	40.4%	30.3%	28.9%	8	16.8	30-40	25-40	28.9	
28	Abobo Nord (<-- non defini)	9,783	1.60	6,114	43.7%	34.9%	19.4%	-	13.3	30-40	25-40	19.4	
29	Biabou (<-- EXTENSION)	-	0.39	-	-	-	-	1	-	-	-	-	Poorest

Boldface: village, ***Italic type: pilot poject sites in COSAY I***

４－３　ヨプゴン市における調査対象地の選定

４－３－１　カルティエ区分のすり合わせ

ヨプゴン市においては、アボボ市に比べて比較的データが管理されている印象である。アボボ市においては回答が得られなかったサブカルティエやスラムの数または名前についても、ヨプゴン市では、市役所の技術局職員によってカルティエ、サブカルティエ、スラムの名前が提供された。技術局職員との協議から、付属資料１.のとおり情報をまとめ、INS に対して 2014 年センサスの区分を市役所の区分に沿った形で提供してもらうよう依頼したが、対応が難しいようで、最終的には INS 独自の区分によるデータが提供された。

アボボ市での調査において、必ずしも市役所や INS の区分と住民の認識が一致しないことが聞き取りから明らかになっていたこと、INS からおそらく市役所区分に沿ったデータの提供は難しいことから、事実として対象地域にはさまざまなカルティエ・サブカルティエ・スラムの区分に係る認識が存在するであろうことを市役所職員と共有し、本調査においては唯一のデータ元である INS の区分に従い調査対象地を選定することで合意した。

４－３－２　基礎データの分析

INS より入手した 1998 年のセンサスデータ及び 2014 年の民族グループ別人口データを基に各カルティエのデータを集計し、表４－５のとおり整理し、市役所職員との調査対象地選定に係る協議に用いた。

なお、アボボ市役所における協議から、ジュラ及びジュラ以外の人々との区分に基づく表の作成は、市役所職員との協議においては特に問題視されないのではないかという印象を受けたこと、ヨプゴン市役所との調査地選定に先立って実施されたアボボ市における選定対象地域における社会調査において、やはりジュラの人とそれ以外の人という対立構造が調査地の多くでみられたことから、ヨプゴン市役所における協議資料作成に際しては、アボボ市とは違い、ジュラ及びジュラ以外の人々との比較から対象地域を区分することとした。

表４－５　調査対象地の選定に係る協議資料（各カルティエのデータに基づき整理）

	Quartier	1998				2014				1998						Displaced Persons during crisis
		Total	Akan + Krou +Mand sud	Mande Nord + Voltaique	Foreigner	Total	Akan +Krou + Mande sud	Mande Nord + Voltaique	Foreigner	Christian	Musulman	Animiste	Rate of uneducated population	Rate of youth population	Unemploy ment rate	
	Total	688,235	67.5%	20.4%	11%	1,071,542	67.0%	20.8%	11.7%	47.4%	27.5%	3.9%	22.7%	40.0%	14.4%	
1	**ADIAPO DOUME**	11,745	33.6%	24.7%	40.4%	14,395	34.5%	35.4%	28.0%	24.9%	56.5%	3.1%	39.6%	32.1%	13.7%	
2	ANCIEN QUERTIER SICOGI	45,614	77.7%	15.7%	5.6%	38,729	77.7%	16.1%	5.6%	53.3%	19.7%	3.6%	16.1%	43.3%	17.6%	many
3	*ANDOKOI*	43,258	49.7%	29.8%	20.0%	35,852	49.0%	30.3%	20.1%	30.0%	47.5%	5.0%	36.1%	38.8%	15.2%	
4	**AZITO**	1,479	67.2%	5.5%	27.0%	4,730	65.9%	9.1%	25.0%	67.7%	16.4%	0.8%	29.5%	43.1%	14.6%	
5	*BANCO 2*	17,303	64.7%	23.1%	11.9%	15,953	61.1%	24.0%	14.5%	43.1%	30.9%	4.5%	25.4%	37.8%	13.0%	
6	**BEAGO**	2,593	59.5%	15.9%	22.9%	9,941	57.5%	18.0%	22.9%	48.9%	38.3%	6.9%	36.7%	32.5%	21.1%	
7	CAMP MILITAIRE	25,114	78.0%	15.3%	6.3%	31,045	79.4%	14.1%	6.3%	56.4%	16.8%	4.1%	15.5%	40.8%	12.2%	many
8	GARE-SUD SODECI-GFCI	62,044	50.9%	22.2%	14.0%	71,237	50.6%	35.0%	14.0%	35.1%	43.8%	3.3%	27.0%	38.9%	13.8%	
9	GESCO MANUTENTION	46,354	72.4%	25.9%	9.2%	172,706	72.5%	18.0%	9.2%	43.7%	24.7%	9.6%	23.2%	39.0%	15.0%	many
10	**ILE BOULAY**	4,709	22.4%	1.7%	75.8%	7,036	29.9%	1.9%	68.1%	59.5%	15.3%	7.2%	66.8%	38.5%	11.3%	
11	KM 17	456	56.4%	14.9%	28.7%	571	52.0%	24.0%	24.0%	53.9%	37.3%	2.0%	34.9%	34.2%	10.7%	
12	***KOUTE VILLAGE***	16,765	86.3%	4.9%	8.5%	14,471	82.2%	8.4%	9.2%	68.8%	8.8%	2.1%	18.7%	35.5%	15.5%	
13	MAIRIE	43,480	78.1%	16.9%	4.3%	39,677	79.9%	15.6%	4.1%	54.5%	19.0%	2.8%	16.8%	41.5%	15.0%	
14	**NIANGON ADJAME**	3,072	80.0%	7.6%	11.7%	23,441	78.9%	9.4%	11.7%	70.7%	9.7%	2.3%	25.4%	34.2%	23.9%	many
15	NIANGON LOKOA	6,145	81.2%	8.3%	9.8%	14,643	81.5%	8.6%	9.9%	66.8%	12.0%	1.8%	22.1%	38.5%	15.6%	many
16	NIANGON NORD	22,636	82.6%	14.4%	2.7%	39,831	82.7%	14.4%	2.7%	63.0%	14.5%	4.2%	11.8%	37.3%	13.1%	many
17	NIANGON SUD	57,348	80.7%	14.4%	4.5%	77,607	80.8%	14.5%	4.5%	60.5%	15.3%	3.0%	14.7%	39.2%	13.9%	many
18	NOUVEAU QUARTIER SOPIM BANCO	28,681	77.6%	15.5%	5.9%	24,279	78.3%	16.0%	5.0%	58.6%	17.6%	3.3%	16.6%	41.3%	15.5%	
19	*PORT-BOUET 2*	50,816	39.2%	32.3%	27.7%	109,551	39.3%	32.4%	27.7%	28.5%	55.3%	2.2%	35.7%	38.8%	11.9%	
20	SIDECI-SICOGI LOCATION-VENTEL	59,746	73.5%	19.0%	6.9%	84,621	73.9%	19.5%	6.3%	46.5%	22.2%	4.3%	19.8%	43.6%	14.5%	
21	SOGEFIHA KOUTE MUNICIPALITE	24,820	61.7%	20.5%	8.9%	29,307	70.4%	20.6%	8.6%	49.4%	25.4%	3.6%	23.4%	42.4%	15.0%	
22	TOIT ROUGE	44,497	70.5%	14.4%	5.1%	52,307	79.8%	14.4%	5.1%	62.1%	15.7%	2.5%	12.6%	41.9%	12.7%	
23	**YOPUOGON ATTIE**	26,579	65.5%	25.9%	8.2%	28,520	66.9%	25.0%	7.9%	38.8%	31.4%	3.5%	25.8%	37.3%	12.4%	
24	**YOPUOGON SANTE**	21,080	77.6%	13.1%	8.9%	56,971	76.7%	13.9%	9.1%	48.7%	17.3%	4.1%	21.2%	39.4%	15.8%	many
25	ZONE INDUSTRIELLE	19,859	54.2%	28.2%	16.8%	74,121	52.9%	29.8%	16.8%	29.7%	38.8%	8.0%	34.4%	42.0%	17.1%	
26	No name	2,020	-	-	-	-	-	-	-	45.6%	32.9%	1.8%	24.9%	39.2%	15.0%	

Boldface: village, ***Italic type: pilot poject sites in COSAY I***

４－３－３　市役所職員との協議を踏まえた調査対象地の決定

ヨプゴン市の調査地選定においては、INS からの 2014 年センサスデータの提供を最大限待つことにしたものの、市役所職員による選定サイトへの連絡・調整のための時間も必要であることから、3 回にわたり協議を行う必要性が生じ、各協議において 2〜4 サイトを選定し、最終的に 9 つのサイトを決定した。

まず第 1 回目の協議において、1998 年のセンサスデータしかもち合わせていなかったことから、騒乱の影響の大きさを測る 1 つの指標となり得る、「騒乱時に多くの避難民を出した地域」から 2 サイトを選定することとし、市役所職員の印象から社会統合の進捗が鈍いとされる Gesco Manutention 及び多くの民族が混住している Niangon Sud が選定された。その後、市役所職員による調査対象地域の住民との調整の都合により、Niangon Sud に代わり Niangon Nord が提案され、変更した。

その後、2014 年のセンサスデータの受領を待って、残りのサイトを 2 回の協議によって選定した。2014 年のデータから、第 1 回目協議において選定済みの 2 サイトはジュラ以外の人がジュラの人の割合を大きく上回っている地域であることを確認している。そのため、第 2 回目の協議においては、ヨプゴン市内唯一のジュラの割合がそれ以外の人々の割合を上回っている Adiapo Doume 村、他地域に比べるとジュラ及びジュラ以外の人の割合の差が小さく、1998 年のセンサスデータにおいてクリスチャンよりもムスリムの割合が多い Gare-Sud Sodeci-GFCI カルティィエ、同じくジュラ及びジュラ以外の人の割合の差が比較的小さく、さらに 1998 年センサスから 2014 年までの間に、19,859 人から 74,121 人へと人口が他地域に比べても顕著に増加している Zone Industrielle カルティィエの計 3 サイトを選定した。

最後の協議においては、スラムの実態がわからないことからスラムを 2 カ所選定することで合意した。残りの 2 カ所のカルティィエについては、各民族〔2 分類ではなく 5 分類（Akan、Krou、Mande du Nord、Mande du Sud 及び Voltaique）の人口割合の差が小さい SIDECI-SICOGI Loction Ventel 及び Sogefiha Koute Municipalite〕から 1 カ所、騒乱影響の指標となる騒乱時に当該地域から逃げ出した人が多かったとされる地域から 1 カ所を選定することとなった。最終的に、市役所職員により、SIDECI-SICOGI Loction Ventel 及び Yopougon Sante 村が選定された。

なお、選定に際しては、選定までに入手可能であった 2016 年国民議会議員選挙の選挙区に偏りがないよう配慮したほか、カルティィエだけに偏らないよう村も入れるなどした。

スラムの選定については、情報がないため、市役所職員によって以下の 2 カ所を選定してもらった。

・Bonikro〔Niangon Adjame カルティィエ（村)〕: 一般的なスラムで人が密集して居住している

・Mamie Faitai〔Yopuogon Attie カルティィエ（村)〕: 騒乱時に虐殺等大きな影響を受けた

第５章　選定調査対象地域における調査

５－１　調査方法の検討

調査方法については、聞き取りの内容にかんがみ、グループインタビューでは本音が聞き取れないことが予想されたため、当初は個別での聞き取り調査を想定していたが、市役所職員や現地社会調査員とも相談のうえ、まずは地域のフォーカルパーソン（と市役所職員が認識している人）すべてに声をかけてもらい、全体への聞き取り調査の後に、個別で聞き取りをしたい人だけに残ってもらって調査を行うこととした。

調査手順を変更した理由としては、①市役所職員が多くの人を集めて調整してくれていた調査地選定に先立ち実施したプレ調査において、ある程度の情報が聞き取れたこと、②COSAY フェーズ 1 の対象地域を訪れた際に、元パイロットプロジェクト共同運営委員会（Comité Conjoint de Gestion des Projet pilotes：CCGPP）リーダーの家において元 CCGPP メンバー2 名に対する聞き取り調査を行ったが、インフォーマント（被調査者）が政治的にどちら側かということがコミュニティから認識されていた場合やコミュニティとの何らかの問題を抱えていた場合に、呼ばれなかった側の人たちに容易に政治的な判断があったのではないかと語られ得ると感じたことが挙げられる。このような背景から、調査実施によって住民間に不公平感を醸成する可能性を少しでも避けるため、グループインタビュー⇒個別インタビューの形を取ることとした。

実際に調査を通して、社会統合等の繊細なトピックに係る調査におけるグループインタビュー及び個人インタビューのメリット・デメリットを以下のように感じている。

表５－１　グループ・個別インタビューのメリット・デメリット

調査方法	メリット	デメリット
グループインタビュー	・一度に多くの情報を得やすい ・インフォーマントが事実を他の人にも確認しながら回答できる ・調査者が対象者を意図的に選んでおらずオープンな聞き取りであることを示しやすい ・地域全体の雰囲気がつかみやすい （人の発言に対して、睨む・鼻で笑うなどの行為の有無、発言時に様子をうかがう、目が泳ぐなどから）	・争いを避けるため、相手への配慮のため、自身への危険を回避するためなどの理由から、事実を隠される、事実とは異なることが語られることがある ・インタビュー実施時の発言などがインフォーマント間に新たなコンフリクトを創出してしまう危険性がある
個別インタビュー	・他人を気にしなくていいため本音が聞きやすい ・インタビュー実施時の発言が外に出ないため、新たなコンフリクトの創出を防ぎやすい	・特定の民族、特定の人物への悪感情から実際の事柄とは異なることを話している可能性もある

なお、本調査では、グループインタビューの終了後に個別インタビューをし、他の人には帰って頂いて問題ない旨アナウンスをしているが、自身のアソシエーション等の話をしたい人、単純

に個別の聞き取り内容にも興味がある人等がその場に残ることも多く、完全に隔離された場所、インフォーマントの発言がだれにも聞かれない場所が必ずしも確保できたわけではないことを断わっておく。

５－２　調査内容の検討

調査内容については、プロポーザルで提案したものを踏襲した。調査の実施に際しては、プロポーザルで提案した質問事項をできる限り網羅するよう、調査票を用いて行った（付属資料２. 参照)。ただし、実際の調査においては、調査票を用いての調査というよりは、調査票の項目を確認して漏れがないようにするため、備忘の目的での使用にとどめている。

第６章　アボボ・ヨプゴン市の各調査対象地域の概要

６－１　アボボ市における各調査対象地域の概要

本調査において社会調査を実施した各カルティエの概要を、聞き取り調査結果を基に次のとおりまとめた。

表６－１　Agbekoi 村の概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	市役所において、唯一社会統合が進んでいる（他民族の住民たちが調和をもって生活している）カルティエ（村）として紹介された村。 向かって右にアティエの Chieftaincy、左にその他民族の人たちが座っており、調査中にアティエの人たちと 1 名のマリンケの人とが地域の成り立ち･地域区分について言い争う場面があったが、マリンケ以外のその他の民族の人たちはどちらの肩をもつこともなく静観していた。マリンケの人がいなければ、市役所の C/P の言うとおり、何も問題が表面化することなく調査が終わっていたかもしれない。
地　理	アボボ市の中央あたりに位置
成り立ち	別の地域にあったアティエの村が住民移転により現在の地域に移動。1970 年頃の話と推察される。当地の成り立ち、村とカルティエの認識について、インフォーマント間で言い争う場面があったため、複数の認識が混在している可能性がある。
面　積	（2014 年センサスデータより）1.34 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）51,428 人
人口密度	（参考値）38,379 人/km^2
主な生業	賃貸業、タクシードライバー、小売業等
民族分布	（1998 年データでは Akan と Mande に大きな差がみられない地域） 村はアティエ。地域全体では 26 の民族〔コートジボワール 18 の民族と西アフリカ諸国経済共同体（Communauté Economique des Etats de l'Afrique de l'Ouest : CEDEAO）等〕（すべての回答を足しても 23 にしかならなかったが、26 の民族長がいるとのこと）
宗　教	キリスト教徒が多い
2011 年騒乱時の影響等	現在の社会統合等については、地域の成り立ちの段階で言い争いが始まったため、本質問を避けた。
コミュニティ活動等	セキュリティ等に係る話し合いを一緒に行ったりはしている。
行政との 関係性	行政に対しては大いに不満を抱いている。何か要求を出しても答えてくれたためしがない。選挙のときに顔を出すのみである。
その他 特記事項	マリンケの男性が不満をもっていたのは、この地域がアティエ村の下にあるか独立して村とカルティエに分かれるかによって、アティエの慣習法にある程度縛られるかどうかということが背景にあったように思われる。 Mutuelle とよばれる村の開発のための管理委員会が構築されているとのことであるが、活動実績はない模様。 若者から、ジェネレーション間に意見の相違があったり、意思決定に若者が十分かかわっていないという強い不満が聞かれた。

表６－２　SAGBE カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	当初は何も問題ないという発言ばかりであったが、アティエの男性がそれらを真実ではないと発言したことで不穏な空気が流れ始める。騒乱中に起こったことを語ろうと思えば 1 日では足りないが、これからのことを語ろうというアニ男性の発言により、再び、今は問題ないという回答に終始した。また、当地はミクロブによる治安悪化が地域内外から聞かれる地域でもあり、人の目があるところで不用意な発言ができないという印象は強く受けた。「本当に今、ここでは話せないんだ。何かを発言すれば明日襲撃されるかもしれない」と訴えたサブカルティエ長の言葉が印象的。
地　理	アボボ市中西部に位置
成り立ち	エブリエの人たちが居住していた土地に、アニの男性が 1966 年頃に入植して居住したことに始まる。
面　積	（2014 年センサスデータより）4.85 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）87,864 人
人口密度	（参考値）18,116 人/km^2
主な生業	小売業、日雇い労働、タクシードライバー（車の所有者は別に存在)、レンガ工等
民族分布	（1998 年データでは Mande がマジョリティの地域） 60%以上がジュラ（マリンケやセヌフォ等)。全サブカルティエでジュラが優占。
宗　教	マジョリティはムスリム教徒
2011 年騒乱時の影響等	バグボ派とみなされた人たちは危機にさらされ、当地を逃げた人も多かった模様。
現在の社会 統合状況	ジュラ以外の民族でまだ帰還を果たせていない人が多数いるという発言があった。インフォーマントが多くを語れなかった理由が、社会統合に係る文脈での危険性なのか、ミクロブ等の危険な若者がいるということに起因しているのかは不明であるが、他の地域に比して、住民の口が重い、何かを恐れているという状況がみられた。
社会統合 阻害要因	当地の治安の悪さは、住民内外から聞かれており、ミクロブ同士の闘争等も起こっている。18 時以降は非常に危険との発言もあちこちで聞かれている。 政治的な対立だけでなく、素行の悪いジュラ対その他、という意味での民族間の対立構造が起きやすい素地がある。 治安が悪いうえ、悪路のために警察も入れない地域が存在する。
コミュニティ 活動等	ジュラがマジョリティのため、ジュラのなかでの活動は行われている模様。 アティエの人への聞き取りでは、アティエの人がジュラが集まる場所に入っていくことにいまだに恐怖を感じていること、互いにあまり会話をすることもないことなどが確認されている。
行政との 関係性	行政に対しては不信しかない。バグボの時代にはジュラのカルティエだという理由で襲撃の対象となり被害を受けてきた。現政権になってからは、税の徴収額が少ないという理由で、支援の対象から外されているという認識を住民がもっている。
その他 特記事項	調査に先立ち訪れていた警察所にて、この地域の治安、貧困度はアボボで 1 番悪いとの発言があった地域である。 ミクロブの存在が民族間の不信を強める可能性が指摘されている。 行政区分とは異なり、SAGBE Center/ Nord/ Sud をすべて併せて SAGBE と住民は認識している。各カルティエにカルティエのリーダーがおり、そこから選出された 1 名がカルティエの長としての役割を果たしているとのこと。

	ジュラが6割以上を占めるが、地域全体の長はアニである。その選出にあたっては、各民族のリーダーにより選出されているため、問題は起こっていないとのこと。

表６－３　Banco 1&2 カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	インフォーマントのほぼすべてがジュラ（女性2名と男性1名のみジュラでない人を確認している）であるため、そもそも回答は偏っているかもしれないが、女性やジュラでない人も比較的自由に発言している印象ではあった。
地　理	アボボ市南西部に位置（おそらく）
成り立ち	1960 年以前は別の場所に住んでいた人たちが、もともとはアニの土地であったファームでの労働を強制されて 1960 年以降に現在の地域にやってきたのが始まりである。現在は、政府による土地区分が行われており、土地や家屋の所有権は住民に属している（電話での追加聞き取り）。
面　積	（2014 年センサスデータより）4.85 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）87,864 人
人口密度	（参考値）18,116 人/km^2
主な生業	小売業、ドライバー〔タクシー・バカ（中型バス）〕等
民族分布	（1998 年データでは Mande がマジョリティの地域） 住民の約 80%がジュラ（マリンケ、セヌフォ等）
宗　教	ほとんどがムスリム教徒
2011 年騒乱時の影響等	住民間に問題はなかったが、近くのミリタリーキャンプからの流れ弾による被害はあった。
現在の社会 統合状況	特に問題はないとのこと。
社会統合 阻害要因	ミクロブの数は多いとみられ、ミクロブの存在が民族間に今後不和をもたらすかもしれないとの発言があった。
コミュニティ 活動等	民族にかかわらず、結婚式や葬式を一緒に開催している。
行政との 関係性	要望を提出してもそれらに対する対応がとられたことは一度もなく、行政に対しては何も期待していない。
その他 特記事項	エブリエの人たちによる「ここはエブリエの土地だ」という発言が住民間に問題を起こさせているとの声があった（この地域はそうではないため比較的安定しているという意味）。 この地域の住民は互いを古くから知っており、他地域の人が安全を求めてくるくらい安全である（住民の発言）。一方で、他地域の住民からはアボボでミクロブ等により危ない地域として、SAGBE と並んで名前が出されたりもしており、真相は不明。

表６－４　Cent Douze Hectares カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	市役所からの呼びかけが遅れたとのことで、当初 3 名しか集まっていなかったため、聞き取りができた民族も限られていた。
地　理	不明

成り立ち	1969 年頃にアジャメ市から移住した人たちがエブリエから土地を購入して現在の地域が形成された。
面　積	（2014 年センサスデータより）1.03 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）44,748 人
人口密度	（参考値）43,445 人/km^2
主な生業	小売業、日雇い、インフォーマルな活動、ウィッチクラフト、ドライバー〔タクシー、バカ（中型バス)〕等
民族分布	（1998 年データでは Mande がマジョリティの地域） マリンケが 50%程度を占め、次いでナイジェリア人からの移入者、ニジェールからの移入者が続く。外国からの移入者が多いことが特徴。
宗　教	おそらく 90%以上がイスラム教徒
2011 年騒乱時の影響等	ベテの人たちが襲われ、家財などが盗まれた。
現在の社会統合状況	ベテの人とマリンケの人の関係性は改善していない。ベテの人は現在もマリンケを信頼しておらず、マリンケが集まる場所を忌避している。
社会統合阻害要因	ベテの人たちと住民（特にマリンケ）との緊張関係。
コミュニティ活動等	清掃活動等については民族を超えて実施しているが、ベテの人はまだ参加が難しい。
行政との関係性	市役所職員のプレゼンスは皆無であり、役割を果たしていないと認識している。
その他特記事項	ADAC というカルティエの開発を目的に設立された組織〔民族混合（ベテの女性も 1 名エグゼクティブメンバーに含まれる)〕が存在する。 外国移住者が多い理由として、地代等が他地域に比べてやすいことが挙げられた。 外国人とコートジボワール人との間にも問題があるとのことであったが（マリ人がワールドカップで敵国を応援するなど)、特筆すべき具体例は出されなかった。

表６－５　Abobo Sud 3S Tranche カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	社会統合や住民間の争い等については多くの意見が出されたが、これ以前の調査に比べて男女とも比較的オープンに意見を言っている印象を受けている。 ただし、住民間の不和に係る具体例は多く聞かれ、決して良い状況にあるとはいえない。
地　理	アボボ市南西部に位置（おそらく）
成り立ち	ミリタリーキャンプからの移住を余儀なくされた公務員に対して、1999 年頃に政府が土地を提供し、公務員が移り住んできたことが地域の始まりである。
面　積	（2014 年センサスデータより）0.57 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）246 人（聞き取りでは 2,000 人以上はいるとのこと）
人口密度	（参考値）432 人/km^2
主な生業	男性：車のパーツ売り 女性：小売業（マーケットで水・野菜・果物・アチェケ等を販売）
民族分布	（1998 年データでは Akan と Mande に大きな差がみられない地域） 80%以上がマリンケ

宗　教	90%以上をイスラム教徒
2011 年騒乱時の影響等	家財の略奪行為等があった。危険を感じてこの地域から避難した人も多い。
現在の社会統合状況	この地域から避難した人で帰ってきていない人も多い。 騒乱直後に比べて関係性は改善しているという人と、変わっていないという人がそれぞれ一定数いる。 加害者、被害者ともに今もこの地に生活しており、その人たちは今でも挨拶さえしない。
社会統合阻害要因	隣人と挨拶さえしない、不信の感情を心にもっているという話が多く聞かれた。 道路の整備状況が悪く、警察等が入れない地域がある。
コミュニティ活動等	地域の清掃をこれまで 2 回実施した実績がある。 その他祝い事なども民族内で実施しているのが現状である。
行政との関係性	行政に対しては不満しかない。
その他特記事項	学校管理委員会（Comité de Gestion d'Écoles：COGES）による資金管理に端を発する問題による危険分子があるとのことであったが、おそらく現時点では旧メンバーと現メンバーの問題に限定されており、民族間の問題にはなっていない模様。

表６－６　Akeikoi Extension（サブ）カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	市役所職員より Akeikoi 村の人たちも呼んでほしいというアナウンスがなかったため聞き取り調査には Akeikoi 村の人たちは呼ばなかったとのこと。村と村から派生したエクステンション地域の関係性が特に悪いということは実際にないような印象をインタビューからは受けたが、実態はわからない。また、ジュラの出席はなかった（呼んだが都合がつかなかったとのこと）。
地　理	アボボ市北部に位置
成り立ち	Ande 市から 1890 年頃に移入してきたアティエの人々が村を築き、その後移入してきた人たちに土地を売り続け（移入の年代等詳細は不明）、現在の Akeikoi Extension が形成されるに至った。 （Akeikoi 村は隣のアニャマ市に、Akeikoi Extension はアボボ市に属するとのこと）
面　積	（2014 年センサスデータより）2.76 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）53,959 人
人口密度	（参考値）19,550 人/km^2
主な生業	男性：アボボ市外の会社や工業地帯での定職、農業 女性：アチェケや魚の販売、農業
民族分布	（1998 年データでは Akan がマジョリティの地域） Akeikoi 村はアティエの村。 Akeikoi Extension については、アティエが 35%、次いでベテが多い。
宗　教	キリスト教徒が多い
2011 年騒乱時の影響等	殺された人、家を破壊された人、財産を盗まれた人など、多くの人が避難民となってこの地域を逃れた。
現在の社会統合状況	逃げた人のうち 20%程度はまだ戻ってきていないと思われるが、騒乱直後に比して、民族間の関係性は改善している。以前は難しかった民族混合での組織活動等が現在では可能になってきている。

社会統合 阻害要因	行政機関の行いが人々をさらに分断させている（犠牲者補償、支援者選定等における不公平等）。 選挙ボイコット、選挙へ行くことへの恐怖などから、選挙へ行かない人・行けない人が多数存在する。 民族間の不和がまだまだ大きい（バグボ派とされる人たちの集まりにジュラの人たちが参加を拒否するなど）。
コミュニティ 活動等	ジュラの人たちはベテの人たちの活動に参加しないなど、まだ難しいところはあるが、組織の活動において民族混合で何かをすることはが可能になってきたり、セレモニーに一緒に参加してはいる。
行政との 関係性	政府が実施すべき国民和解・社会統合について、彼らは一切のアクションを起こしていない。また、市役所は機能を果たしていない。
その他 特記事項	この地域は政府から、バグボ派であるとみなされ、支援から外されていると住民が認識している。出生・死亡の届け出の際にも嫌がらせをされていると感じている。 警察の人もジュラであるために、ミクロブの被害等を訴えても動いてくれないとの意見もあった。 民族間の関係改善に Akeikoi 村のチーフが人々にコミュニケーションを図れるよう語りかけてきたのが大きく寄与したとのこと。 当地は村ではないが、25 年以上も続く Chieftaincy がある。Chieftaincy においては民族混合の活動が可能であるのに対し、女性同士の活動はまだ困難である（日常生活に起因する他民族に対する嫉妬のような感情から）。

表６－７　Abobo Baule 村の概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	聞き取り対象者がすべてエブリエであったことから、聞き取りへの回答には一方の意見しか反映されていないことに留意が必要。村の長が回答するまでだれも答えない、質問に対してエブリエの言語で内部で話し、長の許可を得てから長以外のインフォーマントが回答するという状況での聞き取りであった。
地　理	アボボ市南東部に位置
成り立ち	1892 年に他地域からエブリエの人たちが移り住んで形成された村である（Abobo Baule Extension の人たちがいつ頃から移入を開始し始めたかについては聞き取れていない）。
面　積	（2014 年センサスデータより）4.76km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）12,289 人
人口密度	（参考値）2,582 人/km^2
主な生業	土地・家賃収入（土地は 7 つの大きなファミリーに属する）、農業、アチェケ販売等
民族分布	（1998 年データでは Akan がマジョリティの地域） Abobo Baule はエブリエの村であるが、村の一部にジュラの人たちが住む居住区がある（威厳に満ちた雰囲気から、Abobo Baule Extension のマジョリティを聞くのが憚られたため、聞かなかった）
宗　教	キリスト教徒が多い
2011 年騒乱時 の影響等	死者や避難民は出しておらず、家財の略奪等もこの地では一切起こっていない。
現在の社会 統合状況	現在に至るまで、当該地域における住民の分断などは起こらず、人々は調和をもって生活している。

社会統合 阻害要因	現時点で域内での社会統合に係る課題は抱えていないが、アティエの人たちとの土地問題は今後民族間に不和をもたらす可能性がある。
コミュニティ 活動等	村内の清掃のほか、定期的に他民族の人たちも招いてセンシタイゼーションのための講習等を行っている。
行政との 関係性	行政との関係は良好であり、特に不満ももっていない。ただし市役所から当地への具体的な支援はここ 10 年受けていない。
その他 特記事項	パレスも豪華で、村内はすべて舗装道路の整備がされているとのことで、アボボ市他地域とは異なる雰囲気が感じられた。 Azope 市から移住してきたアティエの人たちと土地問題を抱える。 土地法は 1998 年に改訂されており、政権による変更はないものと理解しているが、RDR が政権についてから自分たちが作成してきた土地に係る誓約が改変されてしまったとの認識がある。

表６－８　Agueto カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	多数の民族の長が集まっており、聞き取り中から話しづらそうな雰囲気はあったが、緊張関係が強い印象は受けなかった。聞き取り終了後の雑談のなかで、ある男性からベテ・アティエ・アベの人たちがコミュニティになじめていないとの発言があった。インタビュー中は、それら民族の長を傷つけたくなかったために皆、遠慮していたとのことであった。しかし、互いに悪感情をもっているというよりは（ベテの人はもっている可能性があるが）、今の状況を変えたいと思っている印象。
地　理	アボボ市北西部に位置
成り立ち	エブリエの人たちの土地に、1923 年頃、ベテの一家が居住を開始した。
面　積	（2014 年センサスデータより）4.08 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）30,391 人
人口密度	（参考値）7,449 人/km^2
主な生業	小売業、ウィッチクラフト、タクシードライバー等のトランスポート、農業（セヌフォの人の約 80%が農家）
民族分布	（1998 年データでは Akan と Mande に大きな差がみられない地域） 約 60%がマリンケ、次いでバウレ（民族の長が 77 名いる）
宗　教	60%以上がイスラム教徒
2011 年騒乱時の影響等	住民間に分断はなかったものの、反政府勢力と政府側の国防軍等が戦闘を繰り広げたバトルフィールドとなったため、多くの住民が避難民となって逃げ出した（住民間にも分断はあったのだろうと推測される）。
現在の社会 統合状況	避難民はほぼすべて帰還済みである。現在も政治的な分断はあり、特定の民族の人たちとの関係性が良好といえるには至っていない。
社会統合 阻害要因	コミュニティになじめていない特定民族が存在する。 与党派の人たちのなかに過激な発言を現在も続けている人がいる（密告者がいるとの発言や前月に起きたストライキへの支持等）。 政府の民族に対する不公平な扱いが住民に不満を蓄積している。 刑務所にいまだに入れられている人がいるという事実。
コミュニティ 活動等	民族を超えてのコミュニティ活動等は一切ない。 アソシエーションや COGES 等の維持管理組合においては、民族混合で活動している。

行政との関係性	行政に対する不信は相当根深いとのこと。特に知事に対する不信感が強かった。
その他特記事項	すべての住民がどこかの政党に属しており（民族などにより支持する政党を必ず有している）、だれがどの政党を支持しているかは互いに知っている。

表６－９　Sogefiha Habitat カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	民族の長の参加がなく（呼ばなかったわけではないとのこと。市役所からの連絡に加えて、JICA チームからも連絡はしていたが）、比較的若い男女が集まった。当初はあまり問題がないような発言が多かったが、野党派の青年の発言以降、若者たちが比較的言いにくいことも話し始めた印象である。
地　理	アボボ市中央部に位置（おそらく）
成り立ち	もともとエブリエの人たちの土地であったところに、アジャメ市からの移入者が 1979 年頃に居住し始めてできた地域である。
面　積	（2014 年センサスデータより）0.56 km^2
人　口	（1998 年センサスデータより）16,263 人
人口密度	（参考値）29,041 人/km^2
主な生業	公務員、大規模トレーダー（他のこまごました小売りとは区別したい言い方）
民族分布	（1998 年データでは Akan がマジョリティの地域） 約 40％がマリンケ、次いでバウレが 15～30％
宗　教	キリスト教徒とイスラム教徒が半々（どちらが多いとはいえない）
2011 年騒乱時の影響等	反乱軍と政府軍のバトルフィールドになったため、多くの人が避難民となって逃げ出した。家財の強奪等も行われた。 政治によって住民は分断された。
現在の社会統合状況	避難民はほとんどが帰還済み。 どの程度の緊張関係かは不明であるが、現在に至っても一定程度の民族分断が残っているものと思われる。
社会統合阻害要因	現在も、住民が集まる場で政治的な発言をする人がいる。 バグボが今も投獄されているという事実。 一部の民族だけに恩恵を与えている政府の不公平な行い。ジュラに対する厚遇が住民に不満を生じさせている。
コミュニティ活動等	サブカルティエレベルでの清掃活動は民族を超えた活動である。その他には特にない。
行政との関係性	行政に対しては不信しかない。行政、市役所は存在しないものとみなしている。
その他特記事項	選挙に興味がもてない。 アボボ市他地域に比して教育水準の高いカルティエである模様。

６－２　ヨプゴン市における各調査対象地域の概要

本調査において社会調査を実施した各カルティエの概要を、聞き取り調査結果を基に次のとおりまとめた。

表６－10　Gesco Manutention カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	本調査のなかでは、かなり出席者間に強い緊張関係が残っている印象を受けた。回答者を睨む、鼻で笑うといったことが頻繁に観察されている。
地　理	ヨプゴン市北西部に位置
成り立ち	当初はエブリエやアティエの人たちの土地があったところに、1975 年にプラント工場等が当地にできたことから、ワーカーやその他の人々がこの地に居住し始めた。
面　積	（2014 年センサス）10.84 km^2
人　口	（2014 年センサス）172,706 人
人口密度	15,932 人/km^2
主な生業	小規模トレーダー、メカニック、レンガ工、ドライバー等のスモールワーク、工業地帯での雇用、公務員（少数）、リタイアした人、農業（少数）等
民族分布	多くの民族がおり、優占民族はわからない。
宗　教	（イスラム教徒数、キリスト教徒数でもめた結果）キリスト教徒の方が多い。
2011 年騒乱時の影響等	相当大きな影響を受けた。反乱軍等による攻撃や家財の略奪行為等が行われた。多くの人が避難民となって逃れた。この政治的な問題により、住民は二分されてしまったとのこと。
現在の社会統合状況	避難した住民のほとんどは既に帰還しているが、現在に至るまで、二分されてしまった住民の関係性はあまり改善しているとはいい難い。
社会統合阻害要因	政府による特定民族への優遇がさらに住民を二分してしまっているとの発言があった。
コミュニティ活動等	ない。唯一挙げられるとすれば、葬式や結婚式、出生祝い、若者による清掃等（これもすべての人たちではない）
行政との関係性	市役所との関係性はこの地域は特に良くないと住民が思っている。嫌がらせを受けているとの認識がある。
その他特記事項	ヨプゴン市の中では貧困が厳しい地域との住民自身の認識。実際に、道路整備状況は悪かった。

表６－11　Niangon Nord カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	前出の Gesco Manutention に比して出席者の緊張状態は緩いが、社会統合に係る質問が開始された途端に、口をつぐんだり、互いに顔を見合わせたりといったことがみられたり、騒乱後の住民の関係性は改善していないとの意見も多く聞かれ、緊張状態はあまり改善されていないとみた方がよいとの印象を受けた。
地　理	ヨプゴン市中央部に位置
成り立ち	エブリエの人たちが所有していた当地域を政府が開発し 1980 年頃から人々が住み始めた。
面　積	（2014 年センサス）2.54 km^2
人　口	（2014 年センサス）39,831 人
人口密度	15,681 人/km^2
主な生業	公的機関やプライベート会社での雇用、小規模トレーダー等。リタイアした人たちも多い。

民族分布	40 以上の民族が生活しており、マジョリティはわからない。
宗　教	キリスト教徒が多い。
2011 年騒乱時の影響等	家財の略奪等が広く行われ、多くの人が避難民となってこの地を離れた。政治的なこの出来事を境に、民族間、家族内でさえ、支持政党等の違いから住民たちは分断されてしまった。
現在の社会統合状況	避難民の多くは既に帰還しているが、一部まだ帰還を果たせていない人もいる。挨拶さえしない人たちもおり、民族を超えて何かをともにすることはない。その裏には不信がある。
社会統合阻害要因	ミーティング等を開こうとプレジデント（と呼ばれる SICOGI のリーダー）が呼びかけても、ボイコットを続けている人たち（民族）がある。
コミュニティ活動等	一切なし。葬式や結婚式なども民族を超えては一緒に行わない。
行政との関係性	行政に対しては不信感しかない。市役所は何も役割を果たしていない。
その他特記事項	社会統合に係るさまざまなアクションが起こされたが、この地域の住民の関係性を改善するには至らなかった。 また、民族が異なってもこの地域に居住する前から友人同士であった人たちは良い関係を継続している。 被害者救済へのリスト作成を命じられながらもだれもその恩恵にあずかれなかったことに起因する政府への不信も存在している。

表６－12　Adiapo Doume 村の概要

項　目	概　況
調査時の印象等	村での調査であったが、エブリエ以外の民族の長等も多く集まっており、関係性は良好な印象を受けた。
地　理	ヨプゴン市西部に位置
成り立ち	1800 年代にエブリエの人々が居住を開始した。エクステンション（サブカルティエ）に居住する人たちが移入を開始したのは大体 1930 年頃と思われる。
面　積	（2014 年センサス）5.63 km^2
人　口	（2014 年センサス）14,395 人
人口密度	2,557 人/km^2
主な生業	土地・家賃収入、アチェケ販売、スモールワーカー、農業等
民族分布	村はエブリエ。その他は多数の民族が混住しており（存在する民族長は 18 名）、どの民族がマジョリティかはわからない。
宗　教	キリスト教が多い。
2011 年騒乱時の影響等	騒乱時においても大きな影響を受けず、殺された人、家を破壊された人も出していない。地域に住む人は皆古くからの知り合いであり、政治的な問題でどうにかなるような関係ではなかったというのが理由として語られている。
現在の社会統合状況	現在においても住民の分断などは一切ない。
コミュニティ活動等	葬式や新年の祝いなども民族に関係なく実施しており、宗教的な祝い事も宗教を超えて実施している。

行政との 関係性	行政との問題は抱えていないとのことであったが、パフォーマンスには満足していない模様。
その他 特記事項	調査中に嘘をついているようには見受けられなかったが、最近設立された村開発組織のエグゼクティブメンバーの民族構成を質問した際に、すべてがエブリエで構成されていると回答するときに、少し答えづらそうな雰囲気があった。 各サブカルティエに民族混合のサッカーチームがあり、コミュニケーションに役立っているとの発言があった。

表６－13　Zone Industrielle カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	個人的に仲の悪い民族長がいること、いまだに住民の間には不信感が充満しているという発言が多々聞かれ、現在も住民の関係性はいいとはいえない印象である。
地　理	ヨプゴン市北部に位置
成り立ち	1976 年より以前に工業地帯で働く人たちによって居住されていた地域である。1976 年時点では 3 社しかなかったのが、現在では企業数は 2,000 を超えている。工業地帯で働く人とは別のところで、1993 年頃、24 名から成る民族リーダーのセントラルチーフを務める男性が森林地帯であったこの地に居住を始めた。工業地帯の企業数の増加などに伴い、みるみる人の数が増加し現在に至っている。
面　積	（2014 年センサス）10.14 km^2
人　口	（2014 年センサス）74,121 人
人口密度	7,310 人/km^2
主な生業	男性：工業地帯での雇用、スモールワーカー（メカニック、レンガ工等） 女性：小売業
民族分布	サブカルティエごとの主要民族 アジトマカゥ・アンドゥミルバラック・カルティエゾープル：ヤクバ カルティエフェライ：ジュラ カルティエグロ：グロ カルティエユケア：民族混合でマジョリティの特定は困難 Sodifo Extnsion：政府雇用者の地域であり民族不明
宗　教	おそらくキリスト教徒が多い。
2011 年騒乱時の影響等	若者が銃を手に、住民間での戦いを繰り広げた。非常に多くの住民が避難民となってこの地を離れた。
現在の社会 統合状況	多くのバグボ派の青年は帰ってきていない。騒乱時と変わらないくらいに住民間の関係性は悪い。相手を敵と見なしながら生活している。
社会統合 阻害要因	民族長会議等をボイコットする特定の民族がある（後の聞き取りで長同士の個人的な諍いであり民族間の対立ではない模様）。
コミュニティ 活動等	冠婚葬祭を含め、現在は、コミュニティ活動は一切なし。
行政との 関係性	市役所の仕事に対しては満足していない。住民の訪問による現状の理解を希望している。
その他 特記事項	1998 年から 2014 年にかけてカルティエ人口が 3.7 倍に増加している。

表６－14　Gare-Sude Sodeci-GFCI カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	住民間に緊張関係はみられないように思われたが、あまりまとまりがない印象を受けた。
地　理	確認できず
成り立ち	もともとエブリエの人たちの土地であったが、エブリエの人たちが土地分割を開始し、1968 年頃から外部の人にも土地を売り始め、1970 年頃からこの地域にも人が住み始めた。
面　積	（2014 年センサス）2.96 km^2
人　口	（2014 年センサス）71,237 人
人口密度	24,067 人/km^2
主な生業	レンガ工等の日雇い、トレーダー（小規模、大規模）、テイラー等。正規雇用はない。
民族分布	40％以上が CEDEAO
宗　教	イスラム教徒が約 70％
2011 年騒乱時の影響等	地域内にコンフリクトは起こらなかった。政府軍がこの地域に進攻して人を撃つなど、外部からの騒乱には巻き込まれたが、1 人の被害者も出していない。
現在の社会統合状況	現在も特に問題なく暮らしている。
コミュニティ活動等	冠婚葬祭は一緒に実施している（同じ民族だけで行う活動もこの程度）。
行政との関係性	行政とは関係が希薄であり、市役所はわれわれのことをケアしていない。
その他特記事項	騒乱中に隣の地域から攻撃を受けかけたが、若者を集めて道路封鎖をするなどして防いだ。その地域の人々との関係性についても、今は特に問題ない。

表６－15　Mamie Faitai スラムの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	住民間にそれほど緊張関係はみられないが、人の目を気にしながら発言する人も多い印象を受けた。
地　理	ヨプゴン市中央部に位置
成り立ち	別の地域にいた人が 1998 年に移転を余儀なくされ、当時の市長の計らいで現在の場所に移ってきた。
面　積	不明
人　口	（住民申告）約 7,000 人
主な生業	タクシードライバー、家賃収入、小売業、プライベート教師。女性は小売業が多い。
民族分布	約 60％がマリンケ、次いで CEDEAO
宗　教	イスラム教徒が約 80％
2011 年騒乱時の影響等	100 名が殺害され、9 名のレイプ被害、30 名が銃による負傷、多くの家財が略奪された。住民の多くが避難した。
現在の社会統合状況	避難した人たちの多くは帰ってきているが、密告行為を行った人たちはいまだ帰ることができない。現在も住民間に緊張関係が存在する。

社会統合 阻害要因	政治的なことを考えてしまう。 騒乱時に何が起こったかということが忘れられない。
コミュニティ 活動等	コミュニティ活動はない。ミーティング等に人を集めるのも難しい。
行政との 関係性	市役所は選挙のときに訪れるだけで住民を支援していない。要請も挙げているが、何も実施していない。市役所は政治的なことにのみ関心がある。
その他 特記事項	UN 等による社会統合に係るセンシタイゼーションを受けたが、住民の関係性に改善はみられず、効果はなかった。 おそらく騒乱で大きな影響を受けたことからドナー等の外部者が聞き取り等に訪れている模様。それに対して、実際のアクションがないことに不満を漏らす住民もいた。

表６－16　Bonikro スラムの概要

項　目	概　況
調査時の 印象等	本調査で最大の人数が集まっていた。不満を語りたいベテ等の人々と、騒乱時から住民間には問題がなかったと語るマリンケの人がおり、表面的にはうまくいっているようにみえるが、特定の民族（ベテ等）には不満があるように思われる。
地　理	ヨプゴン市西部に位置
成り立ち	エブリエの土地にバウレの人たちが 1927 年に移入してきたのが始まりである。土地は購入していないが、エブリエの人たちから借りて住んでいる。スラムといわれるが不法占拠しているわけではない。
面　積	不明
人　口	（住民申告）約 5,000 人
主な生業	カーペンターやレンガ工等の日雇い、ドライバーやバカ（中型バス）の呼び子、メカニック等。女性は小売業。公務員はいない。
民族分布	ブルキナファソ人が約 20%、次いでバウレが約 15%
宗　教	イスラム教徒が約 40%と一番多い。
2011 年騒乱時の影響等	外部から政府軍、反乱軍等の軍人が来た際に、住民のなかに密告者がいた。住民同士の争いはなかった。多くの人が避難した。
現在の社会統合状況	避難した人たちはほとんどすべて帰還済みである。マリンケの人は過去のことにしたいが、ベテの人等は騒乱時の記憶に基づく悪感情をまだ抱いて暮らしている印象。
社会統合 阻害要因	会合等に参加しない人がまだいる。
コミュニティ 活動等	冠婚葬祭は民族を超えて人が集まることもある。
行政との 関係性	市役所の仕事に対して理解・感謝している人もいるが、まだ支援が足りないという人もいる。
その他 特記事項	土地の不法占拠はないと認識されているが、生活環境が悪いためにスラムとされているとのこと。

表６－17　Yopougon Sante 村の概要

項　目	概　況
調査時の印象等	市役所からの情報では騒乱中に多くの避難者を出した地域であったが、聞き取り調査中は、「この地域は騒乱中も今も問題はない」「チーフの強い働きかけのおかげである」という発言に終始しており、発言者の目が泳ぐなどの現象も観察されなかったため、そのように理解していた。しかし、調査終了後、Chieftaincy のメンバーである比較的若い男性（40～50 代）との話のなかで、調査が始まる前に、彼らだけでの会合があり、その場でチーフより、この地域では騒乱中も問題なかった、今も人々はうまくやっているというように答えるよう示し合わされていたことが判明した。地域をうまく統率できない人たちと思われるのを避けたいことが理由と推察された。
地　理	ヨプゴン市南東部に位置
成り立ち	別の地域に住んでいたエブリエの人たちが 1800 年代にこの土地にやってきた。サブカルティエの人たちは 1960 年頃に移入を始めた。
面　積	（2014 年センサス）3.10 km^2
人　口	（2014 年センサス）56,971 人
人口密度	18,378 人/km^2
主な生業	公務員、レンガ工、カーペンター、小売業、トランスポート等。家賃収入などで生計を立てている人はほとんどいない（土地販売済み）。
民族分布	村はエブリエ。 サブカルティエについては、それぞれ以下のとおり。 Joula Bogo：マリンケが多い Sikaso：セヌフォ、マリ人が多い Agbayate, Quartier Noir, Koweit, Beate, Cocoteraire：民族混合
宗　教	村はキリスト教徒が多い サブカルティエについては不明
2011 年騒乱時の影響等	危険を感じて一部の人は逃げたが、住民間の争いはなかった。
現在の社会統合状況	住民は調和をもって暮らしており、現在問題はない。
コミュニティ活動等	冠婚葬祭やミーティング等は民族を超えて実施している。女性は清掃活動等を行う。村とサブカルティエ、合同で行う活動はない。市役所に呼ばれたときくらい。
行政との関係性	行政は役割を果たしていない。ヨプゴン市ではプロジェクト等がたくさん実施されているにもかかわらず、この地域には一切の支援が来ない。
その他特記事項	小学校や道路改修を村でお金を調達して実施したりしている。資金難で整備が止まっている市場がある。

表６－18　SIDECI-SICOGI Location-Ventel カルティエの概要

項　目	概　況
調査時の印象等	バグボ派の人（特に若者）の出席が多く、当初は多くを語らなかったが、1 人の青年の発言以降、特に若年層の男女による政府批判や社会統合に係る課題が多く挙げられた。
地　理	ヨプゴン市中央部と思われる（市役所に近い）。

成り立ち	エブリエの人たちがカカオを栽培している当地を政府が入手し、1971 年に家屋整備を開始、人々に貸し始めた。その後 1995 年に政府が住民に販売したため、現在は家屋等の所有権は政府から購入した現住民に帰属する。
面　積	（2014 年センサス）2.09 km^2
人　口	（2014 年センサス）84,621 人
人口密度	40,489 人/km^2
主な生業	テント・サウンドシステムの貸出業、小売業、ドライバー等
民族分布	不明
宗　教	キリスト教徒の方がイスラム教徒よりも多いと思われる。
2011 年騒乱時の影響等	騒乱時に人々の間にコンフリクトが生じた。騒乱時は、外部者に対する密告者がいた。
現在の社会統合状況	住民の関係性は改善されていない。
社会統合阻害要因	政府の一方の民族だけへの支援の偏りによる不公平感。騒乱時に密告者として働いた住民も一緒に生活しており、彼らに対する悪感情がいまだに強く残っている。
コミュニティ活動等	コミュニティ活動は一切ない。 冠婚葬祭も民族を超えては一緒に開催しない。
行政との関係性	市役所の対応に満足はしていない、という人と市役所のおかげで住環境が改善したという意見があった。
その他特記事項	国民和解が進捗していないことに対する不満が大きかった。 住民や市役所による活動は政治的なものにとられがちであるが、JICA のような外部者支援によるプロジェクトであれば多くの人が参加しやすいという発言があった。 内部者・外部者いずれによっても社会統合に係るセンシタイゼーション等は一度も実施されていない。

第７章　社会統合の現状等に係る調査結果

７－１　両市での調査における印象

各市とも９サイト、インフォーマントも限られたなかでの調査であり、本調査をもって対象市の特徴を述べることは危険を伴うが、調査における印象を記しておきたい。

まず、政府が社会統合を促進するための具体的なアクションを起こしていないと見受けられ、社会統合が進んでいるとはいい難い状況が多くの地域で確認された。両市における社会統合の現状については、当初想定よりもはるかに悪い状況にあったというのが率直な感想である。対象両市の状況は、“社会統合がある程度達成され、一部地域でまだ緊張状態にある”というよりは、“表面的には住民の関係性は改善されているものの、基本的に両市すべての地域で社会統合は進んでおらず、住民間の分断は今なお続いており、不信等に伴う緊張関係がみられる”という表現の方が現地の状況に近いように思われる。

アボボ市とヨプゴン市では、社会的背景等も異なるため、同等に比較することは危険が伴う。まず、表４－４、表４－５からも読み取れるように、アボボ市とヨプゴン市の人口をみると、前者で Akan+Krou+Mande du Sud が 49.4%、Mande du Nord+Voltaique が 30.5％であるのに対し（いずれも 1998 年センサスデータ）、後者では Akan+Krou+Mande du Sud が 67.0％、Mande du Nord+Voltaique が 20.8％となっており（いずれも 2014 年センサスデータ）、ヨプゴン市で一般的に野党派とされる 3 民族グループの人口割合が有意に大きいことがわかる。これを裏づけるように、「８－５」で示した 2010 年、2015 年の選挙結果をみても、与党派の RDR（RHDP）を支持している割合が、アボボ市に比してヨプゴン市で約 19%（2010 年）、約 6%（2015 年）低くなっている。

実際に調査を実施したアボボ市の調査対象地域は、ジュラまたはイスラム教徒が優占する地域が多く、ヨプゴン市の調査対象地域ではジュラが圧倒的優占であるという地域はアボボ市に比して少なく、村を除き、地域のマジョリティに対する回答がない（多数の民族が混住しており、どの民族が一番多いかがわからないという回答等）地域が多かった。なお、アボボ市においては、ジュラがマジョリティでない地域においても、いずれかの民族がマジョリティとして語られていた点でヨプゴンとは異なっている。このような背景との直接的な因果関係は不明であるが、アボボ市では、一般にジュラの人に対する悪感情が語られたり、一部特定の民族とジュラの人とのコンフリクトが語られるのに対し、ヨプゴン市では、政治が人々を二分したと語られることが多く、地域全体にいまだに色濃く住民間の不和がみられるとの印象を受けた。

また、両市対象地域に共通して、概してマリンケ等のジュラの人々が、騒乱中のネガティブなインパクト、特に民族間の争いについてそれほど語らず、騒乱の影響を過去のこととして話す傾向があるのに対し、前大統領の民族であるベテをはじめとする現野党派の人たちは、騒乱中の民族間の争いについて根強いネガティブ感情をもっており、住民間の関係性は騒乱中から改善していないと語ることが多かったように思われる。また、現野党派の人たちからは、このような負の感情を表に出すことがいけないこと、すべては過去のこととされる現状にも不満があるとの意見もあった。社会統合に係る現状等については、どのような社会的バックグラウンド（民族や支持政党のほかにも、直接的被害の有無等）をもつ人物が何を語っているのかを注視することなくしてこの地域の社会統合の現状、課題の本質は読み解けないのではないかとの印象を、本調査を通じて強くもった。

７－２　騒乱が地域に与えた影響

騒乱中の政治的な背景に基づく地域住民の分断は、支持政党の別による民族間の対立につながり現在に至っている。騒乱中には、隣人同士、同地域内の住民同士が敵対関係になり、互いを傷つけ合ったり、略奪行為が行われたほか、直接手を下さなくてもそれぞれが支持する政党の兵士への密告行為（主に、「この家がバグボ派の住む家だ」などと示して回る行為）等が広く行われてきた。住民の一部は身の危険を感じて居住地から避難し、そのほとんどは帰還を果たしているといわれるが、安全が確保できないなどの理由から、いまだに帰還していない住民もいる。

隣人同士、同地域内の住民同士が敵・味方、ときには直接的な加害者・被害者となり、多くの人々は騒乱時に生じたさまざまな関係性を引きずりながら生活している。

調査を通し、現在の社会統合の状況から、地域を大きく次の 3 つに分類できると考えた。

①地域全体に緊張関係が存在している

②特定民族や特定の人物間に緊張関係が存在している

③全体的に緊張関係がそれほどみられない

このような地域差を生じさせている要因として、騒乱時にどれほど住民間で争いが起こったかということが 1 つ大きくかかわっているように思われる。騒乱時の住民間の争いは、①＞②＞③の順に小さくなり、騒乱時に住民間の対立が激しかった①では、現在に至っても緊張関係が強く、騒乱時にも住民間に争いが生じなかったといわれる③では、そもそも住民の分断が強く起こっていないために現在も依然と変わらず関係を築いている。②については、その背景はさまざまであると思われるが、住民間の争いではないが、反政府軍と政府軍との争いに巻き込まれる形で住民の分断が起こった地域等がこれに当てはまる。

特に、今回の調査から①のなかでも特に地域全体に強い緊張関係が存在している印象を受けたヨプゴン市の Gesco Manutention は、ワタラ派反乱軍や民兵などによる攻撃を頻繁に受けており、住民がそれらに加担していた（既述の密告行為等）様子が聞き取りから明らかになっている。

７－３　騒乱前後のコミュニティ・住民の関係性

７－３－１　騒乱前後のコミュニティ・住民の関係性

対象両市においては、騒乱前（騒乱前のピリピリした空気が生じるよりも前）に比べると住民の関係性が悪化したというのは、ほぼすべての地域で得られている結果である。具体的な変化については、聞き取り結果を基に表７－１に簡単にまとめた。

表７－１　騒乱前後の住民の関係性

項　目	騒乱前	騒乱後
住民の関係性	騒乱前は、民族・宗教・支持政党の別なく住民は調和をもって生活していた	・政治が住民を分断してしまった ・挨拶さえ交わさない人がいる ・互いに憎み合っている ・騒乱時に受けた仕打ちをどうしても忘れられず特定の民族のことが許せないという人がいる ・恐怖を感じながら生活している人がいる ・政治的な背景をもつ話題を共有できない人が増えた ・騒乱の影響（身内が加害者、財産の喪失等）から家に引きこもっている人がいる

コミュニティ活動等、民族を超えた集まり	特に民族を気にすることなく、コミュニティ活動（主に冠婚葬祭、サッカー大会、域内清掃等）を行っていた	・以前は行っていた民族を超えた集まり（主に冠婚葬祭、サッカー大会等）を民族内でのみ実施するようになった ・会合の場への出席をボイコットする人や特定の民族が存在する ・騒乱による家財や金銭の損失からビジネス活動が始められず、グループの活動が減少した
政治的な関心	住民はそれほど政治に強い興味をもっていなかった	・ほぼすべての人が特定の政党に帰属しているといえるほど住民の政治的執着が強い ・支持政党の違いから話さなくなった人が大勢いる ・政治的な対立から家族内でも不和が生じており、政治的分断により離婚した人もいる

このように、両市とも都市という土地柄、騒乱以前から頻繁に共同で何らかの活動を実施していたというわけではないが、政治による人々の分断を経験した騒乱以降、住民は意識的に集まらない、集まれない状況に自分たちが置かれていると認識していることがわかる。つまり、実際の行動変容にその違いをはっきりと見出せるというよりは、内面的な意識の問題であり、表面上はわかりづらいものかもしれない。

また、住民が騒乱前においても現在においても、それほど強く自分たちの居住単位、生活単位を認識していないことから（村においてはその限りではない）、コミュニティというものが何をもって形づくられるものであるのかは明らかにできなかった。そのため、コミュニティの関係の変化については多くを分析できないが、騒乱においてバトルフィールドとなった地域等では、村（Yopougon Sante）と周辺のカルティエ、スラム（Mamie Faitai）と周辺のカルティエ等の例が聞き取りや市役所職員との話のなかでも挙がっており、それら地域では、敵対したコミュニティとの認識は現在に至るまで残っており、特に意識をしていなかった騒乱前と比べると、住民間にみられた関係性に同様の変化が起こっていても不思議ではない。ただし、前者（Yopougon Sante 村）における地域での聞き取りでは、議事録にも記載のとおり、聞き取り調査において騒乱時も問題がなかったと語られたために真相はわからないが、後者（Mamie Faitai スラム）においては、隣接するコミュニティとの関係性について、社会統合の文脈では語られなかった。また、バトルフィールドになったわけではないが、隣接するカルティエによる密告等の被害に遭ったと訴える Gare-Sude Sodeci-GFCI（住民の認識ではワサカラという地域）において、当該カルティエとの遺恨等について聞き取ったところ、当時は恨んだが、今は特に仲が悪いということもないという回答であった。

７－３－２　騒乱直後と現在の住民の緊張関係

次に、騒乱直後と現在のコミュニティ・住民の関係性について、聞き取り調査の結果を基に、表７－２にまとめた。なお、聞き取りの結果をまとめたものであるため、同一項目において異なる意見が入っている。

表７－２　騒乱直後と現在の住民の関係性

項　目	騒乱直後	現　在
住民間の緊張の度合い	住民は政治によって分断され、住民は強い恐怖を抱えながら生活していた	・騒乱直後とは異なり、銃やマシェット（山刀）で襲われるのではないかという恐怖心はなくなったが関係性は変わらず、現在も恐怖を感じながら生活している ・表面上は何もないようにふるまい、挨拶などはするが、心の中では今も許せないという感情があり、憎しみや不信感をもちながら生活している ・いまだに地域の安全が確保されないとして帰還できていない人がいる ・騒乱直後は挨拶さえ難しい関係にあった人たちも現在では言葉を交わすようになっている
コミュニティ活動等、民族を超えた集まり	一切なし	・現在に至っても一切なし ・現在はアソシエーション活動や冠婚葬祭を一緒にできるまでには関係性が改善している

騒乱が終結して間もない頃の状況からは、すぐに身に危険が迫るような危機感を覚えないようになったという点では、住民間の緊張関係には改善がみられているといえる。しかし、「表面上は問題ないようにふるまって生きているが、心の底では相手を憎んでいる」「騒乱中とは異なり、現在はマシェット（山刀）や銃を持たないだけで、気持ちは何も変わっていない」といった声も聞き取り調査で本当に多く出ていた。まだまだ相手を敵とみなすような感情をもっている住民はたくさんいるように思われた。

一方で、騒乱直後はできなかった会議の開催や異なる民族の住民が一緒に行う組織活動が可能になってきているとの意見もあり、一部地域（一部の住民間）においてはその関係性が改善しているものと思われる。改善に寄与した取り組みについては、その多くが住民自身（民族のリーダーや宗教リーダー等）や市役所、警察、UN 等によるセンシタイゼーションの実施であったと述べている。当初は民族のリーダー等をもってしても住民が抱える負の感情を緩和することは難しかったが、リーダーとしてそのような人たちに挨拶すること、会話をすることを強要し、彼らの関係性が徐々に改善していったという例もあった。そのほか、特に何かアクションを起こしたわけではないが、騒乱後同じ地域に居住する者として挨拶を交わすことができるようになり、自然と緊張関係が弱まったという意見も多かった。

７－３－３　騒乱前後の住民の関係性に変化がないとされた地域の存在

選定された調査対象地域のなかには、騒乱中も当該地域の住民間には争い事は起こらず、1 人の死者も出さず、住民の分断は起こらなかったとの調査結果が得られているアボボ市の Abobo Baule 村やヨプゴン市の Adiapo Doume 村等の例もある。前者においては、グループインタビューに集まった人々が村の住民のみであったため、周辺の民族混合地域の住民の意見も聞いてみないことには確かなことはわからないが、後者においてはグループインタビューの後に個別で聞き取りを行ったマリンケの民族リーダー等への聞き取りからも、同様の事実が語られている。

両地域に共通してそのようなことが可能であった理由として、①古くから互いを知っていたため、②村長や Chieftaincy の長が人を集め、互いを傷つけるような行為をしないよう求めたため、

の2点が挙げられている。特に理由の①については、近隣のミリタリーキャンプからの流れ弾による被害は受けたものの住民間の争いは起こらなかったというアボボ市の Banco 1&2 でも同様のことが理由として挙げられている。また、現在に至っても住民は分断しており、住民間の関係性は改善していないとの発言が多かったヨプゴン市の Niangono Nord においても、もともと長く友人関係にあった人たちに関しては、敵対する政党を支援していた人たちにおいても政治的・民族的な対立には発展しなかったし、現在も良い関係を築いていると説明している。

騒乱前から社会的紐帯が比較的希薄であった両市の対象地域において、相対的に地縁が強い地域や個人的に良好なつながりを長期にわたって築いていたことが、人々の分断を回避させることに寄与したということができるかもしれない。なお、インタビューにおいてはヨプゴン市の Yopougon Sante 村においても同様のことが語られていたが、既述のとおり、インタビュー後に口裏合わせが行われてからの回答であったことが明らかとなっており、ここでは当村はこのカテゴリーからは除外している。

「３－３－１」にも記載のとおり、INS の報告書によると（400 サンプルのみであるため参考程度）、アボボ市、ヨプゴン市ともに、住民の居住歴は 10 年未満が半数以上を占めており、1 年以下に限ってもアボボ市、ヨプゴン市で約 10%と住民の当地での居住歴がそれほど長くない現状がみてとれる。両市ともに総じて住民の居住歴はそれほど長くないことが、騒乱自体の発生や深刻化、騒乱の影響による住民の分断を長引かせる遠因となっている可能性は否定できない。なお、各カルティエにおける聞き取り調査において、いつ頃住民が当地で生活を始めたかについても聞き取りをしている。ただし、別の場所からの強制退去等、地域全体で移動してきている場合も少なくなく、現在の居住地での居住歴＝住民の関係の長さでは必ずしもないことには留意が必要である。

７－４　社会統合に係る阻害要因、その他不安定要因

７－４－１　両市に存在する社会統合に係る阻害要因、不安定要因

対象地域における社会統合に係る阻害要因、不安定要因について、以下の項目が挙げられる。

表７－３　社会統合を阻害し得る要因とその理由

阻害要因	内容・理由等
コミュニケーションの欠如	コミュニケーション機会が失われ続けていることが、地域社会の継続的な分断をより容易にしている。会議へのボイコット等、意思決定に含まれない特定の民族や人物なども創出してしまっている。
政治的・民族的な説明の付与	個人間の軽微な諍いでさえ、政治的・民族的な解釈・説明が付与されやすい素地がある。
騒乱後の住民の政治的な関心の高まり	騒乱前は意識しなかった政治に対する興味関心が市民全体に高まっており、一般的な問題が民族間の問題にすり替えられることが往々にして起こり得る。
国民和解の未達成	「バグボ側の人間だけが投獄されている状況で、国民和解や社会統合を語ることはできない」との意見が多く挙がっている。なかには身内や友人がいまだに釈放されていない例もあった。社会統合の前に国民和解をという声は、野党派とされる民族から多く聞かれており、国家としての対応が求められている。

与党派民族への厚遇	与党派民族への厚遇に対して不満をもっている市民は非常に多く、政府に対する不満、与党派民族に対する不満の蓄積を助長している。
イボワリテの思想	本調査で“イボワリテ”の思想に相当する発言は、アボボ市の Sogefiha Habitat における調査においてのみであったが、当地ではある青年男性より「国家試験等において、特定民族への厚遇があり、住民間に不満がたまっている。厚遇を受けている特定民族は外国人であるにもかかわらず」といった発言があった。 民族間における不満に加えて、現在の状況を「外国人による母国の政治的占領」とみなす人がいること、“イボワリテ”は決して過去のものではないことも念頭に置いておく必要がある。
治安状況	ミクロブや違法なドラッグ喫煙ハウスの存在等により、対象両市では治安に不安を抱えている地域も多い。これらの問題は、民族的な認識とも強く結びついており、地域に新たなコンフリクトを創出し得る問題として挙げられている。 安全確保は、プロジェクト実施の観点からも重要である。
土地問題	土地の分割が進んでおらず、土地問題を抱える地域もある。土地問題は特に民族間の対立にもつながりかねない問題として留意が必要である。

上表に整理した項目について、追加すべき具体事例等があるものについて、以下に詳述する。

７－４－２　一般的な事象への政治的・民族的な説明の付与

対象地域では、民族的な対立がないような地域にもみられる一般的な争い事に対しても、民族的な意味合いが付与されやすい素地がある。

これについては、COSAY フェーズ 1 において道路改修パイロットプロジェクト対象地に選定された Avocatier N'guessankoi での聞き取りにおいて、プロジェクトへの不満が CCGPP のメンバーへ、ひいては CCGPP メンバー個人の民族とのつながりをもった文脈へと問題がすり替わってきているという発言に顕著に表れている。また、同地域での聞き取りから、アボボ市の SAGBE カルティエで 2016 年に起こった事件について、魚を買う買わないの小さな諍いが“グロの”女性と“マリンケの”女性の問題へと発展し、“グロの”女性が“複数のマリンケの”女性から暴行を受けて死亡する事件が起こっている。

対象地域の選定、裨益者の選定において、細心の注意を払っていても、民族的・政治的な意味合いが付加される可能性はぬぐいきれないのがこの地域の特徴であるように思われる。

また、政治家だけでなく公務員についても、その多くがジュラであると認識されており、市役所や警察官についても例外ではない。ヨプゴン市の SIDECI-SICOGI Location Ventel において、ある青年（質問の内容を自分の現状に落とし込み、非常に現実的な回答をしていた印象を受けたインフォーマント）が社会統合を促進し得る活動としてサッカー試合の開催を提案した際、密告者が多かったとされる当該地域で彼らもその試合の開催に巻き込むことができるかとの質問に対し、「政治的なものによる試合の開催であれば絶対に無理である。住民自身や市役所ではなく、外国人がオーガナイズしたものであれば可能である」との意見からもわかるように、住民は市役所にも政治色を読み取っている。

農村地帯に比して関係性が希薄と思われる両市の住民にとって、親族や友人でない隣人に付与される一番の特徴が、職業や出身村等ではなく、支持政党や民族となっているのかもしれない。

７－４－３　与党派への厚遇に対する不公平感

新たに住民の不和をもたらしかねない阻害要因として、政府への不満、特に、ジュラに対する厚遇が挙げられた。公的機関の採用試験等に際し、ジュラばかりが名前を連ねていること、アソシエーション等もジュラが多い政府関係者の縁故が厚遇されるため、ジュラへ支援が偏りがちであること等が挙げられた。一方で、本調査で聞き取りを行ったほぼすべてのアソシエーションが政府からの支援を一切受けていないのが現状である。実際にジュラに対する厚遇があるか否かについては確認できていないが、もしかすると不満を言っている住民自身、実際にはそのような例を知らないのかもしれない。市役所職員に至っても、どのように裨益するアソシエーションが選定されているのかについて回答できる人はいなかった。おそらく、選出されたアソシエーションのリストやそれぞれへの支援内容等についてもまとめられた文書は存在しないと思われる。

他方で、ジュラの人が政府の対応に満足しているかというと必ずしもそうではなく、選挙前に約束されたことの不履行等への不満をつのらせており、概して政府に対する不満は民族にかかわらず大きいといえる。

ジュラへの厚遇が実際にあるかどうかは定かではないが、住民がそれを真実として語っていること、それに対して反論、説明すべき根拠をだれももたないことに大きな課題がある。

７－４－４　治安問題

(1) ミクロブの存在

“ミクロブ”というものに対する正式な定義づけは存在しないが、一般に、“人を襲い強奪等を繰り返す青少年で、主に 5 人以上のグループで活動する”などといわれる。その数は増加の一途をたどっているといわれ、以前は夜間や早朝が危険とされていたが、現在では日中もミクロブによる市民の襲撃が発生するようになったといわれている。

ミクロブの存在は、プロジェクト関係者の安全確保の観点と、コミュニティにおける新たな火種となり得る因子であるという点から、プロジェクト実施に際して配慮が必要である。

警察署での聞き取りにおいても、アボボ市は、大アビジャン圏各市のなかでも特にミクロブによる犯罪が多いとされており、その背景には、貧困が強く関係しているといわれている。アボボ市の警察署では、定期的にミクロブに係る報告書がまとめられているようであるが、本調査で入手できたものは、2013～2014 年の以下のミクロブ逮捕数に係るデータのみであった。表７－４をみる限り、地域差は大きいように見受けられる。

実際に現地調査においても、特にアボボ市において、「私たちの息子は全員ミクロブだ」「自分が知らないだけで自分の息子もミクロブかもしれない」といった発言が多く聞かれ、その発言からは、アボボ市の至る所にミクロブがいるとの印象を受けた。他方、アボボ市 Banco 1 & 2 での聞き取り調査を実施した際、ミクロブの人からも聞き取りをしたいのであれば調整できるとの提案を受け調整を依頼したが、調整してもらった別日に会うことができたのはあどけなさの残る 14～15 歳の少年たちで、彼らのことでさえミクロブと称してしまうのであれば、住民がミクロブの存在をきちんと把握できないままに、教育を受けていない、バカ（中型バス）の呼び子等をしている少年たち、無職の少年たちをもれなくミクロブ（またはミクロブ予備軍）として片づけてしまっているのではないかとの印象も受けている。

表７－４　アボボ市内各警察署におけるミクロブ逮捕数

	警察署						
	13 ième	14 ième	15 ième	21 ième	32 ième	34 ième	合　計
2013 年 3 月	0	0	1	1	1	0	3
2013 年 4 月	0	0	8	0	0	0	8
2013 年 5 月	0	0	2	0	0	0	2
2013 年 6 月	0	0	1	5	0	0	6
2013 年 7 月	0	0	1	1	0	0	2
2013 年 8 月	0	3	2	0	2	0	7
2013 年 9 月	0	0	7	0	1	0	8
2013 年 10 月	1	1	5	2	2	0	11
2013 年 11 月	0	1	0	0	1	0	2
2013 年 12 月	0	0	0	0	0	0	0
2014 年 1 月	0	0	0	1	4	0	5
2014 年 2 月	0	0	2	2	2	1	7
2014 年 3 月	0	0	1	3	2	0	6
2014 年 4 月	0	0	0	2	2	0	4
2014 年 5 月	4	0	5	7	6	0	22
2014 年 6 月	0	3	1	1	1	2	8
2014 年 7 月	0	1	0	0	8	0	9
2014 年 8 月	-	-	-	-	-	-	-
2014 年 9 月	3	4	2	0	0	0	9
2014 年 10 月	3	12	0	2	0	0	17
2014 年 11 月	3	1	0	6	0	0	10
2014 年 12 月	2	1	0	1	0	0	4
合　計	16	27	38	34	32	3	150

アボボ市での調査において挙がったミクロブの特徴等は以下のとおりである。

・ミクロブ＝ジュラ

この認識については、ジュラ自身も聞き取りをしたすべての人がそのように語っているが、一部には、ジュラはジュラでもミクロブはマリやギニアなどから来たジュラであり、われわれ（コートジボワールのジュラ）とは一線を画すと述べる人もいる。一般に、ジュラは一夫多妻で子どもが多く、ひとりの子どもに金銭的にも時間的にもケアが行き届かない傾向があり、子どもが外に出て悪い仲間に出会いやすいと認識されている。

・若者に職がない状況がミクロブを生みだしている

ミクロブは貧困家庭を助けるためにこれらの行為を行っており、両親が黙認（支援？）している例も多い。

・ミクロブの問題は、地域に住民間・民族間の争いをもたらし得る

ミクロブによって襲撃された側と襲撃した側（ジュラ）が生まれるが、被害者は報復を

恐れて通報しない、通報しても警察が介入してくれない（警察もジュラだから介入してくれないと認識している人も少なからずいる）、または警察が介入しても地域のリーダーの介入により無罪放免となるなどの状況が往々にして起こっており、ジュラに対する悪感情が積もっていくというもの。

調査を通して、ミクロブを抱える地域の安全性及びミクロブと呼ばれる少年の属性などから、ミクロブを一括りにし、実態を把握することは困難であった。

まず、ミクロブを抱える地域について、その危険性から大きく 2 つに分けられるように思う。

① 地域内にミクロブを抱える地域

ミクロブ同士の抗争なども発生しており、危険度は高い。特にアボボ市の SAGBE カルティエは、自他ともに、警察署も一番危ない地域と声をそろえる。他地域からも危険性は認識されており、夕方以降立ち入らない地域等とされる。

ミクロブによる報復が怖くて、調査者に対して、ミクロブの存在を隠す（ミクロブに関する発言をしようとしない）傾向もある。

② 地域内には多くのミクロブを抱えていないが、外部からのミクロブ襲撃がある地域

①に比べて地域の治安という点で危険度はぐっと下がる。

また、ミクロブと呼称される少年については 3 名しか聞き取りをしていないため、あくまでも印象でしかないが、ミクロブとされる少年・青年たちの生活様式から、こちらも少なくとも 2 つに大別できるかと思う。

① 両親等と一緒に住んでいる

両親とはともに暮らしているものの教育を受ける機会に恵まれず、無職またはバカの呼び子（大人から忌み嫌われる職業であることが多く、少年自身もそれを認識している。一部地域ではバカの呼び子をしていても職に就いていないものとみなされる）をしている少年。

機会があれば他の職に就きたい、悪い仲間のいるアボボ市から出たいとの希望も。

② 両親等とは一緒に住まず、路上等で眠る

教育を受ける機会に恵まれなかった点においては同様であるが、①に比べると、社会との距離がより離れている。他の職に就く機会があっても、日々お金が手に入るバカの呼び子を続けたいとの希望も。

他方、ヨプゴン市においては、ミクロブという語られ方はしなかったものの、お金を強奪する若者がいるといわれ、違法なドラッグ吸引ハウスの存在と絡めて語られることが多かった。違法なドラッグハウスの撤去については、住民は市役所が担うべき役割と考えている。

以上のように、ミクロブといってもその実態はさまざまであり、またミクロブそのものの定義もあいまいなため、それらの実態把握は容易ではない。しかし、地域の住民が、ミクロブの問題を社会問題としてとらえていること、ミクロブの存在を恐れていること、ミクロブの存在が住民間・民族間の問題に発展しかねないとの懸念を示していることから、ミクロブ問題に対する配慮も必要であると考える。

また、住民（男女とも）からは、ミクロブも自分たちの息子たちであり就労機会などを与えることによって社会に統合させたいとの発言が多く、ミクロブのプロジェクトへの巻き込

みを通じた社会への統合について COSAY フェーズ 2 において協議することは一考に値する。

(2) 元兵士の存在

本調査では、元兵士や元民兵などに係る情報はあまり得られなかったが、調査下 1 サイトにおいてのみではあるが、「彼らが武器を持っていないという保証はない」といった意見も聞かれている。また、ヨプゴン市の Zone Industrielle では、現政権の支援のもとバグボ派と闘ったものの、最終的に政府と仲違いし、補償を受けられないなどの扱いを受け、政府に対する不満を溜めている元兵士の存在も明らかになっている。

1 月より続いたブアケ等での兵士による示威行為やそれに続く政府の対応等が彼らに不満をつのらせる可能性は大いにあり、当地で起こっている事象以外にも影響を及ぼす場合もあることにも留意が必要である。

７－４－５　土地問題

対象地域では、土地の分割・承認が進んでいないところが多く、土地問題を抱えている人や地域も少なくない。特に、土地を貸与しただけであると土地所有者（主にエブリエ）が考えているにもかかわらず、借りている側が長年居住しているうちに既に土地を譲り受けたものと認識しているなど、認識の齟齬に係る例は多く聞かれた。

都市部では土地や家屋は重要な収入源となるため、土地問題がコンフリクトを生じさせる可能性は低くない。土地登記の申請を行うためには、面積によって金額は異なるとのことであるが、決して安くない金額を支払わなければならず、貧しい人にとってハードルの高いものであるという事実も、土地登記が進まない一因となっている。

COSAY フェーズ 2 において、施設の新規整備等を実施する際には、土地問題による新たなコンフリクトの創出とならないよう、配慮が必要である。

７－５　社会統合に係る促進要因

本調査において、社会統合に係る促進要因についても聞き取りを行ったが、住民の暮らしのなかにそれらを見つけることができなかった。これは、住民間の緊張関係が強い地域においては、住民自身（ときには市役所や警察でさえ）が何らかの活動を実施しようとした際に、その背後に政治的な色を感じてしまうことから、なかなか自分たちでは行動を起こしにくい環境にあることとも無関係ではないように思われる。そのため、住民は JICA のような外部者からの支援に社会統合促進の糸口を見いだそうとうする傾向にある。地域の社会統合促進を助ける活動として住民から出された意見は表７－５のとおりである。

表７－５　社会統合に寄与し得る活動/プロジェクト

活動項目	理　由
コミュニティ活動（サッカー大会、ダンス大会、清掃活動等）の実施	騒乱前に実施していたコミュニティ活動の復活。 何らかのミーティングには来られない人や特定の民族もサッカー大会等には来やすい。
インフラ整備 （道路改修、教育・保健施設整備）	共通の目的に向かうことでこれまで集まりにくかった人も集まることが可能となる。教育施設が整備されれば、親が集うよ

	うになり、保健施設が整備されれば老若男女が集うようになる。コミュニケーションをとる機会の創出につながる。
ユース（カルチャー）センター、技術訓練校の整備、女性・青年へのビジネス支援等	青年が集まれるユースセンターの整備や、女性や青年へのビジネス機会創出の支援は、青年や女性が同じ目的を共有して集まることができる場の創出につながる。
社会統合・平和構築に係るセンシタイゼーション	まだ住民の理解が足りていない、センシタイゼーションが不十分であると感じている住民が多い模様。

７－５－１　コミュニティ活動の実施

騒乱以前は民族や政治的な背景等関係なく、冠婚葬祭やサッカー大会に参加していたものの、騒乱後はそのような活動がなくなってしまった、または減少してしまったとの意見が多く聞かれた。既述のとおり、対象地域においては、騒乱以前から特に共同で何かをする機会が多かったようには見受けられないが、騒乱以前には気にせずできていたことが、現在は民族的、宗教的に似通った人たちだけで実施するにとどまっていると住民が認識している現状がある。

そのような活動ができなくなった理由については、意図的に避けているというよりは、機会がないためにできていないだけである、といった意見が大半を占めた。

ミーティングに集まることができない、冠婚葬祭さえ一緒には開催できないと訴える人たちにとって、コミュニティ活動の再開が容易であるとは思えないが、インフォーマントの言葉を信じるのであれば、住民が広く集まる活動の提案は、これまで話ができなかった人がコミュニケーションを再開する機会を与え得る。

「７－３－３」でも考察を試みたが、地縁の強化は社会統合の促進や新たなコンフリクト創出の歯止めとなる可能性もあり、COSAY フェーズ 2 においても、フェーズ 1 同様、スポーツを含めたコミュニティ活動の取り組み等をプロジェクトに取り込むことは検討に値する。スポーツ等の文化的な交流が、社会の統合に有用であるとの指摘は、国家開発計画においてもされている。

なお、スポーツのほかにも、ダンス大会や、騒乱以前には住民が集まって実施していたとの意見が多かった清掃活動等もアイデアとして挙げられている。

７－５－２　インフラ整備

「地域の発展というだれにとっても利益となること、同じビジョンをもった活動であれば人が集まりやすく、社会統合に寄与する」ことから、道路や学校・保健施設の整備が社会統合の促進要因となり得るとの意見も多く聞かれた。

道路の改修については、COSAY フェーズ 1 でパイロット的に実施したアボボ市の Avocatier N'guessankoi における事例にみられたような、直接的裨益者（家の前まで舗装道路が整備された地域の住民）とそこからはあぶれた住民との間にジェラシーなどに起因するコンフリクトの創出を助けてしまう可能性もあり、道路改修を COSAY フェーズ 2 で実施する場合には、裨益者とそうでない人の線引きができてしまうような地域を避けることが必須条件となる。

学校施設については、域内に学校ができることで、域内に通学できていない子をもつ親の嫉妬に起因する悪感情を軽減することができる、学校が整備されれば、親が集うようになり、コミュニケーション機会が増えるといった意見が出された。

それに対し、保健施設であれば親に限らず、老若男女が集う場所となり、より効果的なコミュニケーション機会の創出につながるといった意見も多く聞かれた。

また、ユースセンター、カルチャーセンターの整備が社会統合に寄与するとの意見もあった。ユースセンター、カルチャーセンターが整備されれば、青年が集まる場所ができ、民族に関係なく集うようになるとの見解である。ただし、当地ではユースセンターやカルチャーセンターを冠婚葬祭などの場として有料で提供している青年グループやビジネス活動に特化したアソシエーション等が確認されており、センターの整備支援が建物の管理をめぐる民族対立の創出とならないよう、留意が必要である。

７－５－３　ビジネス支援

若者の失業率の高さは両市に共通の課題として挙げられており、地域で解決すべき優先事項と認識されている。また一部では、若者の失業率の高さ、女性のビジネス活動の弱体化については、2011 年の騒乱に際しての家財略奪や金品の喪失と結びつけられて語られることもあった。

このような背景から、現金稼得手段の確保は、住民にとって重要事項に位置づけられている。

現金稼得手段の確保と社会統合を結びつけた際に、ビジネスを開始するための資金援助やグループ構築支援、技術訓練校の整備、市場の整備等が若者や女性の収入を向上させ、さらにそれらの活動を通じたコミュニケーション機会の増加が見込まれるとの意見が多数挙がった。他方で、既出の青年（ヨプゴン市 SIDECI-SICOGI Location-Ventel）は、「ビジネス支援が受けられるからといって、それが社会統合につながるからといって、敵対している人たちが簡単に集まれるものでもない」と話し、そのためには、「JICA のような外部者によって実施してもらうことで政治色を排除でき、ビジネスに係る研修等で時間をかけて一緒に学んでいくような環境下であれば憎み合っている住民とも活動をともにしていくことが可能かもしれない」と語っている。

社会規範や民族の慣わし等に対する認識が高齢者に比して希薄化している、人の意見に耳を貸さないとされる若者の方が、高齢者よりも社会統合に問題を抱えていると指摘する人も少なくなく、ビジネス支援を通した若者の社会統合促進が実現されれば、社会統合に係るインパクトは大きいものとなる可能性がある。他方で、ビジネス支援はインフラ整備に比して裨益者が特定されやすい、限定されてしまうという点で、地域社会に新たなコンフリクトを生みだす可能性も低くないと思われる。

７－５－４　センシタイゼーションの実施

民族長や宗教リーダー、市役所や国際機関、警察による社会統合に係るセンシタイゼーションが実施された結果、政治的なことで人がいがみ合うことの無意味さを学んだ、このような取り組みを経て住民間の関係が改善したなどといった声も少なくなかった。住民の関係性がまだ深刻であった時期に、このようなセンシタイゼーションを行うことができた地域もあり、その背景には、強いリーダーシップがあったことも一因と思われる。現在も住民の関係性に改善の兆しがみえない地域では、騒乱後一切のセンシタイゼーションに係る機会がもたれなかったというところもあり、センシタイゼーションの機会創出が、社会統合を促進する要因となる可能性はある。

ただし、ヨプゴン市の Mamie Faitai スラムでは、UN 等による短時間のセンシタイゼーションに係るワークショップの機会を得たものの、住民の関係性は変わらず、無意味であったという意見も出されており、効果的な実施の方法については検討が必要である。

第８章　その他の調査結果

８－１　既存の住民組織に係る概要

市役所に登録されている住民組織については、各市よりデータを入手できた。アボボ市より提供されたリストでは、NGO、Association、Mutuelle（直訳：相互保険）、Syndicats（労働組合）等が存在するとされ、284 がリストに挙げられている。しかし、組織の種類別のリストは入手できず、各組織分類に対する数は把握できなかった。他方、ヨプゴン市より提供されたリストでは、Association、Federation、Fondation（Foundation）、Groupement、NGO、Syndicats に大別されている。ヨプゴン市ではこれらをすべて合わせると、1,000 を優に超える。

ただし、両市とも実際に活発に活動しているグループは限定的であるとのことであった。

表８－１　アボボ市から提供された組織リストの内訳

住民組織の種類	既存数	活動目的等
NGO	284 うち 50 程度がアクティブ	ナショナル NGO、ローカル NGO が存在する。 ミクロブの支援や居住地域の開発等、それぞれ独自の活動目的を有する。聞き取りを行った NGO は、すべてメンバーが民族混合で構成されていた。
Association		青年グループ、女性グループ、その他ビジネスに特化したグループ等があった。青年グループ、女性グループとも、民族ごとのもの、民族を超えたものの両方が存在していることが多かった。しかし、実際の活動内容については、女性グループは頼母子講としての機能を果たすにとどまっているものも多く、青年グループも資金がない等の理由で実際には活動をしていないものもみられた。
Mutuelle		村やカルティエの管理、外部からの支援が来た際の管理委員会のような役割を果たしているものが聞き取りで得られた。Association と Mutuelle の違いについてはだれからも回答が得られず、同じであるとのことであった。
Syndicats		本調査で聞き取りなしのため不明

表８－２　ヨプゴン市から提供された組織リストの内訳

住民組織の種類	既存数	活動目的等
Cooperative	1	本調査で聞き取りなしのため不明
Association	928	青年グループ、女性グループ、その他ビジネスに特化したグループや社会統合に係る活動を行う組織等、活動目的は多様である。女性グループへの聞き取りでは、活動実績としては頼母子講としての機能のみを果たしているものも少なくなかった。また、女性グループ、青年グループともに活動資金がないこと、祝い事等のために相互に助け合う必要がないときなどは特に活動していないというものも多かった。民族混合、民族別等さまざまな形態があると思われる。
Federation	29	本調査で聞き取りなしのため不明
Fondation	11	本調査で聞き取りなしのため不明
Groupment	13	本調査で聞き取りなしのため不明

NGO	291	ナショナル NGO、ローカル NGO が存在する。 社会統合に係る活動や無職の青年の支援等、それぞれ独自の活動目的を有する。聞き取りを行った NGO は、すべてメンバーが民族混合で構成されていた。
Syndicat	22	本調査で聞き取りなしのため不明

８－２　各住民組織の概要

本調査において聞き取りを行った住民組織の概要は付属資料３.を参照されたい。聞き取りを行った Association、特に女性グループ、青年グループのなかには、実際にはほとんど活動を行っていないものも多かった。専門家自身が聞き取りを行った住民組織について、その概要は表８－３のとおりである（組織タイプの別なく同等に扱っている）。

表８－３　調査を実施した住民組織の属性

調査対象市	設立年			登録の有無			メンバーの民族構成		
	騒乱前	騒乱後	不明	有	無	不明	混合	単一	不明
アボボ市	7	8	1	9	4	3	14	2 エブリエベテ	0
ヨプゴン市	0	4	2	4	1	1	4	1 エブリエ	1

調査数が少ないため、一般化は難しいが、アボボ市では設立年が騒乱前のものと騒乱後のものはほぼ同数であり、一部の住民組織は騒乱後に民族を超えたコミュニケーションの必要性から新たに設立したというものもあった。ヨプゴン市では、そもそも調査対象数が少ないが、騒乱後の設立が 4 つに対し、騒乱前の設立は 0 であった。市役所や内務省への組織の登録の有無については、両市で登録しているものの方が多かった。

また、住民組織のメンバーは、両市とも民族混合で構成されていることが多く、民族混合ではないものについては、単一民族から成るエブリエの村のものが 2 つ、アボボ市のベテの女性組織が 1 つである。ベテの女性組織については、他の民族にも勧誘をしているが、バグボ支持派とみなされているために実現しないとのことであった（メンバーでない人からは、グループの名前がベテの言語であるところから変えなければ、他の民族の呼び込みは難しいとの意見が挙がっていた）。

８－３　伝統的統治体制

地域に存在するリーダーについては、地域差があるものの、一般化すると次のようになる。伝統的統治体制において、そのメンバーは高齢男性が務めることが一般的である。

８－３－１　村における伝統的統治体制

エブリエやアティエの村においては、Chieftaincy と呼ばれる首長制が今も残っている。Chieftaincy のメンバーは、一般には同一民族、男性のみで構成されており、Chieftaincy の長がいる。また、それよりも上位の長として、Chief of the village（以下、村長とする）が存在する。村長は、村に関連するすべての事項に最終的な決定権を有している。また、Chieftaincy の長は、村

内の問題等について把握、対応する責を負っている。ある村での聞き取りでは、外部者が村に来た際に村の情報等を与える際のキーパーソンであるべき人物がChieftaincyの長だとのことであった。Chieftaincy の構成員数は、村によって大きく異なった。なお、村には、一般の法律とは別に村独自の慣習法（ルール）が定められており、違反者に対しては罰金が科される例もみられるようである。村の下にサブカルティエ等が存在する地域では、この村の慣習法がサブカルティエにも適用される場合もあるとのことである。

８－３－２　カルティエにおける統治体制

一般的にカルティエやサブカルティエには Chieftaincy は存在しないが、各民族の長が選出されている。その数は 10 名以下のこともあれば、多いところでは域内に 77 名という例もあった。各民族の長は定期的または何か解決すべきことが起こった際に不定期に寄り合う機会がある。ヨプゴン市においては、多くの地域で、各民族の長をまとめる特定の長が 1 名選出されており、セントラルチーフとよばれていた。これらは村における Chieftaincy のような役割を担っていると思われる。民族内で起こった問題については、それぞれの民族の長に報告が行われ、解決が諮られる。該当する民族の長だけでは解決できない場合や、異なる民族の問題等については、民族の長たちが集まって問題解決に努めているとのことであった。

なお、カルティエにはカルティエの長やサブカルティエの長がいる場合もある。民族の長が兼任している場合もあれば、民族の長とは全く異なるところから選出されている例もある。民族の長とカルティエやサブカルティエといった行政区分（居住区）のリーダーとの役割の違いは、あまりはっきりと認識されていないような印象を受けたが、前者が民族の問題、住民間の日常的なの問題を主に扱っているのに対して、後者は担当地域にかかわることすべてを扱っているという説明がなされている。実際には、カルティエやサブカルティエの長は存在していても形骸化していたり、民族の長が別にいる場合には、そのパワーに押されてあまり力を発揮できていないような印象を受けている。

８－４　住民からの管理委員会のメンバーに係る提案

COSAY フェーズ 1 の骨子でもあった CCGPP について、そのメンバーに関しての妥当性を住民からの意見聴取を通して検討した。本調査を通じて得られた住民からの提案、要望をまとめると以下のとおりである。

- 各民族のリーダーまたは代表者（域内に多数の民族が存在する場合は選挙による選出）
- 青年・女性グループのリーダーまたは代表者
- 宗教リーダー
- 対象となる地域だけでなく、カルティエ内全サブカルティエからメンバーを集める

プロジェクトの実施やメンバーの選定において、政治的な色を帯びてしまうと域内の表面上の平穏が崩れる、参加したくない人が出てくるといった理由から、政治的なグループ等の巻き込みはどの調査地においても賛成されなかった。また、民族＝政治であるため、民族のリーダーを均等に巻き込むことができれば政治的なキーパーソンなどを入れる必要はないとの意見も多かった。同時に、調査においては、青年・女性グループとも政治的な目的をもって活動しているものはほとんど確認できなかったこと等から、住民の提案どおり、各民族のリーダーまたは代表者、

若者や女性の意見を取り入れるための青年・女性グループのリーダーまたは代表者というのが良いのではないかと思う。既存のアソシエーション等の活用については、対象地域に複数存在する場合、選定されるものと選定されないものが出てきた際に、紛争の火種となる可能性は否定できないこと、また、アソシエーションには独自の活動目的があり、必ずしも本プロジェクトと合致するものではないことから、CCGPP のメンバーに入れることには疑問が残る。ただし、域内で社会統合に貢献していると住民全体から認識されているアソシエーションや NGO があり、そのメンバーを入れることが社会統合の阻害要因にはならずかつ促進要因になると判断される場合は、他のアソシエーションのメンバー等からのジェラシーなどに留意しつつ、CCGPP への巻き込みを検討する価値はあると思われる。

青年・女性グループにおいても、民族ごとのものである地域、域内に多数存在する地域等があり、それらすべてを入れられない場合、選定されたグループと除外されたグループができてしまい、それがまた住民間に不満をつのらせる原因にもなり得る。同じグループ内にいながら、参加できていない、活動をボイコットしている特定の民族を有するグループもある。その場合の代表者選び等にも細心の注意が必要となることはいうまでもない。

このように公平性を担保しようとすれば、そのメンバーがかなり大人数になってしまうことにもつながり、プロジェクト実施・監理主体の市役所や JICA 専門家による管理が難しくなること、意見がまとまらない場面が増えることが予想される。住民においても、それらについては理解されており、多くなる場合は、全民族のなかから数民族を選出するという意見等も出てきている。プロジェクトとして取り得る選択肢は、①人数が多くなっても公平性を重視し、できる限り域内に存在する住民の代表者をメンバーに入れる、②社会統合の促進、プロジェクト実施による負の影響の最小化にかんがみたメンバーをプロジェクトも介入しつつ選定する、の 2 つが提案される。

②については、少なくともコミュニティ活動等にいまだにスムーズに入れない、会議へのボイコットを続けているなど、特に社会統合の課題となっている特定民族を最低限含めるなどの対応が必要と思われ、そのための対象社会の理解は必須である。

管理委員会のメンバーについては、他に考慮すべき事項として以下が挙げられる。

・住民にとっての“地域”とは何か

住民と行政の地域理解が異なることは既述のとおりである。行政が認識するカルティエが必ずしもカルティエとは認識されていないこと、サブカルティエがカルティエと認識されていることが多く、それらの名前をもって住民が認識する“地域”の範囲を理解をすることは今回の限られた調査のなかでは困難であった。しかし、管理委員会のメンバーについて協議を行うに際して、彼らのいう「プロジェクトが実施される地域だけでなく、地域内の全住民を巻き込むことが重要」という発言にある“地域内”は、（彼らが認識する）カルティエ全体であることが多かったが、学校の整備においては学区であることも多い。

また、民族の長が存在する単位と、サブカルティエ等は必ずしも一致していないため、サブカルティエを単位としてそのメンバーを考慮した場合、住民が認識する“地域内”の特定の民族が排除されたと感じることにもつながる可能性がある。そのため、管理委員会のメンバーを考えるに際し、まずは住民が認識している“地域”とはどの範囲を指すのかを明確にすることが求められる。

・村とエクステンション地域（カルティエやサブカルティエ）の関係

村の下にあると認識されるエクステンション地域（カルティエやサブカルティエとも認識される地域）においては、村の力が絶大な印象を受ける地域も多い。一部地域では、村においてプロジェクトが実施された際に、エクステンション地域の人をメンバーに入れる必要はないと断言していたところもある。村は基本的には単一民族で構成されていることから、社会統合の促進を第一義的に考えた場合は、村の住民のみから管理委員会のメンバーを選出することにあまり意義は見出せない。

他方、エクステンション地域でプロジェクトが実施される場合には、親村とされている村からもメンバーを選出することで、土地問題の創出を避けることができたり、土地の提供などに係る交渉がスムーズに進む可能性もあり、考慮されるべきであると考える。

・ジェネレーション間の信頼関係の欠如

ある村において、高齢者と若者の間にコンフリクトがみられるという発言があった。高齢者は若者の能力を信頼しておらず、長老たちが何でも決めてしまうことや若者の提案を退けてしまうことに対して若者が不満をもっているという、信頼関係の欠如がみられた。既存の管理委員会において、青年もメンバーに入れられているものの、重要なポジションはすべて長老たちに占められていて名ばかりのメンバーであるとの意見もあった。このような発言にも配慮が必要であり、管理委員会メンバーの選出だけでなく、委員会内での役割の割り振りに際しても若者の巻き込みが十分に図られることが好ましい。

聞き取り調査においては、多くの地域で、「高齢者よりも若者の間の分断の方が深刻である」という意見があった。分断された若者の取り込みがうまくいけば、社会全体に与える正の影響は高齢者のそれに比して大きいものになる可能性もある。

また、一部女性からもすべては男性によって決められており、せめて意見だけでも求めてもらえれば良い提案ができるかもしれないのに、といった意見も少数ではあったが挙がっていたので、記載しておく。

・既存の管理委員会の活用の是非

外部からのプロジェクト等に対して管理機能をもつ委員会が既に設立されている地域も数カ所確認されている。しかし、村の場合は、エブリエだけがメンバーであったり、真偽のほどは定かではないがメンバー間にお金の管理等に係る問題があったりするものが多く、それらをそのまま COSAY フェーズ 2 に適用するのは少々危険を伴うような印象を受けている。

あくまでも、本プロジェクトでは管理だけではなく、“社会統合の促進”の意味合いをもたせた管理委員会の設立が求められているとの大義名分のもと、社会統合促進の効果を最大化し、かつ、プロジェクト実施による負の影響を最小化するための管理委員会を新規に設立するのが好ましいと思われる。

また、内務省との協議においては、COSAY フェーズ 1 では、インフラ整備の終了とともに CCGPP の役割も終了しているが、CCGPP に維持管理の機能ももたせ、継続させた方が良いのではないかとの意見も出された。道路改修や保健施設については、既存の維持管理組織が存在しないことが多いが、すべての小学校施設には COGES が存在しており、CCGPP のメンバーの一部が COGES のメンバーとも重複しているものの、各組織の役割を明確化する必要がある。

COSAY フェーズ 1 で体系化された CCGPP のメンバー構成の妥当性を検討するに足る情報を収集することはできなかったが、以下の点については引き続き検討が必要と思われる。

・全地域共通のメンバー構成の提案は可能なのか

地域によって域内に存在するリーダーが異なることから、対象両市に共通のメンバー構成の提案が可能かどうかについて検討する必要がある。少なくとも、調査対象地域において民族の長が存在するという点では共通しているものの、カルティエやサブカルティエといった居住区に対する長が存在する地域、存在しない地域等のバリエーションがある。また、宗教リーダーは住民への情報共有という意味でキーパーソンとなるため、メンバーに入れるべきであるという意見が多い一方で、彼らから政治色を排除できないことから、メンバーではなく、あくまでもスーパーバイザーとして参加するべきであるという意見の地域もある。住民同士に不信が広く存在する対象両市において、効率性の重視、C/P が踏襲しやすいハンドブックの提供の重要性と同程度に、地域の多様性への考慮も必要となってくるかもしれない。

・社会統合という文脈で、最大限コミュニティにインパクトを与えるメンバー構成とは

住民から提案されている各民族の長、青年・女性グループのリーダーまたは代表者等について、このメンバー構成が最適かどうかについては再考の余地があるように思われる。例えば女性グループ内にコンフリクトを抱えるような場合（会議へのボイコットをする特定民族がいるなど）、リーダーや代表者の巻き込みを図っても、女性全体への社会統合の浸透には至らないように思われる。また、代表として選出された人に対する妬みが悪感情を増幅させ、新たな火種となる可能性も否定はできない。

さらには、現時点である程度一緒に活動することができている人物からのみメンバーを選出することが、域内の社会統合促進にどこまで寄与できるのかについても改めて分析が必要かもしれない。

民族の長を務める人たちが、「民族や支持政党にかかわらず、集まることができている状況を同じ民族の人たちに見せることで、彼らに安全性を示している」と発言していたが、その状況が既に当たり前になっている地域では、「彼らは民族や支持政党にかかわらずそのような関係性が築ける人たち」と位置づけられ、その思いが他の人にまで浸透しない可能性は大いにある。「この二人が話せるようになったのは大きな変化である」と住民が認識するような人物の選出が、より大きなインパクトを地域住民にもたらす可能性もある。もちろん、緊張関係の強い人物を選出することにより、取り返しのつかないコンフリクトの創出につながる可能性もあるのだが。

新たなコンフリクトの創出を回避し、社会統合に係るインパクトを最大化するようなメンバー構成の検討には、より深い地域理解が必要と思われる。

８－５　両市の選挙結果に係る情報

2010 年、2015 年の大統領選挙、2016 年の国民議会議員選挙について情報収集を試みたが、調査期間中に入手できたのは、表８－４の結果のみであった。ヨプゴン市においては、市役所職員からの入手が可能であったが、アボボ市においては当該データを提供できる人が限られており、

該当する人物がアビジャンにいないなどの理由から最終的に 2015 年のものしか手に入れることができなかった。

表８－４　選挙結果に係るデータの収集有無

	アボボ市		ヨプゴン市	
	市全体	各選挙区（大分類）	市レベル	各選挙区（大分類）
2010 年大統領選挙	○（Web*）	-	○（Web*）	○
2015 年大統領選挙	○（Web**）	○	○（Web**）	○
2016 年国民議会議員選挙	-	-	○	○

出所：* https://www.cei-ci.org/redirect/web/file/uploads/e6c737_resultats-du-second-tour.pdf
** http://abidjan.net/ELECTIONS/presidentielle/2015/resultats.html

収集したデータを基に、両市の選挙結果を表８－５にまとめた。なお、2010 年については、1 回目の選挙に引き続き、2 回目の決選投票が実施されており、表８－５では 2 回目の選挙結果を反映している。

表８－５　収集した選挙結果に係るデータ

（単位：％）

	投票率		FPI（LMP）		RDR（RHDP）	
	アボボ市	ヨプゴン市	アボボ市	ヨプゴン市	アボボ市	ヨプゴン市
2010 年*	81.12	86.05	35.54	51.38	44.95	25.88
**	82.27	82.96	41.23	58.48	58.77	41.52
2015 年***	48.58	36.94	6.15	7.73	85.48	79.74
2016 年	-	10.87	-	10.46	-	76.05

出所：* https://www.cei-ci.org/redirect/web/file/uploads/e6c737_resultats-du-second-tour.pdf
** http://abidjan.net/elections/presidentielle/2010/resultats/2emetour/
*** http://abidjan.net/ELECTIONS/presidentielle/2015/resultats.html

表８－５から、2010 年から 2015 年にかけて、両市において投票率が激減していることがみて取れる。また、2010 年及び 2015 年の両大統領選挙において、現政権の RDR（RHDP）への支持率は、アボボ市に比べるとヨプゴン市の方が低くなっている。ヨプゴン市では、2015 年の大統領選挙の投票率が約 37%、2016 年の国民議会議員選挙に至っては約 11%とかなり低い数字となっており、政治への不信の大きさを示している。実際に、アボボ市、ヨプゴン市ともに、現政権や市長への不満は野党派筆頭のベテの人たちからだけでなくジュラの人たちからも聞こえてきており、全体的な政治への不信と無関心が広がっているといえる。また、一部の人は現在に至っても投票所へ行くことを恐れているとのことであり、2015 年の大統領選挙前に投票を促すキャンペーンや戸々を回ってのセンシタイゼーション等が行われたようであるが、表８－５をみるとその効果も限定的なものにとどまった可能性が高い。

既述のとおり、2010 年の大統領選挙においては、2 回の投票が実施されている。14 名の候補者が乱立した当該選挙において、第 1 回の投票結果は、国全体で PDCI のベディエ氏が 25.25%、FPI

のバグボ氏が 38.05%、RDR のワタラ氏が 32.08%（3 名で全体の約 95%を占める）の票獲得となり、第 2 回選挙にてバグボ氏とワタラ氏の決選投票が行われた。決選投票における投票率及び投票結果については、既に示したとおりであるが、1 回目の選挙における投票率、3 政党の得票率についても表８－６にまとめておく。

表８－６　2010 年第 1 回大統領選挙の結果

（単位：%）

	投票率	PDCI	FPI	RDR
アボボ市	85.89	17.02	34.70	43.89
ヨプゴン市	86.05	19.63	51.39	25.88

出所：http://abidjan.net/elections/presidentielle/2010/resultats1.asp の数値より算出

表８－６からも、アボボ市では RDR、ヨプゴン市では FPI が優勢であることがみて取れる。PDCI の得票率については、両市に大きな差はみられない。

なお、2015 年の大統領選挙については、各投票所のデータを選挙管理委員会事務所より入手しており、当該データより各投票所の投票率、各候補者への投票数等を算出することが可能である。ただし、各投票所がどこに位置するか、どのカルティエ下に位置するかについてのすり合わせは完了しなかった。COSAY フェーズ 2 実施に際して、対象地域の特徴として押さえる必要がある場合には、市役所職員または各カルティエでの聞き取りを通じて明らかにされたい。

８－６　開発計画及び公共事業に係る情報収集

８－６－１　両市の 3 カ年計画策定プロセス

対象両市における開発計画については、COSAY フェーズ 1 の完了報告書においてまとめられているものを参考に聞き取り調査を行った。完了報告書にも記載のとおり、3 カ年計画の策定、実施について、実際には地方分権ガイドラインに記載のスケジュールからの遅延がみられるうえ、実際にどのように 3 カ年計画が策定されているのかを知る人物が限定的であったことから〔アボボ市では技術局副局長のみ、ヨプゴン市では技術局局長のみとのこと（調査時)〕、実際の策定プロセスについては、理解しきれなかったこともあるが、各市の 3 カ年計画策定プロセスは以下のとおりである。

(1) アボボ市における 3 カ年計画策定プロセス

アボボ市では、プロジェクトリストの提案から市長がかかわっている。まず市長が冠婚葬祭セレモニーの際に面会した市民からの要望等を基に、プロジェクトリスト案を作成し、当リストが Municipalité に送付される。これと並行して、国の調査機関である BNETD がインフラの整備状況などを調査し、当報告書が市役所に提出される（別の説明では、BNETD の調査報告書を基に市長が Municipalité にプロジェクトリストを提案するとも)。提出された報告書に記載の調査結果を踏まえ、Municipalité が現地の状況等にかんがみてリストに挙がっているプロジェクトの取捨選択を行う。この作業を踏まえて、前年度に作成されている 3 カ年計画をフォローしつつ、Municipalité が 3 カ年計画案を作成する（別の説明では、アボボ市役所技術局が毎年 7 月を目途に 3 カ年計画案を策定しているとも)。作成された案について、地方

議会内に設立されている 4 つの常任委員会が確認し、修正が加えられる。その後、Municipalité の Council メンバーが多数決によって、各プロジェクト案に対する優先順位づけを行い、3 カ年計画に反映させる。これが認められれば市長から内務省 DGDDL（Directeur Général de la Décentralisation et du Développement Local）へ関係書類が送られ、承認を待つこととなる。

なお、3 カ年計画で実施するプロジェクトの財源はすべて地方税収のみで賄われているとのことである。また、3 カ年計画の策定にあたっては、前年度に作成されている計画をフォローするとのことであるが、必ずしも前年のプライオリティが踏襲されるわけではなく、市長が追加したいプロジェクトが適宜追加され、新たに優先順位づけが行われるとのことである。

(2) ヨプゴン市における 3 カ年計画策定プロセス

ヨプゴン市では、3 カ年計画の案を策定するのは市役所の技術局である。技術局の職員は、まずカルティエレベルで出される住民のリクエストをリスト化し、市長に提出する。カルティエレベルで出される住民のリクエストとのことであるが、案の作成に先立つニーズ調査等は行われておらず、口頭での要請などを参考にしているとのことである。

技術局が策定したリスト案を市長が確認し、その後市役所の技術局がリストに挙げられたリクエストに対し、場所の確認や費用の算出などを行う。これら評価内容を基に、技術局が予算に照らして実施可能なプロジェクトを絞り込む。絞り込みが行われたプロジェクトリストは、市長及び副市長へ提出され、Municipalité がコメントをつけて修正を加えたものに、市長がさらに加えたいプロジェクトがあれば、この段階で再度加えられることになる。その後、Municipalité がプロジェクトリストに対して優先順位づけを行う。このように取捨選択、優先順位づけが行われたプロジェクトリストに対し、コミュニティの現状をよく知る Socio-Economical Department 及び Economic and Financial Department で構成される委員会が、社会・経済的実状に照らしてチェックを行い、必要に応じて修正が加えられる。当委員会によって修正された案は、Municipalité によって内容が精査される。その際は、全議員が招集され、協議を経て適宜修正が行われることとなっている。Municipalité によって 3 カ年計画が承認されれば、市長から内務省へ必要書類が提出され、内務省内の委員会によって国家開発計画との整合性が確認されたのち、大臣署名によって承認される。

内務省では、国家開発計画との整合性が確認されるものの、その際市の 1 つ上のレベルであるアビジャン特別行政区等の計画との整合性確認は特に行われないとのことであった。また、アボボ市同様、ヨプゴン市においても 3 カ年計画に係る財源はすべて、地方税収によって賄われているとのことであった。また、こちらもアボボ市同様、前年の 3 カ年計画における優先順位をそのまま踏襲するのではなく、緊急プログラムや市長が追加したい活動等が追加され、毎年新たに優先順位づけを行っているのが現状のようである。

ヨプゴン市では、アボボ市とは異なり、3 カ年計画策定にあたって調査機関である BNETD との直接的な関係はなく、3 カ年計画等に際して当局への調査依頼などは一切行っていないとのことであった。

８－６－２　両市の 3 カ年計画に係る課題

調査を通じて両市の 3 カ年計画に係る課題として、主に以下が挙げられる。

・計画の策定に先立つニーズアセスメント等は一切実施されていない

アボボでは実施されているというが、市長がセレモニー等の際に住民に面会する機会に聞いた要望等を基に決めているとのことであった。住民との面会の際に要望されたものがどの程度プロジェクトリスト案に反映されているのかは不明であるが、そもそも限定的な住民からの意見を基にリスト案が作成されていることは間違いないようである。

・計画の内容は、市長の一存で決められているものが多い

市役所職員、作成や承認にさまざまなレベルの人がかかわっているものの、プロジェクトのリスト化、プロジェクトの優先順位づけにおいて、実際には市長の一存で決められているものが多く、住民の意見や市役所職員の意見は反映されていない、反映できない環境にある。一部 C/P には活動の提案等をしたいが、市役所内の同僚からの反対に遭うために提案さえしづらい環境にあるということも問題点として挙げられている。

・計画の内容について、知らされていない、理解していない市役所職員も多い

3 カ年計画の内容について、上記に示した限定された人物以外に問い合わせても、プロジェクトの内容さえ理解されていないことが多かった。また、上記人物とは全く異なる説明等も付与され、いかに限られた人物だけで計画が策定されているかがわかる。

・プロジェクトの内容、優先順位づけ等に対する説明責任が果たされていない

住民に対し、3 カ年計画策定に際しての説明会、意見聴取の機会がもたれているということであったが、住民のほとんどがその存在を知らないこと、参加者はおそらく市役所から連絡を直接受け取った人に限定されていること、参加者が多く参加しても発言できないなどの不満が聞かれていること等が課題として挙げられる。

このような現状、課題を抱えていることにも起因すると思われるが、住民からは行政、特に市長に対する不満が広く聞かれる。しかし、C/P もその実態をきちんと把握できていないことから、その不満が妥当なものであったのかどうかの判断さえできないのが現状である。ジュラへの偏重が事実であれどうであれ、ここで重要なことは、ジュラ以外の人がジュラに対する支援への偏重に対して不満をもっていること、実際にはジュラからも行政支援を受けられないことに対する不満が挙がっていること、これらに対する不満がジュラ以外の人とジュラの人との間に新たな不満を蓄積していることである。

このような背景から、3 カ年計画策定のプロセスに係る透明性、説明責任が市役所によって確保されることには、社会統合の促進においても大きな意義があるといえる。ただし、市長の一存で決まっている現行のプロセスに対して、COSAY フェーズ 2 においてどこまで改善案を示すことができるかについては、内政干渉ともとられない事項であり、注意が必要である。

８－７　両市の 3 カ年計画の内容

両市の 3 カ年計画では、市長主催の会議において決定された事項が、Action 及び Operation としてリスト化されており、各 Action/ Operation に対する予算が明記されている。Action と Operation の違いについて、調査期間中に C/P から統一見解が得られなかったものの、3 カ年計画に一番精通していると思われるヨプゴン市の技術局局長の回答では、Action は既存の Association への支援であり、実施主体が Association となるのに対し、Operation は市役所が主導して実施する一般的なプロジェクトという位置づけであるとのことであった。

８－７－１　アボボ市３カ年計画

アボボ市の３カ年計画（2017～2019 年）に示されているプロジェクト内容を表８－７、表８－８のとおり示す。

表８－７　アボボ市３カ年計画に示されている Action　（単位:1,000FCFA）

優先順位	Action	2017 年予算	2018 年予算	2019 年予算	3 カ年予算
1	Contribution to the JICA project to strengthen the commune for the Social Cohesion of Greater Abidjan (COSAY)	11,000	11,000	11,000	33,000
2	Grant to the organization of the Christmas tree	20,000	20,000	20,000	60,000
3	Grant to the organization of school festivals	20,000	20,000	20,000	60,000
4	Subsidy to the Abobo sports clubs engaging in the competitions of the national federations of:				
	- Karate (Abobo Taekwondo Club)	3,000	3,000	3,000	9,000
	- Athletics (Abobo Athletics Training Center)	3,000	3,000	3,000	9,000
	- Football (Stars Olympic Football Club of Abobo)	3,000	3,000	3,000	9,000
	- Handball (PK 18 Handball Club of Abobo)	3,000	3,000	3,000	9,000
5	Subsidy to the Abobo municipal safety committee (SAC-ABOBO)	3,000	3,000	3,000	9,000
6	Grant for the organization of the Mother's Day of Abobo	20,000	20,000	20,000	60,000
7	Subsidy to the Platform of Services (PFS)	40,000	40,000	40,000	120,000
8	Grant to school support for 513 pupils and students	30,000	30,000	30,000	90,000
9	Grant to religious confessions:				
	- Muslim	40,000	40,000	40,000	120,000
	- Cristian	22,500	22,500	22,500	67,500
10	Grant to the Mutual Agents of the Municipality of Abobo (MUTAMAB)	56,000	56,000	56,000	168,000
11	Support to the organization for the exhibition of Dressers and Beauticians Union of Abobo (UCEA)	3,000	3,000	3,000	9,000
12	Grant to the organization of the Abobo Cultural and Arts Festival (FESTICA)	25,000	25,000	25,000	75,000
13	Subvention to Neighborhood Development Committees　(CDQ)	30,000	30,000	30,000	90,000
14	Grant to orphans	2,500	2,500	2,500	7,500
15	Grant assistance to the disabled persons	1,000	1,000	1,000	3,000
16	Grant to the care for family, social and elderly	3,000	3,000	3,000	9 ,000
17	Grant to poor peoples	2,000	2,000	2,000	6,000
18	Purchase of food for fasting months to religious communities	40,000	40,000	40,000	120,000

19	Subsidy for the Municipal Radio “FM ABOBO”	6,000	6,000	6,000	18,000
20	Grant to the Abobo Youth Operational Platform (POJE-CI)	3,000	3,000	3,000	9,000
21	Grant to the municipality organization of the football tournament	15,000	15,000	15,000	45,000
	Total	**405,000**	**405,000**	**405,000**	**1,215,000**

表８－８　アボボ市３カ年計画に示されている Operation　（単位：1,000FCFA）

優先順位	Action	2017 年予算	2018 年予算	2019 年予算	3 カ年予算
1	Development of the courtyard and sidewalks around the Town Hall	20,000			20,000
2	Renewal of the park and computer network for civil status	46,000			46,000
3	Construction of a six (06) class buildings and fence at Akeikoi municipality EPP	50,000			50,000
4	Acquisition of grader for the technical services	120,000			120,000
5	Rehabilitation works of primary schools in the municipality	64,000	36,000		100,000
6	Rehabilitation of the headquarters of Abobo Town Hall	150,000	150,000	70,200	370,200
7	Acquisition of the plots for the construction of the house for contemporary art and cultural activity and for the construction of the Abobo Anonkoua bus station	50,000	221,000	179,000	450,000
8	Acquisition of two (02) 18 m^3 dump trucks for the technical services of the Town Hall		85,000	85,000	170,000
9	Acquisition of two (02) compactors for the technical services of the Town Hall		8,000	8,000	16,000
10	Acquisition of one(01) loader for the technical services of the Town Hall			100,000	100,000
11	Construction of nursery school of banco BAD			57,800	57,800
12	Rehabilitation of Agbekoi kindergarten	31,000			31,000
13	Road and drainage works of 4 floors the crossroad to the night market crosseroad (600 mL)	150,000			150,000
14	Road and drainage works of the junior high school “graces” at Jock Sogéfihacrossroad (1,000 mL)	483,000			483,000
15	Acquisition of equipment and small materials for the pre-collection	20,000			20,000
16	Rehabilitation of the Abobo Central Market		264,000		264,000
17	Road and drainage works of Saint Faith School Group at Akeikoi crossroad		810,000		810,000
18	Rehabilitation of the kindergarten of the School Group Habitat		33,000		33,000

19	Rehabilitation of Kindergarten of the Houantoué School Group I		32,000		32,000
20	Drinking water supply in municipality of Abobo		60,000		60,000
21	Road and drainage works of the main road of the belle-ville quartier		39,000	17,000	
22	Rehabilitation and development of Sogefiha Market			815,000	815,000
23	Rehabilitation of the Abobote Market			420,000	420,000
	Total	**1,184,000**	**1,738,000**	**1,752,000**	**4,618,000**

８－７－２　ヨプゴン市 3 カ年計画

ヨプゴン市の 3 カ年計画を技術局長より入手した。3 カ年計画は、2016 年 9 月 19 日に市長主催にて開催された会議で、33 の Action と 20 の Operation が決定されたことが明示されており、4 ページに Action が、6 ページに Operation がそれぞれ優先順位に沿って記載されている。また、13～16 ページに各活動に係る毎年の予算配分が、17 ページ以降に Operation ごとの詳細が記されている。Operation の詳細においては、予算の出処も記されており、市役所予算のほか、Recette d'emplants（借り入れ）、Subvention d'etat（国からの補助金）、その他の資金源の欄が設けられているものの、実際には 20 すべての Operation が市役所予算で賄われていることがみて取れる。実際に、技術局長への聞き取りでは、市役所主体で実施されるプロジェクトはすべて地方税収で賄われていると回答されている。

3 カ年計画に示されている Action 及び Opeartion について、表８－９、表８－10 のとおりまとめた。

表８－９　ヨプゴン市 3 カ年計画に示されている Action ごとの予算　（単位：1,000FCFA）

優先順位	Action	2017 年予算	2018 年予算	2019 年予算	3 カ年予算
1	Subsidy for the operation of the service platform	200,000	200,000	200,000	600,000
2	Grant to the Organizing Committee of the holiday activities (Wozo holidays, genies in grass, vacations cultures, inter-distict, tales and traditions, radio holidayss, colors holidays, mini-varietoscope, miss Yopougon, star karaoke, ...)	35,000	35,000	35,000	105,000
3	Subsidy to the Association of Pensioners of the Municipality	5,000	5,000	5,000	15,000
4	Payment of the portion to the project of Social Cohesion Abobo Yopougon (COSAY)	20,000	20,000	20,000	60,000
5	Payment of the portion to the project of support to the rehabilitation of Socio-Cultural infrastructure (PARCS)	22,000	-	-	22,000
6	Support for organizations of cultural activities in the municipality (Zouglou in celebration, cultural meetings in Yopougon, festiyop, masks races, culinary competitions, paquinou in Yopougon,	45,000	45,000	45,000	135,000

	exhibitions of works, theater and dance shows, canoe races, etc.)				
7	Subsidy to the NGO Djiguiya for the framing of women in difficulty	25,000	25,000	25,000	75,000
8	900 grants for the costs of driving licenses to young people in the municipality	15,000	15,000	15,000	45,000
9	Subsidy to the mutual agents of the Yopougon mayor	1,000	1,000	1,000	3,000
10	Subsidy to the municipality council of Yopougon Youth	6,000	6,000	6000	18,000
11	Subsidy to the Coordination of the disabled persons associations of Yopougon (CAPHY)	2 000	2,000	2,000	6,000
12	Subsidy to the Local Safety Committee	5,000	5,000	5,000	15,000
13	Purchase of childcare materials for the Women's Institutes of Education and Training (IFEF)	6,000	6,000	6,000	18,000
14	Subsidy to the Local Sport and Recreation Committee for the Dominique Ouattara Tournament	30 000	30,000	30,000	90,000
15	Support for actions to raise awareness for social cohesion and sustainable development	60,000	60,000	60,000	180,000
16	Grant of 12,000 school supports to students in the municipality	200,000	200,000	200,000	600
17	Subsidy to the football team of the municipality (Yopougon FC)	50,000	50,000	50,000	150,000
18	Subsidy to the local committee for the fight against HIV / AIDS	5,000	5,000	5,000	15,000
19	Donation of fuel to local police in the municipality	70,000	70,000	70,000	210,000
20	Lightweight track repacking	12,000	12,000	12,000	36,000
21	Purchase of school kits for the organization of the Excellence Days	30,000	30,000	30,000	90,000
22	Purchase of sports equipments for tournaments in the municipality	30,000	30,000	30,000	90,000
23	Purchase of food for the religious communities in the municipality	40,000	40,000	40,000	120,000
24	Purchase of artistic materials and maintenance products for artisans of the municipality	15,000	15,000	15 000	45,000
25	Contribution to the organization of the National Independence Day and Labor's Day	60,000	60,000	60,000	180,000
26	Organization of Mother's Day, Father's Day and Christmas Trees	60,000	60,000	60,000	180,000
27	Support to the organization of international days (peace, francophonie, human rights, violence against women and children, etc.)	90,000	90,000	90,000	270,000
28	Community contributions to the UVICOCI	12 897	12 897	12 897	38691
29	Contributions of the Municipality to the Development fund for the Vocational Training (PFFP)	24,000	24,000	24,000	72,000

30	Help for the poors	20,000	20,000	20,000	60,000
31	Subsidy for the operation of the local Francophonie commission	100,000			100,000
32	Subsidy to the commune of Tanda to build three (03) classes and office	30,000			30,000
33	Contribution of the municipality to the health insurance of mutual agents of the Town Hall	75,000	75,000	75,000	225,000
	Total	**1,400,897**	**1,248,897**	**1,248,897**	**3,898,691**

表８－10　ヨプゴン市３カ年計画に示されているOperationごとの予算　（単位:1,000FCFA）

優先順位	Action	2017年予算	2018年予算	2019年予算	3カ年予算
1	Construction of the Military Camp Market	175,000	145,000	135,000	455,000
2	Point-to-point processing in the municipality	322,611			322,611
3	Sanitation works in the municipality	200,094			200,094
4	Acquisition of a generator for the Red Roof Vital Annex	28,000			28,000
5	Construction of BEAGO and GESCO Community Health Centers	16,219			16,219
6	Acquisition of plot for the relocation of municipal waste	225,000	175,000	150,000	550,000
7	Rehabilitation of Annexes Vital Niangon and Red Roof	35,000	35,000		70,000
8	Construction and rehabilitation of ninety-six (96) classrooms in 16 elementary and nursery schools	120,000	110,000	95,000	325,000
9	Construction of the fence of the MICAO police station	10,000			10,000
10	Acquisition of software for public domain management	10,000			10,000
11	Acquisition of office furniture for the annex of civil status	29,000			29,000
12	Acquisition of protection and communication materials for the municipality police	20,000			20,000
13	Construction of a courtyard in the Economic, Financial and Domanial Department	12,000			12,000
14	Acquisition of road signal panels	8,000			8,000
15	Construction of a hangar at the Anguédédou market 400 ha	20,000			20,000
16	Construction of three multi-sport fields	75,000			75,000
17	Acquisition of a van for the Municipal Police	55,000			55,000
18	Heavy reprofiling works in the quartier of Niangon Attié, Kuwait and MICAO		345,000	430,000	775,000
19	Paving of the aisles of Princesse Street and Princes street in the Selmer quartier		216,000	172,500	388,500

20	Electrification works in PK 17 quartier		110,000	110,000	220,000
	Total	**1,360,924**	**1,136,000**	**1,092,500**	**3,589,424**

８－８　ベースライン調査の現地再委託先に係る情報収集

ベースライン調査の現地再委託先に係る情報について、現地社会調査員より社会調査に実績のあるコンサルタント会社を 3 社紹介してもらい、仮の ToR（Terms of Reference）を作成のもと、調査期間及び調査費の提案を求めた。2017 年 3 月 6 日現在、2 社より提出を受け、未提出の 1 社についても再三の催促をしているが、現時点で提出物を確認できていない。

2 社から受け取ったベースライン調査の提案を表８－11 にまとめた。

表８－11　ベースライン調査現地再委託先に係る情報

社　名	経　験	調査期間	調査費
Etablissement Halley and Family	1997 年に設立。 JICA COSAY フェーズ 1 において、ベースライン調査、エンドライン調査の委託業務を受注。 2013～2014 年にはコートジボワール計画・開発省の仕事を受注し、北部･西部の Atlas を作成した経験を有する。	5,700 サンプル* : 8 weeks 22,800 サンプル** : 11.5 weeks	5,700 サンプル* : 26,286,750 FCFA 22,800 サンプル** : 48,987,750 FCFA
CITES URBAINES	組織としての経験は不明。 組織のコーディネーターは、直近で 2004 年に世界銀行や国際 NGO 等と社会統合や基礎インフラ改修当に係るパイロット事業の評価を行ったほか、UNOCHA や UNDP、EU 等と元兵士の社会統合や騒乱の影響等に係るアセスメントを実施した経験を有する。	5,700 サンプル* : 110 working days 22,800 サンプル** : 140 working days	5,700 サンプル* : 44,690,000 FCFA 22,800 サンプル** : 67,554,000 FCFA

出所：*100 サンプル/カルティエ：5,700 サンプルを想定、**400 サンプル/カルティエ：22,800 サンプルを想定

第９章　調査まとめ

９－１　対象両市における社会統合の現状

両市における社会統合の現状については、当初想定よりもかなり悪い状況にあったというのが率直な感想である。住民からの聞き取りでは、騒乱以降、尾を引いている不満や他人への不信と、新たに創出される可能性を有した不満因子があることが明らかになっている。

９－１－１　過去の経験に基づくコンフリクト

対象地域の対立構造を本当に簡潔に表現すれば、与党派対野党派、ジュラ対ジュラ以外の民族となる。このような背景にも起因すると思われるが、民族によっても“社会統合”に対する姿勢や発言は異なっていたように思われる。

勝者となり社会的に強者とみられるようになったジュラの人たちは、一連の過去の問題に幕引きを図りたいと考えている人も多く、「過去は過去。われわれは同地域に生きる人として仲良くやっていかなければならない」というスタンスであることが多かったように見受けられたが、バグボの出自母体であったベテ等のバグボ派とされた人たちには、「忘れることのできない騒乱時の被害実態があり、どうしても許すことができない」という立場の人が多く、ジュラの人にも大きな不満があるという点では一致しているものの、被害者意識という点で大きく異なっていたように思われる。このような背景から、民族や支持政党が異なる人への敵対意識は、ジュラ側からよりもジュラ以外の人のジュラに対する感情により大きく表れていた。

特に、2010 年の選挙で敗者となったバグボ支持派の民族においては、騒乱中に受けた実害を今でも鮮明に覚えており、被害者感情が強い。加害者に対して許すことができないという感情も多くの人がもっているのが現状である。

９－１－２　現状の不公平感に基づくコンフリクト

現在も存在する他民族への悪感情は、上述のような過去（騒乱）の体験に基づくものだけにはとどまらない。イボワリテの考えは現在にも存在し、騒乱時等に直接的・間接的な被害を受けていない人においても、「ジュラの人たちは自分たちが上位にいると思っているが、そもそも彼らは外国人である」と、ジュラに対する不満を口にする。

また、騒乱時にはどちらの政党も敵対する政党支持者の殺害などを行ってきたにもかかわらず、バグボ前大統領だけが国際刑事裁判にかけられている現状、バグボ派支持者だけが現在も投獄されている現状に対する不満も多く聞かれた。また、ほぼすべての調査対象地域で挙げられた、不公平な政府支援に係る不満も大きい。「公務員試験ではジュラだけが受かり、被害者支援ではジュラだけが選出される。アソシエーション支援においても、ジュラだけが選定される」といった不満をつのらせている。また、それに対する「実際に支援を受けているわけでもないのにジュラだからという理由だけで不満をぶつけられ辟易している」「以前はジュラが虐げられていて、情勢が逆転しただけである」というジュラ側の言い分もある。

９－１－３　社会統合に係る状況を把握するための指標

対象地域には、ごく一部を除いてすべての地域でまだ住民間に緊張関係は残っているというのが現実ではないかと思われる。

しかし、第 7 章でも述べたとおり、住民間の緊張関係の強度は地域ごとに差がみられ、調査実施時の印象から、少なくとも次の 3 つには大別することが可能ではないかと思われた。

① 地域全体に緊張関係が存在している
② 特定民族や特定の人物間に緊張関係が存在している
③ 全体的に緊張関係がそれほどみられない

上記のとおり、社会における緊張の度合いを 3 つに大別できると仮定した場合、調査から得られた各地域の違いを表９－１のとおり整理した。なお、表９－１に示した指標案は、あくまでも専門家が本調査を通して得た印象によるものであり、参考程度の位置づけとされたい。

表９－１　緊張の度合いを測るための指標案

指　標　案	住民間の緊張度		
	①高い地域	②中程度の地域	③低い地域
騒乱時の影響			
・住民間での傷害行為があった	○	△	×
・外部者からの傷害行為があった	○	○	△
・住民による密告行為があった	○	△	×
・家財の略奪があった	○	○	×
・多くの避難民を出した	○	○	×
現在の状況			
・帰還していない避難民が一定数いる	○	×	×
・隣人とも話ができない状況が至る所にみられる	○	△	×
・一緒の場にいられない特定の民族が存在する	○	○	×
・騒乱以前に行っていたコミュニティ活動ができない	○	○	×
・冠婚葬祭でさえ一緒にできない	○	△	×
・国民和解に対する大きな不満を抱えている	○	△	△

○：多いに当てはまる、△：当てはまるが限定的、×：当てはまらない、もしくはごく少数

また、グループインタビュー時にみられた住民同士の関係性も、対象地域における住民間の緊張度の高さ等を理解するのに役立った。COSAY フェーズ 2 において実施予定のベースライン調査（社会調査）において、グループインタビューや他の人も周りにいる状況での個人インタビューがあり得る場合には、インタビュー時の雰囲気を以下のようなチェック項目等で押さえておくことも一考に値する。

・インタビュー時に話しにくそうな雰囲気があった
・インタビュー時に回答者を睨む、発言をやめさせるなどの行為があった
・インタビュー時に回答者以外からの嘲笑（鼻で笑うなど）の行為があった

９－１－４　調査対象地域の緊張度による 3 分類

本調査では、指標に落とすための聞き取りをしていないため、各調査対象地を指標に沿って判

断することは難しかったが、調査を実施した際の印象として、調査対象地域を表９－２のとおり3分類した（判断不可を含めて4分類）。

なお、既述のとおり、一般にアボボ市はマリンケやジュラ等の与党派が多く、ヨプゴン市はベテ等の野党派が多い地域である。そのため、騒乱時の状況等に係る聞き取りにおいては、ヨプゴン市でより強く意見が出された印象を受けている（与党派は昔の騒乱を終わったこととしたい。野党派は現在にも騒乱の記憶が鮮明にあり、可能な限りその不満をわれわれに伝えようとしていた）。それが、少なからず表９－２に示す分類にも影響を及ぼしているものと思われる。

発言者の社会的背景等を丁寧にフォローしきれないなかでの調査において、調査者が受けた印象を基に行った分類であることを理解いただき、参考程度の扱いとしてもらいたい。

表９－２　調査時の印象による調査対象地域の3分類

	アボボ市	ヨプゴン市
①緊張度の高い地域	・SAGBE カルティエ（報復を恐れて話せないというインフォーマントが多数。②に分類される可能性も有。治安が悪い）	・Guesco Manutention カルティエ（イスラム教徒、キリスト教徒どちらが多いかをめぐってさえ揉めた。人の発言時に睨む、鼻で笑うなどの状況が多くみられた。本調査で一番緊張度が高い印象を受けている） ・Niangon Nord カルティエ（社会統合に係るさまざまなアクションが起こされたものの、住民の関係性改善には至らなかった） ・Zone Industrielle カルティエ〔騒乱時、住民（特に青年）間で武器を持って戦った。多くのバグボ派青年が未帰還〕 ・Mamie Faitai スラム〔騒乱の影響大（死者多数）。騒乱時に密告者の存在が大きく、住民間の分断は続いている。UN 等によるセンシタイゼーションも効果なし〕 ・SIDECI-SICOGI Location-Ventel カルティエ（国民和解に対する不満が大。騒乱時に密告者が多数おり、住民の分断は続いている）
②緊張度中程度の地域	・Cent Douze Hectares カルティエ（ベテとマリンケの関係が悪い） ・Abobo Sud 3S Tranche カルティエ（隣人とも話せない人が多いというが、聞き取りでは比較的与野党派ともにオープンに意見を発することができていた印象） ・Akeikoi Extention（サブ）カルティエ〔騒乱の影響は大きいが（未帰還者も一定数存在）、関係性は改善しているとされる〕 ・Agueto カルティエ（ベテ、アティエ、アベの人たちとジュラとの関係性がまだ改善されていない） ・Sogefiha Habitat カルティエ（野党派	・Bonikro スラム（野党派の不満はまだ残っていると見受けられるが、比較的オープンに話ができていた）

	のジュラに対する悪感情はあるものの、緊張度が高いようには見受けられなかった）	
③緊張度の低い地域	・Banco 1 & 2 カルティエ（ミクロブは多いとされ、他地域からは治安が悪いと認識されているカルティエ） ・Abobo Baule 村（騒乱の影響も小）	・Adiopo Doume 村（騒乱の影響も小） ・ Gare-Sude SODECI-GFCI カルティエ（CEDEAO が 40%を占める。外部からの影響を受けたが死者なし）
判断不可	・Agbekoi 村（村の成立に関し言い争いが始まったため質問を避けた）	・Yopougon Sante 村（調査後に、インフォーマントの 1 人から聞き取りでは事実が語られていなかったという情報提供があったため）

９－２　対象両市で実施する社会調査の難しさと意義

本調査を終えての率直な感想として、対象両市における調査、特に社会調査の実施には大きな困難が伴った。主に第 7 章でも述べたが、調査、特に社会調査を難しくしていたと思われる要因として大きく以下の 2 点が挙げられる。

① 聞き取り調査で得られた回答が、事実を語っているのかどうかの判断が難しい

② 住民の社会的背景（民族、宗教、支持政党、地域における役割、騒乱中の役割・状況（加害者、被害者、加害者でもあり被害者でもある、どちらでもないなど）が複雑であり、それらを読み解くには時間がかかる

９－２－１　聞き取り等から得られた情報の信憑性

①については、議事録にもあるとおり、当初の発言がのちに嘘、事実ではないことがわかる、という経験が何度もあった。また、インフォーマントからは、真実を語ると明日襲撃されるかもしれないから怖くて話せない、という発言もあり、まだまだ、本心や実際に起こっていることを公の場で語れない環境にあるように見受けられる。また、自由に発言しようとする人を“きれいな言葉”（われわれは互いを愛している、騒乱で起こったことは住民間で起こったことではなく、外部から持ち込まれたことのみであるなど）で封じ込めようとするような場面も何度か観察されている。これらからもわかるように、議事録にあるインフォーマントの発言が、そもそも事実でないという可能性を捨てきれない。

事実が語られていない場合、調査によって得られた結果が無駄になる可能性があることは当然のことであるが、対象両市においては、語られたことだけを信用してしまったときに、地域や個人、民族が抱えるさまざまな問題が現状を反映した実態としてつかめず、実態をつかまないままに社会調査を進めること・プロジェクトを実施することは、他地域よりも大きく、この地域へ負の影響を与えてしまう可能性、危険性が決して小さくないように思われる。聞き取りでは、予想しなかったところにインフォーマント同士のいい争いの火種となるものが落ちていたように思う（どの宗教人口が一番多いか、地域の成り立ちはいつ頃だったか、という質問も、一部地域では民族的な対立のトピックとなり得る）。

また、語ることができないだけでなく、聞き取り調査でも時折聞かれたが、敵対する人を陥れるために虚偽の報告をしているという可能性にも留意しつつ､住民の声に耳を傾ける必要がある。

対象地域の状況を理解するため、COSAY フェーズ 2 の開始後に実施される予定のベースライン調査（社会調査）において、聞き取り結果ができる限り現実との齟齬なくまとめられるよう、

事実に近い情報の収集と分析によって情報の精度を高めるような調査の実施が求められるとともに、上記のような可能性を念頭に置きつつ、多面的な検証のもと、プロジェクトが実施されることが求められる。

９－２－２　重層的な対立構造の存在

②については、都市部という土地柄、民族が混住しているのが一般的で（村はその限りではない）、アフリカ地域、特に農村地域に多くみられるような血縁・地縁といった社会的紐帯はあまり強固ではないといって差し支えないのではないかと思う。そのようななかで、「騒乱以前は民族や政治のこと等、意識せずにみな調和をもって生きてきた。今は、政治がすべての人々を分断している」と語られているとおり、もともとはそれほど強くは意識されていなかった出自や家族への帰属意識が、むしろ騒乱を経験したことで自身の民族を強く意識させ、彼らのアイデンティティとして前面に出てくるようになったのではないかとも推察される。人々の結びつきがそれほどには強固でなく、民族の別などについてもそれほど強く意識せずに生活してきた対象地域の人たちにとって、このアイデンティティはむしろ強力に存在しており、他者からの認識についても同様のことがいえるのではないかと思われる。

民族や支持政党の別が大きく強調されることによって隠されてしまう個々人の社会的背景、騒乱時の役割等についても理解したうえで社会調査をすることが、この地域全体の現状や課題の把握には重要となると思われるが、本調査においては時間的制約等から、地域全体に存在するであろう社会統合に係る問題についてはある程度の情報が得られたものの、問題の背景にあるものを理解するための、十分な調査が実施できたとはいい難い。

また、ここまで、政治的対立の記述においては、主に野党派、与党派としてきたが、実際には現在の与党連合を形成している RDR と PDCI、野党支持派のなかでも選挙をボイコットしたい考えの派閥とそうでない派閥等、与党対野党という単純な構造には落としこめない対立構造が対象地域に存在していることは自明である。

本調査では、重層的な対立構造にまで踏み込めず、その実態について明らかにできなかったが、COSAY フェーズ 2 ではこの点についても留意が必要な場面が出てくる可能性もあり得る。

９－３　地域に内在するトリガー

COSAY フェーズ 2 の実施に際して、一番留意すべき点は、“些細なことが騒乱を想起させるトリガーになり得る”ということではないかと思う。

本調査においても、個人的な問題で語られておかしくないような事象が、民族間の問題として語られたり、問題が起こったときにそれがすぐに民族と関連づけられてしまうという例を見てきた。「魚を買う、買わない」の問題がグロとマリンケの問題となった例のほか、COSAY フェーズ 1 の対象地域においても、プロジェクトの問題が CCGPP のメンバーの責任となり、CCGPP 個人ではなく問題が民族的なものにすり替えられるということも起きている。

コンフリクトの背景を調査することの難しさを前項で述べたが、重層的な背景に基づくコンフリクト、社会統合に係る課題が存在するなかで、常に彼らの日常とともにトリガーがあることを念頭に、地域理解を通した“Do no harm”の徹底がプロジェクト実施に際して求められる。

第 10 章　COSAY フェーズ 2 実施における留意事項等

10－１　COSAY フェーズ 2 における検討・留意事項

10－１－１　Do no harm の徹底

社会統合に係るプロジェクトを実施するに際して、“Do no harm”の視点が重要となることは自明のことであるが、プロジェクトの実施が地域に新たな火種を提供してしまう危険性は、対象両市では特に高いように見受けられた。

大統領を含めた政府関係者や市長をはじめとする市役所職員に対する不満も蓄積しており、社会の安定にはまだ課題が山積している。このような背景をもつ地域でのプロジェクト実施に際しては、“Do no harm”の徹底が求められる。既述のとおり、当地では、個人と個人の問題が民族的・政治的な問題にすり替えられることも多く、トリガーとなり得る危険因子を対象社会が多く抱えているともいえる。今回の調査では、社会統合に係る現状についてはある程度の情報収集ができたが、危険因子等の分析に至るまでには情報量が足りていない。可能な限り、それらの分析を経たうえでプロジェクト対象地の選定や CCGPP のメンバー構成等について議論されることが望ましい。

10－１－２　住民へのインパクト、公平性の確保

プロジェクト実施の効果にかんがみれば、①COSAY フェーズ 2 においても、アボボ・ヨプゴン両市のみを対象とする、②パイロットプロジェクト 1 つの規模を縮小し、対象サイトを増やす、ことも一考に値すると思われる。

①については、いずれも 2014 年のセンサスにおいて 100 万人を超える市民を抱える両市において、市役所による事業の実施も非常に限定的であり、住民はサービスを享受しているという実感がないままに生活を送っている。これは市役所に対する不満の蓄積にもつながっている。対象市を増やすことによって、両市に割くことができる予算が減少することは、両市の住民の市役所への満足度の低下につながり得る。②については、社会インフラ整備が住民の関係強化のためのツールであると考えれば、社会インフラ整備の規模が大きくある必要性は必ずしもなく、対象サイトの数を増やすことが住民の不公平感を軽減し、行政への満足感につながる可能性もある。

10－１－３　行政能力強化

既に記載のとおり、住民は市役所、特に市長への不満をつのらせており、市長が住民の声を聞いていない、住民のニーズに応えていないことに対する不満と失望を抱えている。また、野党派の住民から“ジュラ側の人たち”とみなされている市役所は、政府による“ジュラの人たち”への厚遇の首謀者ともみなされる。このような背景から、市役所の業務における透明性の確保、住民への説明責任を担保することは、対象両市の市民と市役所の関係改善に不可欠であると思われる。

このような問題意識は、市役所職員ももっているものの、ヨプゴン市の C/P との協議のなかでは、市役所内での反対があり、行動に移したくても容易にできるものではないことが課題として挙がっていた。住民間だけではなく、市役所職員内にも政治的な背景等に基づく妨害行為があるものと思われ、JICA のような外部者による介入を望む声もあった。内政干渉にならない範囲で、透明性、説明責任に係る行政能力強化が求められているように思われる。

これに関連し、COSAY フェーズ 1 では限定的であった広報（Communication）への支援を期待

する声がヨプゴン市の C/P から挙がっている。住民への説明責任を果たすため、ジュラへの偏重という誤解を解くため、COSAY フェーズ 2 では、対象地域に選定されなかった住民へもその理由を説明すること、プロジェクトの目的等を広く市内の住民に広報したいということであった。

3 カ年計画の策定の不明瞭さ、市長の独断による決定に対する住民や市役所職員の不満、支援対象となるアソシエーション選定プロセスについてだれも答えられないことなどへの対応としては、まず 3 カ年計画プロジェクトリストの作成プロセスやアソシエーション選定プロセスの明瞭化等が必要であり、そのための市役所レベルでのデータ整理、データ管理に係る能力向上が求められる。データの整理に際しては、INS からのデータを踏襲した場合に、特にヨプゴン市ではカルティエの分類が異なることから、行政単位、居住単位などの明確化が不可欠となる。アボボ市において INS と市役所の見解に差がみられないのは、単に情報を有していないためと思われ、両市においても情報整理に係る能力強化は重要と考える。

データ整理、プロセスに則った計画策定等が実施されることで、市長やその他政治家による不合理な介入を防ぐことにも寄与することが期待される。このようなプロセスの改善、整理に際しては、既存の地方分権化ガイドラインなどとの整合性も図りつつ、Handbook を活用することも検討に値する。

いずれにしても、市役所においては、内発的な改善の提案等が困難であるという点への配慮が求められる。

10－２　情報収集先

対象地域における一般的なカルティエごとの情報は INS のデータに頼らざるを得ないのが現状である。内務省、市役所とも、情報が必要な場合は適宜 INS からデータを購入しており、それらの情報がまとめられているようには見受けられなかった。本調査中に収集したデータについては既述のとおりであるが、COSAY フェーズ 2 の実施に際しては、本調査中に収集できなかった各種データの入手も検討されたい。

表 10－１　収集を検討すべきデータ

情報ソース	検討すべき収集情報	検討理由
警察署	・ミクロブ逮捕者データ・報告書（最新版） ・重大犯罪に係るデータ	対象地域における治安（社会統合の文脈も含まれる）情報について広く情報を有している。 特に深刻な地域の争いごとに際しては警察に相談されることが多いため。
PRE-CI	・両市カルティエの境界が示された地図	住民が認識する“地域”の境界理解に役立つと思われるため。
INS	・カルティエごとの 2014 年センサスデータ （「４－１」に記載の避難民に係る情報含む）	特にアボボ市においては、民族グループ別人口についても入手できておらず、1998 年のセンサスデータを基に調査を実施したが、現状の民族グループ別人口とは乖離がみられる地域も多かったため。
連帯省	・データアーカイブに整理されている社会統合に係るデータ ・その他各種報告書	社会統合に係る政策を策定する機関として、どのような指標を基に社会統合に係る地域分析を実施しているのかなど、対象国の社会統合に係る現状や課題についてのさらなる理解につながると思われるため。

付　属　資　料

１．市役所によるヨプゴン市の区分

２．社会調査の実施に用いた調査票

３．住民組織に係る聞き取り調査結果

４．日程表

５．調査対象者リスト

６．議事録

1．市役所によるヨプゴン市の区分

Quartier ou village (25 Quartier/ Village)	Sous-Quartier (100)	Village (8 + (13))	Slum (56)
ANDOKOI	Fanny	Andokoi village	ANDOKOI DEPÔT SOTRA
	Andokoi extension		ANDOKOI FERRAILLES
	Andokoi deposotlra		ANDOKOI ZOPLEU
	Andokoi Ferraille		ANDOKOI DERRIER CHÂTEAU D'EAU
	Andokoi Chateau		ANDOKOI SAINT HUBERT
	Andokoi Zopleu		ANDOKOI QUARTIER GOURO
			ANDOKOI EXTENTION
			AN 2000 BARAQUES
BANCO-NORD	GFCI		
	SOPIM		
	Nouveau Quartier		
	Résidentiel		
	Quartier Millionnaire		
BANCO-SUD	Toits-Rouges		GBAMNAN DJIDAN 1
GESCO MANUTENTION	Pays-bas		GESCO MANUTENTION
	Gesco petit pays-bas		GESCO MANUTENTION 1
	Gesco Manutention I		GESCO DEAPLEU
	Gesco Manutention II		GESCO BELLE –VILLE 1
	Gesco Belle ville I		GESCO LOTIS
	Belle Ville II		GESCO PETIT PARIS
	Gesco Deapleu		GESCO MANUTENTION 3
	Gesco Centre		GESCO CAMP BELLE-VILLE 2
	Gesco Cité Eden		GESCO CAMP TP OUVRIER
	Gesco Camp		GESCO CITE ESPOIR
	Gesco Lotis		GESCO CAMP TP RESIDENTIEL
	Gesco Bougounisso		GESCO PAYS-BAS
	Camp Gendarmerie		
Gesco-attié	HKB		GESCO AYAKRO
	Mondon		GESCO HKB
	Petit Bouaké Judée		GESCO ATTIE
	Ayakro		GESCO-ATTIE
	Monney-Koi		GESCO PETIT BOUAKE
			GESCO JUDEE
			GESCO MONDON
			GESCO ATTIE BELLE-VILLE
			GESCO AYAKRO
			NIANGON CONTINU
Niango Sud Ouest	Cité N'goan	Niangon Lokoa village	
	Cité CNPS		
	Cité caistab		
	Cité Saco		
	cité réconciliation		
	Cité bracody		
	Cité caféier		
	Cité prairie		
	Cité les laurier		
	Cité marine		
	Niangon-adjamé Extension		
	Sogefiha		
	Cité Verte		
	Cité Lièvre Rouge		
	Académie de la Mer		
	Cité Caistab		
	Cité réconciliation		

Quartier ou village (25 Quartier/ Village)	Sous-Quartier (100)	Village (8 + (13))	Slum (56)
Niango Sud Partie Est	Cité Jaune	Azito village	NIANGON SAINT PIERRE
	Cité Bédié		NIANGON YAMOUSSOUKRO
	Cité coprim		AZITO FERME
	Cité coprim zenithe		NIANGON GBAMNAN DJIDAN 3
	Cité Coprim aurore		
	sicogi		
	Cité Laurier		
	Niangon Bité Complémentaire Est		
	Niangon Bité		
	Socovim		
Niangon –Adjamé 2éme Extension	Cité les Hévéas	Niangon Adjamé village	BONIKRO, ROUTE DE DABOU
	Cité Charles Diby		
Niangon-Nord 1ère Tranche	Cité CIE		DJADAN 2 France -VILLE
Niangon-Nord 2ème Tranche	Moroc		
Niangon-Attie extension			
Niangon-Attie village			
Ananeraie			
BANCO 2	Banco extension	Banko 2 village	PORT-BOUET 2 HAUT TENSION
B.K. Vatican			
KM 17			KM 17 CARRIERE ANTENNE ROUTE DABOU
PORT-BOUET 2			
Beago Village			
Adiopodoume village			
YOPOUGON ATTIE	Sicogi	Yopougon Attie Village	MAMIE FAITAI
	La Gare		YOPOUGON ATTIE 8éme TRANCHE V28
	Banco II		CHAUMIERE DU BANCO
	Selmer		NOUVEAU QUARTIER ANNEXE
	Centre Urbain		
	Siporex		
	Sogefiha Solic 1 & 2		
	Wassakara		
Yopougon Koute	GEM	Koute Village	SIDECI-ANNEXE
	Coprim		YAOSSEHI
	Camp-militaire		KOWEIT CARRIER (ALPIC)
	petit toit rouge		DOUKOURE
	BEAT		CAMP MILLITAIRE CHAPOULIE
	Konan ferrand		
	Sideci		
	Cité BICICI		
	Cité Sifca		
	Sogefiha		
	Sicogi		
	Sofefiha koute municipalite		
Yopougon Sante	Yopougon-Agbayaté	Yopougon Sante village	KOWEIT BAT / KONAN FERRAND
	Yopougon-Koweit		KOWEIT
	Yopougon-Cocoteraie		KOWEIT PLATEAU 1
	Yopougon-Sikaso		KOWEIT JOHANNESBOURG
			KOWEIT RAVIN
			KOWEIT SIKASSO
			KOWEIT COCOTERAIE
			KOWEIT PLATEAU 2

Quartier ou village (25 Quartier/ Village)	Sous-Quartier (100)	Village (8 + (13))	Slum (56)
ZONE INDUSTRIELLE	Zone-industrielle		
	Prison Civile		
	Cité Henriette Konan Bédié		
	Cité Dun kan (géobéton)		
	V 28		
	Cité Fandasso		
	Bédjanto		
	Gnandobité		
Hopital	Mamie Adjoua		
	Ariane		
	Batim I & II		
	Cité Policière BAE		
	Cité Abdoulaye Diallo		
	Lycée-technique		
Ile Boulay (island)		consist of 13 villages	

２．社会調査の実施に用いた調査票

2-1：社会調査の実施に用いた調査票
（グループインタビューや地域のリーダーへの個別インタビュー時に使用）

<table>
<tr><td colspan="2">Questionnaire for the leaders of Quartier/ Village
date: / / , : ~ :</td></tr>
<tr><td colspan="2">Informant (name, age, ethnicity, etc.):</td></tr>
<tr><td>Quartier:</td><td>Sub-Quartier:</td></tr>
<tr><td>Village:</td><td>Slum:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Population (H/H):</td></tr>
<tr><td colspan="2">Existing (major) ethnicity:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Major religion:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Major source of income:</td></tr>
<tr><td colspan="2">History of quartier/ village:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Existing leader (committee, traditional leader, chieftaincy, etc.):</td></tr>
<tr><td colspan="2">Community Activities:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Existing association/ group:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Confidence/ distrust in Commune office:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Any changes in relationship among residents/ different between before and after crisis:</td></tr>
<tr><td colspan="2">Other Information:</td></tr>
</table>

2-2：社会調査の実施に用いた調査票（住民組織のリーダー・メンバーへの質問時に使用）

Questionnaire for the representative of association date: / / , : ~ :	
Informant (name, age, ethnicity, etc.)	
Quartier:	Sub-Quartier:
Village:	Slum:
Group name:	
Registered? Yes / No	
No. of members: (Male: , Female:) (if possible, ask no. of members from each ethnicity (or political background) and religion)	
Executive committee member (including social background of members):	
Year of establishment:	
Motivation of establishment:	
Objectives of association activity:	
Actual performance/ activity:	
Regular/ irregular meeting (frequency, topic, etc.):	
Role of association in community:	
Contribution to community:	
Other Information:	

３．住民組織に係る聞き取り調査結果

3-1：住民組織に係る聞き取り調査結果（専門家自身による聞き取り）

調査地：アボボ市 Agbekoi 村

項　目	概　　況
組織タイプ	青年グループ
グループ名	不明
設立年	2012 年
設立動機	騒乱後、コミュニケーション不足が住民の関係性を悪化させていると感じ、民族を超えて話す機会をもちたかったため。
登録の有無	不明
メンバー構成	400 名程度。エグゼクティブメンバーは 30 名（うち女性 3 名）。民族混合。
活動目的	サッカー試合の開催、村の掃除、学校が休みの時期を利用した学生への研修実施、啓発活動等。
現在の活動	月 1 回の報告会、サッカー試合の開催等
その他 特記事項	・村には各民族の青年グループが存在しており、当グループは村全体の民族混合の青年グループとして存在。 ・設立当初は互いに話をしないなど、活動が困難な状況にあったが、活動を通じて会・話が増え、現在は若者間のコミュニケーションは進んだと感じている。 ・村の長老などへの反発から、活動に参加したくないというメンバーもいる。

調査地：アボボ市 SAGBE Center

項　目	概　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	不明
メンバー構成	全体のメンバーは不明。エグゼクティブメンバーは 18 名（うち 6 名が女性）。民族構成は、バウレ 2 名、アニ 1 名、ベテ 2 名、その他ジュラ 13 名（セヌフォ 1 名、ロビ 1 名、タバナ 1 名、ボンドゥク 1 名、他マリンケ等）。
活動実績	サッカー試合の開催、年越しフェスティバル、ウェディングセレモニー等
その他 特記事項	・ジュラ以外のメンバーが活動に参加しない（ジュラ以外の民族の人がジュラを敵視している）。

調査地：アボボ市 Banco 1&2

項　目	概　　況
組織タイプ	Women’s Association
グループ名	Sababou Gnouman
設立年	2015 年
設立動機	騒乱前から民族ごとの女性グループは存在していたが、民族を超えた女性の団結が必要との思いから。
登録の有無	現在申請中
メンバー構成	メンバーの数は不明であるが、民族は混合。エグゼクティブメンバーは 5 名、すべてジュラ。
活動目的	女性の相互扶助
現在の活動	冠婚葬祭などの入り用の際に集金し、助け合う。 毎週金曜に活動進捗等を行う。 頼母子講（400FCFA/ 月）にかかわっているのは 36 名のみ。

調査地：アボボ市 Banco 1&2

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Local NGO
グループ名	Betaco Service
設立年	2008 年活動開始
設立動機	貧困と闘うため
登録の有無	内務省に登録済み
メンバー構成	1,500 名（多くが Banco 1&2 の住民）。エグゼクティブメンバー15 名（うち女性 6 名）。民族構成は、ベテ 1 名、バウレ 4 名、ディダ 1 名、マリンケ 9 名。
活動実績	サニテーション活動、清掃、セキュリティ関連の活動を実施
現在の活動	月 1 回会合を開き、運用資金を稼ぐためのビジネス活動の有無等の情報交換を行っている。
その他 特記事項	・清掃活動等から得た収入（グループで仕事を請け負う）のほか、エグゼクティブメンバーは毎月 1,000FCFA を拠出し、運用資金としている。 ・Banco 1&2 の発展のため、カルティエのニーズを公式レターに認め、市役所に提出している（ボランティア）。 ・騒乱後に釈放された路上生活者等を活動に巻き込んだ経験あり。

調査地：アボボ市 Banco 1&2

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	NGO（Local/ National の別不明）
グループ名	Vivre Ensemble
設立年	不明。活動を始めて 5 年程度
設立動機	ミクロブを殺すべきとの主張に抗い、ミクロブの社会への統合を支援するため。
登録の有無	登録済み
メンバー構成	10 名（うち女性 4 名）。民族構成は、ジュラ 4 名、ベテ 2 名、アニ 1 名、セヌフォ 1 名、バウレ 1 名、アベ 1 名。
活動実績	120 名の少年ら（アボボ市外も含む）を選出し、1 年間の技術訓練、ダンサー養成を受講させるなど、青少年の技術習得、職の確保に係る支援を行っている。
現在の活動	
その他 特記事項	・技術習得を終えても家族に受け入れられない子どもたちのための受け入れ先等も支援している。 ・ミクロブの引き取り等、警察とも協力関係にある。

調査地：アボボ市 Cent Douze Hectares

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Local NGO
グループ名	SINMIN
設立年	1987 年 8 月
設立動機	人々の結束を深め問題解決を図ること、保健に係る活動を行うこと。
メンバー構成	メンバー数不明。エグゼクティブメンバー30 名（うち女性 15 名）。民族構成は、マリンケ、ベテ、グロ、ヤクバのほか、モーリタニア人、マリ人、ギニア人、セネガル人等。
活動実績	カルティエ内での清掃活動
現在の活動	月 1 回、コミュニティの開発課題や対応策について話し合っている。

その他 特記事項	・騒乱中にメンバー間に問題は生じていない。 ・組織のリーダーとして President はどの政党も支持しないという姿勢を貫いている。 ・設立時にエグゼクティブメンバーが拠出した 150 万 FCFA を切り崩して活動を行っている。 ・市役所に対する強い要望がある際には、公式レターを作成して市役所へ届けることもある。

調査地：アボボ市 Akeikoi Extension

項　目	概　　　　況
組織タイプ	National NGO
グループ名	MISDEF
設立年	2013 年 3 月
設立動機	子どもたちへの"Good Citizen"教育を行うため。
登録の有無	登録済み
メンバー構成	アボボ市からは 6 名がエグゼクティブメンバーとして活動（うち女性 2 名）。民族構成はアジュクロ 1 名、バウレ 2 名、アニ 1 名、アティエ 1 名、マリンケ 1 名。異なるカルティエから選出されている。
活動実績	小学生等へ民族などに関係なく生きることの重要性に係る啓発等。
現在の活動	上記活動に対するインパクト等のモニタリングを行っている。
その他 特記事項	・グループ活動と政治は無関係 ・会合は不定期開催 ・国家社会保障基金（Caisse Nationale de prévoyance Sociale：CNPS）や連邦消費者組合（Union Federale des Cousommateurs：UFC）、国民教育の地方総局（Direction Régionale de l'Education Nationale：DREN）等の機関とも協力関係にある。

調査地：アボボ市 Akeikoi Extension

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Women's Association
グループ名	Awuane
設立年	2015 年
設立動機	以前は女性グループがなかったため、女性の相互扶助を目的に設立。
登録の有無	未登録
メンバー構成	約 260 名。メンバーはベテのみ。リーダーはベテのチーフによる任命制。
現在の活動	出生祝い、葬式などに際してメンバーから資金を集め、入り用の人を助けている。
その他 特記事項	・セレモニー等に北部出身住民も招待するが拒否される（ベテと結婚しているジュラの女性の参加はあり）。 ・セレモニー開催に際して、議員から個人的な資金援助（ジュラでない女性）を受けたことがある。

調査地：アボボ市 Akeikoi Extention

項　目	概　　　　況
組織タイプ	National NGO
グループ名	Femmes en Action
設立年	2009 年

設立動機	就学女児等を家庭内暴力から守るため
登録の有無	登録済み
メンバー構成	アクティブなメンバーはアビジャンで約 300 名、アボボで約 175 名（ほとんどが女性メンバー）。エグゼクティブメンバーは 8 名（うち女性 6 名）。民族構成は、ディダ、ジュラ、ウォベ、アティエ、アブレ、アニ等である。
活動実績	女性への識字教育、若年女性への HIV/AIDS 予防啓発、女性リーダー育成に係る WS の開催、選挙参加を呼びかける活動等のほか、女性のエンパワーメントのため、民族混合の生計向上をめざした女性グループ設立を支援し、銀行等との橋渡しもしている。
その他 特記事項	・騒乱時はメンバー内にも不和があったが、話し合いをするうちに誤解が解け、現在は全くない。 ・NGO の施設を貸し出すことで得る収入等を NGO の運用資金に回しているほか、エグゼクティブメンバーのうちの女性 6 名が毎月 2 万 FCFA ずつを拠出している。

調査地：アボボ市 Abobo Baule 村

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Women’s Association
グループ名	CEFAB
設立年	約 15 年前に設立
設立動機	女性のビジネス活動支援、正しいビジネスの方法を習得するため。また、外部者がいつも女性グループの存在を訪ねるため、支援を期待し設立。
登録の有無	内務省に登録済み
メンバー構成	約 2,000 名（登録しているメンバーだけでも 1,000 名以上）。村だけでなく近隣カルティエからの参加者もおり、アティエ、バウレ、ジュラ、グロ等もメンバーにいる。エグゼクティブメンバーは 8 名。すべてエブリエ。
現在の活動	マーケットを自分たちで運用し、アチェケや加工前のキャッサバ販売を支援し、販売者からは利用料を徴収して活動資金としている。3 カ月に 1 回の会議開催。
その他 特記事項	・活動内容や資金が必要な活動等について、Chieftaincy に報告している。

調査地：アボボ市 Abobo Baule 村

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	Abobo Baule Youth Associaton
設立年	20 年ほど前から活動
設立動機	不明
登録の有無	内務省に登録済み
メンバー構成	1,500～2,000 名。エグゼクティブメンバーは 8 名（うち女性 2 名）。すべてエブリエ。Youth Association というよりは、エブリエにある年齢グループのようなもので、該当する年齢階級の青年すべてがメンバーとなる。
現在の活動	以前はカルチャーセンター等でのサッカー試合やクリスマスの開催等を行っていたが、騒乱中に機材が盗まれる被害に遭い、現在はあまり活動していない。3 カ月に 1 回会合を開いている。
その他 特記事項	・村内の清掃活動に責を負う。

調査地：アボボ市 Agueto カルティエ

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Women's Association
グループ名	不明
設立年	3 年前に結成
設立動機	女性が問題を抱えているときに助け合うため。
登録の有無	未登録
メンバー構成	約 70 名。エグゼクティブメンバー15 名。民族構成は、ジュラ 2 名、バウレ 3 名、アティエ 2 名、グロ 2 名、ヤクバ 3 名、ブルキナファソ人 1 名、その他。
活動実績	不明
その他 特記事項	・政党との関係は一切なし。

調査地：アボボ市 Agueto カルティエ

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Association（ビジネス活動）
グループ名	Ebeougou Pour la Paix
設立年	2011 年に登録
設立動機	不明
登録の有無	市役所に登録済み
メンバー構成	125 名。エグゼクティブメンバーは 21 名。民族構成は、ジュラ 5 名、ベテ 2 名、セヌフォ 3 名、アティエ 1 名、グロ 1 名、バウレ 3 名、その他。
現在の活動	・毎週水曜に 1,000FCFA/人を徴収し合う頼母子講（45 名のみ）。 ・共同キャッサバファームを運営し、毎週土曜に活動している。

調査地：アボボ市 Agueto カルティエ

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Local NGO
グループ名	Ehouchun
設立年	2008 年
設立動機	女性のエンパワーメント
登録の有無	市役所に登録済み
メンバー構成	約 200 名。エグゼクティブメンバーは 21 名（すべて女性）。民族構成は、ブルキナファソ人 5 名、アティエ 3 名、ベテ 2 名、エブリエ 1 名、その他バウレ。
現在の活動	アチェケ等を販売している。毎週木曜に 2,000FCFA/人を徴収し合う頼母子講。頼母子講で得たお金は個人のビジネス運営に活用される。
その他 特記事項	・政党との関係は一切なし。

調査地：アボボ市 Agueto カルティエ

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	不明
設立年	2009 年
登録の有無	内務省に登録済み

メンバー構成	40名。エグゼクティブメンバー8名（うち女性3名）。民族構成は、マリンケ3名、バウレ2名、グロ2名、ベテ1名。
現在の活動	メンバーの多くが仕事を求めて他地域へ移ったりしており、組織活動はしていない。
その他 特記事項	・政党との関係は一切なし。

調査地：アボボ市 Agueto カルティエ

項　目	概　　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	なし
設立年	2015年
設立動機	若者同士の相互扶助
登録の有無	未登録
メンバー構成	70名。エグゼクティブメンバーは10名。民族構成は、ディダ1名、アティエ1名、バウレ1名、ブルキナファソ人2名、マリンケ3名以上。
現在の活動	活発な活動はなく互いにサポートが必要なときだけ動く。月1回の会合を開催。
その他 特記事項	・問題が発生した際に民族だけの理由に帰結したくないとの理由から民族混合のグループを設立した。

調査地：ヨプゴン市 Niangon Nord カルティエ

項　目	概　　　況
組織タイプ	Groupement（リタイア組合）
グループ名	Groupement de Rehacelis Solidair en Niangon
設立年	2009年
設立動機	リタイアした人たちによるビジネス活動の実現
登録の有無	市役所に登録済み
メンバー構成	247名。エグゼクティブメンバーは11名。民族構成は、ヤクバ2名、セヌフォ3名、グロ1名、バウレ3名、マリンケ1名、ウォベ1名。
現在の活動	騒乱の際に共同経営ショップが破壊されたため、現在は活動を行っていない。
その他 特記事項	・政治と活動の関連は一切なし。

調査地：ヨプゴン市 Wassakara

項　目	概　　　況
組織タイプ	Women’s Association
グループ名	CONFIANCE
設立年	15年以上前に設立
設立動機	女性の相互扶助
登録の有無	市役所に登録済み
メンバー構成	約200名（民族混合か否か未確認）。エグゼクティブメンバーは6名。すべてマリンケ。
現在の活動	メンバーの結婚に際してお金を出し合ったりしている程度で活発な活動はない。 毎週土曜に集まり、頼母子講。
その他 特記事項	・政治的な活動等は一切なし。

調査地：ヨプゴン市 Mamie Faitai スラム

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	National Association
グループ名	Jeunesse Espoir du Côte d'Ivoire
設立年	不明
設立動機	若者の就業支援
登録の有無	内務省に登録済み
メンバー構成	246 名。エグゼクティブメンバーは 17 名。民族構成は、アティエ 1 名、バウレ 1 名、セヌフォ 1 名、アニ 1 名、ゲレ 1 名、アジュクロ 1 名、その他マリンケ 11 名（？）。
現在の活動	仕事がない若者に仕事を斡旋している。
その他 特記事項	・騒乱以前からある Association であるが、騒乱中もメンバー内に問題は起こらなかった。むしろ、騒乱中にターゲットになりそうになった際に、対立政党に帰属する民族のメンバーが救ってくれた。 ・当 Association での実績が認められたのか、当 Association のリーダーは、GOGES、Youth Association の長も兼任している。

調査地：ヨプゴン市 Bonikro スラム

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Management Committee
グループ名	Comite d'aide a restructuration de Bonikro
設立年	1996 年
設立動機	政府により地域開発のための設立を奨励されたため。
登録の有無	不明
メンバー構成	詳細不明
活動実績	域内における電気整備や給水整備等の際に管理委員会として活動した。

調査地：ヨプゴン市 Bonikro スラム

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Women's Association
グループ名	Général des Bomnico de Bonikro
設立年	1999 年
設立動機	平和と社会統合のため。
登録の有無	市役所に登録済み
メンバー構成	約 100 名。エグゼクティブメンバー25 名。民族構成は、ベテ、ゲレ、ジュラ、ブルキナファソ人、マリ人等。
現在の活動	月 1 度の会合を開き、その際に頼母子講のためのお金の徴収がある。
その他 特記事項	・騒乱時もメンバー間には問題は起こらなかった。

調査地：ヨプゴン市 Yopougon Sante 村

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	なし
設立年	不明
設立動機	不明

登録の有無	未登録
メンバー構成	不明。エグゼクティブメンバーは 25 名。
現在の活動	職探し等に忙しく、活動なし。
その他 特記事項	・リーダーは村長による任命制。

3-2：住民組織に係る聞き取り調査結果（現地社会調査団員による聞き取り）

調査地：ヨプゴン市 Niangon Nord カルティエ

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Women's association
グループ名	On est Ensemble
設立年	2003 年
設立動機	女性の相互扶助のため。
登録の有無	あり
メンバー構成	女性 50 名（バウレ、ジュラ、ベテ、ゲレ、グロ等）。エグゼクティブメンバー：ベテ、グロ、エブリエ、アニ、バウレ、ゲレ。
活動目的	小売業の実施
現在の活動	あまり活発な活動はなし。頼母子講（月 500FCFA）を実施している。
その他 特記事項	・市役所その他からの資金支援等はない。

調査地：ヨプゴン市 Gesco Manutention 1

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Women's association
グループ名	Gesco Manutention 1
設立年	2016 年
設立動機	地域内の女性の主体性を育て、市役所からの助成金を得るため。
登録の有無	なし
メンバー構成	女性 20 名（イスラム教徒、キリスト教徒、アニミスト等）
活動目的	Gesco Manutention 内の女性同士で互いに助け合うため。
現在の活動	あまり活動していない。
その他 特記事項	

調査地：ヨプゴン市 Adiapo doume 村

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Women's association
グループ名	Adiapo doume
設立年	2014 年
メンバー構成	女性 100 名強。各民族からの代表及び ECOWS からのメンバー。 エグゼクティブメンバー：代表取締役、役員、書記長、監査役、会計。 全メンバーがコートジボワール人であり、さまざまな民族や地域から成る。 グループは政治的活動とは無縁。

調査地：ヨプゴン市 Adiapo doume 村

項　目	概　　　　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	Adiapo doume 地区
設立年	2007 年
設立動機	若者の更生

登録の有無	あり
メンバー構成	エグゼクティブメンバー：代表（＋副 2 名）、書記（＋副 1 名）、調整係（＋副 1 名）、女性推進係（＋副 1 名）、教育関連係（＋副 1 名）、社会問題係（＋副 1 名）、会計係（＋副 1 名）。全メンバーがコートジボワール人であり、さまざまな民族や地域住民で構成される。グループは政治的活動とは無縁。
活動目的	若者をどのようにして組織に呼び込むかの協議を行う。
現在の活動	あまり活動していない。
その他 特記事項	・月 2 回会議を設けており、組織やプロジェクトについて協議している。

調査地：ヨプゴン市 Wassakara

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Women's association
グループ名	ヨプゴン市 Wassakara Belle damme
設立年	1996 年
設立動機	互いを助け合うことの重要性に対する意識を向上させるため。
登録の有無	あり
メンバー構成	女性 100 名（バウレ、ジュラ、ベテ、ゲレ、グロ、ECOWS からのメンバー） エグゼクティブメンバー：代表取締役、役員、書記長、監査役、会計。 さまざまな民族や地域から成る。皆、政治には無関心。
活動目的	小売業に特化している。
現在の活動	あまり活動していない。
その他 特記事項	・市役所からの助成はない。騒乱による活動への影響はなかった。

調査地：Auto Macca

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Women's association
グループ名	Femmes unis en 2000 Auto Macca
設立年	2016 年
設立動機	女性の財政管理援助のため。
登録の有無	なし
メンバー構成	女性 243 名（バウレ、ジュラ、ベテ、ゲレ、グロ、CEDEAO からのメンバー） エグゼクティブメンバー：代表取締役、役員、書記長、監査役、実行委員、会計。
活動目的	冠婚葬祭の執り行いの協議
現在の活動	・あまり活動していない。

調査地：Auto Macca

項　目	概　　　　況
組織タイプ	不明
グループ名	AJICAM
設立年	2015 年
設立動機	若者による組織ではない。騒乱後、彼が自ら若者たちとともに設立した。
登録の有無	なし

メンバー構成	300名（男女比不明）。民族構成は、バウレ、ジュラ、ベテ、ゲレ、グロ、CEDEAO等。エグゼクティブメンバー：代表取締役、役員、書記長、監査役、社会配慮責任者、防犯責任者、会計係。
活動目的	スポーツ/独立記念日や母の日、クリスマスなどのイベント準備に向けた会議を行う。
現在の活動	あまり活動していない。
その他 特記事項	・月に1回会合を開き、さまざまなトピックを網羅している。

調査地：ヨプゴン市 Bonikro スラム

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Youth Association
グループ名	Jeunes de Bonikro
設立年	2015年
設立動機	Bonikroの青年レベルに市役所からの情報を共有するため
登録の有無	なし
メンバー構成	男女比不明。エグゼクティブメンバー：代表取締役（彼は地域レベルの若者組織を務めていたため、若者たちより選出された）。各民族からの代表が集う、政治に関心はない。
活動目的	情報交換やスポーツアクティビティをより高める。
現在の活動	あまり活動していない。
その他 特記事項	・若年世代が組織でイベントを執り行うなど行動を起こした際など、上の世代は非協力的である、もしくは苛立ちを感じることもある。それに対し、女性はサポートをする。

調査地：ヨプゴン市 Yopuogon Sante 村

項　目	概　　　　況
組織タイプ	Women’s association
グループ名	健康に配慮する女性グループ
設立年	不明
設立動機	村の清掃活動
登録の有無	あり
メンバー構成	女性 60 名。民族混合：ディダ、アジュクロ、エブリエ、ゲレ、バウレ、アニ、ジュラ等。エグゼクティブメンバー：代表取締役、役員、書記長、監査役、会計係、顧問。
活動目的	清掃と互いへの配慮
現在の活動	あまり活動していない。
その他 特記事項	・政府機関からは助成を受けていない。

４．日程表

			Consultant/ Social Survey 社会調査 Ms. Yumiko KATAYAMA 片山　祐美子	Remarks
1	1/10	Tue	TOKYO/ NRT 2120 - DUBAI 0410	
2	1/11	Wed	DUBAI 0735 - ABIDJAN 1425	
3	1/12	Thu	10:00 Meeting with assistant surveyors for sharing ideas of survey contents and schedule, etc 15:00 Internal meeting at JICA office	
4	1/13	Fri	Further discussion on survey methods and schedule, and making appointment 10:00 Courtesy call on Abobo Commune (Confirmed) 12:00 Institut national de la statistique 15:00 Courtesy call on Yopougon Commune (Confirmed)	
5	1/14	Sat	Consideration of the survey method	
6	1/15	Sun	Document preparation	
7	1/16	Mon	Interview survey at Koute village and Sagbe Quartier, Abobo Commune	Afternoon: Activities at Abobo and Yopougon prohibited
8	1/17	Tue	Interview survey at Koute village, Yopougon Commune Interview survey by assistant surveyors at Port Bouet II Quartier at Yopougon	Afternoon: Activities at Abobo and Yopougon prohibited
9	1/18	Wed	10:00 Institute national de statistique 12:00 Internal meeting among the team 14:00 Coutesy call on Ministry of State, Ministry of Interior and Security	Afternoon: Activities at Abobo and Yopougon prohibited
10	1/19	Thu	10:00 Deputy Director of Technical Department of Abobo Commune Data collection from Abobo Commune and Yopougon 12:00 Deputy Director of Technical Department of Yopuogon Commune	
11	1/20	Fri	Data re-request to INS Office work	
12	1/21	Sat	Analysis of collected data	
13	1/22	Sun	Analysis of collected data	
14	1/23	Mon	Data re-request to INS 11:00 DG of INS 12:00 Councilor and Director of Mapping and IT Office work	Whole day: Activities at Abobo and Yopougon prohibited
15	1/24	Tue	12:00 ONUCI Data collection at Abobo Commune Office 15:30 Director of Technical Deaprtment of Yopougon Commune Data collection at Yopougon Commune	INS promised to provide the data by this date
16	1/25	Wed	Data collection from INS 16:00 Deputy Director of Technical Department of Yopougon Commune	
17	1/26	Thu	Data analysis Data collection from INS, Abobo Commune and Yopougon Commune by Assistant Surveyor	
18	1/27	Fri	11:00 D38 15:00 Interview survey at Abobo Depot9 Extension Quartier	
19	1/28	Sat	Analysis of collected data, preparation of questionnaire	
20	1/29	Sun	Analysis of collected data, preparation of report	
21	1/30	Mon	10:00 Interview Survey at Agbekoi Village	
22	1/31	Tue	10:00 Interview Survey at SAGBE Qurtier	SAGBE (Center, Nord, Sud)
23	2/1	Wed	10:00 Interview Survey at Banco 1 & 2	
24	2/2	Thu	10:00 Interview Survey at Cent Douze Hectares 14:30 Interview Survey at Abobo Sud 3S Tranche	
25	2/3	Fri	9:00 District Abobo Police 10:30 Interview Survey at Banco 1 &2	
26	2/4	Sat	Analysis of collected data, preparation of report	
27	2/5	Sun	Analysis of collected data, preparation of report	

			Consultant/ Social Survey 社会調査 Ms. Yumiko KATAYAMA 片山　祐美子	Remarks
28	2/6	Mon	10:00 Interview Survey at Akeikoi 16:00 Yopougon Commune office (discussion on selection of survey sites)	
29	2/7	Tue	10:00 Interview Survey at Agbekoi 14:30 Interview Survey at Agoueto	
30	2/8	Wed	10:00 Interview Survey at Sogefiha	
31	2/9	Thu	10:00 Interview Survey at Gesco Manutention 15:00 Interview Survey at Niangon Nord	
32	2/10	Fri	11:00 Election Commission 15:00 Interview Survey with former CCGPP member in GS SOGEFIHA 6	
33	2/11	Sat	Analysis of collected data, preparation of report	
34	2/12	Sun	Analysis of collected data, preparation of report	
35	2/13	Mon	10:00 Interview Survey at Adiopo Doume village 13:30 Yopougon Commune office (discussion on selection of survey sites)	
36	2/14	Tue	10:00 Interview Survey at Zone Industrielle 15:00 Interview Survey at Gare-sud SODECI-GFCI	
37	2/15	Wed	10:00 Interview Survey at Mamie Faitai Slum	
38	2/16	Thu	10:00 Interview Survey at Bonikro Slum 15:00 Interview Survey at Yopuogon Sante village	
39	2/17	Fri	11:00 Interview Survey at SIDECI-SICOGI Location Ventel	
40	2/18	Sat	Analysis of collected data, preparation of report	
41	2/19	Sun	Analysis of collected data, preparation of report	
42	2/20	Mon	10:00 INS	
43	2/21	Tue	12:00 INS	
44	2/22	Wed	10:30 Ministry of Solidarity, Social Coesion and Victim Indemnification 14:00 INS 15:30 JICA Côte d'Ivoire Office	
45	2/23	Thu	10:00 Ministry of State, Ministry of Interior and Security 15:00 Abobo Commune	
46	2/24	Fri	10:00 Yopuogon Commune	
47	2/25	Sat	Preparation of completion report	
48	2/26	Sun	Preparation of completion report	
49	2/27	Mon	Report to JICA Côte d'Ivoire Office ABIDJAN 1605 - DUBAI 0555	
50	2/28	Tue	DUBAI 0835 - TOKYO/ HND 2245	

５．調査対象者リスト

Name	Organization &Position
JICA	
飯村　学	JICA コートジボワール事務所所長
安孫子　悠	JICA コートジボワール事務所
岡本　真澄	JICA コートジボワール事務所
Ministry of State, Ministry of Interior and Security	
Lazare Dago Djahi	General Director
Noel Tahet	DGDDL Sub -General Director
Gbala Gnato	DGDDL DDL/DGDDL
Nemlin Abel	Assistant Coordinator of COSAY phase I SDMEFE/DGDDL
Doukoure Yaya	Directeur de la corperation decentralisé
Yapo Jean Jacques	Assistant General Director
Pangbo Nadège	Intern
Ministry of Solidarity, Social Coesion and Victim Indemnification	
Seka Michel	Director of solidarity and social cohesion
DogoKobenan	Sub-Director Social structure
Konan Affoué Josee	Assistant
Abobo Commune Office	
Yves Doumbia	Director at the Communication
Barro Mahoussa Saran	Director Social cultural Dept
Koffi Kouadio Denis	Deputy Technical Director
Kone Siaka	4th Deputy Mayor
Soro Gniminhougui	Assistant General Secretary
Yopuogon Commune Office	
Coulibally Bengaly	Director Human Development
Bamba Lanciné	Sub Technical Director
Coulibally Yaya	Director of Cabinet
Yeo Adama	Director of technical department
Kablan Sahi	In charge of communities organization
Ouattara Seydou	Director of Equipment and Heritage, Director of Technical Service
Coulibaly M. Debolo	Director of Education, Health and Social Affairs, Director of Human Development
INS	
Jeannine Coulibaly	General secretary
Diomandé sindou	Department of Mapping and IT
Kouakou Lucien	General director advisor
Clementine Kouakou	Customer advisor

BNETD (CCT)	
Albert Kouamé	Chief of Service
ONUCI	
Ely DIENG	Chief Security Sector Reform Division
Police	
Timité Vassindou	Police chief
Electoral Commission	
Jeannine Coulibaly	General Secretary
Yaya Koné	In charge of studies

Abobo Commune における社会調査	
Avocatier Nguessankoi CCGPP member	
Zadi Nadgé Daniel	Chief of Bete
Tamini Gaoussou	Chief of Senoufo
Abobo Sagbé – 22 attendants	
Kocou Yomafou	Central Chief
Toure Amidou	General secretary of chiftaincy
Yapo Neke constant	Chef attié
Coulibaly Mouctar	notable
Abobo 112 hectares – 7 attendants	
Coulibaly Abdoulaye	President ADAC
Abdoulaye Diakite	ONG sidmin
Abou sow	ONG ville propre
Abobo Sud 3S tranche -28 attendants	
Koné Essoh	Spoksmane
Dohou ramatou	COGES
DOSSO Meboutou	COGES
Abobo SOGEFIHA	
Ouattara	Spoksmane
Agbékoi village- 20 attendants	
Adepo Ahou Hubert	Chef Agbekoi
Assy mambo pierre	Notable
Atsin Yapo Felix	S.G chieftaincy
DAVID KOKORA	DIDA Chieftaincy
Ble Albert	Bete chieftaincy
Abobo Banco 1 & 2- 24 attendants	
Doumbia Abpoulaye	Spokesman
Yao kouassi	School director
KONE YAYA	Treasurer of coges
SANOGO KAMAL	Imam
Abobo Aguéto	
Maniga Dramane	Centrale chief
Abobo Baoulé	
Mobio Huber	Spokesman of the chieftainciy
Akeikoi	
Gbazalé Irad	Presidente of Femme en action

Yopougon Commune における社会調査	
Yopougon Koute village- 20 attendants	
Botto M'Bouke	Chief of the village
Toure Abdoulaye	Vice President of Amicale
Karaboue Mori	Central chief
Adiapo Doumé- 29 attendants	
Tieu Ban Edouard	Chef central Dan
Karamoko Daouda	Koyaka Chief
KaboreLéonard	1st Deputy Burkinabe Chief
Sacco Mamou	Market place vice president
Barro Yaya	In charge of security
Diarassouba Fanta	President of the market place
Dago Innocent	Dida Chief
Yaoyao Jacob	Attié Chief
Gomis Aké	Youth President
Wassakara- 17 attendants	
Dago Michel	Central Chief
Sourabié Koutou Yacouba	
Kanata Baba	
Haidara Abdoulaye	
Diarassouba Fatou	
Zone Industriel- 17 attendants	
Douoma Adolphe	Chef central
Kouakou Adjoua	Women President
Oulai Freddy Francois	Yacouba Community
Sadia Jean Ephreme	Youth Asso General secretary
Sandeu Gilbert	Chief advisor
Yapi Achi Mathias	Attié Chief
Tagbo Ludovic	Bété chief
Gesco Manutention- 20 attendants	
Ouattara Lagazane	Imam
Goh Doueu Adolph	Community Chief
Oulai Gilbert	Community Chief
Kouassi Assi	Land owner
Bagoh Victor	Notable
Momo Pascal	Priest
Nguessan Samuel	Community Chief
Mamie Faitai- 18 attendants	
Dosso Adama	Secretary
Karamoko Abdoul karim	Youth president
M'bolo edi florentin	Abey Chief
Koné Abdoulaye	Chief malinké
Diomande Kader	Imam
Kongo Narcise	Youth president baoule
Niangon Nord -27 attendants	
Tia Yonkpo	President GRSN (association)
Dobe Dieudonné	Retired
Gomé Lucie	Vendor
Yao Traore	Member GRSN
Deli Jean	Retired
Yopougon Sante- 15 attendants	

Essoh Daniel	
Biekoua Claude	Chieftaincy
Assahoua Jotten	Chieftaincy
Djiro Roger	Chieftaincy
Daba Jacob	Chieftaincy
Daba James	Association president
Aka Agnès	
Bonikro – More than 40 attendants	
Koffi Daingri	Central chief
Goury seri Emile	Vice president
Lessiei Gabriel	Secretaire CAR association NGO Afrique
Yalley Cesar	Women president
Tahé Francoise	Women association pr
Zombra Adjata	Electrician
Boli Anderson	School Director
Bamba Fatoumata	
Port Bouet 2- 7 attendants	
Koné Salimata	Women representative
Moussa Traore	Habitant
Diallo Ibrahim	President of youth
Dah Sié	Lobi Chief
Kouté Village-16 attendants	
Boto M’bouke	Chief of village
Bedji bale	Spokesman
Abry Ake David	Chief of notable
Akre Michel	Notable
Agba Alfred	Notable
CCGPP sogefiha6 -3 attendants	
Gnahoun Hypolithe	President quartier
Rabée Magloire	Responsible ONG
Kouamé Kan Dieudoné	President COGES

６．議事録

報告日：2017 年 1 月 13 日

場　所	Abobo 市役所
日　時	2017 年 1 月 13 日（金）10 時 10 分～11 時 10 分
出席者	Abobo Commune: Mr. Koné Siaka, Ms. Barro Mahoussa, Mr. Adama Wagué, Mr. Koffi Kouadio Denis, Mr. Soro Gniminhougun JICA: Ms. Okamoto, Mr. Goddi JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	調査概要説明（WP の提出）及び入手希望データの確認
協議内容	・3 月に実施される詳細計画策定調査に先立ち、基礎情報の収集や対象地域の社会構造理解、社会統合の促進・阻害要因等を探るための社会調査の実施を計画している旨、専門家より説明。 ・面会に先立ち依頼していたデータについて、17 日（火）までに用意することが約束された。 ・データを待つ間、土地勘をつかむため、Quartier（1）、Village（1）を訪問したい旨提案し、了承された。先方から提案された Agbekoi village 及び Sagbe Quartier を訪問することとなった（市役所職員による案内あり）。なお、両サイトの選定に際しては、C/P が思う“社会統合の比較的進んでいないところ”を選定したとのこと（通訳談）。 ・調査サイト選定後の社会調査実施に「市役所職員の同行が必要か」と問われたため、「忙しいとは思うがもし同行していただけるならありがたい」と回答した。

報告日：2017 年 1 月 13 日

場　所	INS（Institut National de la Statistique）
日　時	2017 年 1 月 13 日（金）12 時 10 分～12 時 50 分
出席者	INS: Ms. Cha JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	管理データの確認
協議内容	・データ管理を実際に行う担当者は不在であったが、Quartier だけでなく、Sub-Quartier ごとのデータが出せるとのこと。協議において先方があると答えたデータは以下のとおり。月曜に担当者がアビジャンに戻り次第、再度資料代、納期などについて協議することとなった。 　・人口（男女・年齢層別)、世帯数 　・民族グループ（5 分類） 　・宗教 　・コートジボワール人と他国籍保有者の数または割合 　・教育レベル 　・妊産婦死亡率 　・生業〔多くても 10 分類にしてほしいと依頼（例：農業従事者、公務員、雇用者等〕 ・カルティエレベル、サブカルティエレベルで提示可能なデータリストの作成も依頼した。

報告日：2017 年 1 月 13 日

場　所	ヨプゴン市役所
日　時	2017 年 1 月 13 日（金）15 時 10 分～16 時 10 分
出席者	Yopougon Commune: Mr. Bengaly Coulibaly, Mr. Bamba Lanciné, Mr. Coulibally Yaya JICA: Ms. Okamoto, Mr. Goddi JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	Yopougon Commune Map
打合せの目的	調査概要説明（WP の提出）及び入手希望データの確認
聞き取り内容	・事前に依頼していたデータについては、Technical Unit の Director が用意していたが、出張のため不在。データは預かっていないとのこと。随時収集できたものから提供してもらうよう依頼した。一般的に、市役所にデータはなく、市役所も必要に応じて INS からデータをもらっているのが現状とのこと。 ・ヨプゴン市の面積は 152km^2、28 カルティエ＋11 村から成る〔INS（統計局）のデータ（出国前に前川職員より共有）では、カルティエと村を合わせて 28〕。48 の Slum Quartier から成るという説明もあった（市役所からのデータ収集後、再度確認する）。 ・ヨプゴン市の地図を用いて説明してくれたところによると、Quartier はいくつかの Sub-Quartier 及び村で構成されており、Quartier と同じレベルで村が存在する。Quartier の下位ユニットである村と、Quartier と同じレベルで存在する村の違いは、土地を売ってきたかどうか〔前者は土地を売らず村として存続してきたのに対し、後者は村の土地の一部を入植者に対して提供（販売）し、それらが現在サブカルティエになっている〕。 ・ヨプゴン市においても、土地勘をつかむため、Quartier（1）、Village（1）を訪問したい旨提案し、了承された。先方が提案した Koute Village 及び Port-Bouet 2（Quartier）について、特に選定理由はないとのこと。17 日（火）に訪問する。 ・ヨプゴン市だけでも、Association の数は 1,000 以上あるとのこと、とりあえずソフトデータをもらって内容を確認することとした。多くの Association が支援を受けるために名前を登録しているだけであり、アクティブでないものが多い。アクティブな Association のリストを市役所で提供することは可能。 ・ローカル NGO は特にいない（存在はするが活動していない）。 ・提供してもらった地図は政府機関の CCT が作成したものである。

報告日：2017 年 1 月 16 日

場　所	Agbekoi village, Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 16 日（月）10 時 35 分～11 時 30 分
出席者	Village chief 及び 11 名の Chieftaincy メンバー（すべて男性） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	アボボ市における“村”の実態把握
聞き取り内容	・アボボ市役所の取り計らいで、人が集められていた。 ・Agbekoi 村は、アティエの村であるが、ジュラやベテ等も居住している。民族ごとにかたまって居住しているというわけでもない。 ・現在の Agbekoi 村は、ココディ大学周辺から移動してきた 3 村（Awekoi、Abukoi、Agbekoi）によって構成された村である（民族はすべてアティエ）。村の設立は 1969 年、大学や警察学校等の建設により立ち退きを余儀なくされた。この 3 村は、移転前から 3 村から順繰りに 1 名の村長〔もしくは各村に村長がおり、さらにそれらを束ねる村長として 1 村の村長が選ばれていた？（聞き取り不足により不明）〕

	が選出されていた。Chieftaincy のメンバー（12 名＋村長）は、主要ファミリー（通訳 : big family）の長で構成されており、必ず 3 村から選出される（アティエのみ）。また、Chieftaincy のメンバーから村長が選出されることになっている。村長の任期は死亡するまで、Chieftaincy のメンバーも村長の交代時に選出される。Chieftaincy のメンバーはどの村においても 12 名であるわけではない。 ・村長及び Chieftaincy の役割は、social problem/conflict の解決であり、解決しない問題については市役所へ知らせる役割を担っている。その他、開発関連の相互情報共有において、コミュニティと政府をつなぐ橋のような役割である。 ・当該村において、クラン（clan）やリネージ（lineage）等はあまり意識されず、“Family”がその単位となる（ただし、“Family”の定義がかなり曖昧であると感じた。インフォーマントの例で説明をしてもらった際に、最初は 8 名がファミリーメンバーであると回答していたが、最終的には 20 名となった〔8 名：村長＋妻＋子ども 6 名、20 名：左 8 名＋孫 3 名＋ひ孫 2 名＋いとこ 2 名＋姪 2 名＋孤児 2 名（甥の子ども）〕。これら 20 名が 7 つの建物に分散して生活している（7 つのうち 1 つは貸し出し用、もう 1 つが事務所とのことで、実際の居住空間は建物 5 つ分）。消費単位（調理単位）は 1 つである。夫婦でない男性と女性は兄弟であっても居住空間を別にしている。なお、ファミリーメンバーが 8 名であると回答していた際には、西洋化の影響であると説明していた）。 ・村の移転に伴う政府からの補償は不十分であり、与えられた土地も十分でなく（移転前に比べてかなり縮小化された）、そのために土地を売ることができない（売りたいのに売れないという言い方）。 次の訪問地でも人が待っているということで、調査を中断。再度訪問する可能性があり、その際にも情報提供をお願いしたい旨伝えた。

報告日：2017 年 1 月 16 日

場　所	Sagbe Quartier, Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 16 日（月）11 時 45 分～12 時 45 分
出席者	各民族のリーダー、イスラム教リーダー（イマム） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	アボボ市における“Quartier”の実態把握
聞き取り内容	・Sagbe カルティエの特徴は、人口が多いこと、危険といわれる地域、貧しい、特に保健施設が充実していないこと等が挙げられた。他民族であること、宗教もバラバラであることについては、お互いの結婚式や葬式等にも出席し、関係は良好であるとのこと（本回答に対し、現地社会調査団員は、これはオフィシャルな回答であると発言した）。 ・Sagbe カルティエは、6 つのサブカルティエで構成される（村はなし）。カルティエには、6 つのサブカルティエを統括する Central chief（Mr. Etienne Kakoo）がおり、さらに各サブカルティエに Local chief がいる。そのほかに、各民族の長がいる。サブカルティエの長である Local chief は、2 年ごとに各民族の長から選出され、Central chief は 3 年ごとに選挙によって選ばれる（6 Local chief＋1 Central chief か、Local chief のうちの 1 名が Central chief となるのか、未確認）。さらに、各サブカルティエには最低 1 名ずつのキリスト教リーダー及びイスラム教リーダーがいる。 ・各民族のチーフの役割は、コミュニティの取りまとめ、それぞれの民族の担当地域内の全メンバーの同定、出生・死亡等を知らせること等である。Local chief は、行政や Cental chief がコミュニティに連絡をとりたい際に、ファーストコンタクト

	先になることが多い。Central chief は、6 つのサブカルティエをまとめ、行政とコミュニティをつなぐ役割を果たしている。発生した問題について、当該問題が民族内の話であれば、民族リーダーを筆頭に民族内で解決するが、問題が民族をまたぐ場合は、関係する民族リーダーだけでなく、全民族リーダーが集まり協議する。Local court のようなものはない。 ・民族によっては、定期的に会議を行うところもある（3 カ月ごと、1 カ月に 2 回、1 カ月に 1 回等さまざま）。話す内容は、今日のような外部者とのミーティングの内容の共有、出生・死亡にかかる連絡等である。 ・カルティエ、Central chief 下にアシスタントメンバー〔6 名の Deputy chief（Local chief に同じ）、2 名の秘書（General secretary+Deputy general secretary）、1 名の会計係、1 名のコンフリクトマネジメント係、1 名の調整係、1 名の宗教係〕がいるが、オフィスもなく、あまり機能していない。 ・民族の長にもアシスタントメンバーがいるところもある（全部の民族長においてか否かは不明）。例えば、秘書、会計係、スポークスマンである。 ・（道路や学校・保健施設の建設等のプロジェクトがあり、それらを管理するグループが形成されるとしたら、だれがメンバーになるべきと考えるか）カルティエを構成する全民族（チーフがいないマイナー民族は含まない）の代表、（女性や若者を巻き込むために）青年グループ及び女性グループの代表、ローカル NGO〔財源は不明だが、サニテーションや暴力撲滅の分野で活動している NGO が多数いるとのこと。当地では暴力（家庭内に限らず）が大きな問題となっている〕。 ・プロジェクトが、一地域に限定される学校・保健であっても、整備区間が広範にわたる道路であっても、カルティエ内の全民族チーフを入れるべき。学校や保健施設は、サブカルティエを超えて利用することが見込まれるため。しかし、利用が見込まれるものであっても、建設地が位置するカルティエ以外のカルティエからのメンバーは含めるべきではないとの意見。 ここで、安全確保の観点からアボボ市からの退避が必要となり、調査を中断した。再度訪問する可能性があり、その際にも情報提供をお願いしたい旨伝えた。

報告日：2017 年 1 月 17 日

場　所	Koute village, Yopougon Commune
日　時	2017 年 1 月 17 日（火）10 時 20 分～12 時 20 分
出席者	Village chief（Vice Mayor of トレッシュビル）＋chieftaincy JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	ヨプゴン市における“village”の実態把握
協議内容	・当該村の成り立ちは 1700 年代といわれている。アビジャンはもともと 1 つの大きな村から構成されており、人々はともに生活していたが、争いが起こったために 7 つに分割された。当地はもともと Yopougon Koute と呼ばれる大きな村であり（Yopougon 市名称の起源）、人々は農業を営んでいた。当時、すべての土地を開墾できていたわけではなく、それらの土地を入植者や政府に分け与えている（販売）うちに今の大きさになった。 ・村の人口の 8 割以上はエブリエ（アチャン）族と思われる（人口などの詳細データはなし）。そのほかにもセヌフォ、ジュラや、外国人も多く居住している。 ・当該村はカルティエの下には位置しておらず“村”である。当該村に限らず、Quartier に属する村はない（前週の市役所での説明と異なるため、市役所職員に再度確認したが、市役所職員は、当該村は Yopougon Koute Quartier に属するとのこと）。

	・当該村は 4 つのサブカルティエ（アトー、ムエトー、アブージャミャン、アテアカバ）で構成される。 ・Chieftaincy は、36 名（Village chief は含まない）で構成される。エブリエには、エージグループが存在し、ドゥボ（＞54 歳）・チャバ（43〜53 歳）・ブレスエ（30〜42 歳）・ニャンド（20〜29 歳）の 4 つに分けられる（回答から、実際は、カッコ内の年齢のように必ずしもキレイに分けられてはいないように見受けられた）。この 4 つの区分はさらにそれぞれが、ジェウー・ドゥバ・アグバン・アスクの 4 つに分けられる。Chieftaincy のメンバーは、最高齢のエージグループであるドゥボの 4 カテゴリーからそれぞれ 9 名ずつが選ばれることとなっている。メンバーは 10 年ごとに再選出される。ドゥボは、Chieftaincy のメンバーに限らず、当該村で力をもつ。各エージグループは男女混合であり、女性の方が数が多いが、女性が Chieftaincy メンバーに選ばれることはない。また、エブリエのみがメンバーになれる（ここは意見が大きく分かれ、エブリエ以外でもエブリエの妻をもてばメンバーになれるという説明をする人、この説明に大きく反対し、この村でエブリエ以外がメンバーになったことはないという人がいた。当インタビューに参加している人はすべてエブリエである）。 ・Chieftaincy のメンバー以外にもサブカルティエのチーフが存在する（Chieftaincy のメンバーとは異なる）。サブカルティエのチーフは、それぞれのサブカルティエの中の長老が担うことになっている。また、そのほかにも、地域内のリーダー的存在として、各エスニシティの長、青年グループや女性グループの長等がいる。 ・村で何かを決定する際、Village chief、Chieftaincy、ブロクモとよばれる長老で構成される御意見番が集まり、協議をする。性質上、これらはエブリエのみの参加となるため、決定事項は、他民族の人にも伝わるよう、各エスニシティの長等に適宜共有される。 ・Village chief の下には、Deputy village chief、Secretary、Treasurer、Spokesman、Auditor、Councilor がおり、それぞれの役割を果たしている。 ・市役所やドナー等が当該村において何らかのプロジェクトを実施したい場合にコンタクト先となるのは Chieftaincy のリーダーである。しかし、当リーダーは村の詳細な情報をもち得ておらず、また、他の各種リーダー、上記 Secretary 等も人口を含め、正確な情報は把握していない（集まれば確認することはできる）。 ・社会統合を進めるためには、人々が集まる場所が必要（例えば、水道ではなく、人々が集まって水を汲むような給水施設の方が社会統合には寄与する）。また、コミュニティセンターのような、民族を隔てずだれもが集まれるような施設も有効であると考える。 ・社会統合が進んでいないコミュニティとはどんなコミュニティかという問いに対しては、権力者（authority）やローカルルールを尊重しない、土地問題を抱える〔当地でも期限を切って契約書を手交したうえで貸しつけている土地を返さない外国人（Foreigner という訳）がたくさんいる〕、婚姻に際してもローカルルールを尊重しないといった意見が聞かれた。 ・また、コミュニケーションを増やそうが何をしようが、政治的な解決がない限りは社会統合等語れないという意見も 1 名から挙がった（彼の両親はいまだに投獄されており、他方は解放されているのにという思い。彼らが刑務所から出てこない限り、何も進まないとの意見）。

報告日：2017 年 1 月 18 日

場　所	INS
日　時	2017 年 1 月 18 日（水）10 時 10 分～12 時
出席者	INS：Ms. Cha JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	データ提供にかかる進捗把握及び再要請
協議内容	・INS がどのようなデータをもち合わせているか、そのリストとなるものは存在しない。情報を求める人からの要請があって初めて、渡せるか渡せないか、という回答ができる。 ・カルティエレベルでもち合わせていると思われる情報は以下のとおり。 ・Ethnicity/Nationality ・Age ・Religion ・Population of Handicapped ・Level of instruction（education level） ・Alphabetization ・Type of occupation ・Marriage status ・Marriage type（ゲイ等、という説明であったが、一夫一妻か一夫多妻かの分類？） ・居住地のタイプ（部屋数、フロアや壁の種類） ・飲料水のタイプ ・電力事情 ・調理施設 ・排水のタイプ ・ごみ処理のタイプ ・その他所有物（冷蔵庫や TV 等） （この時点でもまだ、データにアクセスできる人がいないとの理由で情報提供が遅延。翌月曜には必ずデータを提出するとの約束をもらう）

報告日：2017 年 1 月 18 日

場　所	Ministry of State, Ministry of Interior and Security
日　時	2017 年 1 月 18 日（水）14 時～14 時 40 分
出席者	Ministry of State, Ministry of Interior and Security: DG、Project Coordinator of COSAY、他 2 名 JICA: Ms. Okamoto, Mr. Goddi JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	調査概要説明（WP の提出）及び今後の協力要請
協議内容	・JICA チームより、プロジェクトの目的説明及び調査内容等について説明した。 ・現在、データ収集について困難な状況にある。 ⇒基本的にはデータは、市役所や内務省もすべて INS から受領しており、INS からの情報収集が重要となる。INS からの情報収集が難しい場合等は、COSAY フェーズ 1 でプロジェクトコーディネータを務めていた Gbala 氏へいつでも協力要請をしてほしい。 ・当国には 60 以上の民族が存在しており、同時に複数ある政党にはそれぞれの民族

	が帰属するような社会構造にあり、これが人々の間の緊張を生じさせてきた。人々が協働する機会を提供することは、社会統合の促進に有用である。同じ目的に向かって人々が同じ空間にいることが社会統合において重要である。 ・大統領選挙後の騒乱においては、隣人が互いの支持政党を糾弾し合ってきた。騒乱が終結しても、隣人との間にわだかまりが残っている。地域の発展という同じ目的をもって、住民が一緒に働くことが必要であり、このような活動が社会統合に寄与する。 ・社会統合について、何をもって社会統合が達成されたといえるかについては、回答が難しいが、例えばトレッシュビルは、さまざまな帰属（民族的違い、外国人の存在、政治的多様性）をもつ人々で構成される地域であるが、人々は争いなく一緒に住んでいる。 ・社会統合の達成を測る指標については、今回の調査結果で得られたものが指標になっていくのだろう。 ・CCGPP については、フェーズ 1 ではプロジェクト終了後に解散となっていたが、維持管理の観点からも、継続して活動機能をもたせることが必要である。また、カルティエ内のすべての民族代表を含めるべきとの意見があるようだが、人数が多くなりすぎることのデメリットも考慮しなければならない。

報告日：2017 年 1 月 20 日

場　所	Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 19 日（木）10 時 10 分～11 時
出席者	Abobo Commune: Deputy Director of Techincal Department JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	アボボ市 3 カ年計画（2017～2019 年）
打合せの目的	3 カ年計画策定プロセスの確認
協議内容	・市長がコミュニティから得られた情報を基に（葬式出席などの際にコミュニティの人から挙げられた要望を基に作成される。全カルティエについて調査を行ったりはしない）、プロポーザルを作成し、それが Municipality に送付され、リスト内のプロジェクトから取捨選択がされる。これと並行して、国家機関の BNETD がインフラ整備の状況などを調査を実施し、市役所へ報告する。当調査結果を踏まえ、Municipality の Council メンバーが多数決で優先順位をつける。計画書全体は、市役所技術局が毎年 7 月をめどに 3 カ年計画案を策定する。 ・3 カ年計画は毎年見直されるが、必ずしも前年のプライオリティがそのまま翌年に引き継がれるわけではなく、市長が追加したいプロジェクトが適宜追加され、優先順位づけされ、修正が加えられるものである。 ・3 カ年計画で実施するプロジェクトの財源はすべて地方財源だけで賄われている。 ・市役所には Social Cultural Department、Technical Department、Community Department があり、それぞれが、社会統合及び教育、サニテーション及び水・道路、コミュニケーション等の分野を担当する。市役所内の各割り当てのほか、保健及び教育については中央省庁の出先機関があり、当該分野については当出先機関とも協議を行う。 ・市にかかわり得る計画としてコミューンの 3 カ年計画のほかに、県開発計画、セクター別開発計画がある。県の上の行政区分であるレジオン（Region）独自の開発計画はない。

報告日：2017 年 1 月 20 日

場　所	Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 19 日（木）11 時 5 分～11 時 15 分
出席者	Abobo Commune: Director of Social and Cultural Department JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	Abobo Commune に登録されている Association リスト
打合せの目的	Association リストの回収及びアボボ市で活動するドナー、NGO 等の情報収集
協議内容	・Association リストを受領したが、地域属性の記載がないため、後日データをもらうこととなった。なお、当該リストには、名前だけの Association も含まれているとのこと。 ・アボボ市で活動する NGO 等について、市役所への報告がないため、どの分野でどのような NGO が活動しているのかわからない。USAID が社会統合にかかる研修ワークショップを開催したり、社会統合にかかる住民のセンシタイゼーションを行ったりしていると思うが、詳細はわからない（連絡先もなし）。そのほかには、教育・保健・開発のための運動（Mouvement pour l'Education, la Santé et le Développement : MESAD）という国際 NGO が、おそらく教育分野で活動していると思うが、こちらも一切市役所には報告がないので実状はわからない。

報告日：2017 年 1 月 23 日

場　所	INS
日　時	2017 年 1 月 23 日（月）10 時 50 分～11 時 30 分
出席者	INS: Mr. トラオレ JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
入手データ	なし
打合せの目的	依頼データの提供の再要請
協議内容	・データにアクセスできるというトラオレ氏との面会がかない、再度データの要請を行った。 ・約 400 ユーロで、1998 年のデータであれば提供できる。カルティエレベルであれば、翌日にも提供する。サブカルティエレベルのデータも提供できるが時間がかかるうえ、サブカルティエは住民レベルでいかようにも増やせるため、現状に即したデータとはいいづらい。2014 年のデータについては、市レベルの解析までしか進んでおらず、カルティエ別のデータの提供は不可能である。 ・どのようなデータが提供できるかについては、リクエストベースでしか回答できず、INS 内で整理はできていない。 ・（UNDP 支援による紛争マッピングデータが INS で閲覧可能との話を聞いたのだが）そのようなものは聞いたことがない。同僚などに聞いてみるとの回答であった（その後も問い合わせたがだれも知らないとの回答があった）。

報告日：2017 年 1 月 23 日

場　所	INS
日　時	2017 年 1 月 23 日（月）11 時 50 分～12 時 10 分
出席者	INS: DG of INS JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
入手データ	INS の組織図
打合せの目的	組織図の入手

協議内容	・今後のデータ収集の効率化のため、組織図をもらうために訪ねた DG 秘書室において、DG から挨拶がしたいとのことで DG に通された。 ・INS の訪問目的と現在の状況を JICA チームから説明した。 ・JICA は INS のパートナーであり、無償でデータを提供するよう、DG から部下に伝える。2014 年センサスの責任者であった現 Councilor のルシエン氏を紹介してもらい、早急に依頼データを提供するようお願いしていただいた。また、組織図についても承認が得られたばかりの最新版を提供していただいた。

報告日：2017 年 1 月 23 日

場　所	INS
日　時	2017 年 1 月 23 日（月）12 時 20 分～12 時 40 分
出席者	INS: Councilor of INS, Director of Mapping and IT Department JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
入手データ	なし
打合せの目的	依頼データの再要請
協議内容	・1998 年のセンサスデータについて、依頼してもらっているものについては、明日までに提供するよう部下に伝える。依頼してもらっているもののうち保健にかかる指標（妊産婦死亡率等）については INS ではもち合わせておらず、提供できない。また、サブカルティエについては、住民がいかようにも分類可能なため、膨大な情報の割にはあまり役に立たない可能性もある（カルティエのデータのみを早急に頂けるよう再度お願いした）。 ・2014 年のデータについては、市レベルのものしかないが、翌週月曜までに何とか提供できるように部下に伝える。

報告日：2017 年 1 月 28 日

場　所	ONUCI
日　時	2017 年 1 月 24 日（火）12 時～12 時 50 分
出席者	ONUCI: Mr. Ely Dieng（Security Unit） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	Le magazine de la réforme du securiteur de la sécurité
打合せの目的	社会統合の現状及び ONUCI 活動における社会統合に係る教訓等
協議内容	・アビジャンの中で、アボボとヨプゴンは暴力的な課題の残る地域といえる。 ・社会統合の文脈において、セキュリティの確保は必須である。セキュリティの確保については、国家的な視点が必要であり、上層の人々、政治家の意識を変える必要がある。また同時に、ミリタリーや警察の意識改革も重要であり、彼らからの働きかけによるコミュニティのセンシタイゼーションも求められている。 ・2012 年から 2017 年の ONUCI の活動では、安全保障部門（セキュリティ、DDR、人々への啓発等）に係る活動実施に際し、政府機関や研究機関を支援しており、ONUCI 主導ではなく、相手国政府主導で実施することを求めている。当国において、安全保障は最重要課題であり、それが達成されて初めて、当国の開発に進めるのである。不安定な国においてプロジェクトの実施は不可能である。 ・資機材の供与や研修の提供だけでなく、現在、ソフト面での支援が重要になっていると考える。警察や政府が住民に対してどのように作用すべきかについて考える必要がある。セキュリティプロバイダーとして、人を文化的にも理解し、実際に何が起こっているのか、住民に対して説明責任を果たすことが求められている。市長は、彼らへの説明責任を果たす義務がある。

	・ハード面の支援については、C/P 機関の職場環境改善のための資機材の提供も重要である。 ・また、政府は若者の就業を支援することが求められている。彼らが職を得ることによって、国全体や自分たちの地域のセキュリティや発展について関心をもつようになり、それが地域の安全保障にもつながるのである。 ・社会統合については、セキュリティ部門の Dieng 氏には多くはわからないため、ONUCI の他部局で話を聞いた方がよいとのことで、連絡先を頂いた（当日連絡するも終日つながらず）。 ・当国には、セキュリティ関連の組織として、大統領率いる国家セキュリティ委員会があり、さらに 31 地域にそれぞれ地域セキュリティ委員会、さらに下位組織として Local Security Committee が設置されている。Local Security Committee の設置は効果的ではないとして、現在下火になっている。 ・UNDP 支援により作成されたとされる紛争マッピングについては、全国に対して作成されたものではなく、ブアケ、コロゴ（？）等地域は限定されているはずである。彼自身はそのデータがどこかにあるのかなど、詳細はわからないとのこと。

報告日：2017 年 1 月 24 日

場　所	Yopougon Commune Office
日　時	2017 年 1 月 24 日（火）15 時 30 分～16 時
出席者	Yopuogon Commune: Mr. Yao Adama JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	Yopuogon 3 カ年計画（2017-2019）
打合せの目的	ヨプゴン市 3 カ年計画策定プロセスの確認
協議内容	・カルティエレベルから出る住民のリクエスト（口頭での要請）をリスト化し、市長に提出する。 ⇒市長が確認ののち、市役所の技術局がリストにある全リクエストについて Evaluation（場所の確認、費用の算出）を行う。そのデータをもって、技術局がリクエストの絞り込みを行う。その際、一番に考慮されるのは、予算から実施可能なプロジェクトを選ぶことである。もし同じようなプロジェクトが複数カルティエから出ていて費用の観点から決められない場合は、裨益者数の多い方が優先される。 ⇒選定されたプロジェクトリストは、市長（Mayor）及び副市長（Municipality）へ提出され、Municipality がコメントをつけて修正を加えたものに、市長が何か加えたいプロジェクトがあればリストに加えられることとなる。 ⇒このようなプロセスを経て作成されたプロジェクトリスト案に Municipality がプライオリティをつける。 ⇒こうして 3 カ年計画案となったリストが Institutional Commission（Commission of Economical Affair 及び Commission of Social & Cultural Affair で構成される）に送付され、コミュニティの実状をよく知る Commission メンバーにより、社会・経済的実状の観点からチェックを受け、適宜修正される。 ⇒修正された案は、住民代表としての役割を担う Municipality Council によって吟味される。全カウンシラーが招集され、協議が行われ、適宜修正が行われる。 ⇒修正レベルではない反対意見が出た場合には、再度技術局がプロジェクトリストを作成するところに差し戻され、一連の作業が再度行われることとなる。 ⇒Municipality Council によって承認された 3 カ年計画案は、内務省へ提出され、内務省内の Commission によってコートジボワールの国家開発計画との整合性が

	確認されたのち、大臣による署名が行われる。 ・財源は、すべて地方歳入によって賄われている。 ・3 カ年計画は毎年見直される（2016～2018 年計画策定の翌年には 2017～2019 年計画が策定される）。前年に挙がっていたプロジェクトがそのままのプライオリティで挙げられるわけではなく、緊急プログラムや市長が入れたいプログラム等が追加され、それらプロジェクトにプライオリティがつくようなイメージである。 ・カルティエからのリクエストとして多いのは、市場整備、サニテーション、水道整備、電力等である。クロスカッティングイシュー（社会統合等）については、コミュニティのチーフや警察によって扱われるものであり、3 カ年計画へのリクエストとしては一般には挙げられない。 ・国家開発計画との整合性は図られるが、県の開発計画はフォローしない。Rigion レベルには開発計画はない。 ・（アボボ市役所における聞き取りとプロセスが異なるが）ニーズ調査やベースライン調査のようなものは開発計画策定に際しては実施されておらず、すべて住民からのカルティエレベルのリクエストによっている。BNETD の調査結果（WB により支援されている）は、直接は開発計画には関係しないが、必要であれば BNETD の調査結果も参考にする（おそらくしていないのではないかという印象）。また、インフラ整備のニーズに係る調査マニュアルが整備されており、それを参考にすることは可能である。しかし、ヨプゴン市では実際には、コミュニティのリクエストに沿うことを重要視しており、特に活用はしていない。

報告日：2017 年 1 月 28 日

場　所	Abobo Commune Office
日　時	2017 年 1 月 27 日（金）11 時～12 時 10 分
出席者	Abobo Commune: Ms. Barrou（Director of Department of Social &Culture）、インターン生（技術局のメンバーが葬式のため参加できなくなり、急遽代理として出席） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	アボボ市調査対象地選定にかかる協議
協議内容	選定にかかる協議 ・JICA チームから 1998 年センサスデータを基にカルティエごとに比較を試みた表をもって説明を行い、協議のうえ、調査地選定を行いたい旨、依頼した。資料には、カルティエごとに、人口、面積、人口密度、民族マジョリティ、宗教マジョリティ、市役所に登録されている Association の数、失業率、若年層の人口に占める割合、教育を受けていない人の割合を記した。 ・対象市の各カルティエを、民族的な分布から、Akan、Mande、両者に大きな差がみられない地域の 3 つに分類し、各カテゴリーから 3 サイトずつを選定することで同意を得た（ここでは、Mande du Sud 及び Mande du Nord を Mande として算出しているが、両者の支持政党は一般に異なるため、JICA チームの手元資料はそれらを別に示したものであり、それらも考慮した。また、2015 年の大統領選挙の結果（市を 5 分類し、各地域における得票率を示したもの）についても JICA チームの手元資料にのみ記した）。 ・プロジェクトの目的にかんがみ、JICA チームが提供した指標の他に社会統合の現状についての指標を入れたいが、社会統合にかかる指標として使えそうなデータが INS からも市役所からも得られなかったため（そもそも社会統合とは何をもって達成されたといえるか、の回答はどこからもない）、市役所職員としての印象

でもいいので、何か情報がないかとの質問に対して、
⇒Agbekoi 村はアティエの人たちの村であるが、他の民族や外国の人たちも多く居住しており、民族や国籍に関係なく活動をともにしており、社会統合が進んでいる地域といえる。
そのほかについてはわからない。社会統合が進んだ地域はどういう観点でそういえるのかということについてもわからない〔Agbeikoi 村についての Ms. Barrou の回答から、人口に占める外国人の割合も社会統合の観点から、調査地選定やフェーズ 2 での対象地選定に指標として含めるべきか、との問いに対しては、わからないとの回答であった（一応、Ms. Barrou と選定するに際して、当指標も考慮した)〕。

・（社会統合とは直接関係ないかもしれないが、アボボ・ヨプゴンは暴力的な事件が起こりやすいと聞いたことがある。その理由について、社会統合的な観点またはその他観点から何か理由について思うところがないか）大きな理由としては 3 つが考えられる。①ミクロブの存在、②貧困、③異なる政党支持者の共住である。この 3 つの観点からも、地域性を答えるのは難しい。どこにも平等に存在している問題である。

ミクロブについて

・ミクロブが増加しているといわれているが、紛争背景（無職の除隊兵士などの関与）でミクロブを語ることは難しい。無職の除隊兵士などもなかにはいると思うが、きちんと補償をもらっている人もいれば、職についている人もいる。一番の問題はやはり貧困であると思う。現状として、おそらく上で操っている人がいるものとは思われるが、8 歳くらいからミクロブとして悪事に手を染めている子どももいる。ミクロブの多くはジュラ（Mande du Nord）の人々である（注：対象国では民族は、Akan、Krou、Mande du Nord、Mande du Sud、Voltaique の 5 つに大別される。それぞれの支持政党は、Akan が PDCI、Krou が FPI、Mande du Nord が RDR、Mande du Sud が FPI、Voltaique が RDR と一般的に表現される。地域的分布や支持政党の統一性から、厳密にはジュラとは Mande du Nord の人々のことを指すが、Voltaique の人たちもこのジュラに含まれることが多い）。ジュラ（ムスリム）の人が抱える問題として、一夫多妻による貧困問題がある。ジュラは、もともと本国にいた人、ギニアやマリから移入（親や祖父母世代）した人がいるが、どちらも一夫多妻制であり、ミクロブとされる人はどちらの出自をもつジュラからも出ているとされる。一夫多妻により多くの子どもを扶養する必要があるが、それがかなわず子どもが貧困に苦しむ、ミクロブといった悪事によってお金を稼ぐことを覚える、というようなことがいわれている。また、シングルマザー世帯も貧困問題を抱えており、彼女らの子どもがミクロブになってしまうこともある（これのように回答した Ms. Barrou 自身、ジュラである)。一般的に当国の経済状況は改善に向かっているといわれているが、貧困問題はどこにでもある。
・ミクロブを調査対象に含めることの可否については、問題ないとの回答であった。また、CCGPP への彼らの取り込みについても、ミクロブはどこにでもおり、彼らの社会への統合を促進するという観点から、Ms. Barrou は含めることの意義はあるという回答であった。ただし、ミクロブはオフィシャルに認定されるものでもなく、だれがミクロブなのかその定義はない。昔からいたちょっと悪い若者たちに、突然“ミクロブ”という名前がついて問題視されるようになってきたような感じである。彼らは、われわれの子どもたちでもある。

	貧困について ・貧困については、Ms. Barrou の印象から、特に貧困が深刻な地域、比較的裕福な地域に分類してもらった〔調査地選定に係る表にて確認可。必ずしも失業率と連動していない印象（1998 年のデータであるため、2014 年のデータが入手でき次第要確認)〕。 政治的対立について ・政治的対立の観点からの地域分けは難しい。すべての地域に存在するとしかいえない。 ・（ここ 1～2 年で何か政治的な対立という観点から起こった事象等はないか）わからない。しかし、Andokoi-Koute では、2010 年の騒乱の後にエブリエの人とバウレ・ジュラの人との対立があり、複数の死者が出るなどの事件があった（支持政党からするとエブリエ・バウレとジュラとの対立か？)。 ・（政治的な対立構造はどこにも存在するとのことであるが、現在は平穏を保っている。トリガーがあればいつでも住民間の緊張関係が爆発するともいえそうだが、何がトリガーになり得るか）わからないが、ジェラシーや互いに対する嫌悪感（people hate each other）等だろうか。 ・（現場での聞き取り、市役所職員内での聞き取りにおいて、カルティエやサブカルティエの分類についてかなり大きな齟齬があるように思えるが、どのように決められているのか）技術局の所掌でありわからない。

報告日：2017 年 1 月 28 日

場　所	Avocatier Depot9 Extension Quartier（COSAY フェーズ 1 対象地）、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 27 日（金）15 時～16 時 30 分
出席者	COSAY フェーズ 1 の CCGPP リーダー（ベティエ）及びメンバー（セヌフォ） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	フェーズ 1 におけるグッドプラクティス・教訓等聞き取り
協議内容	・Agnissankoi ではなく、Avocatier Nguessankoi である（フェーズ 1 報告書に一部誤り)。 ・Avocatier Depot9 Extension Quartier は、Avocatier Nguessankoi 村から派生したカルティエである（サブカルティエではない)。(これまでの聞き取りでは、ほぼすべてにおいて市役所職員が示すカルティエと住民の認識に大きな違いがみられるが、総合すると、まず対象地域にはエブリエ及びアティエの人たちが主に暮らす“村”しかなく、そこに入植してきた人たちが村人がまだ使用していない土地を購入または借用して住み始めた。入植者の数がどんどん多くなり、それらがカルティエと呼ばれるようになった〔カルティエはすべて、“村”の延長（extension）であると解釈できる。市役所が示す Avocatier Nguessankoi カルティエには、おそらく Avocatier Nguessankoi Extension Quartier と Avocatier Nguessankoi 村が含まれるものと推察される（住民には判断できない)。つまり、カルティエは、市役所が便宜上、各カルティエがどの村から派生したのかを考慮した分類であり、もともとこの地に居住してきたエブリエやアティエの人たちが居住している地域は村、それ以外はカルティエ、そのカルティエの下にサブカルティエがあるかどうか、という違いであると思われる〕。 ・Avocatier Nguessankoi 村（以下、「村」とする）はエブリエの人たちの村であり、道を隔てた地域にその人たちから土地を分けてもらってさまざまな民族の人が生活をしている。その地域を Avocatier Depot9 Extension Quartier（以下、「カルテ

ィエ」とする）という。カルティエの方には、11 の民族が居住しているが、民族的に固まっているわけでもなく、完全に混住状態である。カルティエ、村ともそれぞれの長がおり、カルティエも村もまとめる長というのはいないが、土地所有者がどちらの地域にも影響があるという意味でそれに当たる。

・村の人たちと一緒に何かをすることはない。何か問題があるわけではなく、機会がないためである。

プロジェクト実施前後のコミュニティの変化について

・2011 年のコンフリクトの後、人々は完全に分断されていた。ベテ・バウレ（FPI）とジュラ（RDR）、ムスリム（RDR）とクリスチャン（FPI）など、政党や民族が違えば挨拶すらしなかったが、プロジェクトによって大きく変わった（deeply changed)。人々は政党が違っても話すようになり、今はそのように政党や民族で人をみるようなことはなくなった。問題や幸せを共有するようになった。COSAY におけるコミュニティ内のコンフリクト解決や土のう技術等、プロジェクトを効率的に進める実施方法等については、アビジャンだけでなく、自分の村等の農村地域にも応用できる。

・COSAY フェーズ 1 で実施されたフットボールマッチ〔JICA 対住民（CCGPP メンバー)〕によって、異なる政党の人たちとも話をすることができるようになった。⇒そのほかに、コミュニティの人たちが会話をするきっかけとなる活動として、ダンスパーティや若者たちへ協働でショップ等を経営する機械等が考えられる。

CCGPP について

・CCGPP の活動がコミュニティの発展に必要であると考え、プロジェクト終了後にカルティエ管理委員会（Comité de Gestion des Quartiers : CGQ）を設立した。CCGPP は、11 名の各民族からの代表者と Youth/Women's Group の代表、NGO 等で構成されていたが、そこにさらに各民族からの代表者 3 名ずつを追加し、現在 CGQ のメンバーは 50 名となっている。各民族からの参加者を入れたかった（実際には CCGPP にも 11 すべての民族からメンバーが選出されているはずであるが、各民族のメンバーを増やしたかったという意味か)。地域を 7 つのゾーンに分け、ゾーンごとに 7 名の CGQ メンバーが充てられている（49 名＋リーダー）。CCGPP、CGQ ともに村のメンバーは含まれていない。

・CCGPP のメンバーとして、COSAY フェーズ 1 で受けた研修内容（Social Cohesion、Conflict Management）については、受講しなかった人たちにも伝えている。

・CCGPP のリーダーがそのまま CGQ のリーダーになっている。

・〔CCGPP の設立に際してリーダーを選ぶ際に（エレクションではなく、協議で決められた）問題は起こらなかったのか〕もともとこのカルティエでの良い行いが人々から認められていたため、だれも反対はなかった。

・CGQ の現在の役割は、カルティエの管理である。実際には、世帯内、隣人間のコンフリクトの解決や、サニテーション（ごみ捨て場の土地をどう確保するかなど）について、公共の場に集まって協議している。

・現在 CGQ が抱える一番の問題は、COSAY で実施された道路整備による住民間のコンフリクトである。上記のとおり、地域を 7 ゾーンに分けて活動を行っているが、50 人が集まる集会に一部のゾーンの CGQ メンバーがボイコットを表明している。この問題は、フェーズ 1 での道路整備に端を発している。フェーズ 1 における舗装道路の整備が一部の区間だけであったために、住民満足度に大きな差ができている。また、舗装道路に続く道が急なスロープになっているが、舗装道路

の整備により雨水がすごいスピードで低位方向に向かって流れることで、低位部分の道路が整備前に比べて顕著に状況が悪くなった。住民によって舗装道路終了地点からすぐ下の位置にブロックを置いて阻止しようとしているが効果がなく、これまで家まで車で行き来できていた人もできなくなってしまった。3 カ月ほど前に教会に車で行った人が、教会でお祈りをしている間に大雨に見舞われ、それ以降そこから車が出せなくなっている〔実際に、4m ほどの道路幅のちょうど真ん中あたりに 100m 以上にわたって 2m 深の溝（幅が広いところでは 1m ほどにもなる）ができてしまっており、4WD でも通れない場所が多くあった〕。小学生も雨期には危なくてこの溝部分を渡ることができず、通学に支障が出ている状況である。かなりの不満がたまっており、これは CGQ でも解決できない。市役所にも当該問題は報告しているが、低位部分の道路も整備されない限り解決されない。多くの人が怒っているが、これがやはり民族的な意味合いになってしまう。その道路浸食部分に住むアニ族のチーフが、CCGPP に対して怒りを抱いているが、これは CCGPP のリーダーの帰属（ベテ）に対しての怒りになってしまう。アスファルト舗装が途中まででで自分たちの居住地近くまで来ないとわかってから、民族の長や住民による CCGPP リーダーによるプロジェクト資金の私用利用（3 億 FCFA）のうわさまで出てきた。今、プロジェクト実施後に発生した問題を、この元 CCGPP のリーダーともう 1 人のセヌフォのメンバーのせいにされて困っている。

・CCGPP をこれからも市役所の活動のなかで推奨していくと仮定し、社会統合の観点からミクロブや政治グループを含めることの是非を聞いたところ、ミクロブについては両者とも、彼らは自分たちの子どもであり、彼らをソーシャライズし、社会に統合することの重要性を学ばせるために彼らを取り込むことは重要であるとの意見であった。
　一方で、政治グループについては、政治グループの一員として選ぶのではなく、あくまでも各民族の代表として選出すべきである。フェーズ 1 の CCGPP の選定においても、政治的なことは一切発言していないし、CGQ の副代表は RDR のリーダーでもあるが、民族代表として選出されている。同じ人物であっても、政治グループ代表のリーダーとして選出されるべきではないと考える。政治グループのメンバーは、自分たちの利益のために人をコントロールしようとしがちであるため適さない。
・カルティエにおいて、だれがミクロブと呼ばれているのか、彼らはオフィシャルに認定されているわけでもなく難しい。もしかしたら自分たちの息子たちもミクロブなのかもしれない。
・ミクロブが増えているといわれているが、以前に警察からの研修を受けた際に、この問題は両親に責任があるとのことであった。また、宗教リーダーは文化的な背景が関係しているとも言っていた。当国では、“家”にかかわるすべてのことは女性が担当することとされている。そのため、きちんと食事ができていなかったら、夫が妻を殴る。夫が食糧を調達できていなかったとしても女性の責任となるわけである。そのような家庭環境に育った子どもたちは、そういうものから距離を置こうと外に出始める。また、騒乱の影響もある。騒乱時には、暴力が当たり前、人が人を襲うことが当たり前であり、それらに対して罰せられずに今日まで来ている。そうすると、お金を得る簡単な手段として、騒乱時に行っていた人を襲うという行為にすぐ結びついてしまう。やはり、貧困や暴力が身近にあった〔騒乱時、家庭内での GBV（Gender Based Violence）等〕ことがその背景にあるのではないかと考える。また、悪い魂によって操られていると言う人もいる

	（Mysticism）。 〈その他〉 ・当カルティエには、Land owner association、女性グループ、青年グループ等がある。民族ごとにそれぞれ女性グループ、青年グループは存在しているが、女性グループについては、村全体をまとめる 1 つの大きな女性グループが存在する（COSAY フェーズ 1 完了報告書に記載の Neighbouhood Association について聞きたかったが、わからなかった）。 ・当カルティエは社会統合が進んでいるが、政治的な争いが起こりやすい地域として、Agnissankoi、SAGBE が挙げられる。SAGBE については、ここ 3 カ月ほどの間に、妊婦 1 名が殺される事件が起こっている。グロ（Mande du Sud）の人が市場に魚を買いに行った際、マリンケ（Mande du Nord）の女性の店でいろいろな魚を触ったうえでそこでは買わずに別の店に移った。その行為に対し、マリンケの店の女性が、「マリンケだから私の店から買わなかったんだ」と言いだし、喧嘩になった。他のマリンケの女性が加勢し、妊婦女性は暴行を受けて死亡してしまった。本件は死亡事件であったため、警察が介入した。ここまで大きな事件でない場合は、コミュニティの長が解決に責を負う。死亡事件であれ小さいいざこざであれ、市役所に問題解決を担う部署はない。警察かコミュニティが解決すべき問題である。 ・ただの小競り合いに民族的な意味が付加されることはどこでも起こり得る。 ・社会統合が進んでいる地域、進んでいない地域の違いは、人々が何か問題が起きたときにその解決を頼れる場所があるか、頼れる人がだれなのかを知っているかどうかである。当カルティエでは、COSAY によってわれわれがその機能をもたされたと理解しており、人々が解決を求める場所ができた。他の地域では、他人や他の地域への妬みや隣人との争いが解決されないままに蓄積されている。 ・社会統合のために必要とされる人々のコミュニケーションの場としては、当カルティエにはサッカーなどを行うプレーグラウンド（それほど整備されているわけではない）がある。教会・モスク等も人は集まるが、社会統合の観点からは何ともいえない（支持政党が同じ人たちが集まりやすいという意味と思われる）。各家に水道が整備されているため、井戸はない。

（Agbekoi 村調査：98 年センサスにて Akan、Mande の差が少ないとされる）

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	Agbekoi 村〔1 月 16 日（月）にも訪問した村〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 30 日（月）10 時 30 分～12 時 20 分
出席者	Agbekoi 村の village chief、chieftaincy、その他民族グループの長、女性・青年グループの代表等 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・当該村は、カルティエ下にはなく、Agbekoi 村であり、Centre、Nord、Sud の 3 つのゾーンに分けられる（サブカルティエではない）。何をもってスラムと定義できるのかわからないが、生活環境が悪い地域はある。 ・もともとはアティエの村であり、住民移転に際してエブリエの村から政府が土地を分けてもらい、その場所に移り住んできた（前議事録参照）。Agbekoi 村の中には、多民族で構成される混住エリアもあり、入植者に対して土地を提供してきたが、当該地域も Agbekoi 村に属している。 ・（マリンケの男性がこれに異議を唱え始める）ここは Agbekoi 村ではなく、1 つ

のカルティエと1つの村で構成されている。Agbekoi カルティエと、Ahoukoi 村であり、前者は多民族が居住、後者はアティエの人たちが居住している。アティエの人たちは Agbekoi 村の土地がすべて自分たちが政府から与えられた土地だというが、彼らが移入してきたのは 1970 年頃であり、われわれは 1968 年か 1969 年に、エブリエの人たちから土地を購入してここに住んでおり、彼らがこの土地に来る前から居住している（この頃から多民族が居住しており、パイオニアの民族がいたわけではないという）。

- アティエの Village chief：もともとこの土地は現 Abobo-te 村のエブリエが所有する土地であり、政府によってわれわれは与えられた（チャージなし）土地にやってきた。Agbekoi 村の名前の由来は、ここに移ってきたときの Village chief の名前〔Agbe さんの村（koi)〕であり、ここが Agbekoi 村であることは間違いない（カルティエはない）。もともとここは森林であり、それらを切り拓いてここで生活を始めた。彼（マリンケの男性）がエブリエから土地を買ったというのもおそらく事実なのだろう。しかし、われわれはこの土地が自分に属するという証明書も有している。
- 〔この後、言い合いが始まってしまった。マリンケの男性を直接支持する人はだれもいなかったが、着席する席の右側にアティエの人たちが複数名集まり、左側にマリンケの男性を含めてアティエではない各民族（ベテ、バウレ（タグバナ)、セヌフォ、ディダ、マウ、アバウェイ、ウアン、その他マリ人等）が着席していたが、マリンケの男性の発言にアティエの人たちが反論し、他の民族の人たちは何も発言せず傍観していた〕
- マリンケの男性：自身の居住地（彼の主張では Agbekoi カルティエ）が、Agbekoi 村の一部であろうがなかろうが関係ないが、真実が語られないことには黙っていられない。（と言いつつ）村の一部とみなされ、Chieftaincy のやり方に従わなければならないのは納得できない。
- バウレの男性〔ムスリム（マリンケ寄り？）〕：アボボはもともと「Abobo-te」「Abobo-Baule」「Anonkoi」の3つのエブリエの村から成っていた。われわれはすべて入植者といえる。争っていないでともにあろう。この地域は他の地域よりもコンフリクトが多い。一緒に協議すべきである。
（彼の発言でこの話は収束した。マリンケの男性はその後しばらくして、退席してしまった）
- 現在も、アティエの人とその他の人とでセキュリティ等に係る問題解決のための寄り合い等、一緒に活動する機会はある。今日のこの集まりも、アティエの人が全コミュニティ（民族集団のことをコミュニティと訳）に声をかけ、これだけの人が集まっており、われわれは大きな問題を抱えているわけではない。
- 社会統合に寄与するプロジェクトと考えると、道路が考えられる。道路によって人々が村に来るようになる。道路なくして村の発展はない。だれもが裨益できるのが道路であり、村人が協力してメンテナンスをし、等しく利益を享受できれば、社会統合に貢献できる。道路だけでなく、教育施設についても、民族分け隔てなく利用することができることから、社会統合にふさわしい。現に、現在村にある公立小学校は、アティエの人々が建設したが、皆で利用している（ただし教室不足で、1教室に 100 人以上の生徒がひしめき合っている)。
- （事業実施に際してベストと思われる管理委員会について）既にこの村には CGDA（Management Committee for the development of Agbekoi）と呼ばれる管理委員会がある。これは、道路のメンテナンスを行うために村で独自に構築されたもので、11 名のメンバーから成っている。11 名のメンバーは、各民族の代表、Civil

	Society のメンバー、青年・女性グループの代表等で構成されている。青年グループもこの委員会をサポートするため、メンバーを刷新したいと考えている（後に本委員会は既になく、Mutuelle と呼ばれる village management committee に変更されたという話が出てくる）。 ・CGDA は市役所職員からは認識されていなかったこと、以前アビジャンの知事と協議をする機会があった際に、村レベルのより効果的な組織を構成するべきであるとの意見があって、CGDA を Mutuelle に変更した（CGDA を Mutuelle に変更しろという意図であったのかどうかはわからなかった）。Mutuelle は現在 12 名で構成されており、うち 2 名が女性である。CGDA とは異なり、アティエだけで構成されており、内務省にも登録されている（なぜアティエだけになったのかについては明確な理由は示されなかった）。 ・Mutuelle は 2016 年 5 月 14 日に設立され、人々のセンシタイゼーションなどを行う（予定である）が、まだ新しい組織であり、実際にはまだそれほど活動できていない。 ・当該村には 26 のコミュニティがある〔18 の民族とマリ・ギニア・ナイジェリア・ブルキナファソ・ベナン（足すと 23 で、思い出したらと言ったまま新たな情報は得られなかった）〕。騒乱直後は、互いへの不信があったが、現在は関係性は改善してきている。ダンスやフットボールで民族に関係なく集うほか、協議等も一緒に行っている。 ・行政への不満は大いにある。いい関係は築けていない。例えば、セプティックタンク（汚水浄化槽）の清掃が必要になり、市役所に報告したが見に来ることもなく一切の返信がない。市役所の職員は、住民がどんな問題に直面しているのか理解していない。彼らは、選挙のときだけ顔を出す。前回の選挙の際には、少しだけ道路が改修された。彼らのことは一切信用していない。 ・ここ 10 年ほどで、市役所職員が来たのは 2 回だけである（2010 年騒乱前に 1 回、2014 年に 1 回）。 ・（最後に village chief から）今日は変なところをお見せして申し訳ない。この村は他の村よりも問題があるという発言もあったが、小さな問題があるだけで、特に大きな争いがあるということではない。

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	Agbekoi 村〔1 月 16 日（月）にも訪問した村〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 30 日（月）12 時 30 分～12 時 45 分
出席者	マリ人男性（Mr. Touke Zonmana（1949 年生まれ）） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・Mali Agbekoi の長である。当地へは 1966 年に来た。家を借りて生活している。コートジボワール国籍はない。申請できないというわけではなく、マリ人であっても何ら困ることがないので、申請しようと思ったこともない。 ・マリ人であることで、コートジボワール人らとの何かしらの問題を抱えているということはないが、機会がなくて一緒に何かの活動をすることがない。村の中で他の人との関係はそれほど親密ではない。ただ、今日のように何かしらの協議がある場合などには声をかけてもらっている。 ・以前（2010 年の騒乱後）は人々が話す機会はなかった。本当に最近になってから、村の中で人が話せるようになった。今では民族等関係なく、葬式などに参加できている。

	・マリ人組合のほか、女性・青年グループがある。登録はされていないが、マリ人であってもグループを登録申請することは可能である。アビジャン全体のマリ人による組合もあるはずであるが、どのような活動をしているのかなどあまり参加したことがないのでわからない。 ・この村は、人々も仲良く暮らしていて、社会統合は進んでいると思う。

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	Agbekoi 村〔1 月 16 日（月）にも訪問した村〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 30 日（月）12 時 50 分～13 時 40 分
出席者	アティエ男性（Mr. Teby Blaise（39 歳）） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・村全体の青年グループの副代表。Zone の Center に居住している。副リーダーには最近新たに選出されたばかりである。前代表は 6 年務めている（2 年ごとに選出。設立年と計算が合わないが）。当グループは組織登録はされていない。 ・青年グループは村全体をまとめる大きな 1 グループがあり、さらにそれぞれの民族ごとにも形成されるものであるが、当グループ（この大きなグループの方）は 2012 年から全民族を含めて活動を開始した。青年は 15~45 歳。この年齢の人は自動的にメンバーとなる。現在 400 名ほど、うち女性は 20 名ほど（アクティブな女性の人数と思われた）。エグゼクティブメンバーは 30 名、うち 3 名が女性である。1 カ月に 1 回集まり、活動の報告などをしている。 ・活動内容としては、サッカー試合の開催、村の掃除、学校が休みのときに小学生などに研修をしたり、若年女性の妊娠に係る啓発、NGO による平和に係る研修セッションをまとめたりしている（何という NGO かは不明）。もともとのグループ形成モチベーションは、互いに話さないことが人々の関係性を悪化させていると皆が感じていたことであり、民族を超えて話す機会をもつことの重要性を認識していた。そのために、このようなグループが形成された。開始当初は、互いに全然話さないなど困難ばかりであったが、互いに話すことを強要し、今では民族を超えて話すことができるようになった。現在では、若者間のコミュニケーションは進んだと思う。 ・世代間の隔たりは大きい。村の発展のために考えるビジョンは同じであるが、そこに至るまでの過程に大きな隔たりがある。例えば、以前、道路改修の必要性が認識された際に、若者から、若者が道路改修を自分たちで行い、その後の維持管理に役立てるためにタクシーなど、当該道路を通行する人から料金を徴収するのはどうかという案を出したが、高齢者たちから、われわれにその権利はなく、市役所の仕事であると一蹴され、若者もやる気をなくしてそのままになっている。現在では、高齢者たちは自分たちだけの利益を考えていて、今後の社会を若者が担っていくということは考えていない。若者の多くは今日のような高齢者たちが主催する集まりへの参加を拒否しており（5～6 年前からボイコットし続けているとのこと）、若者の高齢者に対する感情は決していいものではない。 ・先に出た CDGA についても、若者が 1 名だけメンバーに入ってはいるが、重要な位置にはつけてもらえず、ただのメンバーである。その他の重要な決定事項においても、高齢者たちだけで決められているというのが現状である。 ・若者の意見を取り入れるためにどのような組織をつくるのがいいのかわからない。例えば、若者のメンバーだけで構成される管理委員会をつくって報告はきちんと高齢者たちにする、というのはどうだろうか。しかし、高齢者たちに受け入

	れてもらうのは難しいだろう。今の状況を変えるには、まずは若者も意識を変える必要がある。活動への参加をボイコットしている若い世代もきちんと会議に出席するよう働きかけることが重要である。若者グループのエグゼクティブメンバーを決める際にも、結局重要なことは決められないのに、このグループに何の意味があるのかと言われた。多くの人が選出の会議にも参加しなかった。彼らのやる気を取り戻すために、若者グループとしても活動を活発化させ、たくさんの活動を行う必要がある（村の掃除や側溝の掃除など）。そのほか、会議の開催や社会活動の実施等も求められる。 ・若者を意思決定のプロセスに入れたい場合、この若者グループが唯一の選択肢となる。 ・高齢者たちは、若者にプロジェクトのマネジメントやその他活動を行う能力がないと信用してくれないがそんなことはない。若者と高齢者が歩み寄るチャンスとして考えられるのは、サッカーの試合、ダンス等が考えられる。教会の集まりでも、高齢者と若者は交わってはいない。 ・当該村にもミクロブはたくさんいる。彼らは少なくとも 5 人以上のメンバーで活動している。その数は増加している。ミクロブをプロジェクトの管理委員会に入れるのはいい案である。彼らは別に悪い人なのではなく、何かの行き違いがあって人々を襲っているだけである。相手がどの民族かは関係なく人々を襲っている。 ・（彼らへのインタビューは可能かと聞いたところ、当初は可能だと言って、日を改めて、という話であったが、彼の知り合いが 3 カ月ほど前に警察に殺されていたという話になり、やはりトラブルに巻き込まれたくないから紹介はできないということとなった）

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	Abobo 警察署
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）8 時 30 分～9 時
出席者	Abobo 警察署の署長（super intendant ?）Mr. Timite JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
入手データ	なし
打合せの目的	対象地域の治安状況、ミクロブによる犯罪や民族間の争い等に係るデータの有無確認
協議内容	・当該警察署の管轄は、ボカボ、ベルビル、Plaque 1& 2、コロンビ、マリー、ボワセック、Andokoi Ⅲ、SAGBE 等である。 ・ミクロブについては、現在は“young people in conflict”と呼んでいる。ミクロブというと人々が怖がるためである。 ・ミクロブはアボボは特に多い。警察の仕事が多すぎて全然手が回っていない状況である。現在は貧困に苦しむ、より課題が多い地域に焦点を当てて活動している。 ・SAGBE（デレーライ）にあるボカボ、セレストは、道路の状況が悪いこと、若者同士の抗争がひどいこと等から、警察も近づけない地域がある。若者同士の抗争については、民族間の争いかどうかはわからないが、日常のように人の襲撃がみられる。ボカボの若者がサグベの若者に敵対している。ボカボは特に貧しい地域であり、社会統合に係るプロジェクトを実施するのであれば、真っ先に検討すべき地域である。 ・Andokoi Koute は、2010～2011 年の騒乱の後、エブリエとジュラの間で（人が殺されるような）争いが絶えなかったが、今はあまり報告されていない。 ・国民和解は進捗し、状況は以前と比べると格段に良くなった。

	・そのほかに、土地問題も一般的な問題として存在している。これらは民族間の争いである。Andokoi Koute では、マリンケの若者とエブリエの間に深刻な問題がもち上がっている（エブリエがマリンケに土地を売ったのだが、その土地を彼らには与えないとエブリエが言いだした。マリンケの若者はこれに対しリベンジをしようと企んでおり、警察が介入して和解させようとしているがなかなか簡単ではない）。 ・Abobote、Abobo-Baoule、Akeikoi は、特に大きな問題がない。 ・とにかく SAGBE は貧困度合いがひどく、悪事に手を染める若者が多い（若者より上の世代についてはさほど問題はない）。 ・プロジェクトの管理委員会等にミクロブを巻き込むアイデアはとても良いと思う。彼らを社会活動に参加させることが求められている。彼らは人を襲うのではなく、人の役に立つことで自分自身の存在意義を認める必要がある。 ・ミクロブはアボボ全体で 1,000 人くらいはいると思われる。SAGBE だけでも 100 人以上はいるのではないか。2016 年 1 年間で 100 人は逮捕されている。データベースがあるので、時間ができ次第用意する。

（SAGBE カルティエ調査：98 年センサスにて Mande が優占とされる）

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	SAGBE Center〔1 月 16 日（月）にも訪問したカルティエ〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）10 時 30 分～11 時 50 分
出席者	SAGBE のチーフ、6 サブカルティエのチーフ、その他民族のチーフや女性・若者グループの代表者等 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（イマムによるお祈りで開始） ・行政の分類（SAGBE Center、SAGBE Nord、SAGBE Sud）とは異なり、住民としては SAGBE カルティエであり、カルティエの下に 6 つのサブカルティエがある。行政区分との関係性は、SAGBE Center に位置するのがサグベセンターとサグベアンテ、SAGBE Nord に位置するのがサグベボカボとサグベパルメレ、SAGBE Sud に位置するのがサグベゥランとサグベセレストである。サブカルティエは、ユニセフが当カルティエは人数が多いことから分割を勧めたためにできた。その際どのような背景が考慮されたのかはわからないが、樹木などが境界になっている（民族的な集まりなどが考慮されたのかどうかはわからない）。本カルティエには村はない。何をもってスラムというのかはわからないが、居住環境の悪い地域は多く存在する。 ・当カルティエの 60%以上をジュラが占め、ムスリムがマジョリティとなっている（ここでいうジュラは Voltaique を含む）。 ・住民の主な生業は、小売業、small worker（規模が小さい、日雇いという意味と思われる）、オーナーから委託されてのタクシー稼業、レンガ工等が主である。 ・当該カルティエはもともと、アニ族の男性（69 歳）の祖父が、植民地時代にこの地にやって来てエブリエの人と交渉し、当該土地を譲ってもらったことに始まる。1966～1967 年頃から建物を建て始めた。その際、政府が道路の整備を支援してくれた。もともと森林であったこの土地を開墾し、農業を行っていたが、ジュラの人たちがたくさん入植し、彼らに土地を販売してきた。現在では販売するための土地は余っていない。エブリエとの土地問題等は抱えていない。 ・当該カルティエには、6 名のサブカルティエチーフがおり、そのうちの 1 名（ア

ニ）がカルティエ全体のチーフを務めている。各サブカルティエに民族的な偏りはなく、どのサブカルティエにおいてもジュラが優占している。ジュラが半数以上を占める当該カルティエにおいてアニがチーフとなることに反対はなかった。各民族のリーダーが選出しているので問題ない。

・SAGBE 全体で集まる機会としては、カルティエチーフによる協議の際などの呼びだし、セキュリティイシュー等に関して協議する必要があるとき等が挙げられる。そのほか、葬式や結婚式のほか、例えば警察による WS 等が開催される際には、カルティエから広く参加者が集まる。その他の活動はすべて、基本的にはサブカルティエレベルで行われている。

・（以前訪問した際に暴力的な事象が多いとの発言が多くあったが）当カルティエは特に貧困が深刻な地域である。また、当カルティエには子どもが多いが、学校が SAGBE センターにないため（SAGBE カルティエ内にはあるが、1 教室に 170 人も生徒がいるような状況でまともに学習できない）、子どもたちをほかの地域に送り出しており、親が子どもにかまえる時間が限られている。親が子どもにかまえず、悪い環境も揃っているため（悪い行いをする他人と容易に関係ができてしまう）子どもが非行に走りやすい。

また、道路の状況が悪く、警察さえも入れないところがある。加えて電気が整備されていないことで夜に若者が人を襲いやすい環境にあることも問題である。

さらに、法律を守らない行いがミクロブの存在を助長している。例えば、だれかがミクロブに襲われ、それを警察に届け出て加害者（ミクロブ）が警察に逮捕されたとしても、加害者の親がカルティエの長等に談判に行き、カルティエの長が警察へ行って加害者が釈放されるということが起こる。警察も、地域の長には逆らいづらく、このような行動が若者の犯罪を助長しているともいえる。しかし、カルティエの長であっても、銃などが使用されたような事案については介入しない。

・若者は警察に対する不信感をもっているが、その他の年齢層ではそのような感情はない（一部は警察に対する不信感を語っていたが、多数が不信感はないと言ったために口をつぐんでしまった）。

・（このような個人同士、若者同士の争いに民族的な意味合いが付与されていくようなことはないのかとの問いには）ない（と答えていたが、人を集めた全体の質問時間にはほとんど本音が語られていないことが後の個別インタビューからもわかる）。民族間の争いはないと言ったが、表面に出ていないだけで、ミクロブに襲われた側と襲った側ということで心にためていることはあり、いつかは爆発するのかもしれない。

・<u>アティエ（このカルティエでは少数派）男性</u>：警察どうこうではなく、住民はこのカルティエでいまだに恐怖を感じながら暮らしている。自身は、騒乱の際にこのカルティエを離れ、落ち着いた頃に戻ってきたが、その際にジュラではないからという理由だけで兵士から撃たれた。ジュラでない多くの人はまだこの地域に帰ってきていない。今でも恐れながら生活している。この地域に民族間の緊張がないというのは全く当てはまらない。騒乱によって人々の互いに対する信頼は薄れ、それは現在に至っても同じである。

（アティエの男性の発言後、ざわつき始めたのを見て）<u>アニの男性</u>：昔の話をし始めたら、今日 1 日だけでは語り切れない。われわれにも思うところはある。しかし、昔のことを言うのではなく、今・これからの話をしなければならない（と、その場を収めた）。

・ミクロブをプロジェクトの実施過程等に含めることについては、いいアイデアで

	あると思う。彼らは住民であり、われわれの子どもである。彼らに役割を与え、社会性をもたせることは重要である。彼らをわれわれが信用することで彼らが考え方を改め、また社会に受け入れられるという好循環をつくる必要がある。 ・女性：彼らはわれわれの子どもである。しかし、彼らを巻き込むということについては、彼らが考え方を変えるのであれば、という条件がつく。彼らが考え方を改めない限り、巻き込みは難しいと思う。 （後に、男性と雑談していた際には、ミクロブは管理委員会への参加ではなく、労働力としての雇用対象という方がいいかもしれないとの考えが示された。） ・（管理委員会のメンバーについて、前回の訪問時には他のカルティエは含まず、該当するカルティエについては全サブカルティエから各民族の代表を含めるべきとの発言があったが）直接裨益するサブカルティエだけでもいいのかもしれないが、事業実施に際してレンガ工等が必要になった場合には、該当サブカルティエだけでなく、カルティエ下の全サブカルティエからつのるべきである。 （別の意見）管理委員会にもすべてのサブカルティエを含めるべきである。カルティエを超えてメンバーを構成しても問題ない。 ・SAGBE には CGQ はない。その他の Association としては、全 6 サブカルティエに若者・女性グループがあるほか、売主グループ、石けんグループ（石けんを作って売る）、野菜販売者のグループ、ドライバー組合等があり、彼らも場合によっては含めるべきである。 ・ジェネレーション間に問題は特にない。 ・行政に対しては不信しかない。選挙（大統領、市長、議員）のときと税の徴収のときにのみ顔を出す人たちである。バグボの時代には、ジュラのカルティエだからと襲撃の対象になり、現在の市長はこの地域は税の徴収額が少ないから関心がない。いつまでも貧しいままである。市役所に自分たちの思いを届けるチャンネルがない。政治リーダーが市役所に陳情に行くこともあるが、一切返答はない。 ・われわれにとっての市役所の役割は、出生届、死亡届を出す場所であることのみ。

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	SAGBE Center〔1 月 16 日（月）にも訪問したカルティエ〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）12 時 05 分～12 時 25 分
出席者	SAGBE Center のリーダー　Mr. Kakou Yomafou（1947 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・パイオニアの男性の孫（前出）。アティエの男性であり、Sagbe Center サブカルティエのリーダーである。 ・このカルティエの特徴は、“poverty”、“dangerous”。 ・ジュラの若者の振る舞いがひどい。ジュラは子どもが多く、子どものケアが行きとどいていないこと、若者に仕事がないことから非行に走ることが多い。ジュラは一般に Trader であり〔アビジャンにいる Trader のほとんどが男女ともジュラ（ジュラの語源でもある）〕、ビジネスに忙しく子どもを無視している。 ・先程皆がいるところでは言えなかったが、われわれは互いに恐れを抱きながら暮らしている。こういう場で何かを発言すると、明日には自分が襲われることになる。隣人でさえ信用できない。 ・本当に何も言えない。どうしてもというのであれば、サブカルティエの長だけを集めてもらえれば話すことは可能かもしれない。各サブカルティエの長の民族は、サグベセンター（アニ）、サグベアンテナ（マリンケ）、サグベボカボ（セヌフォ）、

	サグベパルメレ（グル）、サグベセレスト（アニ）（SAGBE カルティエの長を兼任）、サグベゥラン（セヌフォ）であり、民族はばらばらであるが彼らの前では話せる。 ・最後に強調したい。市長は何もしない！

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	SAGBE Center〔1 月 16（月）にも訪問したカルティエ〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）12 時 25 分～12 時 45 分
出席者	アティエのリーダー　Mr. Yapo Constant（44 歳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（先の全体質問で、このカルティエに今も恐れながら住んでいると発言した男性）本カルティエのアティエのリーダーを務めている。アティエはこの地域ではマイナー民族である。Agnissankoi や Akeikoa にはアティエが多くいる。 ・2010～2011 年の騒乱後、この地域には恐怖が蔓延している。政治によって人々が分断されてしまった。騒乱によって多くの人は安全が確保できずにこの地を離れ、多くの人がまだ帰ってきていない。人々の間には、不信が根づいている。先程の発言も、モスクの前だから言えた。人々の目もあるから。自身も本当に怖いと思いながら日々を過ごしているが、アティエのリーダーとして、自分が進んで会議の場に出席し、安全であることを体現しなければ、アティエの人たちにこの地域が安全だと言えないから頑張っている。 ・現在は、暴力的な争いはないが、恐怖は感じているし、互いにあまり話すこともない。何をするにもアティエの人たちはジュラのところに入っていくのが怖い。 ・ジュラの若者は素行が悪い。暴力的である。ジュラの若者がいつも人を襲撃している。 ・このような状況を打開するためには、アティエの人たちへのセンシタイゼーション（ジュラの人たちと一緒に活動することを支援）やプロジェクトを実施するのであれば、すべての民族が裨益できる支援にするべきで、学校の建設や保健施設の建設等が挙げられる。学校であれば、民族にかかわりなく子どもたちは教育を受け、親もかかわってくるので親の間でいい関係性が構築できる。 ・カルティエにかかわる意思決定の機会には、自身も参加させてもらえている。 ・若者の意見が聞き入れられないというような不満は感じていない。

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	SAGBE Center〔1 月 16 日（月）にも訪問したカルティエ〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）12 時 45 分～13 時
出席者	Sagbe Center サブカルティエのサブリーダー　Mr. Kone Mami（56 歳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケ（ジュラ）の男性：民族間には問題はない。 ・前大統領がこのカルティエでの問題のすべての元凶である。バグボの時代に、このカルティエが、反体制派の軍に対して糾弾された。その後苦しい時代が続いたが、2010 年の騒乱の後、政権は変わり、昔のことは忘れろと言う。 ・以前は何の問題もなく、民族間に憎悪の感情もなく、人々はともに暮らしていた。2010 年の騒乱によって人々は二分されてしまった。皆ジュラが悪いと糾弾する。 ・そのように言われることに対して、マリンケとして怒りもあるが、政治会合で、“互いを許そう”と言われているため、過去は忘れて人とかかわりをもつことが

	重要であると認識している。 ・民族に関係なく、皆が受益できるものが必要である。学校や保健施設がそれにあたる。コミュニティセンターも人々が集うという意味では重要かもしれないが、この地域により求められているのは、学校・保健施設である。より人々の交流を促進できるものとしては、保健施設が最適であると思われる。学校だと就学児の親に限られるが、保健施設は老若男女、すべての民族が集う場所である。 ・（このカルティエに限らず、ミクロブ等の素行の悪い青年はほとんどがジュラだと言われるが）事実である。ジュラは公務員が少なく、女性は市場へ、男性はドライバー業や小売等に従事しており、朝早くから、夜遅くまで家にいないことが多い。そのため、子どもの世話をきちんとできていない。また子どもが多いことも一因である。子どもが多いため、就学率も他の民族に比べて低い。その背景には貧困も関係している（イスラミックスクールはあり、公立小学校に通えない子どもが通っている）。

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	SAGBE Center〔1 月 16 日（月）にも訪問したカルティエ〕、Abobo Commune
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）13 時 05 分～13 時 15 分
出席者	若者グループのリーダー Mr. Coulibaly Tiemoko（53 歳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・セヌフォの男性。若者グループは、多様な民族で構成されている。 ・エグゼクティブメンバーは 18 名〔バウレ 2 名、アニ 1 名、ベテ 2 名（ここまでがジュラ以外で計 5 名）、セヌフォ 1 名、ロビ 1 名、タバナ 1 名、ボンドゥク 1 名、その他マリンケ等ジュラ 9 名（ジュラ計 13 名）〕。うち 6 名が女性である。 ・活動実績としては、サッカーの試合、毎年年末に開催するフェスティバル等がある。そのほかにもウェディングセレモニー等。サッカーの試合については、女性は応援参加のみとなる。 ・この村では特に問題はない。ジュラ対その他、という構図はある。ジュラの人は他の民族の人に対して敵視していないが、他の民族の人がジュラの人を敵視している。 ・若者グループの活動にしても、他の民族の人は活動に参加したがらない。どうすればいいというのか。彼らも活動に参加すべきである。 ・何かの問題を解決するための会議等には招集されており、若者の意見もきちんと取り入れられていると感じている。

報告日：2017 年 1 月 31 日

場　所	BNETD（CCT）
日　時	2017 年 1 月 31 日（火）
出席者	BNETD chief of service Mr. Aime-Louis KOUAME JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	アボボ及びヨプゴン市の地図入手
協議内容	・BNETD の一部局として CCT（地図・リモートセンシング）がある。省庁やコミューンからの依頼を受けて、調査をしたり地図を作成したりしている機関。 ・JICA から BNETD も支援を受けている。アボボ・ヨプゴンの地図については、JICA に所有権があるため、JICA にデータをもらうか、JICA からのレターを出しても

	らえればいつでも無償で提供ができる。 ・カルティエの境界についての地図はない。カルティエはオフィシャルなものではないため、それぞれの機関が勝手に決めていて、統率がとれていない。INS は独自の、市役所にも独自の区分があるが、INS は市役所の区分に従うべきであると考える。 ・道路や社会インフラ等（保健・教育施設、薬局、ガスステーション等）の情報が入った地図のほか、さまざまな地図を CCT で扱っている。 ・カルティエの境界については PRE-CI と呼ばれるインフラ改修のための国家プログラムの実施の際に作成したものがあるので、それを渡すことは可能である。データを修正する必要があるため少し時間がかかる。印刷版は有料となる。

（Banco 1 & 2 カルティエ調査：98 年センサスにて Mande が優占とされる）

報告日：2017 年 2 月 1 日

場　所	Banco 1&2, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 1 日（水）10 時 40 分～12 時 35 分
出席者	サブカルティエのチーフ及び女性・若者グループのリーダー等（参加者の 9 割程がジュラ） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（イマムによるお祈りで開始） ・Banco 1 & 2 カルティエ下には、少なくとも 16 のサブカルティエがある（名前を挙げてもらったが、彼らもよくわかっていないような印象）。各サブカルティエにはリーダーがいる（この回答もちょっとあやしい）。カルティエ全体をまとめるリーダーは、アボボ市役所の副市長であるが、長く全く機能していない。CGQ もあるが名ばかりで、機能していない。 ・そのほかには、各民族のリーダー、若者・女性組織のリーダーがいるほか、COGES もある。 ・当カルティエのマジョリティはジュラ（Voltaique 含む）であり、住民の約 80%を占める。住民のほとんどがムスリムである。 ・当カルティエには、民族間の問題その他、コンフリクト等はない。問題といえば、騒乱時に、ミリタリーキャンプからの流れ弾がここまで届いたことくらいである。この地域はカルティエであるが、互いに知った人たちが長く住んでいて、村のような感じだと思っている。また、通婚も普通にある。このカルティエが安全だからということで他の地域から人が来るくらいである。 ・問題が多いところは、Anonkoi-Koute、Avocatier、Akeikoi、Plateau である。2010～2011 年の騒乱時はエブリエの人とその他の民族が殺し合っていた。Anonkoi-Koute では、エブリエの人たちが他の民族の家を焼いたりしている（いつの話かは不明）。エブリエの人たちが問題を多く抱えている。エブリエの人たちは、“この土地はエブリエのものだ”という発言をするが、この村はだれも“ここはだれだれの土地だ！”とは言わない。 ・この村はエブリエから購入した土地であり、今はわれわれの土地である。エブリエとの間にも土地問題等は起こっていない。 ・当カルティエでは民族に関係なく、結婚式でも葬式でも何でも一緒に活動している。 ・主な生業は、Trading（野菜や日用品等）、Transportation（オーナーから委託されてのドライバー業、タクシーを所有してのタクシー業等）である。Trading につい

ては、ホールで購入して小売りをしている。場所代として、150～500FCFA/日を政府に支払っている（金額の違いは販売量の違い）。
・セキュリティには問題がある。われわれのカルティエにはミクロブはいないが、市役所前（Marie）のラウンダバウト（Banco 1 & 2 の Marley サブカルティエのことかもしれない）には若者がたむろしており、彼らがしばしば喧嘩をする。喧嘩が始まり、Banco Forest に逃げ込もうとする若者がこのカルティエを通過するという影響を受けている。
・（皆がこのカルティエにはミクロブがいないと言っていたが、1 人の女性が）ミクロブがここにいないなんてことはない。われわれの子どもたちはほとんどがミクロブである。この地域は安全ではない。
・ミクロブがいると言っていることを知られると襲撃されるかもしれず、怖くて言えなかった（しかし、その後ミクロブについての議論が白熱する）。
・<u>女性</u>：ミクロブが生まれる背景には、若者に職がないことが挙げられる。
・<u>男性</u>：両親も貧困に苦しんでおり、子どもたちは人を襲撃して得たお金で両親を養っているという側面がある。そのため、両親は子どもが何か悪いことをしているのかもしれないとわかっていても何も言えない。
・<u>男性</u>：職がないこと、貧困が問題ではなく、責任ある両親がきちんと子どもにモラルを教えないことが原因である。
・<u>女性</u>：一夫多妻制がすべての元凶である。ポリガミーの文化であり、かつ女性は多産である。多くの子どもを養うため、母親は働かなければならず、子どもたちを世話する時間がない。子どもたちはそのような環境に満足せず、外に出て行き、悪い人と出会い、ミクロブとなる。ポリガミーこそが元凶である（女性から大拍手）。
・<u>男性</u>：一夫多妻が抱える問題は確かにあるが、それだけではない。両親は時間がないことを理由に、問題に向き合っていない。また、警察に報告すると襲撃され、他のカルティエへ移住せざるを得なくなることから、警察にも報告できないのが現状である。
・<u>男性</u>：警察への不信もある。たとえ警察へ報告したところで、近くに警察署があるにもかかわらず、彼らが来るのはずっと後になってからである。彼らはこの問題には関与してくれない。
・<u>男性</u>：警察官はこの問題に一切介入してこなかった。カルティエで若者の喧嘩が起こっても警察は知らんふりである。とはいえ、この喧嘩は騒ぎを起こしている間に仲間が物を盗むためのフェイクであることも多いのだが。
・<u>男性イマム</u>：ミクロブの問題は、民族間のコンフリクトを生じさせ得る。ジュラがセヌフォを襲い、セヌフォが警察に報告し、警察がジュラを逮捕し、ジュラがセヌフォを恨むという構図ができ上がる。いずれにしても、この問題はコミュニティにも警察にも解決する能力がない。警察は彼らを殺すことはできないし、state parliament がこの問題については理解しているのだから、そこに任せるべきと言ったりもする。
・<u>男性</u>：ジェネレーション間に問題はないが、家族間の問題はオープンにはならないが、民族間の問題にも発展し得る可能性をはらんでいる。子どもたちはもはや両親でさえもリスペクトしない。両親が朝早く仕事に出、夜遅く帰ってくるため、家庭内でもコミュニケーションがない。
・<u>男性</u>：CCGPP のメンバーや例えばインフラ整備をする際などの労働者として、ミクロブの巻き込みをはかることは、意義のあることである。Local NGO の活動で、刑務所から出てきた人をサニテーションチームに入れたことがある。ミクロブも

	彼らも普通の人たちであり、彼らには仕事が必要なのである。 ・男性：彼らはミクロブに生まれたのではなくミクロブになってしまったのである。彼らに社会性を与える必要がある。 ・男性：人によると思う。彼らはすぐにお金を稼ぎたいと思っている。そういう人たちの巻き込みは難しいと思う。センシタイゼーションが重要となる。 ・女性：手軽にお金を稼ぎたい彼らが、ハードワークに耐えるとは思えない。 ・ミクロブは多くがマリやギニアから来た外国人である。 ・（ミクロブを取り込むことの重要性は理解したが、プロジェクト実施にとって重要となるセキュリティの確保はどうか） ・男性：この地域のローカル NGO として、彼らとの働き方を知っている。彼らに必要なのはセンシタイゼーションであり、除外すべきではない。われわれは若者の多くを変えてきた。セキュリティは確保される。 ・男性：ミクロブによって小売りの店が襲撃されたりしている。どうして安全といえるか。このカルティエは安全ではない。だれかが襲撃されてもわれわれは口をつぐんでいるだけである。 ・男性：小売りの店が襲撃されたなどという話は聞いたことがない。プロジェクトが始まって若者がセンシタイズされれば、安全上何ら問題は発生しない。 ・管理委員会のメンバーとしては、サブカルティエのリーダー、若者・女性グループからの代表者、各 organization（民族集団のことを指していた：バウレ、アティエ、ベテ、ジュラ、ウェベ、グロ、アニ、エブリエ、ジミニ、マリ人等外国人）のリーダーが挙げられる。人数が多くなりすぎる場合は、ここから適当な人を選出する。15 名くらいが適当ではないか。 ・このカルティエに若者・女性組織の他に既存の組織は、販売者組合等がいくつかある。 ・行政に対しては何の期待ももっていない。彼らは選挙のときと税金徴収をするときだけ来る。市長がいるのかいないのか、どんな人なのか全く知らない（背が高いのか、肌の色が薄いのか濃いのかなども知らないと皮肉っていた）。選挙に行ってないわけではないが、RDR だからという理由だけで選ばれており、市長の素養については全く知らない。市長は葬式やお祓い等のときにも顔を出すことはある。 ・要望を何度も挙げているが、一切の返答がない。騒乱後に本カルティエで市役所によって実施されたプロジェクトは皆無である。カルティエ間にバイアスがあるのかどうかについては知らない。要望は、このカルティエにあるローカル NGO が市長宛レターを作成して、提出している。要望書は定期的にではなく、要望（セキュリティ、サニテーション等）があればその都度出している。レターへの回答はなく、彼らは選挙キャンペーンのためだけに存在している。

報告日：2017 年 2 月 1 日

場　所	Banco 1&2, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 1 日（水）12 時 40 分～13 時
出席者	女性グループのリーダー Ms. Dembele Assetou（1976 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・Banco 1 の SABABOU GNOUMAN（good opportunity の意）という女性グループのリーダーであり、マリンケの女性。グループ登録は現在申請中である。Banco 2 にも異なる女性グループがある。このグループは 2015 年に設立された。騒乱前か

	ら民族ごとの女性グループは存在していたが、女性の団結が必要との思いから、2015年に民族を超えたグループが結成されるに至った。19歳以上の女性は自動的にこのグループのメンバーとなる。人が流動的であり、メンバーの数はわからない。 ・エグゼクティブメンバーは5名（President, Vice president, Secretary, Treasurer, Person in charge of organizing）、すべてジュラである。 ・現在の活動は、葬式などの入り用の際にお金を集めたりと互いを支援することである。頼母子講のような活動もあり、月に400FCFAずつを回収している。この活動にかかわっているのは36名である。 ・毎週金曜に活動を行っており、活動進捗報告や、女性が集まっての支援が必要なことが何かあれば、その内容等について話し合う。 ・このグループのほかにジュラの女性グループはたくさんある。Presidentの女性は、ジュラの女性グループのメンバーではないが、Secretaryの女性はジュラの女性グループのメンバーでもある（このカルティエのではなく別のカルティエの）。Secretaryの女性は、宗教組合のメンバーでもある。 ・カルティエにかかわる事項の決定プロセスに女性は一切かかわっていない。カルティエの発展のために掲げるビジョンは男性も女性も一緒であるが、男性から何か意見を求めてもらえれば、女性からも意見を挙げることができる。意思決定プロセスについては改善が求められる。

報告日：2017年2月1日

場　所	Banco 1&2, Abobo Commune
日　時	2017年2月1日（水）13時～13時30分
出席者	Local NGOのリーダー Mr. Doumbia Aboudulaye（1962年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・Betaco Service（things belong to everybody）というローカルNGOのプレジデントであり、マリンケの男性。 ・2008年から活動を開始し、内務省にも登録されているNGOである。カルティエの人たちからも広く知られている。メンバーは1,500名であり、その多くがBanco 1 & 2の住民である。15名がエグゼクティブメンバーで、うち6名が女性である（ベテ1名、バウレ4名、ディダ1名、マリンケ9名）。 ・設立動機は、貧困と闘うためである。活動実績としては、サニテーション活動、清掃、セキュリティ関連の活動を行っている。 ・清掃活動等で得たお金のほか、15名のエグゼクティブメンバーは毎月1,000FCFAを拠出して活動している。セキュリティ関連の活動として夜警を行っている。 ・2010～2011年の騒乱時にはONUCIからの支援を受けて、教科書の公立小学校及びイスラム学校への配付なども行った。 ・毎月1日に会議を開催し、資金を稼ぐためのビジネス活動の有無などについて話し合っている。 ・工業廃棄物処理などでコートジボワール公害防止センター（Centre Ivoirien Antipollution：CIAPOL）から仕事を請け負い、9万2,000FCFAを受領した実績等がある。このようなビジネス活動を実施しているために政府には税金を支払っている（年間15万FCFA程度）。 ・カルティエの要望レターを作成することに関しては、完全にボランティアで行っている。カルティエで何か必要であると思われた場合には、カルティエの人たち

	に集まってもらい、協議したうえでレターを作成、市役所に提出している。 ・国家機関も市役所も機能していない。自分たちで何とかするしかないという思いがある。 ・社会統合に寄与するといわれるコミュニケーションを増やすためには、センシタイゼーション、人が広く協議できるミーティングのような機会が必要である。 ・（釈放された人を巻き込んだり、若者のマインドを変えてきたとの発言があったが）騒乱後に釈放された人たちが、家もなく路上で生活をしていたのを、自分たちの清掃活動に加わってもらった。週に 8,000FCFA を支払った。仕事をすることで彼らが人から認められた。彼らも考えを改め、今では家をもって結婚をしている。 ・そのほか、このような人のマインドを変えるための活動としては、スポーツアクティビティ（空手を一緒に習ったり、サッカーをしたり）が考えられる。チームスピリッツが重要である。

（Cent Douze Hectares カルティエ調査：98 年センサスにて Mande が優占とされる）

報告日：2017 年 2 月 2 日

場　所	Cent Douze Hectares, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 2 日（木）10 時 15 分～11 時 40 分
出席者	（市役所からの連絡が遅れ、3 名の参加者で開始） Mr. Koulebaley Abduray（47 歳）：ADAC の President Mr. Oke Moleina（52 歳）：ナイジェリア人イマム Ms. Gbane Kady（22 歳）：独身女性グループ（youth）のリーダー JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・当該カルティエにサブカルティエはないが、6 つのゾーンに分けている。ゾーンとサブカルティエの違いは、規模である（サブカルティエ＞ゾーン）。なぜサブカルティエにしないのかというと、単位が小さい方がマネージがしやすく、特にサブカルティエにする意義が見当たらないためである。サブカルティエ以下の単位になると市役所の職員から認識されないということはあるかもしれないが、特に問題だとは思っていない。 ・5 つのコンパウンドが 1 ロットを形成し、3 つのロットが 1 ゾーンとなるようなイメージである（実際の数とは違うとのこと）。 ・このカルティエは 1969～1970 年頃にアジャメ市から来た人たちで形成された。その際、エブリエの人たちから当時は森であったこの土地を購入しており、現在の土地所有者はマリンケの人たちである。エブリエの人との土地問題等は抱えていない。 ・主要民族はマリンケであり、約半数を占める。次に多いのはナイジェリアからの移入者、3 番目にニジェールからの移入者が続く。彼らの多くは既にコートジボワールの国籍を取得している。海外からの移入者も半数くらいにのぼる。おそらく 90%以上がムスリムである。 ・外国からの移入者が多い理由は、このカルティエが他の地域に比べて家を建てるにも家を借りるにも安いという利点があったためである。 ・当カルティエの人たちの主要な生業は、トレーダー、 日雇い、インフォーマルなビジネス活動、ウィッチクラフト、ドライバー〔taxi、baka（bus)〕等である。 ・当該カルティエには CGQ はないが、ADAC（Association for the development of Abobo Center）と呼ばれる委員会があり、カルティエの住民すべてがメンバーである。エグゼクティブメンバーは 9 名〔ベテ女性 1 名、バウレ男性 1 名、7 名が

マリンケ（女性 2 名、男性 5 名）〕である。当該カルティエにも CGQ がかつては存在したが、より多くの人を巻き込みたいこと、登録したいこと、活動を拡大させたいとの思いから、2010 年 10 月に ADAC に改編された。ADAC の登録後、すぐに選挙後の騒乱が起こった。

・この地域の出身者である国際的なサッカー選手（Mr.アルナ コネ）から資金援助を得ている（200 万 FCFA）。この資金で清掃活動を行ったり、イスラミックスクールにおいて最優秀学生を表彰するなどの活動を行っている。

・騒乱前はこの地にも全く住民間のコンフリクトはみられず、個人レベルの小さな問題が存在するのみであった。騒乱後は、カルティエの安全性に問題が生じた。ベテの人たちが襲われ、家から物が盗まれるということが起こった。このような事態を受けて、カルティエとして Fighter（当時カルティエにもまだ残っていた武器で武装した若者たち）を編成し、カルティエの秩序を保つよう努力した。ベテとその人たちとの関係性が特に悪かった。

・ベテの人たちは現在もマリンケの人たちを信頼しておらず､マリンケが集まる場所等へ入っていくことを恐れている。騒乱直後と現在の状況はあまり変わっていない。

・また、コートジボワール人と外国人の間の問題もある。例えば、マリ人はワールドカップの際などに、コートジボワールの敵国を応援する。おそらくこれまで、コートジボワールがマリにいつも勝ってきたために嫉妬しているのだと思う。ただし､彼らはパブリックスペース等で敵国を応援するようなことはあまりしない。ナイジェリア人ともいつも問題を抱えており、ADAC のリーダーとしていつも駆り出される（ここから別の話が始まり、後にどのような問題？と聞いたが、その際には、一般的にはナイジェリア人との間にコンフリクトはないとの回答に変わった。隣にナイジェリア人イマムがいたからか？）。しかし大きい問題ではなく、ナイジェリア人がセレモニー等に際してテントを道路などに設置することに対してコートジボワール人が不満をぶつける、といった軽微な問題である。実際に、ナイジェリア人とコートジボワール人の通婚も行われている（人口の 1%程度？とのこと）。
また、当カルティエは、2 つの大きな市場に囲まれており、住民たちが活動するための土地が不足している。そのため葬式のための場所をめぐって市場の人たち（当該カルティエ外からの商売人が多い）と争ったり、市場のせいで排水路が詰まったりするなどの問題を抱えており、日常的な争いがある。

・上記のような争いは日常的にあるが軽微なものであるのに対し、当カルティエに居住する人数は少ないがベテの人との間にある緊張関係は強い。ベテの人たちと一緒に集まって何かをするような機会も現在はない。世界女性デーの清掃活動で少し関係がもてたり、既出の最優秀学生の表彰等においてはベテの学生も対象となるため、そういう意味で関係性が全くないわけではない。世界女性デー等の清掃活動に彼らの巻き込みを図ることは可能かもしれない。

・当該カルティエには ADAC のリーダー以外にも、民族のリーダー〔マリンケ、バウレ、アブロン、（ベテは人数が少ないためにない）、その他外国人（現在多くがコートジボワール国籍）のヨルバ、ナイジェリア人、ニジェール人、ブルキナ人〕がいる。各民族がどのような活動をしているのかはわからないが、例えばバウレは 1 カ月に 1 回会合があり、彼らが抱える問題の共有やその解決方法について諮ったりしている。村全体の開発を担当する ADAC は各民族の長とオフィシャリーには会わないが、いつも意見交換を行っている。

・当カルティエにセキュリティを担当、責任を負うリーダー等は存在しない。以前は Security Committee というものがあったが（2010～2011 年）、コミュニティから

	の支援等がなく、お金の問題から消滅した。現在は、マーケットのもの等が盗まれないように見張るウォッチャーがいるのみ（カルティエの人ではなく外部の人）。どこかの NGO が当カルティエのセキュリティ確保のための活動を申し出てきたことがあったが、知らない NGO なので断った。 ・この地域のセキュリティ問題として、第一に挙げられるのはミクロブの存在である。日常的に彼らは人を襲っている。外部の者も多いが、本カルティエの住民である若者もいる。ミクロブを支援するという組織〔調整・追跡管理・再統合ユニット（Cellule de Coordination, de Suivi et de Réinsertion：CCSR）らしい〕があり、当カルティエから 13～17 歳の 3 名のミクロブを選出し、彼らにトレーニングを受けさせるためにバヤクロという場所に送った。そこで 6 カ月間、技術者（大工、レンガ工等）になるための研修などを受ける。2～3 カ月前に開始されたばかりでまだ帰ってきていない。2 名は選出されて喜んで行ったが、1 名は当初行くのを渋っていて、ADAC の人たちから説得され、最終的には参加することにした。CCSR は政府によって支援されているプログラムである。 ・ミクロブに襲われた事例等は警察に報告している。リベンジされるのは怖いので、報告したことがわからないように秘密裏に行う必要がある。われわれは小さい子どものミクロブを恐れてはいないが、その上にいる大きい人（Big person）が来るのを恐れる。当該カルティエが他のカルティエと比べてミクロブが多いわけではないが、セキュリティレベルは悪い。日中に襲われることもあるし、夜は電気がないためにより頻繁に起こる。われわれは警察を信頼しているが、彼らが来るのはいつも時間が経ってからである。 ・プロジェクト管理メンバーのようなものを構築する場合、各民族のリーダー、宗教リーダー、青年・女性グループの代表等を入れることが求められる。ADAC 等で何かを決定するにあたって、現在でも若者や女性の意見は取り入れるようにしている。 ・市役所職員のプレゼンスは皆無である。彼らは役割を果たしていない。税金の徴収のときにのみ現れる。税金は、市場やショップで販売している人、タクシー運転手などが支払っており、前者については 150FCFA～500FCFA/日または 5,000FCFA～1 万 FCFA/月である。 ・当カルティエは、サニテーション、廃棄物問題、セプティックタンクに課題を抱えており、皆に共通する問題の解決のための管理グループの設立は、すべての人を呼ぶことができるという意味で社会統合に寄与し得る。

報告日：2017 年 2 月 2 日

場　所	Cent Douze Hectares, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 2 日（木）11 時 45 分～11 時 50 分
出席者	Mr. Oke Moleina（52 歳）：ナイジェリア人イマム JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・当該カルティエ出身ではないが、コートジボワールで生まれた。ヨルバである。この地にヨルバはたくさんいるが、みんなバラバラに住んでおり、一地域にかたまって住んでいるわけではない。 ・他の民族（コートジボワール人、外国人含め）との問題は何もない。 ・イマムとして家族間で起こる問題に介入を求められることはあるが、民族間の争い等ではないため、どのような問題が起こっているのかはあまりわからない。

報告日：2017 年 2 月 2 日

場　所	Cent Douze Hectares, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 2 日（木）11 時 50 分～12 時 25 分
出席者	Mr. Aboudulay Diakite（1959 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケである。SINMIN（solidality and health）という NGO を運営している。当 NGO のエグゼクティブメンバーは 30 名、うち 15 名が女性である。30 名には、マリンケ、ベテ、グロ、ヤクバのほか、モーリタニア人、マリ人、ギニア人、セネガル人等がいる。設立は 1987 年 8 月。設立目的は、人々の結束を深め課題解決を行うことと保健に係る活動を行うためである。2010～2011 年の騒乱においても特に NGO の構成員などで何か問題が発生したことはなかった。自身は NGO のリーダーであるが、リーダーとしてどの政党も支持しないという姿勢を貫いている。民族間の問題はないと思っている。また、コートジボワール人だけでなく外国の人もメンバーに入れることで、オープンな NGO を築いている。 ・多様な人を受け入れるというわれわれの NGO の成功例や、われわれ NGO がやってきた清掃活動等を通じたセンシタイゼーションは、他の人にも共有できることである。 ・一緒に行うことを通して社会統合の促進をねらう活動として効果的と考えられるのは、保健、環境（排水路・廃棄物問題）、貧困問題への対応である。これらはすべてのカルティエ住民が共通して苦しんでいる問題であるためである。 ・これまでの活動実績は、カルティエ内での清掃活動である。ボランティアワークであるが、続けている。開始当初は人々の理解を得られず、ごみを拾っているそばから人々がごみを捨てていったが、現在は女性や子どもも巻き込んで活動を行うなど、参加者を増やすなどの工夫をしている。 ・設立当初、エグゼクティブメンバーにより 150 万 FCFA が拠出され、その資金を使って活動している。どの程度の活動資金が残っているのかについては、帳簿が手元にないため今はわからない。外部からの資金提供等はない。苦しみながらの活動であるが、この地域を良くしたいという同じビジョンをもった仲間たちとの活動に喜びを感じている。以前に一度、市役所から“harmonize”に係る支援の話が来た際に、カルティエ内の多様な民族に声をかけるなどの支援を行ったことはある。清掃活動等を長く続けてきたため、このカルティエの人たちはこの NGO のことをよく知っている。 ・Chieftaincy（アボボ市全体の）からミーティングへの参加呼びかけなどを受けたりもするが、本カルティエで NGO 自体の活動以外の役割は特にない。ただ、何か本当に市役所にリクエストしたいことがあった際には、コミュニティの人に声をかけ、内容を決定、フォーマルレターを作成して市役所へ届けたりはする。 ・当 NGO では毎月 1 回月の終わりに集まり、コミュニティの開発について語ったり、そのために何ができるのかを話している。現在の課題としては、清掃活動の実施に際して資機材が不足していることである。この清掃活動にはすべての民族からの参加者がある（ベテも含む）。

報告日：2017 年 2 月 2 日

場　所	Cent Douze Hectares, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 2 日（木）11 時 50 分～12 時 25 分
出席者	Mr. Webi Divi（1942 年生）

	JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・アボボセントラルのグロのチーフとして、市役所とグロの人々との橋渡しをしている（市役所から人を集めてほしいといったことがある際の、グロの人を集めるためのコンタクトパーソンという意味と思われた)。グロの人だけを集めてほしいと言われる機会もある（とのことであったが「具体的に」と質問すると、「ない」と回答が変わった)。 ・このカルティエは平和であり、人々は問題なくともに暮らしている。セキュリティについては、ミクロブ（ジュラの人）が人を襲うなど問題はある。ミクロブ問題については、政府が扱うべき問題である。ミクロブ問題については、子どもたちに仕事がないことが背景にある。ジュラだけでなく、すべての民族に共通している話である。 ・ジェネレーション間に問題はない。 ・このカルティエが現在直面している喫緊の問題は、排水溝がスタックしていることである。 ・（他のカルティエの社会統合等の状況についても質問したが、わからないとの回答)

（Abobo Sud 3S Tranche カルティエ調査:98 年センサスにて Akan と Mande の差があまりないとされる）

報告日：2017 年 2 月 2 日

場　所	Abobo Sud 3S Tranche（おそらく)、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 2 日（木）15 時～17 時 20 分
出席者	イマムや小学校教師、青年・女性グループのメンバー等 30 名程度 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Mr. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（イマムによるお祈りで開始) ・（本調査においては、いろいろな問題が投げかけられる点ではこれまでと同様であったが、これ以前の調査地とは異なり、回答者が自由に発言しているような印象を受けている) ・参加者の認識では、調査対象地は、“Banco Cite Verte Quartier”。98 年 INS データをすべて読み上げ確認したところ、Banco 1& 2 の Banco 2 だと言う人が多かったが、この地域をよく知る女性が Abobo Sud 3S Tranche であると発言し、他の人が納得する形で、おそらく Abobo Sud 3S Tranche に属するのではないかということで落ち着いた。Abobo Sud 3S Tranche には、おそらく Banco Cite Verte Quartier とタンピローというサブカルティエ（地域？）が存在する（インタビュー参加者のほとんどが Banco Cite Verte Quartier から来ているとのことであったが、タンピローという地域からの参加者も 3 名ほどいた)。 ・1998 年のセンサスデータでは当該カルティエの人口は 246 人となっているが、少なくとも 2,000 人はいる。当カルティエには、広範なスラムが 1 つ存在している。 ・当該地域の成り立ちは、以前はミリタリーキャンプに居住していた教師等の公務員が場所を追われ、1999 年に政府が代替地として提供したところに公務員が居住を始めたのが始まりである。以前がどの民族の土地であったかは知らないが、現在土地問題はない。 ・当地域の住民の 8 割以上がマリンケである。その他、CEDEAO からの移入者が約 5%程度と思われるが、他にもたくさんの民族が住んでいる。ムスリムは 90%以上を占めている。

・この地域の男性は仕事をもっていない人が多く、女性がマーケットで水や野菜、果物、アチャケ等を売って得たお金で家族を養っている。
・男性は仕事が全くないわけではないが、車のパーツ等を売っている人が多い。この仕事は収入が少なく、女性の収入で家計が賄われているのが現状である。
・男性：社会統合については、住民は互いを尊重し合いながら生活している。
・女性：COGES に端を発した問題が、地域を分断している。前 COGES の資金のマネジメント方法が不適切であったなどの理由から、COGES メンバーとその友人対その他の人との間で問題が発生した（メンバーとその他の人との問題なのか、COGES の問題が村の人々も巻き込んで二分してしまっているのかについて何度も確認を試みたが、前者であると言う人、後者であると言う人、具体的な問題は何かと聞いても話したくないと言う人たちがいて、最後まで問題の中身があまり理解できなかった）。いずれにしても、民族間の問題というわけではない。
・若年男性：2010～2011 年の騒乱の際に、家財の略奪行為などがあった。加害者、被害者ともにこの地域に残っており、彼らは今でも挨拶さえしない。互いを敵だとみている。隣人同士口をきかない人も多くいる。これは民族間の問題であり、危険な状態にある。また、この地域を離れたまま帰ってこない人もたくさんいる。とはいえ、騒乱直後に比べると全く改善していないわけではない。イマムが人の考え方を変えようと話をしたり、国際メディア（テレビ）の「人を憎み人が分断したままではいけない」というような報道を見て、考えを変えてきた。
・若年男性：車のパーツを売る販売者との争いが絶えない（ほとんどが地域外からの労働者）。彼らは土地代を払っているが、道路上にも進出してきており、セキュリティ、サニテーションの観点から問題がある。緊張関係はかなり強いものがある。市役所にも報告したが一切返事はなく、警察に助けを求めに行ったら逆に逮捕された（相手が捕まることを恐れて先に警察に何らかの申し立てをしていたとのこと）。
・男性：地域外からのパーツ販売者だけでなく、この地域からのパーツ販売者とも問題は抱えている。その他の住民間の関係性は改善してきている。住民は互いにコミュニケーションをとるようになってきた。
・女性：どのような活動が住民のコミュニケーションを促進するのかについては、学校が挙げられる。子どもたちは互いに話すが、成人男女は互いに話さない。成人男性に学びの場を与えることがコミュニケーションの促進につながるのではないかと思う。
・女性教師：学校内にも問題がある。先生同士も仲が悪い。先に出た COGES の問題についても、昔の COGES の活動はうまくいっていたが、今の COGES（メンバー一新）とは一緒に働かない。教師間でも口をきかない人もいる。以前の COGES と今の COGES のメンバーも一切口をきかない。個人的には幼稚園のためにスペースを取りすぎている幼稚園の教師とも話さない。
・男性：道路が整備されれば、車のパーツを売っている人との問題は解決される（「どのように？」という質問には納得いく回答は得られなかった）。
・男性：隣人との間に問題を抱えている。隣人が自分の家の前にガレージを構えたため、自身の家の前に砂を敷いて抵抗したりしている（隣人とも話し合えない状況がうかがえる）。
・女性：現在、住民が集まって何か一緒にできるような活動はない。民族ごとであれば、セヌフォの女性グループで集まってセレブレーションをやったりしている（「他の民族をそのセレモニーに呼ぶことは困難か」との問いに対しては、「呼べる」との回答）。その他、地域の清掃は民族に関係なく皆でやっている。これま

でに「母の日」に2回実施した実績がある。
・若年男性：当該地域は安全ではない。2016年に1名、2年前に2名が殺害されている。加害者は外部者であり、だれかはわからない。
・女性：当地域にはヘルスセンターがあるが、これまでに5回以上は襲撃を受けており、夜間は 18 時になると閉めてしまい、だれもいなくなる。夜間の緊急患者が出た際には、離れた場所まで行かなければならない。
・男性：車が通れない場所が多く、警察がアクセスできない。
・男性：ミクロブの問題は深刻である。日常的にミクロブによる襲撃がみられる。日中にも起こる（他の地域よりも深刻と言う人と、他の地域より深刻というわけではないと言う人がいた）。仕事へ行くのも早朝はミクロブが怖い。
・男性：ミクロブのプロジェクトへの巻き込みは、彼らにソーシャライズの機会を与える。彼らは仕事がないのである。
・女性：「女性の日」の活動に彼らを巻き込むことも可能である。
・当該地域に存在するリーダーは、イマム、牧師、民族リーダー〔ジュラ（マリンケ、マウカ、コヤラ、ジェネカ等それぞれ）、セヌフォ、バウレ、マリ人、ナイジェリア人、ブルキナファソ人等〕、女性・青年グループの代表、NGOである。
・プロジェクト管理委員会として適当なのは、民族リーダー、異なるアソシエーションのリーダー等である。
・（「カルティエの長はいないのか」との問いに「自分がそうである」と名乗る男性がいたが、「違う」と言う人も多数いた）カルティエの問題を解決する者として、自身が選ばれた。カルティエの長である（association という言葉を使ったりもしていて、詳細不明）。このアソシエーションは10名で構成され、代表、秘書、会計係、監査係、セキュリティ係等がいる。セキュリティ係は、だれかが襲撃された際などに、その人物の特定を任されたりする。会計係、監査係がいるが、お金は扱っていない。メンバーは、マリンケ、セヌフォ、バウレ、ブルキナファソ人等他民族で構成されている。定期的なミーティングはしていない。市役所に車のパーツ販売者による道路占拠等について報告したりしている。
・行政へは不満しかない。市役所はわれわれの地域の存在を知っているのかさえ疑問である。小学校の椅子が足りないことについて、フォーマルレターを IEP（学校マネジメントに責を負う機関とのこと）を通じて市役所へ提出したが、返事はない。
・われわれが問題に直面していても何も感じない人たちである。何かのセレブレーションなどの際に人集めを求められるときだけ連絡が来る。
・このカルティエで行政が何か仕事をしたことはない。われわれのために彼らは存在していない。車のパーツ販売の人たちと関連して住民が警察に拘束された際も市役所に助けを求めたが、何もしてくれなかった。市役所との関係性はないに等しい。
・市役所には、ローカルマネジメントをきちんとするような能力強化が必要である（ローカルマネジメントの内容については、“すべて”ということで詳細は得られなかった）。市長はもともとローカルマネジメントに責を負っているはずである。役割を果たしていない。
・Social & Cultural Departmentの人材育成が必要である。当該Departmentは住民との橋渡しのために重要な役割を担っているが、何か問題があっても、Director と秘書しかおらず、Director しかいつも対応できないのは問題である。彼女を訪ねる目的は、自分たちのアソシエーションの活動を行うにあたって、市役所として資金提供できるようなドナー等がいないか問い合わせることが主である。

	・セキュリティや社会統合に係るものについては、警察に報告する。 ・学校のスペースが足りていない。学校に子どもを通わせられる人と通わせられない人との間にもコンフリクトが発生し得る。生徒数 1,200 人、多いところでは 1 クラスに 120 人ほどの生徒が詰め込まれていて、この学校に通えない子どもは他の地域まで通っている。また、他の地域から来ている生徒もおり、その生徒たちのためのキャンティーン（売店、食堂）整備等も必要である（その他、トイレがない等々さまざまなリクエストが出てきた）。

報告日：2017 年 2 月 3 日

場　所	District de Police d'Abobo
日　時	2017 年 2 月 3 日（金）9 時 10 分～9 時 20 分
出席者	Mr. TimiteVassindou（Chef de district de police d'Abobo） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	ミクロブに係る報告書
打合せの目的	依頼していたミクロブ等に係るデータの収集
協議内容	・ミクロブ報告書を作成する責を負ったので、その際のレポートを共有する。データは 2013、2014 年のものである。それ以降のデータもあるが、忙しくて手が回っていない。レポートを作成次第、共有する。 ・ミクロブ以外の殺人等に係るデータもあるが、忙しくて今日は渡せない（本当に忙しそうであり、退席後、秘書の女性に以下の情報を聞いた）。 ・当局はアボボ全域を管轄する警察署である。本署以下に 6 支所の警察署がある（13ieme, 14ieme, 15ieme, 21ieme, 32ieme, 34ieme）。 ・各支所の所在地は、13ieme：Sogefia、14ieme：Abobo Center、15ieme：本警察署の下（1 階）、21ieme：Abobo Derriere Rail、32ieme：Abobo Avocatier、34ieme：Abobo Baule。

（先日のインタビューの際に、ミクロブから話が聞きたいのであれば調整するとの提案があり、お願いした。連れてこられたのはミクロブを支援する女性 1 名と 14～15 歳の少年 3 名であった。）

報告日：2017 年 2 月 3 日

場　所	Banco 1 & 2, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 3 日（金）10 時 35 分～11 時 20 分
出席者	Ms. Cesay Cone Masande（40 歳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	ミクロブといわれる人たちからの情報収集のため
協議内容	・マリンケの女性。ミクロブのソーシャライズに係る活動を行う NGO（"Vivre Ensemble"）の代表であり、活動を始めて 5 年がたつ。以前はトレーダーとして収入を得ていたが、現在はすべてこの NGO の活動に時間を割いているため収入はない。当 NGO のメンバーは 10 名（男性 6 名、女性 4 名）。ジュラ 4 名、ベテ 2 名、アニ 1 名、セヌフォ 1 名、バウレ 1 名、アベ 1 名である。民族が違うことでの問題はない。 ・住民たちはミクロブは殺すべきだと主張するが自分はそうは思わない。彼らにも家族がおり、彼らに必要なのは仕事をする機会であり、ソーシャライズ、社会への統合が必要である。 ・120 名の子どもをアボボのすべてのカルティエ、アボボ以外の市から選出し（120 名中 20 名はアテクベ市から）、彼らを Dadou に送り出した。彼らは Dabou で 1 年

	間技術訓練（機械工、大工、裁縫士、レンガ工）などを受け、3カ月をBonouaで過ごし、帰ってくる。現在研修は終了し、これから彼らが仕事を開始できるようマテリアルを与えて仕事を始めていく段階にある。また、120名のほかに現在は10名をココディ市のLivieraに送り、ダンサーとしての訓練を受けさせている。彼らはすべて男性であり、何人かは途中でドロップアウトするが、われわれが説得をして全員が戻っている。 ・技術を習得して帰ってきても、家族に受け入れられない少年もいる。彼らをKorhogoやDaloaから受け入れ可能なファミリー等にお願いすることもある。また、研修中に両親と連絡をとらせることで、技術習得後に家族のもとに帰れる環境を整える支援もしている。 ・防衛省が実施してきた元兵士の武装解除・動員解除・社会復帰のための機関（Autorité pour le Désarmément la Démobilisation et la Réintégration des ex-combattants：ADDR）のプログラムと7カ月間の契約を結んで実施してきたが（時期を尋ねたが不明）、当契約は既に終了しており、今は自身の資金で少年たちを支援している。前出のCCSR（ミクロブのトレーニングプログラム）については存在を知らない。 ・120名の選定、10名の選定にあたっては、自身が少年を訪ね歩いて選定したが、一部は自ら志願してきた少年もいる。 ・プロジェクトの実施に際しては、彼らの巻き込みも考えてほしい。彼らを巻き込むことで住民との問題には発展しない。何かあったとしても自分は仕事も辞めて彼らについているので、自身がどうにかできる。 ・われわれNGOの支援のほかに、数年前に市役所が若者にお金を支援して運転免許証の取得を支援したことがある。この際には志願者が多数おり、若者の社会化に役立った。 ・若者の社会への統合に効果的なのは、技術訓練校の設立である。現在はアボボには存在せず、Dabouが一番近いがそこも満員状態である。きちんとした仕事をもてば、社会から認められ、彼らが犯罪を犯すことも減るはずである。そのほかには、サッカー試合等はとても良い機会となる。以前アメリカのNGOが支援してサッカー試合の開催を行ったことがあるが、少年たちが輝いていた。そのほかには、彼らを学校へ通わせ、識字教育を行うこと等が必要である。 ・アボボでミクロブが多い理由は、貧困とポリガミーである。夫が死ぬとたくさんの子どもを養うべき女性は資金源を失い、母親は彼らを小学校へ通わせられなくなり、子どもたちは路頭に出始め、犯罪を犯すようになる。そうすると親が子どもを拒否するようになる。 ・当NGOは現地では有名であり、当初は活動に批判的であった住民も今では応援してくれている。資金的なサポートは住民や親からはないため財政状態はかなり厳しい。 ・警察ともかかわりがあり、警察は少年を逮捕すると当NGOの代表である自身に連絡を寄こし、自身が少年を保護したうえで研修先等に送ったりしている。

報告日：2017年2月3日

場　所	Banco 1 & 2, Abobo Commune
日　時	2017年2月3日（金）11時20分～11時30分
出席者	Mr. Binate Sindou（15歳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	ミクロブからの聞き取り

協議内容	・マリンケ。兄弟なし、両親と同居。イスラム教学校に通ったが、公立学校に通ったことがない。 ・以前はバカ（中型バス）の呼び子をしていたが、父に辞めろといわれて辞めた。バカの呼び子はいい仕事ではないと父だけでなく多くの人が思っている。また、呼び子をするにはまだ幼すぎるという人もいる。呼び子は皆、ドライバーになりたいと思っている。 ・現在は職がなく、機械工になりたいと思っている。しかし、受け入れてくれるところが見当たらない。機械工の職場に見習いで行って技術を習得したいと思っている。 ・呼び子か機械工かどちらの仕事がいいかと聞かれれば、機械工であるが、呼び子の方がお金を稼ぐにはてっとり早い（すぐお金が手に入る）。 ・住民の一部の人は、自分たちを受け入れてくれない人もいる。認められる仕事をすること、ミクロブのようにふるまわず良い行いをすることで、社会から認められると思う。 ・もし機械工等の研修を受けられる機会が得られたとしたら、アボボで働きたくない。アボボは環境が悪く、すぐミクロブから仲間に入れられてしまう。

報告日：2017 年 2 月 3 日

場　所	Banco 1 & 2, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 3 日（金）11 時 30 分～11 時 40 分
出席者	Mr. Kanate Moussa（14 歳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	ミクロブからの聞き取り
協議内容	・マリンケ。兄弟は弟が 2 人。両親と同居。イスラミックスクールに通ったが、公立小学校に通ったことはない。 ・以前は機械工や大工のもとで働いていたが、友人にバカの呼び子が多く、彼らに引っ張られてバカの呼び子になった。バカの呼び子はいい仕事ではない。バカの呼び子になるとミクロブになってしまう。現在は機械工になりたいと思っているが機会がない。 ・住民のなかには自分たちを敵視する人もいる。人から認められるいい仕事に就きたい。いい仕事に就けば、いい妻を得ることもできる。

報告日：2017 年 2 月 3 日

場　所	Banco 1 & 2, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 3 日（金）11 時 40 分～11 時 50 分
出席者	Mr. Issiaka Oudrago（年齢不詳） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	ミクロブからの聞き取り
協議内容	・（おそらくドラッグを吸ってきてからインタビューの場にいると思われる） ・マリンケ（ブルキナファソから）。兄弟は弟が 2 人。学校に通ったことがない。両親とは同居しておらず、路上で寝ている。兄弟はたくさんいるが何人いるのかは知らないし、自分の年齢も知らない。 ・バカの呼び子として毎日働いている。一緒に働くドライバーは固定されているわけではなく、何度か変えて働いている。お金になるから呼び子としての仕事を続けたい。1 日に 4,000～5,000FCFA を稼いでいる（本当か？）。 ・住民からは敵視されていて、彼らに認められたいとは思うがどうすればいいのか

	わからない。 ・技術を学んで技術工になるような機会があったとしても、トレーニングを受けたり技術工として働きたいとは思わない。今のままバカの呼び子を続けてお金を稼ぎたい。

（Akeikoi Extension：98 年センサスにて Akan が優占とされる）

報告日：2017 年 2 月 6 日

場　所	Akeikoi Extension, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 6 日（月）10 時 30 分～12 時 40 分
出席者	Akeikoi Extension（Quartier？）の Bete 代表、Wobe 代表、女性グループの代表・メンバー、Religious association リーダー、Consumer Association のリーダー、NGO のリーダー等 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・〔ジュラの出席なし（声をかけたが予定が合わなかったとのこと）〕 ・Akeikoi Village の下に、Akeikoi Village と Akeikoi Extension があり、Akeikoi Extension の下に 5 つ以上（Yakouba, Dgibi, Cent Marque, Balams, Bethel）のサブカルティエがある。今日の出席者はすべて Akeikoi Extension に居住する人たちである。村の人たちを呼びたくなかったわけではなく、呼んでほしいという指示が市役所からなかったためである。Akeikoi Village はアティエの村である。 ・村の人たちと一緒にする活動もある。EU ファンドによるプレーグラウンドの整備プロジェクトにおいては、アボボ市全体で 12 名の管理委員会が構築されたが、3 名が当カルティエ（Akeikoi Extension）から、1 名が Akeikoi Village から選出されている。 ・2013～2014 年には、国際的な組織のアフリカフランス語話者の女性組織ネットワーク（Réseau des Organisations Féminines d'Afrique Francophone：ROFAF）からの資金援助を得て、社会統合に係るワークショップを調整したが、その際の対象もカルティエ・村の両方である。 ・NGO として水へのアクセスにかかる調査を実施した際も、2015 年に正しい消費の仕方などについてのアウェアネスワークを"Consumer day"として企画した際も、対象はカルティエ・村の両方であった。 ・ただ、Akeikoi Village はアニャマ市、Akeikoi Extension はアボボ市に属している。アボボ市の下に Akeikoi Village を属するように以前から市役所等が働きかけているとのことであるが、現在に至るまで実現はしていない。 ・（これより先、特に断りない限りは、Akeikoi Extension の情報とする） ・主要民族はアティエで約 35%、ベテがそれに続くがどの程度の割合かは不明。宗教はキリスト教徒が多い。この地域の主要なインカムソースは、女性はアチェケや魚の販売であり、男性はアボボ外（ヨプゴン等）で会社や工場などで職を得ている人も多い。アボボには会社や工場などの雇用機会がない。またその他、農民もいる。 ・この地域は Ande 市に住む大きな家族の 2 兄弟が喧嘩したことで、兄弟のうちの 1 人（Mr. Abudou Akei）が森林（ファーム？）だったこの地に 1890 年頃に移ってきた。エブリエから土地を購入したわけではなく、だれも居住していなかったところに移り住んだだけ。その後、アティエの人たちが村の土地を人々に売り続け、現在の Akeikoi Extension が形成されるに至った。Akeikoi Extension は、アボボ市に近いために、アボボ市に属することとなった。

・土地問題はそこらじゅうにある。この地域の一番の問題ともいえる。土地所有者が同じ場所を複数の人に売ったりしているのが原因である。土地問題に関しては、アティエの Village chief/ land owner が解決することになっている。
・2010～2011 年の騒乱では大きな影響を受けた。民族間の争いが起こり、家は壊され、物は盗られ、ある人は殺され、たくさんの人がこの地から逃げた。逃げた人のうち 80%程度は戻ってきたが、20%はまだ戻ってきていない。前後の人口や規模についてはわからない。逃げたのは、バグボ派の住民のみであり、ジュラの人たちがこの家はバグボ派だと告げ口して、家財が略奪されていった。ベテのチーフは、逃げてから 3 カ月間は路上などで生活し、状況が落ち着いたのを見計らって家に帰還した。コンフリクトはつくるのは簡単であるが、その後の国民和解には膨大な時間がかかる。まだまだ社会統合のために行われなければならないことがたくさんあり、まだまだ終わらない問題である。
・現在、騒乱直後に比べて民族間の関係性は改善している。例えば以前は、Association の中に複数の民族が居住することがなかったが、現在は一緒に活動したりしている。村のアティエのチーフ等がコミュニケーションを図れるように語りかけてきた。彼らの働きが大きく影響している。
・行政機関も人々の分断を加速させている。2011～2012 年に和解・被害者補償委員会（Commission National pour la Réconciliation et l'Indemnisation des Victimes : CONARIV）〔対話・真実・和解委員会（Comission Dialogue, Vérité et Réconciliation : CDVR）の後続〕からの要請を受けて NGO として、騒乱によって被害（けが等）を受けた人を同定し、25 名のリストを作成したが、CONARIV によって補償対象に選ばれた人は 1 人もいなかった。一方で、ジュラの人たちは多く選ばれている。反政府派は、補償対象のリストから外されるのである。このようなことを経験するうちに、人々の間に良くない感情が芽生えていく。ベテのチーフも家財などすべてを強奪されたが、必要書類を提出しても何の支援も得られなかった。アティエやベテは選ばれない。
・社会統合に係る課題は、2016 年の議員選挙にも表れており、多くの人が選挙をボイコット、また多くの人が恐怖心から選挙に行くことができなかった。いまだに隣人を信じていないという背景がある。
・人々は皆団結していると嘘をつくが、実状は何も変わっていない。政府は人々の団結のためには何もしていない。仕事を得られるのは北部出身の人たちのみであり、そのような状況をつくられてジュラの人と団結するなど不可能である。
・政府が人々を分断している（民族、宗教の別など）。女性グループへのサポートも北部出身の人たちのみが支援を受けられているような状況であり、フラストレーションがたまっている。
・ミクロブ（すべてジュラであるが）問題も民族問題に影響を与える。ミクロブに襲われたことを警察に届け出ても、警察官もジュラであり、ミクロブを逮捕しない。ミクロブの親等から謝罪もない。
・この地域は、騒乱前から市役所からバグボ派として位置づけられており、何の支援もされない。ある種のパニッシュメントのようなものである（実際も人々はバグボ派であるとのこと）。
・このような背景から、この地域では普通の地域に比べていろいろ問題が発生する。市役所での出生届、死亡届の届け出のときさえそうである。市役所との関係性は悪い。彼らは言葉ではこの地域のことを悪くは言わないが、行動を見ていればわかる（意図的に支援されないなど）。
・セレブレーションデーの支援を求めて市役所に行ったが、まったく相手にされな

	かった。大きなコンフリクトがあるわけではないが、市役所のせいでフラストレーションがたまっている。 ・女性グループの活動（ベテ）に他の民族も誘うが、ジュラの人は参加を拒否する。どうしたらいいのかわからない。彼女たちは私を見るとバグボ派とみなす。彼らとの間に連帯は存在しない（女性グループの名前がベテの言葉だからマリンケの人も入らないのではないか、との意見もあり）。 ・女性グループや青年グループ、その他 NGO 等がこの地域にもあるが、政党とは一切関係ない。チーフとして、人々には政治のことは忘れて、静かになろうといつも話している。 ・同じ建物内に住むジュラの人から、妹は暴力を振るわれて警察に届け出たが一切何もしてくれなかった。リベンジしようと思っている。 ・当地域は村ではないが、Chieftaincy があり（25 年以上前から）、40 名以上のメンバーで構成されている。メンバーはほぼすべての民族からの代表で構成されており（マリンケ等ジュラも含む）、Local Authority としてコンフリクトマネジメントをしている。出生祝いや葬式などは民族一緒に実施もしている。 ・プロジェクトの実施に際して管理委員会を新設するのであれば、そのメンバーは、Chieftaincy の Spokesman（どの民族にも分け隔てなく報告をする）、青年・女性グループの代表、宗教リーダー（キリスト教・イスラム教両方）、村のリーダー/土地所有者がメンバーに含まれるべきである。宗教リーダーは、老若男女が集まる教会・モスク等で人々に広く情報を伝えるのに適任であるため、必ず含めるべきである。カルティエの方でのプロジェクトであったとしても村のリーダー/土地所有者は含めるべきである。 ・行政への不満は既に発言のとおりであるが、彼らのキャパシティ・ビルディングをするのであれば、まずはコミュニティに来て実状を知ってほしい（選挙のときだけ見るのではなく）、人々と話をして抱えている問題を聞いてほしい、民族などにかかわらずフェアな行動をとってほしい。 ・市役所へ要望を提出するチャンネルとしても Chieftaincy は存在している。当該地域の要望をまとめ、市役所に提出している。 ・また、当地域に本部を置くナショナル NGO（Femmes en Action）はこれまで、住民からの意見聴取の機会に 3 回（1 年 1 回、3 年間）市役所に招待されている。しかし、出席者が多すぎてマイクがまわってこないため、発言する機会に恵まれていない。 ・この地域からは兵士は輩出されておらず、騒乱時は外部から兵士が入ってきていた。そのために、この地域では防御のためにプロテクションチームを結成していた。兵士を多く輩出したのは Sogefiha（ミリタリーキャンプがある地域）である。騒乱時に襲われ、家を追われたのはバグボ派とみなされる民族のみであった。Andokoi Koute（エブリエの村。COSAY フェーズ 1 の対象地域でもある）等は、1 日に埋葬される人の数が 200 人以上にも上るなど甚大な被害を受けた地域がある。 ・Chieftaincy では民族混ざっての活動が可能であるのに対し、女性の間ではいまだに難しいという問題の背景には、差別（嫉妬？）の問題がある。例えば、市場においてでさえジュラの人がいい場所を陣取っている。与党派がわれわれの民族の方を支持しない（場所取りでさえ政治的なものが関係するという話ではなく、ジュラの人はビジネスで稼いで、お金があるからいい場所も取れる、という意味のよう）。このような状況に対応するために、ベテでは女性グループを新たに設立させた。

報告日：2017 年 2 月 6 日

場　所	Akeikoi Extension, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 6 日（月）12 時 50 分～13 時 5 分
出席者	Mr. Akia Serge（37） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・アティエの男性。MISDEF（Ivorian Movement for monitoring of right to education and training）というナショナル NGO のアボボ市のリーダー。アボボ市には 6 名（男性 4 名、女性 2 名）のエグゼクティブメンバーがおり、いろんな民族が集まっている（アジュクロ 2、バウレ、アニ、アティエ、マリンケ）。メンバーは異なるカルティエから選出されている。リーダーは NGO 全体のリーダーからのアポイント制。エグゼクティブメンバーは問題なく活動している。2013 年 3 月に設立。本 NGO と政党とのかかわりは一切ない。 ・設立目的は、子どもたちに“good citizen”等についての教育を行うことである。民族に関係なく、人とともに生きることを教えている。 ・現在の活動としては、各中学校に 1 名のスポークスマンと 5 名のその他生徒から成るモニタリングチームを結成し、上記の子どもへの教育の実状に対するモニタリングを行っている。 ・社会統合のために、学生との大きな会合を計画している。学生以外も対象にした社会統合に寄与する活動についてはアイデアがない。 ・NGO としてのミーティングは、定期的には実施されておらず、課題がある場合にイレギュラーに集まっている。 ・教育にかかわる NGO として、全国規模の CNPEL（CNPS？）（Union of students' parents)、連邦消費者組合（UFC）と協力関係にある。その他、各市に学校の監理を担う国民教育の地方総局（DREN）とも協力している。市役所や中央省庁からの資金援助や補助は受けておらず、関係は特にない。

報告日：2017 年 2 月 6 日

場　所	Akeikoi Extension, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 6 日（月）13 時 10 分～13 時 30 分
出席者	Ms. Kipre Hortense（1957 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ベテの女性グループ〔Awuane（Let's unite!)〕のリーダー。2015 年に設立。以前は女性グループがなかったが、ベテのチーフの下に女性リーダーとしては存在していた。女性の活動を互いに支援したいということで新たに設立した。登録の希望はあるが、まだ申請していない。メンバーはベテのみ。現在 260 名くらいの女性がメンバーである。リーダーは、ベテのチーフが選出した。この地域に他にも民族別の女性グループはあるが、民族混合の女性グループの有無はわからない。 ・現在の活動は、出生祝いや葬式などの際にメンバーからお金を集め、支援したりしている。 ・祝い事などの活動に際して北部の人たちも招待するが拒否される。 ・民族間のコミュニケーションを促進するためには、共通の活動を行う必要がある。女性に対して、ビジネス活動を支援するに際して共同販売等の活動を入れるなどである。 ・その他、「女性の日」に演劇（シアター？）やダンス、食事を供するなどの活動

	をしたが、その際にもベテと結婚しているジュラの女性等は参加したが、その他は参加していない。このセレモニー開催においては、議員メンバーの Ms. Jeanne Peumoh（ジュラではない）からの資金的な支援を受けた。 ・市役所に登録すれば資金的な支援をもらえるチャンスはあるかもしれないが、現在は登録していないのでそのようなチャンスには恵まれていないし、談判しても何の反応もない。

報告日：2017 年 2 月 6 日

場　所	Akeikoi Extension, Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 6 日（月）13 時 40 分～14 時 15 分
出席者	Ms. Irad Gbazali（1983 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ディダの女性。ナショナル NGO（femmes en action）のリーダー。今日のミーティング場所が本部。2009 年に設立した（現リーダー＋5 名の女性が設立主要メンバー）。 ・アクティブなメンバーがアビジャンで 300 名、アボボで 175 名ほどいる。ほぼすべて女性メンバーである。エグゼクティブメンバーは 8 名（男性 2 名、女性 6 名）であり、ジュラ（vice president）、ウォベ（秘書）、アティエ（会計）、コミュニケーション担当（アブレ、アニ）等、民族はさまざまである。騒乱時は民族間でいろいろな問題等もあったが（互いに対する誤解に起因）、現在は話し合いを進めてきており全く問題はない。 ・設立動機は、地域の中で学校に来ない女児の家庭を訪問した際に、彼女が父親から暴力を振るわれていて、それを止めに入っていた妻も殴られていたのを見たことから、家庭内暴力（男性が女性・子どもに暴力を振るう）に立ち向かうための組織を立ち上げた。 ・現在は、女性への識字教育や、若年少女への HIV/ AIDS 予防、女性リーダー育成に係るワークショップ、選挙に係るセンシタイゼーション等の活動を行ってきている。女性のエンパワーメントについては、実際にキャッサバや米の栽培＋販売グループ（民族混合）の設立や銀行との橋渡しを支援している。 ・GBV の数は、騒乱前、騒乱直後よりは減っていると思う。センシタイゼーションを通して男性の意識変革が進んでいる結果だと思うし、他の NGO もやり方をまねて活動したりもしていて、活動の範囲自体が広がっている。 ・選挙に係るセンシタイゼーションについては、選挙時期に戸々を回り、人々の選挙への意欲をかき立てるため、すべての人に対して選挙に行くように説いた。どちらの支持政党からも妨害等は受けておらず、むしろ本活動を支援してくれた。本活動においては、アメリカの機関である NDI（National Democratic Institute）からの資金援助を受けた。 ・社会統合に好適な活動は、スポーツアクティビティである。当地には女性のサッカーチームも 2 チームあり、男性だけでなく女性の参加も可能である。そのほか、女性に対しては資金さえあればコマーシャルアクティビティを支援するのも効果的。銀行からの融資を支援する一方で女性に対するビジネスの手法に係る研修も実施する。研修に際しては、民族が異なる 5 人の女性を 1 グループにして協議させるなどの方法が考えられる。そのほか、社会文化的活動として各民族がそれぞれの民族ダンスを披露するダンスパーティ等も考えられる。また、クッキングコンテスト等も民族にかかわらず広く女性を巻き込めると思う。

	・市役所との関係性は、既出のとおり、年間計画を市役所が立てるにあたっての会議への招待を受けたり、既出の EU によるプレーグラウンドの整備に際して市役所からの依頼を受けて地域の人にインフォームしたり、プロジェクトの趣旨等を共有したりした（ボランティア）。 ・政府からの資金的なサポート、補助等は一切ない。活動開始に際しては銀行からの融資を受け、現在は、当日のミーティング場所の貸し出しによる収入（結婚式 1 回 15 万 FCFA 程度）や小さな学校経営による収入、毎月エグゼクティブメンバー6 名（女性のみ）が 2 万 FCFA ずつを出資して、活動費用に充てている。 ・アボボの市長とは違い、ヨプゴンの市長は政党にかかわらず、民族にかかわらず市民を支援していて、彼のことは誇りに思っている。 ・私の夫はマリンケであり、重要なのは政治・政党ではなく家族である。政治的なことに惑わされて人が争うことに意味はない。結婚したのは 10 年前（騒乱前）であるが、現在は以前よりも通婚は難しいと思う。

報告日：2017 年 2 月 6 日

場　所	Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 6 日（月）16 時～17 時
出席者	Mr. Bengaly JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
入手データ	2016 年議員選挙結果
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の対象地選定に係る協議
協議内容	・（JICA team より）現在、2014 年のセンサスデータについて INS からの情報提供待ちであり、そのデータをもって対象地を選定したいと考えているが、翌々日にはアボボの社会調査が終了し、翌木曜よりヨプゴンでの社会調査を実施する必要がある。本日今週木曜・金曜の調査サイトのみを選定し、INS からのデータを待って再度協議、調整することとしたい。アボボでは、カルティエを Akan、Mande がそれぞれマジョリティの地域と、両者にそれほど差がない地域の 3 カテゴリーに分け、各カテゴリーから 3 サイトずつ、計 9 サイトを選定した。INS とヨプゴン市役所のカルティエ区分の調整をこれまで行ってきたが、やはり INS が市役所のカルティエ区分に従って情報を提供することは難しそうなので、2014 年のデータを待ってみないとどのような区分になっているのかわからないが、唯一のデータということで INS の区分に従わざるを得ない状況である。1998 年のデータではあるが、アボボに比べヨプゴンは Akan、Krou の割合がかなり高くなっており、選定の仕方について何か意見があれば伺いたい。また、選定に際して、社会統合に係る指標も入れたいと考えているが、何を指標とするべきか、アドバイスがあれば伺いたい。 （以下、Bengaly 氏の発言） ・選定の仕方については、アボボと同様、各カテゴリーから 3 サイトずつが好ましいと思う。社会統合に係る指標については、やはり民族的、宗教的な多様性を考慮すべきである。また、人々が調和をもって生活しているかが重要である。1998 年のデータではわからないため、やはり 2014 年のデータを待つべきである（しかし、今週中にデータが手に入らない場合は、1998 年のデータにて金曜に再度協議、翌週の調査サイトについて協議を行うことで合意）。 ・（騒乱時の避難者数も選定に際する指標になり得るかと思うが、避難者数が多かったサイトはどこか）Ancien Quartier SICOGI、Camp Militaire、Gesco Manutention、Miangon、Yopougon Sante である。しかし、彼らの多くは既に帰還している。

	・（選挙の際の投票率も 2014 年のデータがない現在、対象地を知る手だてとなり得ると思うが）2016 年の選挙結果を入手したので共有する。データをみるとどこも低く（ヨプゴン全体で 10%程度）、差は出にくいかもしれない。 ・金曜日の調査は好ましくないため､木曜に 2 カ所で調査を実施することとしたい。いろいろな民族が居住する Niangon Nord 及び避難民の多く出た Gesco Manutention を木曜に訪問するサイトとしたい。

（Abobo Baule：1998 年のセンサスデータでは Akan が優占とされる）

報告日：2017 年 2 月 7 日

場　所	Abobo Baule 村のパレス、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）10 時 20 分～12 時
出席者	Village chief、Chieftaincy、青年・女性グループのリーダー・メンバー等 35 名ほど（うち女性 7 名） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（出席者はすべてエブリエ。すべての質問に Village chief がまず回答する。Village chief 以外の人が発言する場合も、まず彼らの言語で会話し、チーフの承認が出ればフランス語で答えるといった雰囲気。また、村内がすべて舗装されており（NGO 等の支援とのこと）、村内が非常に整っている印象）。 ・Abobo Baule 村からのみの出席者。Abobo Baule の下には Abobo Baule 村のみが帰属し、Abobo Baule 村の下には、ジュラの人たちの居住地である Djoula Boubgou サブカルティエがある（村の一部）。Abobo Baule Extension は村の下にはないが、行政が Abobo Baule と定めていて、当該リストに Abobo Baule Extension がないのであれば、Abobo Baule の下に村と Abobo Baule Extension が属していると理解すべきなのであろう。スラムも 1 つある。Quartier Washington というところから政府に追い出されてきた人たちがこの地に居住し、スラムを形成している。Abobo Baule はエブリエの村。クリスチャンである。主な収入源は、土地や建物の貸与による家賃収入、農業を行っている人もいる。土地は家族（7 つの大きなファミリー）に帰属する。Landowner Association のようなものはない。 ・当村は 1892 年に rebel of police academy というところに居住していたエブリエの人たちが移り住んできて形成された村である。移入当時はだれもこの地には居住しておらず森林だった場所であり、土地を購入すること等なくこの地での生活を開始している。現在村の土地を移入者たちに譲ったり販売したために村の面積は縮小している。販売した土地についてはエブリエの帰属ではなく購入者の帰属となり、土地問題等は発生していない。しかし、（アゾペ市から移入してきた）アティエの人等とは土地問題を抱えている。アティエの人たちが現在ジョログビテとよばれる地域に移入した頃、両親らが彼らに農業用の土地を与えたが（無償で）、その土地はエブリエに帰属するものの、彼らは自分たちの土地であると主張している。 ・土地問題の解決方法は、以前は村のチーフ同士が協議をして解決してきたものであるが、現政権（RDR）になってから、Ministry of Housing がすべてわれわれの関係性を変えてしまった。われわれの間には、土地に関する合意書が存在しており、そのなかで、アティエの人たちは他人に土地を売ることができない旨が明記されている。しかし、現在の政府は、当該土地がエブリエではなくアティエに帰属すると言い始めた（全国的な法整備による変更か、この地域だけに適応されたものかは知らないが、自分たちの土地に関してはこのような介入があった）。

・合意書のなかで、60%の土地がエブリエに属し、40%の土地がアティエに属すると決められており、アティエの人は土地を売ることができるが、その前にエブリエに照会することが必要であると記載されている（上記の説明とは少し矛盾がある）。エブリエに帰属するといっていた 60%分でさえ、政府がその一部を奪い（take）、他の人たちに売っている（sell）ような状態である。政府が土地を占有しており、新たに拓く森もないため、現在は家賃収入で生きていけるが将来（子どもたちの代）が心配である。
・Chieftaincy のメンバーは 50 名、うち 6 名が女性である。すべてエブリエ。年齢階級の一番上の人たちから選ばれている（4 段階の年齢階級がさらに 4 段階に分かれており、5 歳ごとに分かれている。5 歳ごとの分類から各 5 名、計 20 名が選出され、その他 30 名が Village chief からの任命で追加され全 50 名）。社会統合にかかわる人と人とのつながりを促進させたり、日々のマネジメントに責を負う。
・社会統合に係る問題は本村では何もない。騒乱中も何も問題はなかった。騒乱中から Chieftaincy によって他の民族ともコミュニケーションは続けられたし、家財の略奪なども起きなかった。避難民となった住民もいない。だれもわれわれを襲撃しなかった。他の地域との違いは、この村では長く他の民族の人たちとも一緒に暮らしてきたことから、政治的な問題がわれわれの問題にはならなかったことであると思う。また、われわれの地域には、一般的な法に加えて、独自の慣習法があり、そのなかでいろいろなことが規定されている。喧嘩の禁止などもその 1 つで、違反者には罰金も科せられる（5,000FCFA 等）。この慣習法については、村の中にいる限り、ジュラの人たちであっても守らなければならない。われわれの地域では、騒乱中にも問題は起こらなかったが、ここは特殊である。カルティエでは、ここと は違っていろいろな人が一緒に生活をしており、長くともに暮らしてきたわけではない。各民族のチーフが常に話し合いの場をもつべきである。
・セキュリティについても、警察署があるおかげで安全である。警察のほかにも、われわれ自身でウォッチャーを形成し、自衛を図っている。ミクロブ等が来ないわけではないが、それほど頻繁ではなく、大きな問題であるとは認識していない。
・プロジェクト実施に際し、管理委員会をつくる場合、村からの参加だけでなく、サブカルティエの人たちも含めるべきである。メンバーについては、支援内容によるため今回答するのは難しい。例えば、学校施設の建設であれば、スクールマネジメントに長けた人を入れるべきである。いずれにしても、村だけに裨益するのではなく、広く裨益するよう、メンバーを選ぶべきである。
・エクステンションやジュラのサブカルティエの人たちと一緒にはしょっちゅう集まっている。村内の清掃のほか、定期的に彼らを招いて“Humanity”“エボラ啓発”といったテーマのセンシタイゼーションを行っているほか、フランスの NGO がクリスマスに提供してくれたプレゼント等についても、村内だけでなく周りの地域も招いて子どもたちに渡した。
・行政とも関係は良好であり、特に不満もない。他の地域とは異なり、本村は市役所との契約を結んでおり、税金徴収も村人が責任をもって行っている（他地域は市役所が徴収）。3 カ年計画へのリクエストはしていないが、一般に公開されている Municipality Council Meeting において自分たちの意見を挙げることができる。この 10 年間で本村に市役所によるプロジェクトがもたらされたことはない。排水システムに問題があり雨が降るたびに村内が水浸しになり、それによる健康被害も出ている。公式なレターを市役所を通してインフラ省へ提出してもらったが返事はない。政府の依頼を受けて BNETD が費用見積もりのために訪問しており、その際の見積額は 10 億 FCFA とのことであった。

	・（その後の雑談のなかで）村内にあるジュラの人たちが居住するサブカルティエが近々移転する。長い協議を経て、やっと落ち着き先が決まり、ジュラの人たちとも折り合いがついた。移転先の土地もわれわれの土地であり、ジュラの人たちには無償で提供する。われわれのファミリーの人数も増え、ジュラの人たちが住んでいた土地を子どもたちに分けたいと考えての対応である（離れた土地ではなく、村の中に子どもたちへの土地を残したい）。

報告日：2017 年 2 月 7 日

場　所	Abobo Baule 村のパレス、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）12 時 15 分～12 時 40 分
出席者	Ms. Jdigbenou Herritte（62） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・エブリエの女性であり、女性グループのセクレタリー。 ・女性グループは 15 年前に開始された CEFAB（Comite de entraeaided femme d'Abobo Baule）。市役所及び内務省に登録済みである。メンバーは現在、2,000 名以上と思われるが、登録しているだけでも 1,000 名以上である。エブリエだけではなく近隣からの参加者もおり、アティエ・バウレ・ジュラ・グロ等もいる。 ・設立動機は（15 年前以前は女性グループは存在していなかった）、①女性たちがビジネスを開始できるようオーガナイズすること、そのために活動のなかで正しいビジネスのやり方を教えること、②NGO やドナーが女性グループの存在をいつも尋ねるため、である。そのために内務省にも登録し、支援を期待している。 ・現在は、キャッサバやアチェケを一緒に売るなどしている。登録しているだけでも 1,000 名を超えるが、女性たちで協力して大きい場所を確保し、マーケットとして利用している。キャッサバやアチェケを販売する人たちから、tax としてお金を徴収している。メンバーであっても tax は支払う必要がある。集めたお金でマーケットの維持管理等をしている。メンバーにとってのメリットは、アチェケを作るための機会を使用できること。共同販売等はしておらず、あくまでも個人での販売、ビジネスである。 ・2011 年頃、行政が本マーケットについても税の徴収をしようとしたことがあったが、Chieftaincy が介入して話し合った結果、女性グループに帰属するということで決着した。 ・エグゼクティブメンバーは 8 名、すべてエブリエの女性である。エグゼクティブメンバーのなかでの争いごと等は一切ない。他のメンバーとは問題が起こる場合もあるが、特に大きな衝突というものではなく、すぐに解決される。 ・女性の社会統合に係るセンシタイゼーション等の活動もしたいと考えている。 ・3 カ月に 1 回、会議の場を設けている。活動内容や資金が必要な活動等について、Chieftaincy に報告している。 ・Chieftaincy との関係は良好であり、意思決定の場にも含められている。毎週火曜が Chieftaincy 会議の日であり、ジェンダー課題等も特にない。

報告日：2017 年 2 月 7 日

場所	Abobo Baule 村のパレス、Abobo Commune
日時	2017 年 2 月 7 日（火）12 時 15 分～12 時 40 分
出席者	Mr.Gbegre Dandon Hermann（42） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso

打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・エブリエの男性。Abobo Baule 青年グループのリーダー。当グループは市役所・内務省に 20 年ほど前から登録されている。 ・青年は多くの課題を抱えており、それらについてメンバー内で協議している。以前はカルチャーセンターをつくり活動していたが、騒乱中に機材等が盗まれる被害に遭い、今はあまり活動自体が活発ではない。当時はフットボールマッチやクリスマス会等を開催していた。 ・エグゼクティブメンバーは 8 名。うち 2 名が女性であるがすべてエブリエである。 ・メンバーは 1,500～2,000 名。青年グループというよりは年齢組織のような感じで、エブリエにある年齢階級の青年に該当する人たちがメンバーである。 ・3 カ月に 1 回ミーティングの機会を設けているが、緊急に話し合う必要がある場合などにはその都度集まっている。 ・青年グループとして、村の清掃活動に責を負っている。 ・ジェネレーションギャップや若者の意見が反映されないなどの不満はもっていない。 ・当グループは、政治グループとは一切関係ない。 ・土地問題について、エブリエとアティエの間で課題を抱えている。現在は若者同士も仲良く暮らしているが、将来両者間のコンフリクトにつながる可能性がある。 ・カルチャーセンターは、EU 支援によってリハビリされたが、機材等がなく活用できていない。エブリエだけでなく皆が使うものであり、社会統合にも寄与するものであり、支援がほしい。

（Agueto カルティエ：98 年センサスにて Akan と Mande の差があまりないとされる）

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Agueto カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）15 時 5 分～17 時 10 分
出席者	民族チーフの長、青年・女性グループの長・メンバー等 30 名程度（うち女性 6 名） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（イマムによるお祈り） ・住民の約 60%がマリンケ、次にバウレが続く。宗教はムスリムが 60%程度と多い。当カルティエは、もともとエブリエの人たちの土地（Andokoi）であったところに 1923 年頃から Mr. Zady（ベテ）一家が居住を始めたことに始まる。 ・Agueto カルティエ（当初は Agueto Sub-quartier と回答）の下に、おそらく 12 程度のサブカルティエが存在している（Bois-sec, Bougounisso, Agoueto-centre, Agoueto-residential, Assomin 1, Assomin 2, Dotre, Kabakro, Abebrokoi-extension, Assoko, ite Cockcielle, Sicogi）。（カルティエ、サブカルティエに係る回答は曖昧であった。）行政区分等についてはよく理解していないが、重要だとも思っていない。 ・当地の主要な収入源は、small scale trader, witchcraft, transport（drivers, owner of taxi, etc）、farmers（fruits, vegetable etc.）。セヌフォの人の 80%が農家である。 ・社会統合について、大きな問題はない。人と人との小さな諍いがある程度である。当地は騒乱中のバトルフィールドとなった場所である。反政府勢力と政府側の警官隊・国防軍が戦闘を繰り広げた。一方で、住民たちの間には影響がなかった。騒乱中も、住民にこれまでどおりの生活をするよう強要したためである。他の地

域と異なる点としては、民族リーダー等が人々に語りかけ、この地にいても大丈夫だと言い続けたことである。一部住民は騒乱時に避難したが、ほぼすべて帰還済みである。
・騒乱時は、政治が住民をファミリー間で分断してしまった。現在、住民の関係性向上のため、民族チーフ組合、青年・女性グループ、宗教リーダー等による社会統合に係るセンシタイゼーションの実施を計画している。
・騒乱後の 2011 年に 77 名のチーフ（コートジボワールの各民族＋CEDEAO）から成る Union を構築した。当地にはこのような強力な組織があるため、他のチーフ（サブカルティエリーダー等）は存在していないし、必要ない。現 Union のリーダーはヤクバの男性である。2011 年に住民から選挙によって選出されている。当ユニオンは、住民間の問題の解決に責を負う。
・以前は社会統合に係るナショナル NGO（Commite de Developpment Communataire : CDC）が当村からも Agueto 支部のメンバーとして選出されていたが、現在は機能していない。
・維持管理組織をつくる場合は、ユニオンから 2 名、青年 2 名、女性 2 名、宗教リーダー2 名を勧める。CDC の活動のときにもこういう管理員会を構築したため、それを踏襲するのがよい。
・現在、カルティエ内で民族を超えての活動はない（特に女性が強く否定）。
・ヘルスセンターの維持管理について、管理委員会を構築しており、そのメンバーは民族混合である。その他、COGES についても民族混合であり、民族を超えての活動がないとはいえない。
・カルティエ内にある 65 名以上の女性から成る Association では、コミュニティファームでキャッサバを栽培しており、そのメンバーはバウレ、ベテ等民族混合である。
・セキュリティについては、騒乱よりもっと以前この地に来たときは毎日のように路上に死体があったが、現在はそのようなことはなく治安は改善しているといえる。警察への報告による警察の介入や自分たちで雇用した自警団による活動が功を奏した（現在は自警団はいない）。
・ミクロブがこの地域にまで広がってきており、安全とはいい切れない。どれくらい人数がいるのかはわからないし、この地域の若者なのか、他地域からの若者なのかもわからない。そもそもかかわりたくない。他地域と比べて特にひどいというわけではなく、同様のセキュリティレベルであると思う。警官による見回りも行われており、セキュリティについてはカルティエ内の協議でも話されており、いかに住民を守るかということで、ボランティアでの夜の見回りも行われている（組織だったものではなさそうな印象）。
・社会統合やセキュリティ確保に係る阻害要因としては、土地問題等がある。以前政府に警察署の設置を要請し、政府も承認しそうな印象であったが、土地所有者によってほぼすべての土地が販売されており、設置するための土地が確保できなかった。
・その他、現在に至ってもまだ政治的な分断があることが阻害要因となる。PDCI のバウレ、RDR のジュラやヤクバはそれぞれのかかわりを有しているが、その人たちとベテの人たちとの間にはあまり関係性が築かれていない。
・当地のチーフとしての印象では、ベテの人たちはわれわれをまだ信用していない。それに対してわれわれも何もアクションを起こしていない。コミュニケーションを図っていくよう努める必要がある。
・与党派の人たちのなかにはまだ、他の人をスパイとみなすような過激な発言をす

	る人たちもいる。いずれにしても、政治的解決が先である。刑務所に入れられている人たちの出所の実現などが必要だ。 ・コートジボワール人社会の問題もある。先月発生した公務員やミリタリーによるストライキについても、一部の人たちはワタラがいまだに力をもっていることの証明だとして幸福感を表に出すような発言をしている。これは人々の分断を示している。 ・政府の行動が不公平であることも人々の分断をより深いものにしている。例えば、公務員採用に係る国家試験において、採用される人はほぼすべてがジュラの人たちである（特に若者・女性陣から拍手が起こる）。 ・若いミクロブたちの両親たちは揃って貧しく、人のポケットからお金を取ってくるしかない。 ・政府への不信は、相当深い。アボボの現知事は 2001 年から現職に就いているが、すべての住民が彼を嫌っている。自分も彼に投票したが、後悔している。彼はこの地を訪れたこともなく、電気がない、道路が整備されていない、水がないなどの現地の状況を何も理解していない（飲料水問題については 2016 年に解決されている）。市役所に赴き出生届を出すにあたっても朝の 8 時に行って手続きが終わるのが午後 5 時だったりする。彼らはどのように仕事をするのかわかっていないのだ。選挙の際のバラマキで住民を操り、買収している。 ・地域の人にとって知事がすべてである。カウンシラーが何の役割を担っていても、最終的に決めるのは知事である。その知事が人々の生活、ニーズを知らないのが一番の問題であり、知事と住民の間には大きな隔たり（誤解？）がある。現状でいえば、知事がやりたいプロジェクトを実施しているだけである。すべては政治的な決定だ。 ・プロジェクトで市役所のキャパシティ・ビルディングをしたところで、市役所は変えられない。彼らは高齢者なのである（頑固という意味か）。市役所がなかに入ってプロジェクトを実施するとすれば、われわれには何もメリットがない、ということになる。いずれにしてもまずは、市役所の職員を村に連れてきてほしい。 ・市役所との関係改善のためには、住民と市役所とのコミュニケーションのためのチャンネルをつくるべきである。例えば、12 名から成るマネジメント委員会を市役所とのコミュニケーションのためにカルティエにつくればいい。 ・われわれの息子たちは皆、仕事を求めている。知事を連れてきてニーズを知れと言ってほしい。 ・市役所職員の教育レベルが低い。マネジメントのやり方を教えたり、マーケティングセッションなどの研修を彼らに対して実施するべきである（マーケティングセッション研修についてはいまいち意図がつかめなかった）。 ・政党に属している人の人数を聞かれれば「全員」と答えるしかない。100％の住民が何かしらの政党に属していると考えるべき。しかし、管理組織等に政治的な背景をもったものとして選出された人がかかわるのはやめてほしい。皆、それぞれがどの政党を支持しているのかは知っているが、政党を背負って活動に参加すべきではない。 ・社会統合のためのフットボールマッチをアボボ、ヨプゴンで行いたい。

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Agueto カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）17 時 15 分～17 時 20 分
出席者	Ms. Eujenie Brou（54）

	JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・アティエの女性。PK18 地区の女性組織（Association ではなく United という訳であったが、違いは不明）のリーダー。民族は混合である。3 年前に結成され、現在 70 名ほどのメンバーがいる。組織登録はされていない。15 名のエグゼクティブメンバーから成り、内訳はジュラ 2 名、バウレ 3 名、アティエ 2 名、グロ 2 名、ヤクバ 3 名、ブルキナファソ人 1 名（あと 2 名は思い出せず）。メンバー間での問題は特に抱えていない。 ・女性が抱える問題があったときに助け合うことができるようにということで設立した。政党との関係は一切なく、政府からの支援はない。 ・女性のニーズは、ビジネス支援である。市役所は税金を集めるくせに市場は汚いままであり、何も仕事をしていないと感じる。

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Agueto カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）17 時 20 分～17 時 30 分
出席者	Ms. Awfoumon Njuessan（1960 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・バウレの女性。Ebeougou Pour la Paix（For peace）グループのリーダー。騒乱前に設立し、登録準備を開始していたが、騒乱の影響で 2011 年の登録となった（市役所レベル）。現在 125 名のメンバーから成り、エグゼクティブメンバーは 21 名〔ジュラ 4、ベテ 2、セヌフォ 3、アティエ 1、コヤハ（ジュラ）1、グロ 1、アンド（バウレ）3、その他その場では思い出せず〕。 ・毎週水曜に 45 名のメンバーで 1 人 1,000FCFA を出し合う頼母子講を行っている。 ・共同キャッサバファームは毎週土曜に、メンバーで集まって活動している。 ・政党と組織の関係はないが、もちろん市民としては選挙に行く。 ・市役所への登録を進めたのは、支援を期待してのことであるが、一度も政府からの支援を得たことはない。

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Agueto カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）17 時 30 分～17 時 35 分
出席者	Ms. Kra Eugnie（1962 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・バウレの女性。Ehouchun（Let’s vote）というローカル NGO のリーダー。2008 年に設立され、市役所レベルで登録されている。現在、約 200 名のメンバーを抱え、エグゼクティブメンバーは 21 名、すべて女性である（ブルキナファソ人 5 名、アティエ 3 名、ベテ 2 名、エブリエ 1 名、その他バウレ）。メンバー間に民族などに起因する問題はない。 ・活動内容としてはアチェケやプラカリ（食べ物）を売っている。 ・毎週木曜 3 時に集まり、1 人 2,000FCFA（100 名分）での頼母子講を行っている。毎週 1 名ではなく 2 名がお金を受け取る。これらのお金は、個々人のビジネス運営のために活用される。女性のエンパワーメントを見込んでの活動である。 ・政党とは一切関係なく、政府からの支援も受けていない。

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Agueto カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）17 時 35 分～17 時 45 分
出席者	Mr. Siaka Sidibe（40） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケの男性である。PK18 の青年グループのリーダーである。Agueto には複数の民族混合青年グループがある（数は不明）。2009 年に内務省に登録済みで、現在 40 名、うち 8 名がエグゼクティブメンバーである（男性 5 名、女性 3 名：マリンケ 3 名、バウレ 2 名、グロ 2 名、ベテ 1 名）。メンバーの多くが仕事を求めて他の地域へ移ったりしたため、現在は活動をしていない。 ・リーダーはエグゼクティブメンバーからの投票で選出されている。 ・政党とは関係なく、政府からの支援も受けていない。

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Agueto カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 7 日（火）17 時 45 分～17 時 50 分
出席者	Mr. Doumbia Bakary（1969 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケの男性である。2015 年に設立された青年グループのリーダー。登録はまだしていないが、現在準備を進めている。メンバーは 70 名、うちエグゼクティブメンバーが 10 名である（ディダ 1 名、アティエ 1 名、バウレ 1 名、ブルキナファソ人 2 名、マリンケ 3 名以上）。リーダーはエグゼクティブメンバーからの投票で選出されている。 ・民族混合のグループにしたのは互いに助け合うためである。何か問題があったときにそれを民族だけの理由に帰結したくない。現在、グループ内でのコンフリクト等は一切ない。 ・活動目的は互いのサポートであるが、現在は活動していない。1 カ月に 1 回ミーティングを行い、それぞれの問題を話し合い、何か動くべきことがあれば助け合うような感じである。 ・ジェネレーション間の問題は特に感じていない。 ・政党とは関係なく、政府からの支援も受けていない。 ・皆仕事がなく、仕事がほしい。（それはテンポラリーであってもか）給与次第である。

（聞き取り調査を終えて会場の学校を離れる際に、インタビュー出席者の 1 人の学校関係者が寄って来て、ベテ・アティエ・アベの人たちがコミュニティになじめていないとの話をしてきた。各民族のリーダーが出席しており、彼らの前でそのような話をするのがかわいそうだから、全体インタビューでは皆言葉を濁していたが…とのこと。悪感情があるというよりは、彼らをどうコミュニティに取り込んでいいのかわかり兼ねているという話し方。）

（Sogefiha Habitat カルティエ：98 年センサスにて Akan が優占とされる）

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Sogefiha Habitat カルティエ、Abobo Commune
日　時	2017 年 2 月 8 日（水）10 時 25 分～12 時 20 分
出席者	イマム、ナショナル NGO のリーダー・メンバー、青年・女性グループのリーダー・

	メンバー等 JICA: Ms. Okamoto JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（イマムによるお祈りで開始）（比較的オープンに話しているイメージあり。民族リーダーは参加していない。また、教育水準が他地域に比して高い印象）。 ・当該地域は Sogefiha Habitat カルティエであり、当カルティエ下には、Plaque 1 & 2（INS の分類では、カルティエに分類される）、4 etage、Ghouphonet Boingny、Cite Policie、Selibatere 他複数のサブカルティエが存在している。当カルティエ下に村はないが、複数のスラムが存在している。当カルティエ住民の主な仕事は、公務員、good trader（big scale trader）である。 ・Abobo 市はエブリエの土地であるが、1979 年頃に Adjame 市から多くの人が移入し始めた。移入者は、エブリエから土地を購入し、現在の居住地に落ち着いている。購入した土地はエブリエではなく購入者に帰属し、エブリエとの土地問題は抱えていない。 ・当カルティエの人口は不明であるが、マリンケが約 40%と最も多く、次いでバウレが 15～30%とそれに続く。宗教については、キリスト教とイスラム教が半々であり、どちらが多いとはいえない。 ・騒乱時、アニャマ市から反政府軍がやって来て、ポリスキャンプの人たちと激しい抗争に発展した。そのため、たくさんの人がこの地を離れた。住民だけでなく、ポリスキャンプにいた彼らの家族も多くが攻撃を受け、避難した。騒乱時は家財の強奪なども行われたほか、外出禁止令によって外出が禁じられるなどの影響を受けた。避難した住民の一部は帰還していないが、ほとんどが帰還済みである。 ・イマム：騒乱が始まる直前から、地域の状況は悪化し、それぞれの政治的背景による緊張関係が生じ始めた。当該地域にはポリスキャンプがあるが、それに対抗する部隊は存在していなかった。その頃に比べると、現在の状況は落ち着いている。 ・女性：騒乱前は、民族等関係なく、住民は調和をもって生活していた。騒乱、政治によって住民は互いを信じられなくなり、対立し始め、悪行を行った。しかし、今は 100%問題ないといえる。 ・Search for Common Ground という NGO によるトレーニングセッションを経て、互いを憎み合うことがいかに無意味かを学ぶこと等を通して、地域の状況が変わってきた。トレーニングセッションは、同じ目的をもつ人たちが集まるため、人の考えを変えるのに有効である。 ・トレーニングセッションの他には、フットボールマッチや祝い事等を通して、コミュニケーションを活発化させることが有効であると考える。 ・ポリスキャンプのチーフや市役所の職員が民族リーダーを一堂に集め、和解の重要性について話をした。この会合が開かれたことにより人々は隣人、異なる民族の人たちとも話すことを始めた。 ・その他、宗教リーダーも教会やモスクに人を集め、和解の重要性を説いた。その際に、貧しい家族の支援として、食べ物の提供もした。 ・若者たちは、一緒に学び、仲良くしていたのに、親のせいで分断された例も多い（政治的背景から、異なる支持政党の子どもとは話さないようにと言ったりする）。 ・社会統合に係る課題としては、いまだに政治的な発言をする人がいることである。ナショナル NGO の TENGUEN' Chi では、前回の選挙時に投票への呼びかけをす

る活動を行っていた。住民が集まる会合のなかで、"バグボがコートジボワール人を殺してきた"と発言した女性がおり、それを聞いて皆帰ってしまったことがあった。

・女性：Agnissankoi、Cite Policie、Sogefiha は、いまだに住民は良い感情を抱いていない。家財が略奪され、蛮行に対する謝罪はなく、市役所は何もアクションを起こさない。市役所には呼ばれれば協力するが、良い感情はもっていない。
・バウレ青年男性：騒乱中、民族間の分断は顕著であった。ジュラによって FPI を支持するベテの人たちの家財が略奪された。このような経験を経て、子どもたちが学校に帰ったとき、子どもたちも既に分断されていた。
・青年男性：前大統領のバグボは今も投獄されている。このような状況で気持ちがいいわけはなく、コートジボワール人の一部は選挙に興味がもてない。
・青年男性：公務員試験等の国家試験において、一部の人たち（ジュラと明言を避ける傾向がこの男性以外にもみられたが、ジュラのことを指していると思われる）だけが採用される状況に若者から不満が挙がっている。その一部の人たちは、コートジボワール人ではないにもかかわらず（国籍にかかわらずジュラの人たちを外国人とみなしている発言）。
・青年男性：騒乱前、若者は皆一緒に集まっていた。現在は、ジュラの人たち、ベテの人たちに話していい話題なのかどうか、確認をしてからでないと話ができなくなっている。互いへの不信が残っているということである。民族が異なる友人へは、先月起こったストライキの話題を避けた。このように、問題が起こらないことだけを選んで話させざるを得ない。
・青年男性：公務員試験等の国家試験では、リストを見ると 80%以上がジュラである。こういう行いは正しくない。
・女性：住民間にフラストレーションがあるなかで、社会統合なんて話題にできない。ここの住民は高い水準の教育を受けているが、皆仕事がない。
・若年女性：ミクロブによるセキュリティの問題を抱えている。学校に通うために早朝に家を出たいがかなわない（他地域との比較では、一部の人は他地域と同様、一部は他地域よりも悪いと発言）。
・青年男性：Banco 1 & 2 やディレイライ（Sagbe カルティエ）に比べれば受け入れ可能なレベルである。
・女性：他地域と安全レベルは同じだが、ミクロブ問題には 2 つのタイプがある。①地域内にミクロブを抱え、襲撃を受ける、②他地域のミクロブからの襲撃を受ける。上記 2 つのカルティエは前者であり、当カルティエは後者である。ディレイライでは、複数のミクロブグループがあり、グループ間の抗争も発生している。
・青年男性：地域にミクロブを抱える上記 2 カルティエについては、18 時を過ぎるとわれわれでも近づかない。一方、当カルティエは 19 時に外を歩いていても問題ない。ミリタリーキャンプやポリスハウスがあることも、安全に寄与している。
・青年男性：上記 2 カルティエの生活状況は貧しく、子どもに十分な教育を受けさせられないことがその一因である。
・青年男性：教育を受けない子どもたちは、バカの呼び子になる。
・ここ 1 年くらいで、社会統合やセキュリティに係る実際のケースはない。しかし、刺されて病院に送られたというケースはある。このような事件の発生に際しては警察へ報告する（すぐ駆けつけてくれるかとの質問には一同言葉を濁す）。社会統合に係る問題が派生した際は、カルティエのリーダーや民族のリーダーに報告をし、市役所へ報告することはない。
・イマム：襲撃を受けた際は警察、殺人事件については、宗教リーダーから両親へ

	伝えられる。 ・当該カルティエには、各サブカルティエにリーダーが 1 名ずついるほか、各民族のリーダーががいる。カルティエリーダーはいない。CGQ は聞いたことがないのでわからない。民族リーダーが、各民族のマネジメントをもつのに対し、サブカルティエのリーダーは民族にかかわらず、特にアドミ関連のマネジメントに責任をもつ。 ・管理委員会をプロジェクト実施に際してつくるとすると、民族リーダー、青年・女性グループの代表、サブカルティエのリーダーで構成させ、宗教リーダーをスーパーバイザーに据えることを勧める。(人数が多すぎてマネジメントが大変ではないか）民族はサブカルティエに内包されるものであるので、民族リーダーではなくサブカルティエリーダー、青年・女性グループの代表から各 2 名を選出するのがよい。宗教リーダーがメンバーではなくスーパーバイザーであることの意味は、もともと宗教リーダーは地域のコンサルタントのような役目を果たしており、また宗教は政党とも結びつくため、メンバーではなくスーパーバイザーが妥当である。宗教リーダー以外にも政治家等はメンバーに含めるべきではない。 ・社会統合の阻害要因として、フェアでない社会が挙げられる。公務員等へのジュラの人への優遇は、社会の統合に負の影響を与える。これによって、地域にフラストレーションがたまっていく。 ・民族を超えたコミュニティワークのようなものは現在はない。避けているというよりは機会がないだけで、何かきっかけがほしいと思っているような行動もみられる。サブカルティエレベルでは、清掃日での共同ワークもある。 ・行政、市役所は存在していないものとみなしている。出生届を出すときのみ関係がある。アボボ市の開発、発展といっても、それはすべて政治的な支援であり、RDR 支持派のみへの支援である。その他、葬式や祝い事の席では一緒になることがある程度。いつも、何かをお願いしても返答がない。 ・どのように市役所機能を強化すべきかについては、以下をお願いしたい。 　・道路インフラのメンテナンスを教えてほしい 　・コミュニティの清掃の仕方を教えてほしい 　・グッドガバナンス（人的資源のマネジメント）とは何かを教えてほしい 　・平静を保つ方法を教えてほしい（市役所の人に怒られたりする） 　・どのように住民をサポートできるのかを彼らに教えてほしい ・<u>青年男性</u>：この地域には良い教育を受けた若者がたくさんいる。10,000FCFA（日額？）で働けるような若者もたくさんいる。しかし、仕事がない。若者への仕事支援をしてほしい。

（これよりヨプゴン市での調査。カブロン氏が Mamie Faitai スラムを除く全行程に同行してくれた。）
（Gesco Manutention カルティエ：多民族が混住しており、騒乱時に多くの避難者を出したとの市役所職員からの情報により選出）

報告日：2017 年 2 月 10 日

場　所	Gesco Manutention カルティエ、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 9 日（木）10 時 25 分～12 時 40 分
出席者	イマム、牧師、民族リーダー、女性グループのメンバー等 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（イマムのお祈りに始まり、牧師のお祈りに終わる）（これまでのなかで一番緊張度が高いイメージを受けた。だれかが話しているときにも鼻で笑ったり、睨んだ

りということが頻繁に見られた）
・Gesco Manutention カルティエであり、その下には 12 のサブカルティエがある〔Gesco Manutention 1, Gesco Manutention 2, Belle Ville 1, Belle Ville 2, Quartier Deapleu, Gesco Centre, Gesco Petit pays-bas, Gesco pays-bas, Gesco Lotis, Gesco quan TP, Guesco Ciel, Cite Espoire（ヨプゴン市役所技術局にて整理したものと 9/13 が合致)〕。当カルティエに村はなく、スラムの定義が市役所によってオーソライズされていないというものであれば、当カルティエにはスラムも存在しない。状況の悪い地域はある。
・当該地域の特徴は、ヨプゴンのなかで貧困地域であることである。スラムはないと先程言ったが、スラムのような生活状況である。水、電気、学校、舗装道路がない（実際にインタビュー場所までの道はかなり悪く、途中までしか車でアクセスできなかった）。
・人口はわからない。民族はバラバラで、どの民族が一番多いのかというのもわからない。宗教はキリスト教徒の方が多い（キリスト教徒、イスラム教徒、アニミズム等の伝統的宗教のどれが一番人口が多いかという問いであったが、キリスト教とイスラム教、どちらの人数が多いかということだけでも相当な意見の応酬があった。またアニミストも多いとのことであるが、キリスト教徒、イスラム教徒からは嘲笑されているような場面も見受けられた）。
・当地域の住民の主な仕事は、small trader, small worker（メカニック、レンガ工、ドライバー）、少ないが一部公務員、リタイアした人、少ないが農民等である。若い男性の多くは仕事をもっていない。
・この地域の興りはプラント工場の建設に端を発している。1975 年に、もともと森林であった当地に Manutantion というプラント工場が建設され、1976 年に北部高速道路建設のためのスイス企業グループ（Groupement d'Entreprise Suisse pour la Construction de l'Autoroute du Nord：GESCO）が建設され、労働者キャンプも併せて建設された。これにより労働者やその他の人々がこの地に居住を始めた。もともとは、エブリエとアティエの人たちの地域であった。土地分割（レイアウト）が作成されている土地に関しては、建物の所有者に土地の権利が帰属するが、それ以外はエブリエとアティエに帰属する。現在も Manutantion は稼働しており、この地域からも一部の人が雇用されている。GESCO については、ハイウェイの建設を終えて役目を終え、現在は稼働していない。
・バウレ老年男性：騒乱の間の被害は甚大であった。多くの家から家財が略奪され、自身も足を撃たれた。この地域からは多くの人が逃げたが、自分は逃げずにすべてを見てきた。
・アニミスト男性：2010 年の選挙前は民兵によってこの地域は守られていた。騒乱が起こり、ワタラサイドの反乱軍がアビジャンに入ってきてから、バグボ派の家の破壊行為が行われるようになった。
・老年男性：バグボ側の人が自分を殺そうとした。
・老年男性：騒乱時に、民族間の問題が創出されてしまった。
・女性：家族でさえ例外ではなく、異なる政党を応援する家族間での分断による離婚もあった。
・男性：この地域を反乱軍が制圧し、午前 0 時から午前 6 時までの外出が禁止された。3 名の青年男性が午後 10 時に地域を出た際に、反乱軍から拘束されてしまい、外出禁止令時刻の前であると訴えても聞き入れてもらえなかった。反乱軍は彼らに民族を答えさせ、それぞれがグロ、アティエ、ゲレであることを確認し、彼ら全員の足を撃った。

- アニミスト男性：隠す必要はない。すべて今日話そう。この地域は、2 つの大きなパーティーに分断されている。RDR を支持するバウレ・ジュラ、バグボ派のベテ・アティエ・ゲレである。
- 老年男性：昔のことをぶり返して話すのはやめよう。騒乱が人々を分断してしまっただけである。
- マリンケ青年イマム：昔のことをぶり返して話しても何も解決しない。今はこれからどうするかを考えなければいけない。今は騒乱後とは違い、住民たちは平常の状態である。
- 女性：反乱軍はここをバグボ派の人たちの住む地域であるとみなしていた。反乱軍が人を殺そうとするときに、自身の夫が反乱軍へ話をしに行き、「ここにはバグボ派の人たちだけではなくワタラ派の人たちも住んでいる。知らない間に自分たちの家族を殺すこともある」ということを何度も説明していた。多くの人が騒乱時にこの地域を離れたが、現在はほとんどの人が帰還しており、帰還後は仲良く暮らしている。
- 老年男性：騒乱の負の影響は本当に強く受けた。バグボ派と北部・中部出身のワタラ派で大きく分断されてしまった。
- アニミスト男性：このような状況を改善させるため、大きなセレブレーションを企画し、民族分け隔てなく参加を促した。
- 老年イマム：ムスリムの人たちに限られるが、金曜のお祈りの後、騒乱時に起こったことは忘れて、許すようにという話をした。
- 老年男性：各民族のリーダーが集まり、何度も会議を開いた。民族のリーダーが平和裏に集まっているというのを自分たちの民族の人たちに見せることが重要であったし、効果があったと思っている。当地には 26 名の民族チーフがおり、各民族チーフには 5 名の補佐がいる。また、各民族リーダーで組織した Local Chiefs' Coucil というものがあり、民族チーフをまとめる Chef Central というリーダーもいる。
- 老年男性：バウレ民族では、バウレの人たちを集め、平和についてのセンシタイゼーションを行ったりもした。
- 老年男性：これらの各活動が行われる前に、ONUCI 支援のもと、ヨプゴン市役所とともに大きな会合が開催されている。これも、地域の人が会話を始めることに寄与している。
- 牧師：カソリック教会においても、日曜の礼拝の後に、教会に集まった人たちに対してセンシタイゼーションを行ってきた。
- 老年男性：社会統合に係る阻害要因は、政府である。特定の民族への優遇が地域にフラストレーションを積もらせている。例えば、国家レベルの公務員でいいポジションに就いている者はすべて特定の民族である。
- 女性：TV を見ていても、特定民族ばかりがずらっと並んでいるのを目にするとストレスがたまる。
- アニミスト男性：20 年ほど前から市役所職員とはいい関係を築いてきた。以前は市役所職員もこの地を訪れていた。しかし、今の市長は一度も訪問したことがない。ジュラの多い地域でないため支援が来ないのである。
- 老年男性：政府はこの地域の住民にも感謝すべきである。だれもが市役所に対するフラストレーションをためている。
- マリンケ青年イマム：集まりがあるといつでも、ジュラが悪いと言われて、こちらもストレスがたまる。昔のバグボの時代はどうだったというのか。
- 老年男性：与党がいいポジションを占めるのは当たり前である（そんなことはな

	いと複数から反論)。 ・老年男性：政府は、国民の社会統合に責任を負っているはずである。それなのに、実際にやっていることは、ダイレクタークラスからワーカークラスまで、政府に雇われている人たちは、特定の側に属する人のみである。皆、口では問題ないとは言うが、深いところでは問題は何も解決していない。 ・現在、民族を超えてのコミュニティ活動等はない（多くの人が強く言っていた)。 ・アニミスト男性：葬式、結婚式、出生祝い等は民族に関係なく一緒にやっていることもある。 ・女性：若者は地域の清掃などを一緒にやっている。そのほかにはあまりない。 ・地域のセキュリティについては、地域外や地域内に住む若者によって襲撃される事件がある。早朝等にも発生し、事件が起こった際には警察に報告等している。警察は報告すれば、結構な頻度では来てくれる。そのほか、少女のレイプや違法な喫煙ハウス等も問題である。 ・管理委員会の母体になるようなものは現在はなく、もしプロジェクトでの構築が必要な場合には、先に出た Local Chiefs' Council のチーフ、青年・女性グループの代表、宗教リーダー等が考えられる。政治家は入れるべきではない。 ・当該地域には民族チーフのほかに、12 のサブカルティエにそれぞれ CAR とよばれるコミッティが存在しており、貧困や水・道路・保健の施設に係る課題を改善するミッションを負っている。メンバーは、土地所有者や家屋のオーナーで構成される。 ・民族リーダーや宗教リーダーといったコミュニティのリーダーは市役所と一定程度の関係があるが、市民に関しては市役所でのミーティングや祝い事等一部かかわりがあるものの、ほとんどかかわりがないといえる。 ・道路のコンディションがこんなにも悪く、税金の徴収の際に市役所の人たちも見ているはずなのに、何もしてくれない。 ・市役所の能力強化をするのであれば、以下が求められている。 　・どうやって約束を守るのか 　・道路整備の方法（土木エンジニアへの技術移転) 　・住民とのグッドコミュニケーションの方法 　・衛生教育 ・当該地域の水問題は深刻である。水道管が通っているところも多いが、水道管が通っているところでも水圧が低いために利用できず、他の家へ水を購入しにいく家庭が多くある。近隣には深井戸等はない。

報告日：2017 年 2 月 11 日

場　所	Gesco Manutention カルティエ、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 9 日（木）12 時 45 分～13 時
出席者	Mr. Nguessan Kouadio Sammuel（1930 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・バウレのリーダー。PDCI の政治活動にも参加しており、PDCI から正式に発行された ID も有する。 ・当該地域は社会統合に係る問題を多く抱えている。 ・ジュラの人たちは今、自分たちが上位にいると思っている。パワーがあると思っている。それに対するフラストレーションがたまっている。騒乱以前は、そのようなこともなく、皆平和裏にともに生きていた。

	・ジュラの人たちは簡単ではない。同じ与党だが、彼らの悪い行いによって、いい関係を築けているとはいい難い。 ・全体インタビューで話に出た Local Chiefs' Council は、26 名の民族リーダーで構成されており、2000 年以降ずっとグロのリーダーが Central chief を務めている。彼に対する信頼はあり、管理委員会についても、全 26 名がメンバーになるのではなく、彼が指名した人がなるという発言を先程した。彼が指名した人であれば、皆リーダーの決断を尊重するし、問題にはならないであろう。当カウンシルの発足目的等はわからない（ヨプゴン市役所のカブロン氏情報では、前市長が設立を奨励したとのこと。当カルティエだけではなくヨプゴン全域で、とのことであったが、その後の調査で同様のものは確認できていない）。 ・PDCI のオフィシャルメンバーとして活動してもいる。主な活動は、選挙に際して PDCI に投票するよう呼びかけることであるが、若者などに対して平和とは何かを説いたりするのも活動の 1 つである。メンバーは、若者の方が高齢者よりも多い。月に 2 回、会合があり、平和について語ったり、仕事のあてを話し合ったりしている。 ・民族を超えた活動の欠如については、機会がない、というのが一番の理由である。

報告日：2017 年 2 月 11 日

場　所	Gesco Manutention カルティエ、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 9 日（木）13 時 5 分～13 時 15 分
出席者	Mr. Goh Doueu（1946 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ヤクバのチーフ。Local Chiefs' Council のセクレタリーも務める。当カウンシルでは、毎月第 2 水曜に会合が開催され、Central chief から市役所等との会議内容の共有が行われるほか、日常の課題について共有される。問題の共有に対するコミュニティ内の問題解決に責を負う。 ・社会統合に係る問題等については、各民族のリーダーへ報告がされることとなっている。実際にこれまで受けた報告は、例えば、喧嘩、土地問題、隣人との問題等であり、民族間の問題や政治に係る問題については実際にはそれほどない。 ・前のバウレのリーダーのように、オフィシャルな政党メンバーではないが、非公式には支持政党のメンバーである。民族のリーダーは一般には、オフィシャルな政党メンバーではない（役割上、なれない）。 ・騒乱以前は政治、政党などにはそれほど興味がなかったが、騒乱以後は、政治への興味（帰属意識）が強くなり、100%すべての人が支持政党をもっていると考えた方がよい。 ・社会統合に関しては、一見問題がないようにみえるかもしれないが、深いところには今も多くの課題、いろいろな負の感情が強く残っている。 ・先月の兵士によるストライキが起こった際にも、一部の住民は喜んでいた。まだこの国で問題が起こることを望んでいる人がいるというのが現実なのである。

（Niangon Nord カルティエ：多民族が混住しており、騒乱時に多くの避難者を出したとの市役所職員からの情報により選出。Niangon Sud が選定されたが、調整の段階で市役所職員により Niangon Nord に変更された）

報告日：2017 年 2 月 11 日

場　所	Niangon Nord カルティエ、Yopougon Commune

日　時	2017年2月9日（木）15時5分～17時20分
出席者	民族リーダー、青年・女性グループのメンバー等 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（Gesco Manutention よりはましであるが、こちらもそこそこの緊張関係がみられる印象） ・Niangon Nord カルティエであり、Cite Academic、Quartier Fratante、Cite le concilitation、Copelim、Cite Ungwan、Cite Policie、Cite Bedie（綴りは要確認）というサブカルティエがある。スラムはない。 ・人口、主要民族はわからない。40以上の民族がこの地域にはいる。宗教としては、マジョリティはキリスト教である。住民の主な仕事は、公的機関の雇用、プライベート会社での雇用、small trader 等である。その他リタイアした人たちも多い。 ・この地域は、もともとエブリエの人たちに所有されていた。その土地に、1978～1979年頃から政府が（エブリエから購入したのか譲り受けたのか彼らにはわからない）SICOGI によって家の建設を進め、1980年頃から政府が人々に家の賃貸を始めた（賃貸料は政府へ支払い）。現在は、賃貸に住み続けた人たちの所有物となっている。居住者は、公務員等であったが、アジャメからこの地へ移住させられた人も多く、その人たちへは補償として無償で家への居住を許していた。 （ここまでファシリテート役の Central chief/プレジデントと呼ばれていた男性が答えていたが、社会統合については回答が止まり、人を指名して回答を促した） ・<u>老年男性</u>：民族で集まるだけで、民族を超えては集まらない。 ・<u>青年男性</u>：民族で固まっている。挨拶はするが、何かを一緒にすることはない。その裏には不信がある。 ・<u>老年男性</u>：われわれの子どもたちは皆、ともに遊んでいる。パブリックスペースや学校などで一緒に活動している。このような環境が、歳をとったわれわれの距離も縮めてくれる。 ・<u>老年男性</u>：この地に来る前から、昔からの知り合いであった住民は、民族にかかわらず親密な関係を続けている。 ・<u>老年男性</u>：われわれの国では、アライアンスというものが存在し、ジュラとセヌフォや、ウェとセヌフォ等、文化的な関係性がある民族があり、喧嘩をしてはいけないことになっている。そのような民族間には問題がない。 ・<u>プレジデント</u>：騒乱前は、すべての人がともに生きていた。騒乱によって人々のなかに不信が芽生え、この不信に対するさまざまなアクションがとられたが、住民が再び一緒になるには十分機能しなかった。一部の民族のアソシエーションのみが裨益するなど、“民族”、“政治”にかかわる不公平がみられるためである。 ・<u>中年男性</u>：昔は調和をもって人々が生活していたが、現在では住民は互いに言葉を交わさないし、それは家族内でもみられることである。家族内でも支持政党が違うこと等により分断してしまっている。 ・<u>老年男性</u>：政治がすべてを壊した。 ・<u>中年女性</u>：騒乱時に自分の息子はここで殺された。政府からの補償は何もない。 ・<u>中年男性</u>：この地では何人もの人が殺され、外出禁止令も出された。他の地域がどうかはわからないが、騒乱がこの地域に与えた影響は非常に大きい。多くの人がこの地から避難をした。自身の出身村に5カ月ほど避難した人、なかには2年以上たってやっと帰還を果たせた人もいる。ほとんどの避難者が今では帰還しているが、まだ帰ってきていない人もいる（何世帯かはわからない）。 ・<u>プレジデント</u>：騒乱のまっただ中に比べて状況は悪くはなっていないが、根底で

は何も変わっていない。政府が何かをすべきであるが、ここは自分たちの地域でもある。自分たちにできることもしなければならないと感じている。また、2013年から CONARIV のために紛争被害者（けがを負った人等）のリスト作成を支援したが、リストに載せられた人のなかで何らかの支援を受けた人はだれもいない。何人をリストに載せたかは記憶にないが、与党派の人も野党派の人もリストには載っていた。野党派のみが選出されなかったということではない。

・老年男性：関係性は一切改善していない。われわれは常に不信のなかに生きている。皆真実を語っていない。何も変わっていないのである。この地域のプレジデントは、住民の社会統合のために努力をしている。彼が民族を超えて実施する清掃を呼びかけても、一部の人たちはボイコットし続けている。
・青年男性：社会統合に係るアクションは何一つ実施されていないといえる。人に相談しなくなったし、何でも一人で決めて一人で行うようになってしまった。人とのつながりは希薄である。
・プレジデント：自身は、ワタラの国防軍によって拘束された。彼らは私を殺そうとした。拘束の容疑は、武器を住民に与えたということであった。このような経験を経ても、社会統合を諦めたくない。マリンケの女性グループが市役所を招いて、活動開始日のお祝いパーティーを開催した。私はベテだからその会には呼ばれなかったが、この地域のリーダーとしてあえて参加をした。個人として人に民族を超えていいのだと確信してもらいたかった。しかし残念なことに、現在に至ってもセレモニーでさえ一緒には行わない。
・（センシタイゼーション等をしても、住民の関係改善には至っていないことから、何かエントリーポイントになるような活動アイデアはないか）アイデアはない。あったらもう始めている。JICA に示してもらいたい。
・老年男性：個人的に関係改善のためにアクションを起こしている例はあるかもしれないが、全体的なものはない。
・プレジデント：政府がここにきて人々の意見を聞いてほしい。住民が集うヘルスセンターやセレブレーションセンターの整備等が一案として考えられる。
・（他の地域ではフットボールマッチなどをしているが）女性は入れない。（ダンスパーティーとか？）セレブレーションではない何かを考えたい。しかしアイデアはない。
・青年男性：コミュニケーションセンターの整備をすれば、一緒に祝い事をするようになるのではないか。
・青年男性：セキュリティ問題については、若者による襲撃がある。路上にライトがなく、夜間に襲われるほか、日中に襲われることもある。この地域のセキュリティは悪いと思う。警察官でさえ襲撃されている。どこの若者かはわからないが、おそらくこの地域外から来ているのだと思う。騒乱中の銃を持っている若者もまだいるのが現実である。
・老年男性：セキュリティレベルは悪くなっている。Cite Verte や Kafeie（場所は不明）等に比べても悪い。
・当地のリーダーは、プレジデントと呼ばれる SICOGI のリーダー（彼は民族リーダーではない。明らかにしようと思いいろいろ聞いたが、当初は彼がカルティエのリーダーであると多くの人が言っており、実際に終始インタビュー調査をファシリテートしていた）のほか、各民族のリーダーがいる。カルティエ全体のリーダーはいないし、民族リーダーによるカウンシルなども存在しない。各サブカルティエにはリーダーが存在する。
・管理委員会を設立する場合、各サブカルティエの代表、青年・女性グループの代

	表、各民族代表がメンバー構成にふさわしいと思われる。サブカルティエと民族のリーダーは協力して問題管理を行っている。皆を集めた大きな会議を開き、問題等を市役所へ共有している。 ・現在は民族を超えてのコミュニティアクティビティはない。騒乱以前は、フットボールマッチ等を開催し、そこには両親も参加していた。現在、フットボールマッチを行わない理由は､調整役であった人がこのカルティエを去ったためである。 ・行政に対しては不信しかない。市役所は何もしていない。 ・老年男性：プライベート会社のワーカーであったリタイアした人たちによるグループのプレジデントであるが、市役所とは良好な関係を築いており、彼らはいつもリクエストにこたえてくれている（後のインタビューでは、特に何か具体的な支援をもらっていたり、補助金をもらっているということはない模様)。 ・女性：国民議会選挙の際、市役所から招待されて赴いた。その際、参加者にお金が配られていたが（お金そのもの？)、自身は受け取れなかった。市役所は何もしていない。 ・男性：市役所のせいでサニテーションに課題を抱えている。ごみ収集が来ないため、地域が汚れている。 ・市役所には、以下の能力強化が望まれる。 　・ごみ収集に来てほしい 　・側溝が汚いため、スプレーしてほしい 　・フェアネス（すべてのアソシエーションに対して平等に接するなど） 　・学校のリハビリ

報告日：2017 年 2 月 11 日

場　所	Niangon Nord カルティエ、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 9 日（木）17 時 25 分～17 時 40 分
出席者	Mr. Tia Yonkpa（70） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ヤクバの男性。Groupement de Rehacelis Solidair en Niangon のリーダー。リタイアした人たちで構成されるアソシエーションである。2009 年に発足、現在 247 名のメンバーで構成される（うち女性 4 名）。エグゼクティブメンバーは 11 名（ヤクバ 2 名、セヌフォ 3 名、グロ 1 名、バウレ 3 名、マリンケ 1 名、ウォベ 1 名）。当アソシエーションは市役所に登録済み。 ・民族混合のアソシエーションであるが、メンバー内では問題ない。政治との関連もなく、この世代はあまり問題を抱えていない。若者の方が社会統合は難しい傾向がある。 ・現在、活動は行っていない。騒乱の際に物を販売していた共同経営ショップが破壊されたためである。支援があれば、フェスティバルを開催し、人を呼ぶなどしたいと考えている。 ・政府からの援助は受けていない。リクエストを送ったことも一度あるが、反応はなかった。

報告日：2017 年 2 月 11 日

場　所	Niangon Nord カルティエ、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 9 日（木）17 時 40 分～17 時 45 分
出席者	Mr. Yao Eric（35）

	JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・アビジの男性。青年グループには属していない。COGES のプレジデント。18 名のエグゼクティブメンバーから成り、民族は混合である。学校の改修や教員の欠員に対して政府へリクエストを送ったりしているほか、児童のモニタリング等を行っている。 ・メンバー間に問題はない。

プレジデントと帰り際に話したなかで、本カルティエには 3 つの青年グループがあり、それらは民族混合であり、どのような活動をしているのか詳細には知らないが、一緒にスポーツをしたり、ビーチへ行ったりしているのを見たことがあるとのこと。また彼らは清掃活動を統率する役割を担ってもいるとのこと（実際にはプレジデントが呼びかけて実施をしている模様）。

2 月 10 日（金）午前中は、選挙委員会事務所等を回り、2010 年・2015 年大統領選挙結果〔投票所ごと（市を 3～5 分割程度）の投票率及び開票結果〕、2016 年の議会選挙結果（同左）の共有をお願いし、2010 年のデータの有無は保証できないが、翌週木曜までに共有するとの回答を頂いた。

報告日：2017 年 2 月 11 日

場　所	COSAY フェーズ 1 にて建設の小学校（GS SOGEFIHA 6）、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 10 日（金）14 時 45 分～15 時 20 分
出席者	CCGPP のメンバー3 名〔COGES のプレジデント（協議内容にて C と示す）、NGO 代表（同 N）、児童の親のリーダー（同 P）〕 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（CCGPP は解体されたとのことであるが、実際にはメンバーはこの地域に今もいるので、という発言が多く、特に COGES、CCGPP 等を区別せず、必要に応じて CCGPP のメンバーで協議等している模様） ・CCGPP のメンバーは、宗教リーダー、青年・女性グループのリーダー、コミュニティリーダー（民族リーダー）及び COGES のメンバーであった。 <u>プロジェクト前後の変化</u> ・<u>P</u>：プロジェクトの前後での変化としては、やはり人の関係性が挙げられる。プロジェクト前は話すことが難しかった人たちが本活動を通して話すことができるようになった。生徒の親も子どもたちに「だれだれとは話さないように」などと話をし、子どもの間にも分断がみられたが、そのようなことがなくなった。CCGPP のメンバーはそれぞれ、プロジェクト前は面識がなかった。 ・<u>N</u>：プロジェクト以前は、学校の状況が悪いために多くの子どもが他の地域の学校へ通わざるを得なかった。プロジェクトによる教室整備によって、近隣の子どもたちが当校に通うことが可能となり、両親たちがより集まれるようになった。 <u>現在の社会統合に係る活動実績について</u> ・<u>C</u>：CCGPP は、全生徒の親を呼んで清掃活動等を行っている。プロジェクト中だけでなく、現在にも続く活動である。 ・<u>N</u>：子どもたちのダンスコンテストのような企画もプロジェクト終了後に行っている。このコンテストにはもちろん両親も参加している。 ・<u>C</u>：セレブレーション等も CCGPP で企画したりしている。例えば、自転車を持っている学生によるレース等を企画した。 ・<u>C</u>：来週、校内清掃活動を企画している。その際に、蚊帳の配付なども行いたいのだが、保健省へリクエストしたもののレスポンスはまだない。 ・<u>C</u>：CCGPP はもう存在していないが、メンバーは引き続き同じカルティエに居住

	している。現在も関係は継続している。 CCGPP のメンバーについて改善点があるか ・P：ムスリム、クリスチャン、各民族を入れていたので問題ないと思う。ポリティシャンは絶対に入れるべきではない。 ・C：プロジェクト実施中のメンバー間の問題等はなかったが、コミュニケーションのためのバジェットがなかったのが困難であった（市役所は CCGPP メンバーの自身にのみ連絡をくれ、その先は自分のお金を使ってメンバーに知らせるなどの出費があった）。 ・P：コミュニケーションや移動に係る CCGPP のための予算があればよかった。 無職の若者の存在がどこでも問題になるが、プロジェクトでの支援可能性等アイデアはあるか ・P：青年グループのリーダーに聞けば、無職の青年のリストは手に入るので、プロジェクトでの労働力候補者リストなどを作成する際には役に立つのではないか。ほかには、日雇いなどの際にも、例えばトレーニングセッションを設け、彼らにレンガ工やカーペンター等のスキルを学ばせることができれば、プロジェクト終了後の職探しにも役立つかもしれない。 隣人とも口をきけないような状況の地域で何が社会統合を促進し得るか ・P：子どもたちを集めてのフットボールマッチ。フットボールマッチにもポリティカルな要素は一切入れるべきではない。その他は清掃活動。 ・C：清掃活動を開催するにあたっては、市役所やその他住民等から手押し車を供与してもらい、生徒の親などに呼びかけて清掃を行い、清掃後に食事を皆で頂くといったものである。1 回の開催で 30 万 FCFA ほどの費用がかかる（COGES の運営費から拠出）。カルティエの掃除であれば、50 万 FCFA 以上かかると思われる。 その他 ・われわれは CCGPP のメンバーとして 3 年間働いた。できれば Certificate がもらいたかった。

（Adiopo Doume village：98 年のデータにおいてイスラム教徒の割合が多いことから選定した）

報告日：2017 年 2 月 13 日

場　所	Adiapo Doume village、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 13 日（月）10 時 35 分～12 時 20 分
出席者	Village chief, chieftaincy のメンバー、青年・女性グループの代表・メンバー等 50 名程度 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・Adiapo Doume village の下に、Adiapo coume village と 11 のサブカルティエがある。この 11 のサブカルティエはすべて Adiapo Doume village から派生したものである。村のマジョリティはエブリエであるが、サブカルティエは民族混合でどの民族がマジョリティかを特定することは難しい。主な収入源・生業は土地の貸借、アチェケ販売、small worker, farmers（実際に一定規模の農地が広がっている）等である。 ・ここに現在の住民の祖先が居住を開始したのは 1800 年代である。もともとこの地から遠く離れた場所にアクゴンゴとよばれる村を形成して生活していたが、住民間で問題が起こり、また別の場所にジェポクテと呼ばれる村を形成したが、女性間の問題が発生し、またその地を離れて今の場所にジェッポーと呼ばれる村を形

成したのが始まりである。近代的なアドミの名前として Adiapo doume という名前がついている。サブカルティエの地域の人たちが移入し始めたのは大体 1930 年代である。

・現在は、サブカルティエの土地は居住者に属しており、土地問題はない。
・この地域は、騒乱のときも大きな影響を受けなかった地域である。騒乱時この地はレストランのような機能を果たし、外から多くの人が食糧を買いに来ていた。だれひとり殺された人もいないし、家財の略奪行為等も起こらなかった。その理由としては、住民間の関係性が強固であったことが挙げられる。例えば、自身（エブリエではない民族）は 1936 年にこの地で生まれたときから、母親からエブリエの人たちはみんな平和な人たちであると言われて育ってきた。われわれは互いを知っているし、政治的な何かに惑わされたりはしなかった。
・現在においても、社会統合に係る課題は抱えていない。他の地域にもこの地域の好例をシェアすべきである。例えば、大学の教授などがここに来て、騒乱が起きなかった理由を解析し、外国人も含めた人たちに広くその知見を共有すればいい。
・騒乱によって分断された人たちには、民族が違うから何なのか、支持政党が違うことに何の意味があるのかということを説き続けるしかないと思う。
・ここでは、Village chief は異なるファミリーのチーフでもある。いつも戸々を回っているため、地域のことをよく知っている。
・当地域には各サブカルティエにフットボールチーム（民族混合）があり、試合等を開催している。他地域にも適応化できるのではないか。
・そのほか、女性の商業活動を支援することで、互いを知る機会を提供することも可能ではないか。
・民族を超えての活動といえば、一番は葬式である。民族に関係なく、葬式に際しては互いにサポートし合っている。
・イスラム教徒の祝い事に際しても、彼らの地域を訪問し、迎えられている。
・ニューイヤーに際しては、皆が集まり一緒に祝っている。その際、民族に関係なくすべての子どもたちにプレゼントが渡される。
・（セキュリティの問題については、その任を任されている Barrou 氏が説明）セキュリティに関する問題は多く抱えている。村の周辺をイリーガルな喫煙ハウスが取り囲んでおり、正気を失った若者などによって襲撃される事件等がある。若者はこの地域に住む者もいれば、他地域からの者もいる。これが大きな問題である。
・村には Village chief 及び Chieftaincy が存在しているほか、サブカルティエには 18 名の民族チーフがいる。そのほか青年・女性グループの代表、セキュリティオーガナイゼーションのリーダー等がいる。サブカルティエのチーフはいない。エブリエの Chieftaincy が定める慣習法については、サブカルティエの人たちからも尊重される必要がある。
・村内、サブカルティエ内で起こった問題については、ポリスには行かずに、まず各民族のチーフに報告される。民族チーフのキャパシティを超えた問題で、解決できない場合にのみポリスへの報告が行われる。
・当該地域には、Organization for Development of Adiapo Doume がある〔Mutuelle pour developpement de village de adiapo doume（正式名称はだれも思い出せなかった模様）〕。自身らで設立を決定したもので、外部からの支援や推奨を受けてのことではない。2016 年設立。プロジェクト実施に際してのサポート等のために設立しようというのが目的であった。現在までに何らかのプロジェクトが実際にもたらされたことはない（この組織ではなく村に三輪自動車が供与されたことはある）。住民がメンバーであり、14 名がエグゼクティブメンバーである（うち 2 名が女性）。

	エグゼクティブメンバーはすべてエブリエである（との答えから、後ほどバウレが 1 名だけ入っていると変更された）。 ・当該地域の女性はよくオーガナイズされており、管理委員会には女性を含めるべきである。 ・プロジェクトの実施が決まって管理委員会をつくるとなった場合、上記組織をそのまま踏襲するのではなく、小学校などはすべての民族が対象となるものであるため、すべての民族が内包されるべきであり、青年・女性グループのメンバーも参加すべきである（全員同意）。 ・行政との問題は特に抱えていないが、ぜひとも選挙を待たずに村を訪れることをお願いしたい。道路の整備等が必要である。 ・不満はないが、道路整備をお願いしたい。 ・選挙のときには電力・給水・道路の整備を約束していたが、アクションはない。

報告日：2017 年 2 月 13 日

場　所	Adiapo Doume village、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 13 日（月）12 時 25 分～12 時 35 分
出席者	Mr. Tuo Eduard（1968 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ヤクバ（ダン）のリーダー。サブカルティエ セクター1 に居住している。 ・実際に、村との軋轢や他の人とのコンフリクトは抱えていない。ヤクバの人たちは 1940 年頃にこの地に住み始めたと聞いており、住民はチーフを尊敬している。エブリエの人、その他の民族の人とも強固な関係を築いている。調和して生き、何についてもオープンに語ることができている。 ・当該地域には、青年・女性グループが多数存在するが、民族に特化したもの、民族混合のものの両方がある。

報告日：2017 年 2 月 13 日

場　所	Adiapo Doume village、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 13 日（月）12 時 35 分～12 時 40 分
出席者	Mr. Dago Innocent（49） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ディダのリーダー。サブカルティエのセクター1 に居住している。18 名の民族リーダーのなかでスポークスマンの役割も担っている。スポークスマンとして、重要な決定事項等をすべての人（民族に関係なく）に共有する役割を担っている。 ・この地域にも小さい問題はある。多少は政治的な分断もある。騒乱の際に嘘をつく住民もいた。しかしここではチーフがそれを解決する能力を有している。具体的には問題を抱える者同士にきちんと話をさせることによって互いに対する不信を取り除いている。民族や支持政党の違いによる争いの無意味さを住民には常に説いている。 ・この方法は、どの地域でも適用可能な手法である。しかし、時間はかかる。継続的に実施することが求められる。

報告日：2017 年 2 月 13 日

場　所	Adiapo Doume village、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 13 日（月）12 時 40 分～12 時 50 分
出席者	Mr. Karamoko Douda（58） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケのリーダー。実際に、この村では社会統合に係る問題等はなく、住民は皆民族に関係なく仲良く暮らしている。18 名のチーフによってきちんとオーガナイズされている。18 名の民族リーダーとエブリエの人たちとの関係も良好である。われわれは 100 年以上も前から互いに知っている存在である（先の聞き取りでは 1930 年頃から移入が始まったとのことであったが）。本当に問題はない。ムスリムとして嫌な思いをしたこともない。通婚も少なくなく、ムスリムとクリスチャンの結婚もある。 ・（他地域で一般に語られる）ジュラの人たちが貧しいということは、この地域ではない。ジュラの人たちも土地所有者であり、家を貸すことで賃貸料を稼いでいる。 ・（他地域では騒乱後に人々は政治に興味をもつようになったとのことであるが）この地域ではそのようなことは顕著ではない。一国民として選挙には行くが、その他で政治活動に積極的にかかわることもなく、興味のもち方が変わったということはない。

報告日：2017 年 2 月 13 日

場　所	Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 13 日（月）13 時 45 分～14 時 10 分
出席者	Mr. Bengaly JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の対象地選定に係る協議
協議内容	・金曜に対象地選定に係る協議をもつ予定であったが、ベンガリ氏の予定がつかず当日に延期となっていたが、インフォーマントとの調整の都合から、金曜のうちにベンガリ氏の部下のカブロン氏と協議のうえ、2014 年センサスデータで北部出身者（Mande du Nord + Voltaique）の割合が比較的多い Adiopo Doume、及び人口急増などの特徴がみられる Zone Industrielle の 2 カ所を選定済み。 ・2014 年のセンサスデータをみると、ほとんどの地域で北部出身者の割合が総じて低いことから、民族分布（5 分類）の差があまりない（民族のマジョリティがわかりづらい）Sideci Sicogi Location Ventel または Sogefiha Kout Municipalite から 1 カルティエを選定、騒乱の影響を測る 1 つの指標として先週ベンガリ氏及びカブロン氏から提供された騒乱時に避難した人が多いといわれる地域から 1 カルティエの、計 2 カ所を新たに選出することとなった。 ・また、スラムの状況がいまだにつかめていないため、スラム 2 カ所を選出することになり、ベンガリ氏による選出が行われた（1 カ所は、代表的なスラムで人が密集して居住している場所、もう 1 カ所は、騒乱の影響を強く受けたところ）。 ・最終的に、SIDECI SICOGI Location Ventel カルティエ及び Yopougon Sante、Yopougon Attie カルティエの Mamie Faitai スラム及び Niangon Adjame カルティエの Bonikro スラムを訪問することで決定した。 ・調整はカブロン氏にすべてお願いした。

（Zone Industrielle カルティエ：2014 年センサスデータにおいて、比較的各民族分布に差がみられない地域）

報告日：2017 年 2 月 14 日

場　所	Zone Industrielle、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 14 日（火）10 時 30 分～12 時 50 分
出席者	民族チーフ、イマム、牧師、青年・女性グループのリーダー・メンバーほか JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（牧師によるお祈りに始まり、イマムによるお祈りに終わる） ・Zone Industrielle カルティエ。当カルティエ下に村はないが、アジトマカゥ、アンドゥミルバラック、Sodifo extension, Quartier フェライ、Quartier Gro、Quartierl Zoh-プル、Quartier ユケアのサブカルティエがある〔市役所での聞き取りより作成した表とは一部が重複（名前が異なるだけ）しているが、住民が聞いたことがないという地名もあった〕。 ・1993 年頃に Central chief（民族リーダー24 名のリーダー）がこの地に来たときは、このあたりはもともと森林地帯であり（ポブエドゥと呼ばれていた）、だれも来たがらなかったが、そのうち人口がどんどん増えていった。1993 年に来たときには、既に工業地域は存在しており、おそらく 20 年前くらいから存在していたものと思われる。 ・<u>1976 年から工業地帯で働き始めた男性</u>:その頃は会社は 3 つくらいしかなく、人々はまばらにみられるくらいであったが、会社の数の増加に伴い、人口がみるみる増加していった。現在は 200 以上（おそらく 300 以上）の会社がこの地域に存在している。 ・カルティエ全体の民族分布について語ることは難しいが、アジトマカゥ、アンドゥミルバラックはヤクバの人口が比較的多く、Sodifo extension は Sodifo の人たち（政府雇用）の地域であり民族についてはわからない。Quartier フェライはジュラ、Quartier Gro はその名のとおりグロ、Quartierl Zoh-プルはヤクバ。Quartier ユケアは混住しておりどの民族が多いのかはわからないが、もともとこの地はジュラの人たちが住み始めた地域であり、ランドオーナーはジュラの人である。宗教のマジョリティはわからないが、モスクよりも多くの教会があることから、キリスト教徒が多いと思われる（すべての人が頷いていたが、マリンケの老年男性が、「この地域は昔はイスラム教徒しかいなかった。キリスト教の話なんかするべきでない」と発言）。 ・市役所が地域を認識するために用いるオフィシャルネームについては、住民は知らないが、カルティエのボーダーについては市役所の認識と住民の認識は一致しているはずである。 ・（当カルティエの 1998 年と 2014 年センサスデータから人口増加率が非常に高いことがわかるが）これは多くの若者（移民、コートジボワール人）が職を求めてこの地へ来て、そのまま住みつくようになったためである。 ・主な仕事は、本カルティエにある工業地帯などでの雇用のほか、small workers（メカニック、レンガ工等）、女性は small scale commercial workers。 ・<u>Central chief</u>：この地域はもともと政府所有地であった（各人反論があるような雰囲気）。 ・<u>女性</u>：本カルティエの住民の一部は、ポブエから強制移住を余儀なくされた人たちが住む地域であり、政府が補償してくれた。政府が居住地を建設し、土地及び住居を彼らに与えた。

・マリンケ男性：カルティエフェライは、マルコリ市から政府に移住をさせられた人々によって形成されている。まず、1965 年にマルコリ市からヨプゴンの別の場所へ移動させられたが、その地に大きな病院の建設が決まり、1971 年に現在の地域に再移住してくることとなった。
・40 代男性：昔からこの地でレンガ工として働いていて、この地にある刑務所も建設したし、1996 年には SOGIFO の建設にもかかわった。そのためこの地域のことをよく知っている。1998 年に政府が土地の区分けを完了しているが、それはアジトマカウに対してのみである。他の地域は土地所有者が自身でレイアウトを作成している。この地域は、アドミ的にはアジトマカウと呼称するが、われわれはアンドゥミルバラック（家が木材でできていることからついた名前）と呼ぶ。この地域では、政府が住民に土地等を与えたことから、一般にすべての住民が土地所有者といえる。
・老年男性：この地域には 2 タイプの土地がある。①政府によって土地の区分けが完了している地域（アジトマカウのようにクオリティの高い地域）、②住民自身によって土地の区分けが実施された地域（クオリティが低いバラックなどでできている）。
・土地問題はない（本発言に対して、あると言う人も）。
・女性：法律的にいうと、われわれは土地所有者ではない。公的な書類を政府が発行してくれないためである。
・男性：土地問題はないが、あるとき、アティエの人が来てわれわれの祖先がこの土地を使っていたためこの土地は自分たちのものであると主張してきた。われわれはこの土地は政府から譲り受けたものであることを説明し、今は問題なし（後に他の話の際に、アティエが権利を主張してきた土地は工業地帯であり、われわれとは関係ないとの発言に変わった）。
・先の 2 タイプの土地について、②について、彼らが勝手に入植し土地を占拠しているともいえる（土地は政府に属するとの考えかどうかは直接住民には確認できなかった）。
・Central chief：当地には、ヤクバ、バウレ、ベテ、アンド、グロ、ウェベ、グレ、マリンケ、CEDEAO 等さまざまな民族、国籍の人が住んでいるが、騒乱以前は皆調和しつつ暮らしていた。騒乱以前は、会議も開いており、皆が集まり一緒に物事を決めることができていた。今は以前のように皆で決めるというのは無理である。ミーティングを開いてもボイコットする民族が多数ある。グロやクランゴー、その他多数である。このような状況に対して、どうすればいいのかもわからない（本インタビューに参加していた民族は、ヤクバ、ベテ、グロ、ゲレ、マリンケ、アティエ、アンド、CEDEAO）。
・民族のチーフとして発言するが、実際にわれわれは相手を敵（enemy）としてみている。人を傷つけるマシェットや銃を持っていないが、状況は騒乱時と何も変わっていない。若者の間にある不信を取り除くためにフットボールマッチ等を開催するなど、何かアクションを起こさなければならない。今若者のためにといったが、若者だけでなく、それ以上の年齢の人たちの関係性も決していいわけではなく、若者と同様、うまくいっていない。
・青年グループリーダーの男性：ネガティブな出来事が若者の間でもたくさん起こった。若者はそれぞれ銃を持ち、政治によって二分され、互いに戦った。それぞれが銃を持ったにもかかわらず、敗者（バグボ派）はここを去った。銃を持って戦った青年は去ったが、彼らの家族は今もこの地に住み続けている。想像できるだろう、彼らとどうかかわっていいのか悩む住民がいるということを。

また、銃を持って戦ったもののこの地に残ったバグボ派の青年に、良くない行いをしている者がいる。彼はこのカルティエにあるドラッグハウスでドラッグを吸い、コントロール不能になって人を襲うこともある。
また、勝者側にいる銃を持って戦った青年も2つに分けられる。政府は元兵士に対する補償を約束したが、元兵士のなかには最終的に政府と敵対したコマンドエンビジビ（Command Invisible：アボボを中心に活動したグループで、最終的に政府によってリーダーが殺害された）と呼ばれるグループがあり、元兵士であっても彼らは補償されない。そのグループのメンバーはこのカルティエにも住んでいる（1名は刑務所、その他5人以上）。政府から罰を受けているようなものである。彼らの不満はたまっている。

- このような経験をし、騒乱後われわれは似た人（民族や支持政党等）としか行動をともにしなくなってしまった。
- 女性：ある特定の民族に対する嫌悪感をなくすことができない。騒乱中、危篤状態となった父親をタクシーで病院まで運んでいる途中、反乱軍に捕まり、20万FCFAを支払わなければ解放できないと言われた。もちろん払えるわけもなく、彼らは拘束を続け、父親はタクシーの中で息を引き取った。
- 牧師：彼女だけではない。多くの被害者がいるという事実がある。しかし、被害を受けた人も話す先がない。彼らは他人への不信をつのらせ、家に籠ってしまっている。
- 老年男性：このような状況をどのように打開すべきなのかはわからないが、騒乱によってこの地を離れ、いまだに帰れない人たちを帰還させる努力をする。皆が帰還したという事実は、われわれに自信を与えるのではないか。騒乱時、避難民となってこの地を離れた人は、たくさんいる。ほとんどの人は帰ってきたが、まだ帰ってきていない人もいる（世帯数、人数等はわからない）。また、帰還した人のなかにも亡くなった人も多い。病気や貧困のためである。騒乱によって仕事を失い、帰還しても生きるための、薬を買うためのお金がなかった。
- Central chief：その他には、女性のための市場整備等も、社会統合に寄与すると思う。同じ場所から同じ目的をもって通い、ある特定の場所で一緒に働くという機会の創出は、女性がコミュニケーションを再び始めるのに役立つのではないか。
- 青年男性：若者のためのハウスの整備も若者の社会統合を促進する。一緒にフェスティバル等を開催できれば、また人が集まるようになるかもしれない。
- 老年男性：大きな会議（住民みんなが集まるような）を開くのはどうか。外国人からの支援を受け、社会統合についての話をしてもらいたい。騒乱後、この地では一度もセンシタイゼーションに係る集まり等は開かれていない（NGO、ポリス、市役所、ドナー、彼ら自身、すべてにおいて）。センシタイゼーションは、社会統合の1つのキーである。
- 青年男性：ビジネス機会の創出支援も、住民たちがコミュニケーションを再開する1つの機会を与え得る。ビジネス機会が創出されれば、マネジメントコミッティをつくり、互いに助け合って仕事を得ることができる。現在は、ビジネスを始めるための最初の資金がないためできない。
- 青年男性：騒乱以前はサッカー大会を民族チーム対民族チームで行っていた。このような活動を通して人が集えるため、社会統合に寄与すると思う。今やるとしても、以前と同様民族対民族でよいが、賞金を同額にするなどの配慮が必要である。特定のWinnerをつくるべきではないと考える。
- 老年男性：保健センターの整備が社会統合に寄与する。保健センターは老若男女が集う場所であり、人が集まるいい機会となる。共通の関心事項であり、人々の

	幸せにもつながる。 ・老年男性：管理委員会のベストな構成メンバーとしては、各民族から 3 名ずつ（フォーカルポイント、青年、女性）を出すのが良いと思う。（最低でも 72 名となるが多くはないか？）若者グループ、女性グループ、民族チーフ（全 24 名）からそれぞれ 3 名ずつに、イスラム教及びキリスト教の宗教リーダーの計 11 名が良いと思う。民族のリーダー（24 名）からどのように 3 名を選出するかについては、プロジェクト内容等にもかんがみ、皆で協議する必要がある。また、たとえある特定のサブカルティエに何かが整備されることになったとしても、当該サブカルティエ以外の地域からのメンバーも入れるべきである。 ・当カルティエには、民族の長、宗教リーダーのほかに NGO も存在する。 ・現在、民族を超えて実施するコミュニティ活動はない。以前は葬式なども民族に関係なくお金を集め助け合っていたが、現在はそれもしない。騒乱以前に実施していたコミュニティ活動としては、フットボールマッチ、清掃活動が挙げられる。 ・青年男性：昔は一種の連帯があった。例えば、同じ地域の若者が外部の人からアタックされているのを見れば、この地域の若者が皆で助けた。今はそのようなこともない。襲撃されているのを見ても、個人の問題だとして助けない。 ・老年男性：行政に対しては、民主主義について、なぜ選挙が必要なのか、選挙結果がどうなのか（なぜジュラが勝ったのか）などについて住民をトレーニングする必要がある。選挙のときだけでなく、継続して実施することが重要である。 ・老年男性：不正に占拠された土地について文句を言っても、相手から「それは市役所のみが決められることである」と言われて相手にされない。ということは市役所の仕事なのである。市役所は土地の分割を明確にすべきである。 ・青年男性：市役所はすべての人をマネジメントする義務を負っている。インターンのリクルートなどでは、北側の人のみが採用されている。フェアリクルートメントの徹底が望まれる。 ・老年男性：まずは、住民を訪れることを市役所には期待したい。ヨプゴン市役所のカブロン氏は地域を訪れてくれるが、彼には決定権がない。市長がすべて決めている。

報告日：2017 年 2 月 14 日

場　所	Zone Industrielle、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 14 日（火）13 時～13 時 5 分
出席者	Mr. Kouassi Biirie（65~70） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・グロのリーダー。グループインタビューのなかで、グロは会議への参加をボイコットしているとのことであったが、Central chief との仲が悪いためである。Central chief が各民族の長からお金を集めて地域のために使うのだが（各部族の長が住民からお金を集める）、その使い方等に不満がある。今はグロのお金を集めることを止めており、ミーティングにも参加していない。ヤクバ（Central chief の民族）とグロの問題ではなく、チーフ同士の不仲が原因である。 ・（インタビュー時に目の前に Central chief もおり、喧嘩になりそうだったのでインタビューを止めることとした） ・（グループインタビューで、管理委員会には各民族のチーフからとのことであったが）共通のビジョンのためであれば、仲の悪いチーフとの会合にも参加できる。

報告日：2017 年 2 月 14 日

場　所	Zone Industrielle、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 14 日（火）13 時 10 分～13 時 20 分
出席者	Mr. Sue Ferix（63） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・前インタビューでグロの男性から責められていた Central chief、ヤクバのリーダー。 （この時点でグロのリーダーは退席） ・彼との問題は大した問題ではない（と言いつつ興奮している）。 ・Central chief には 2012 年か 2013 年から就いている。10 年ごとに 24 名の民族長によって選挙が行われる。 ・グロだけでなくクランゴーも会議に参加しないが、その理由は人数が少ないためである。5 名程度か。それでも民族リーダーは存在している。 ・ヤクバ語で "Junke" と言われる争ってはいけない民族がある。アティエとディダ、グロとヤクバ、セヌフォとヤクバ、タグバナとヤクバ、ゲレとグロ、アニとバウレ、マリンケとセヌフォ等。だから、グロの男性とも本当の意味では喧嘩はしていない。若者、特に都市部の若者はこの文化を尊重しない。

（GARE-SUD-SODECI-GFCI カルティエ：35%と比較的ジュラの割合が多いカルティエ）

報告日：2017 年 2 月 14 日

場　所	Wassakara 村、Yopougon Commune われわれの認識では、Gare-Sud SODECI-GFCI
日　時	2017 年 2 月 14 日（火）15 時 50 分～17 時 30 分
出席者	地域の長など JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（悪い雰囲気ではないが、まとまりがない印象を受けた。また、15 時開始の予定であったが、人が集まっておらず、3 名より開始。その後聞き取りをしていた近くのモスクから人が流れ込み、最終的には 20 名程度が参加した）。 ・市役所提供の情報にある Banco Nord からは遠い。Wassakara 村（彼らの認識では）にはサブカルティエやスラムは存在しない。主要民族はわからない。さまざまな民族が混ざって住んでいる。しかし、40%以上が CEDEAO であると思われる。一部は、コートジボワール国籍を取得しているが、オリジナルの国籍のままである人も多い〔例：イスラム教徒の 67 歳のアニの男性。2 人の妻がおり、1 人はコートジボワール（バウレ）に、もう 1 人はブルキナファソにいる。子どもは 14 人おり、そのうち 9 人を大学へ行かせた。妻はコートジボワール人で、コートジボワールに住んでいる子どももコートジボワールの国籍を有しているが、自身はこの国の国籍がほしいと思ったことはない。ブルキナファソの国籍のままで十分である〕。宗教についてはムスリムが約 70%と多い。 ・主な生業は、レンガ工等の日雇い、トレーダー（small/ big scale）、テイラー等である。正規雇用はない。一般的には女性が家に食事を運んでくる（女性の稼ぎで家族が養われている）。 ・当地には、民族のリーダーが 19 名ほど（定かでない）おり、うち 1 人が Central chief として選出されている。そのほかにカルティエのリーダーはおらず、青年グルー

プ・女性グループのリーダーがいる程度である。
・当地は、もともとエブリエの人たちが所有していた。エブリエの人たちによって土地分割がされ、1968 年頃から外部の人に土地を売り始め、1970 年頃から人が住み始めた。エブリエの人たちは現在はこの地域には住んでおらず、土地の所有権は現住民に属する。
・この地域ではコンフリクトは内部では発生せず、外部からもたらされた。政府軍がこの土地に進行し、人々を撃ち始めた。この土地を離れた人もいるが今ではすべて帰還している。政府軍が進攻した際には、地域の長として、ワタラ派の人間を売るような行為があったが、昔の遺恨を大きくしているだけかもしれない。人を撃つべきではないと政府軍に話したりもした。
・当地にはミクロブや泥棒がいるがそれほどシリアスではない。ミクロブは主に外のスラムからやってくる。
・雨の日などは危ない（ミクロブに襲撃されやすい）。
・（なぜこの地域では騒乱中も大きな問題にならなかったのか）アッラーに祈っていたからである（という回答が 2 人続いた）。
・イスラム教徒の男性：ベテの人たちとも長年友人関係にあったため、問題にならなかった。
・50 代くらいの男性：騒乱中、カルティエの長老たちが住民に人を襲撃しないよう、人を傷つけないようセンシタイズし続けたことがこの地を安全に保ってきた。
・老年男性：騒乱後、TV 等で政府がリベンジしないようにと呼びかけていた。ここでは、騒乱中に襲撃を受けたものは 1 人も出なかった。
・Central chief：騒乱中、Port Boet 2 の若者がこの地域の住民を襲撃しようとしたが、若者を集めて道路閉鎖をするなどして防いだ。カルティエ内にはコンフリクトはないが、カルティエ間にはある（その後の聞き取りでは、カルティエ間にも今はコンフリクトはないと答えている）。
・われわれは互いを助け合っている。例えば、人が亡くなった時には隣人に伝えるなど、民族等関係なく活動している。
・昔から結婚や葬式くらいしかコミュニティ活動といえるものはない。民族内でも皆で一緒に行う活動はこれくらいのものである。
・ジュラの老年男性：昔はレンガ工だったが今は働いていない。働いていた頃は、皆で協力して仕事の機会を得ようとしていた。ベテの人に電話して一緒に働いたりもしていた。民族は関係ない。今は体調が悪く働いていないが。
・騒乱以前は、皆で清掃活動等をやっていた。（なぜ止めた？）市役所のせいである。支援もないし、パスできない道路等がある。
・ヨプゴン市役所カブロン氏：市役所を待たずに自分たちでやればよい。他の地域で支援の要請があれば、手押し車などを提供している。
・管理委員会のメンバーとしては、正直な人、信用できる人を選出するべきである。
・女性：全民族を含めるべきである。
・この地域には、女性グループ、青年グループ、トレーダーズグループがあるが、NGO はない。
・老年男性：行政とは何の関係もない。市役所はわれわれのこと等ケアしていない。道路の状況は悪い。
・Central chief：何度も市長に面会することを決めたが、チャンスがなく会えていない。
・40 代？男性：パスできない道路がある。
・老年女性：（フランス語が話せないと言いながら頑張って初めて発言）選挙の際に

	はいろいろなことを約束したが、何も実行はされなかった。 ・市役所の能力強化については、女性：約束を守るべきである、女性：市長はわれわれ住民を訪れるべきである、男性：道路の改修をすべきである、男性：電気を整備するべきである、男性：水道はあるが昨日は水がなかった。

報告日：2017 年 2 月 14 日

場　所	Wassakara 村、Yopougon Commune われわれの認識では、Gare-Sud SODECI-GFCI
日　時	2017 年 2 月 14 日（火）17 時 30 分～17 時 40 分
出席者	Ms. Djarassouba Fatimata（1965 年生） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケの女性。コートジボワール人である。 ・CONFIANCE（trustful）という女性グループのリーダー。200 名くらいのメンバーがいる。15 年以上前に設立されたグループで市役所に登録している。エグゼクティブメンバーは 6 名（president、vice-president、秘書、コンセイユ、会計係、オーガナイズ役)、すべてマリンケである。 ・相互扶助のために始めた。メンバーのだれかが結婚する場合にお金を出し合ったり、お金を集めてグループ活動に役立てたりしている。現在は、これといった活動はしていない。 ・1 週間に一度、毎週土曜日に集まって頼母子講をしている。 ・市役所からの支援はない。受け取ったことがない。 ・政治的な背景はもっていない。 ・登録をした理由は、市役所に呼ばれて登録を勧められたから。市役所がどのように支援対象のグループを選定しているのかについては一切知らない。

（Mamie Faitai カルティエ：死者をたくさん出したということで市役所から紹介されたスラム）

報告日：2017 年 2 月 16 日

場　所	Mamie Faitai スラム、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 15 日（水）10 時 15 分～12 時 20 分
出席者	民族の長、ナショナルアソシエーションの長等 20 名強 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・〔スラムだからといって居住地が他地域よりも密集しているとか、治安状況が悪そうということは特に感じられなかった（Dosso 氏は他の地域より貧しいと言っていたがその違いはわからなかった)。集まってくれた人たちは、特に何かを隠すようなことはなかったように見受けられるが、若干まとまりがない感じを受けた〕。 ・カルティエのチーフは所用により不参加。民族の長や青年グループ、イマム、Chieftaincy のジェネラルセクレタリーらがインタビューに参加。当日参加していた民族は、セヌフォ、アベ、バウレ、ウォロドゥグ（マリンケ)、ヤクバ、アンド（バウレ)、アニ、ニジェール人、ナイジェリア人、マリ人である。 ・Mamie Faitai スラムは、Yopougon Attie, Sogefia, Sicogi, Sideci, Niangon 等のカルティエにまたがっている。他の地域に V28 というところに雇われた人（？）がいたが 1998 年に移転を余儀なくされ、現在の地域にやってきたのが始まり。当時の市長がこの地域を与えてくれた。(現在はこの地域は居住者に属するのか？）属さな

い/まだ（という回答が混在）。市役所に要請を出しているが、まだ回答はない。
・スラムの一般のカルティエとの違いは、政府がいつでも消滅させることができること、住環境（サニテーション、学校、水、保健施設、電気）が悪いことである。しかし、スラムだからといってアソシエーションの登録ができない、選定で不利に働くなどの扱いは受けていない。
・人口は約 7,000 人である（すべての世帯を把握している）。
・主要民族はマリンケで約 60%を占める。次いで、CEDEAO である。ムスリムが 80%程度と多い。
・騒乱時の影響については、犠牲状況を把握している人物（Mr. Dosso Adama）がおり、その人から報告してもらう。被害状況を聞きに来る人が多いため、ボランティアでまとめた。この地域独自のシステムである。
・Mr. Dosso：100 名が殺害されたが、同定されたのは 79 名である。そのほか 9 名がレイプ被害、30 名が銃による負傷、多くの家から家財が略奪された。これら被害は、他の地域との交戦によるものである。また、地域内にも密告者（どの家がワタラ派かなどを告げる人）がおり、ほとんどの住民が当地を離れたが、帰ってきていない人もいる。特に密告のようなことをした人たちは帰ってきていない。帰ってきてほしいと思っている。未帰還者は、それほど多い数ではない。今週にも、社会統合に係る問題が起こったばかり。小さな問題ではあるが、不信からもたらされるものである。
・われわれは騒乱以前のようには暮らしていない。
・以前は民族や宗教に関係なく人々が集まることができたし、コミュニティのアクティビティ（青年・女性の集まりやセレモニー等）もあった。今は、過去のことを考えてしまい、集まることができない。
・青年男性：政治的なことを考えてしまうことが、社会統合の阻害要因である。騒乱のときに何が起こったかを考えてしまい、社会統合の促進を妨げている。市役所によるアクションは何もない。サニテーションの問題を抱えている。排水溝がなく、ごみの回収がずっと滞っており、ごみや汚水がそこらじゅうに捨てられている。これは、家族間や隣人との間に問題を起こす可能性をはらんでいる。
・青年男性：隣人との問題を抱えている。サニテーションに係る隣人の悪い行いがイライラをつのらせる。しかし、問題が起こるのを避けるため文句を言わないように母から言われている。
・青年男性：マーケットの改修が実施されれば、女性にとって集まるいい機会の提供となる。
・（どのようにすれば過去の行いを許すことができるのか）
老年男性：この地を離れたくても、仕事がないためお金もなく、引っ越すことができない。
青年男性：われわれはいまだに互いを憎み合っている。2 カ月にわたる長期間のセンシタイゼーション活動を実施するのはどうか。戸々を訪問し、社会統合に係るセンシタイゼーションを行うとともに、サッカーの試合や清掃活動等の社会活動を実施する。UN によるセンシタイゼーションプログラムが騒乱後に実施されたが、数時間の研修のみで効果はなかった。市役所も人を集めて同様のことを実施したが人々の関係性は改善していない。人を集めてセンシタイゼーションを実施しても効果はないと思う。
・青年男性：このスラムには、社会統合の促進を勧めるアソシエーションがあるが、運用資金の不足に直面している。住民はこのアソシエーションに貢献すべきである。

	・老年男性：若者の多くはただ座り、何もしていない。そういった青年たちのために仕事を探す必要がある。若者たちと社会統合について話す機会があるが、騒乱によって仕事を失った、両親を失ったことで学校に行けないなどの問題が挙がる。彼らが職を得ることは、彼らが社会に統合される良い機会となる。 ・老年男性：最近は人を集めるのが難しい。民族分け隔てなく一緒にできるプロジェクトの実施が必要である。人が集まらない理由は、個人的な仕事や仕事探し等である。 ・青年男性：個人的にはこういう集まりには顔を出さない。これまで多くの外部者が話を聞きに来たが、その後何かの恩恵を受けたことがないためである。 ・老年男性：このカルティエのサニテーション支援をお願いしたい。 ・セキュリティの状況については、最悪の状況であるとはいえないが、安全ではない。武器や銃器を持っていない泥棒による被害がある。彼らは、このカルティエ内外から来ていると思われる。また、違法なドラッグハウスがある。このような問題を抱えるが警察官がいない。警察に報告をしても警察は来ない。アクセス状況が悪いためで、警察によるパトロール等もない。 ・〔スラムという性質上（政府がいつでもこの地を消滅させることができる）、もしかしたらこの地域でのインフラ整備等が難しいかもしれないが、仮に管理委員会等を設立する場合は、この地の人もメンバーになることが望まれるか？〕状況による。自分たちが裨益者になることが明確なのであれば入りたいと思うが、そうでなければ入る必要はないと思う。 ・中年男性：学校の整備において悪い経験がある。すぐ近くの SOGEFIHA に小学校が整備された際に、スラムの住民が登録に行くと、この学校は SOGEFIHA のためだけに整備されたものであると言われ、拒否された。市役所のインスペクターにも入ってもらい、小学校の名前を SOGEFIHA から SOGEFIHA MAMIE に変更し、現在は問題なくスラムの住民も小学校に通うことができる。地域を絞ることはこのような事態を生じさせ得る。 ・本スラムには、Chieftaincy のほか、多数の青年グループ、女性グループ、アソシエーション、ムスリム青年グループ等が存在している。Chieftaincy には長が 1 名、その他 17 名がメンバーに名を連ねている。 ・市役所は住民を支援していない。選挙のときだけである。要望は挙げているにもかかわらず何も実施してくれない。彼らが話していることは、いつも政治的なことばかりである。 ・市役所には変わってほしい。老年男性：グッドコミュニケーションが必要である。彼らによる訪問、住民のニーズを知ることをお願いしたい。青年男性：若者への雇用の創出をお願いしたい。公的機関へのリクルート、青年によるビジネス活動のサポート等。老年男性：スラムは汚れている。清掃してもらいたい。青年男性：土地所有権がほしい。また、人々への衛生に係るセンシタイゼーションを実施してほしい。 ・住民の主な生業は、タクシードライバー、家屋の賃貸料、小売業、プライベート教師、女性は小売業等である。またリタイアした人が多い。若者の 50%はタクシードライバーである〔仕事がある人のうちか否かを明らかにしようとしたところ、若者全体の 50%とのこと（本当？）〕。タクシードライバー稼業は、1 カ月で多くて 15 日程度、1 日に稼げるお金は 5,000FCFA 程度であり、十分でない。タクシードライバーをしている若者をわれわれは失業者とみなしている。それ以外の 50%は本当に何も仕事がない失業者である。

報告日：2017 年 2 月 16 日

場　所	Mamie Faitai スラム、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 15 日（水）12 時 25 分～12 時 40 分
出席者	Mr. Karamoko Abudul Karim（34） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・マリンケの男性。青年グループ、COGES、ナショナルアソシエーションのリーダーを兼任している。(3 グループの長に就いている理由は）アソシエーションの活動が認められたからだと思う。 ・Jeunesse Espoir du Côte d'Ivoier というナショナルアソシエーションの長である。当アソシエーションは内務省レベルで登録されており、若者へ仕事を与えたり、社会統合に係る活動を行っている。無職の若者に仕事を探し、紹介している。レンガ工を募集しているとの情報があれば人にコンタクトし働ける人を探すなどである。仕事で得られたお金は活動資金にも活用される。そのほかメンバーからもお金を徴収している。現在のメンバーは 246 名、エグゼクティブメンバーは 17 名〔アティエ 1、バウレ 1、セヌフォ 1、アニ 1、ゲレ 1、アジュクロ（セヌフォ）1、その他がマリンケ（11)〕である。民族分け隔てなく活動しているが、メンバー間で問題は起こっていない。騒乱の間も問題はなかった。むしろこのスラムに人が自分を殺しにやってきたときに、メンバーの 1 人が「彼はマリンケだが社会統合に貢献しているいい人間である」と言ってくれ、助かったこともある。当活動、アソシエーションに対して政府から支援を受けたことはない。 ・社会統合にどのように貢献できるかについても考えている。例えば「母の日」等に人を集め、女性にプレゼントを渡すなど、民族に関係ない何かしらの活動を行いたいと考えている。

報告日：2017 年 2 月 16 日

場　所	Mamie Faitai スラム、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 15 日（水）12 時 40 分～12 時 50 分
出席者	Mr. Dosso Adama（52） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・コヤカ（マリンケ）の男性。騒乱の被害状況をまとめている。 ・騒乱の被害状況をまとめたのは完全にボランティアである。騒乱直後に、市役所に奨励されたためである。自分の兄弟も騒乱中に殺害されている。 ・まとめた情報は、連帯省や市役所、UN に提出した。殺害されてこの地に埋められた住民のリストを作成し、2014 年に 15 名が補償対象に選定された。4 名は既に補償を受け取ったが、11 名はまだである。「すべての人に」と政府は約束しており、履行されることを望む。選定された 15 名については、埋められた場所が掘り返され、医者による調査が行われた（おそらく DNA 鑑定等）結果、この 15 名が確定された。住民は 18 名がここに埋められたと考えている。調査は騒乱からかなり時間が経ってから実施されたものであり、腐敗が進んでいた。他の殺された人たちは、違う場所に埋められている。 ・社会統合のため、人々が良い感情を取り戻すためには、犠牲者のすべてが補償される必要がある。

	・この地域で被害が大きかった理由は、マジョリティがバグボ派のゲレとワタラ派のマリンケだったからではないか。

（市役所より一般的なスラムということで紹介されたスラム）

報告日：2017 年 2 月 17 日

場　所	Bonikro（スラム）、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 16 日（木）10 時 25 分～12 時 50 分
出席者	民族チーフ、イマム、青年・女性グループのリーダー・メンバーほか JICA: Ms. Abiko JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（少数派？敗者側が意見を言いにくそうな雰囲気ではあったが、比較的オープンに発言している印象を受けている） ・Bonikro カルティエであるが、Atobite（丘の上のプランテーション）というエブリエの名前に変えたいと考えている。当初この土地はエブリエの土地であり、その地にバウレの人たちが 1927 年に移入してきた。土地はエブリエの人たちから購入はしておらず、土地や家を借りている。この地域はスラムといわれるが、不当に土地を占拠しているということはなく、土地の分割が進んでいないこと、その他社会インフラ等（学校・保健施設、電気、排水路等）が整備されていないためにスラムと位置づけられている。 ・人口は約 5,000 人である。最近、土地の区分けを行う必要があったため、自分たちでセンサスを行った。 ・住民の生業は、カーペンターやレンガ工等の日雇いのほか、ドライバーやバカの呼び子、メカニック、女性は小売業等である。公務員はいない。若者の約 90%が職をもたない（ドライバーやバカの呼び子をしている人は職をもっているとみなす)。 ・（土地問題については発言が二転三転する）この地域にはエブリエの人によって既に土地の分割が行われている地域とまだこれから住民自身でレイアウトを作成する地域の 2 種類がある。土地問題はない。 2015 年にエブリエの人によってすべての土地が分割され、書類一式が Ministry of Contruct に提出され、現在承認を待っている。 ・当地に一番多いのはブルキナファソ人（約 20%)、次いでバウレ（約 15%）である。宗教はムスリムが全体の約 40%と一番多い。 ・<u>ンバトゥのチーフ</u>：社会統合については、多くの困難を抱えている。例えば、自分はワタラ派の人たちにバグボサイドの人間であると報告されたうえ、息子や甥が銃を持ってバグボ派とともに闘ったとのうわさを流され、拘束されそうになったため自身の村へ帰り、生活していた。騒乱後、状況が落ち着いたためこの地に戻ってきたが、息子らの友人が息子たちがバグボ派であるとの通報をしたため、危険を感じて息子たちは村へ帰らせた。 ・<u>ベテのチーフ</u>：騒乱の間、隣人によってワタラサイドへバグボ派の人間として報告されてしまった。ワタラサイドの人間が殺しに来たため子どもを残して逃げた。子どもたちに関する情報がなく心配になり戻った際に、国軍（？）が家に来た。彼らは自分たちが優位であるかのようにふるまったが、命は助かった。 ・<u>ベテの男性</u>：大きな家に住んでおり、政治的な会合をわが家で開催していた折に、外部者であるワタラサイドの人間が家へ押し入り、銃を放ったうえ、携帯などの貴重品を略奪した。危険を感じてこの地を離れた。この地域がバグボ派の地域で

あると認識されているわけではなく、この地域には騒乱当時、密告者（indicator との訳）がたくさんおり、「この人がバグボ派である」などと知らせる人が地域内にも存在していた。
・マリンケの女性グループリーダー：ムスリムの人だけが殺された。しかしそれは騒乱中の話であり、この地域の住民は互いを愛している。ただの意見の相違である。騒乱後は、民族に関係なく活動している。だれも傷つけたくない。人々は調和をもってともに生活している（ここで女性・若者らから大きな拍手。少数の人は嘲笑うような視線）。
・マリンケの女性グループリーダー：この地に 20 年以上住んでいる。CEDEAO やコートジボワールの多様な民族が一緒に生活している。騒乱の間、他の地からこの地域に来た人も多い（安全であった）。密告者なんていなかった。亡くなった人は銃に撃たれただけである。人々は調和をもって生活している。この地域で問題なのは、電気や市場がないことであって、社会統合に係る問題はない。
・バウレの女性：騒乱中にあったことを話すべきである。私はバグボのサポーターだと言われた。恐怖を感じて逃げた。たくさんの人が騒乱中に避難民となってこの地を離れた。
・老年男性：現在はすべての人が帰ってきている。
・バウレの女性：すべてではない。まだ帰ってきていない人もいる。
・老年男性：われわれは互いを愛している。騒乱中に人が逃げたのは、恐怖のためである（住民間の問題ではない）。流れ弾が人を殺しただけで、住民間で殺し合ったわけではない。
・老年男性：騒乱中に国軍によって拘束された経験をもつが、騒乱後は、騒乱前と同じようにふるまった。いつもどおりに人とコミュニケーションをとった。
・老年男性：騒乱以前は地域には調和があった。騒乱中は人々は恐怖を感じた。しかし騒乱後は昔と同じように活動し、ふるまった。
・ゲレの女性：青年・女性グループは昔から存在し、騒乱前はすべての民族がともに活動していたが、現在は、いまだにミーティングやその他活動に参加しない人がいる。互いへの不信がまだある。
・マリンケの女性グループリーダー：人々が昔のようにコミュニケーションをとるようになるためには、女性へのセンシタイゼーション、ビジネスプロジェクト、保健施設の整備、ユースセンターの整備、フットボールマッチの開催等が有用であると考える。私たちは、多くのものを騒乱中に失った。ビジネスを始めるためのお金がない。ビジネスプロジェクトによって初期の活動が開始できれば、その活動を女性たちで一緒に行い、お金が稼げるようになれば、メンバーが資金を出し合いそれぞれのビジネスをスタートすることができる。このような機会は、女性の社会統合に有用ではないか。保健施設が整備されれば、女性が会う機会の創出になる。ユースセンターが整備されれば、そこで祝い事やフットボールプレイなどができ、民族に関係なく集まれるようになる。
・青年男性：サッカー試合を開催すれば、ただのグループ会議への出席（頼母子講）よりも人が集まりやすいし、より多くの人とのつながりができる。頼母子講への出資が嫌な人もフットボールマッチや祝い事であれば出資する人は多いはず。
・マリンケの女性グループリーダー：カルチャーセンターの整備が社会統合に寄与し得る。そこでは多くの活動が可能である。
・女性へのセンシタイゼーションが重要と言ったが、ミーティング等には参加しなかった女性も参加しやすいような「母の日」で女性を集めるなどの機会利用が考えられる。また、現在参加をためらっている女性も参加できるような新しい女性

グループの設立に係る支援を提案したい。（今のグループと何が変わるのか）騒乱の影響で女性にはお金がなく、ファイナンシャル活動を行うことができない。現行の活動に参加できない女性にとって、そのような経済活動を行うことが参加するモチベーションになる。このような活動をしたいが、まず始めるための資金がないため、最初は外部からの支援が必要である。活動が開始されれば、その後は自分たちで資金を集め活動を継続する。

- 老年男性：当地の子どもの多くが出生証明書をもっていない。小学校に入学しても最初は問題ないが、高学年になって試験を受ける段になって試験が受けられないという事態が発生する。そのような子どもはドロップアウトするしかなく、いい教育を受けることができず、いい仕事にありつけない。このような状況はコンフリクトを創出し得る。騒乱中、市役所は機能していなかった。出生証明書がない理由は、女性が自宅で出産すること、両親が出生証明書の申請方法を知らないことが原因である。出生証明書は出生から 3 カ月が過ぎると裁判所でのみ申請が可能となってしまい、その際にはお金もかかる（市役所での申請は無料）。このようなプロセスを知らないのである。このようなプロセスを理解してもらうためのセンシタイゼーションも必要である。
- 老年男性：この地には、伝統的なチーフとして、5 名の民族チーフがおり、1 名の Central chief がいる。1 カ月に一度集まっており、日常的な問題について話している。失業者問題等である（話したところでお金があるわけでもないので解決策はないとのこと）。
- 老年男性：当地には、管理委員会が存在している。パネルの設置等の際にも監理を行うなどの活動実績がある。もしプロジェクトが実施されるに際して管理委員会の設立が必要であれば、この既存の委員会をそのまま活用できる。
- 青年男性：委員会の管理者トップ（複数名）とメンバーの間には不信があり、新たな管理委員会が提案されるべきである〔後に当委員会のリーダーに話を聞いたところでは、この男性は当スラムの住民ではないとのこと（真偽のほどは不明）〕。
- 現在の管理者トップは 6 名、代表〔ングワ（バトゥ）〕、副代表（ベテ）、秘書（ウォベ）、第 2 秘書（バウレ）、会計係（バウレ）、第 2 会計係（ブルキナファソ人）である。以前は女性が 1 名いたが、現在は全員男性である。
- 現在、民族を超えて行う活動はない。
- 葬式、結婚式は一緒に行うこともある。清掃活動は実施していない。
- （この地域の住民の関係性が比較的良いとされる理由は？）老年男性：許すこと、良識ある人間であること。一部の人間はいまだに人をひどく憎んでいる。イマム：モスクでムスリムの人に対してセンシタイゼーションを行ったが、十分ではない。すべての人を巻き込んで実施するべきである。
- チーフとしては市役所職員とは良い関係を築いている。「母の日」や結婚式などの祝い事にも呼ばれる。
- 40 代？男性：今は幸せである。市役所がわれわれのニーズを知るために訪問してくれる。（複数の老年男性が首を振っている）
- 青年男性：30 年前に比べれば生活環境は良い。電気や街灯も整備され、給水パイプも整備されることになっている。
- 60 代？男性：サニテーションや小学校、ごみ箱などの整備が実施されていない。
- 老年男性：道路は通れないところがある。
- 市役所の機能については、ごみの回収、小学校や道路の整備に責を負っていると認識している。
- （政府からの支援を 2 回（1 回目：10 万 FCFA、2 回目：5 万 FCFA）受けた女性

	グループがあるとのこと）

報告日：2017 年 2 月 19 日

場　所	Bonikro（スラム）、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 16 日（木）12 時 55 分～13 時
出席者	Mr. Koffi Daingue（58） JICA: Ms. Abiko JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ンバトゥのチーフであり、Central chief、管理委員会のチーフでもある。 ・管理委員会の名前は、Comite d'aide a restructuration de Bonikro である。 ・先程若者が言っていた問題であるが（委員会のメンバーと管理者トップ間）、彼はこのスラムの住人ではないため、彼の発言は気にしていない。 ・当委員会は 1996 年に設立し、設立動機は政府によって地域の開発のために設立を奨励されたからである。しかし政府からの資金援助等はない。 ・現在は、土地分割に係る資金を集めたいと考えている（土地分割については、すべての土地をエブリエが申請済みとの発言もあり、いろいろな説明があってよくわからない）。 ・電気の整備や給水整備の際の管理に責を負う。

報告日：2017 年 2 月 19 日

場　所	Bonikro（スラム）、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 16 日（木）13 時～13 時 15 分
出席者	Mr. Boli Vincent (69), Tel: 07821835/ JICA: Ms. Abiko JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・ベテのチーフであり、アフリカスポーというフットボールチームのリーダーでもある。 ・騒乱中に、自身の家が襲撃され、3 カ月間逃げていた。帰還したらすべてがなくなっていた。 ・現在は、人々に恐れられているし、自分も恐れている。許すことが必要である。騒乱後に、路上でミーティング等を重ね、許すことができるようになってきた。また、一緒にお酒を飲む際などにもコミュニケーションをとるなどした。食事を共有することは重要である。 ・われわれのような高齢者よりも若者の方が悪化した関係の修復は難しい。われわれ高齢者はそれほど大きな問題を抱えていないが、若者の方が深刻な問題を抱えている。そこらへんで飲んだくれ、他人の言うことに耳を貸さない。特定の民族だけが阻害されているなどということはない。 ・結婚式では、バウレやベテは一緒に祝ったりしているし、何かを決める必要があるとき等は皆で集まって決めている。また、一緒にご飯を食べたり飲んだりもしている。

報告日：2017 年 2 月 19 日

場　所	Bonikro（スラム）、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 16 日（木）13 時 15 分～13 時 20 分

出席者	Ms. Zombra Adjata JICA: Ms. Abiko JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・女性グループ（General des Bomnico de Bonikro）のリーダー。マリンケの女性。 ・1999 年に設立され、市役所に登録済み。現在のメンバーは約 100 名、うち 25 名がエグゼクティブメンバー（ベテ、ゲレ、ジュラ、ブルキナファソ人、マリ人等）。 ・設立動機は平和と社会統合のため。騒乱時もメンバー間には問題は起こらなかった。 ・皆で月に 1 度の集まりの際にお金を集めている（頼母子講）。 ・ニューイヤーのセレモニー等に係る支援を市役所には依頼したが返答はなかった。

（Yopougon Sante 村調査：騒乱時に逃げた人が多く、騒乱の影響を受けた地域とされた）

報告日：2017 年 2 月 19 日

場　所	Yopougon Sante 村、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 16 日（木）15 時 15 分～17 時
出席者	Village chief, Chieftaincy のメンバー、青年・女性グループのリーダー等 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（終始、騒乱の影響を受けていない、村とカルティエの関係性もとても良いという回答であったが、調査終了後に車まで送ってくれた比較的若い Chieftaincy のメンバーが、インタビューの前にミーティングがあり、そこで悪いことは言わないようにとの話があったために、事実を語ることができなかったと発言した。チーフとして、地域をうまくコントロールできていないというのは恥になるためではないかというのが、同行の市役所職員や現地社会調査員の見解であった。そのため、以下の発言の信憑性は低いと思われる。インタビューにはエブリエだけではなく、村在住のアジュクロ、ベテ、マリンケ等もいた。） ・Yopougon Sante 村の中に、Sante 村とサブカルティエがある。サブカルティエは、Joula Bogo（マリンケが多い）、Sikaso（セヌフォやマリ人が多い）、Agbayate、Quartier Noir、Koweit、Beate、Cocoteraire（4 つすべて民族混合で民族マジョリティは不明）である。この村にスラムはない。 ・もともとアボボアジャメ大学の土地に住んでいたが、住民間（エブリエ同士）で争いが起こり、1800 年代に現在の土地にやってきて、現在の Yopougon Sante（最後までやり遂げるという意味）に改名した。この地域には当時はだれも住んでいなかったので、土地をだれかから購入したということはない。サブカルティエの人たちは 1960 年頃からこの地に住み始めた。現在の Sikaso カルティエの人たちは、もともとエブリエのため（一部は自分たちのため）にファームで働く労働者であった。 ・住民の主な仕事は、公務員、レンガ工、カーペンター、小売業、トランスポート等である。一部は土地や家屋を貸してお金を得ているが、多くはない。土地の多くは既に売られたものである。若者のうち 90%程度は職をもたない。 ・村において主要な役割を果たす Chieftaincy は 22 名のメンバーから成る。20 名がエブリエ、2 名は外国人である。すべて男性。男性しかなれない。そのほかに村には公式な民族の長がいる。公式な民族の長というのは、Chieftaincy へきちんと紹介された人であり、現在、アジュクロベテ、バウレ、ジュラ（マリンケ＋セヌ

フォ）がいる。そのほかに、女性や青年グループの長がいる。サブカルティエには民族の長はいないが、カルティエの長はいる（実際にはサブカルティエ？）。選定のためのクライテリアがあるはずであるが、知らない。カルティエチーフは、カルティエの人たちを集める役割を果たしているのに対し、Chieftaincy は、セレモニーの開催などに責を負う。サブカルティエレベルで解決できない問題については、Chieftaincy に報告がなされる。

・サブカルティエと村で一緒に活動することは、現在はない。市長から呼ばれたときくらいである。
・Chieftaincy の会議は、月に 2 回開催されており、村の開発などについて協議している。
・女性は清掃活動等を民族を超えて実施していたりする。
・民族に関係なく実施される活動としては、結婚式や葬式、ミーティングくらいである。
・騒乱以前は人々は調和をもって生活をしていたが、騒乱中に危険を感じた人は村から避難した。人と人との争いではなく、ただ恐れを感じたから逃げただけである。避難した人も村やカルティエに既に帰ってきている。
・われわれは長く一緒に生きてきたため闘いたくはない、ということが騒乱が始まる前からチーフ等によって住民に話されてきた。そのため、この地域では人々が憎み合うことがなかった。
・現在の社会統合の状況については全く問題ない。
・セキュリティについては、どこから来るのかはわからないが泥棒や壁を壊されるなどの被害に遭っている。これらの問題はチーフに報告され、チーフレベルで解決ができない問題については、チーフから警察へ報告される。報告をすれば、警察はすぐに来てくれる。
・プロジェクト実施における管理委員会のメンバーは､プロジェクトによると思う。小学校建設であれば COGES のメンバー（民族混合）が適任であると思うが、いずれにしても、Village chief 及び Chieftaincy によってメンバー選定されるべきである。決定に他の人（カルティエの人たちを含む）を入れるべきではない。Chieftaincy が最上位の機関であるためである。サブカルティエに小学校などが建設される場合には、サブカルティエのチーフが委員会のメンバー選定に責を負えばよい。
・社会統合を委員会設立の目的の 1 つとするのであれば、各民族の長、女性・青年グループの代表等をメンバーにするのが良いと思われる。
・保健施設については、学校施設の管理を行う COGES のような管理委員会はない（最初「ある」という回答であったが、保健省に「自分たちに管理させてくれ」と言っているが、許可がもらえず、ドクターがマネジメントを行っているのが現状とのこと）。
・この地域は社会統合に問題を抱えていないが、そのような問題がある地域では、アソシエーションの長や各民族の長がきちんと話し合いをするべきである。
・行政に対しては、否定的な感情をもっている。この村は最も古いエブリエの村である。行政は何のプロジェクト実施もせず、われわれのことを忘れていると思われる。ヨプゴン市ではたくさんプロジェクトが実施されているのに、この村にはない。選挙のときだけ何かを約束して帰っていく。COGES も机 1 つ支援してもらったことがない。現在の小学校も村で建てた。市に新しい小学校の建設を依頼したが、何の返答もない。
・行政は役割を果たしていない。ごみの回収がなく、自分たちでお金を払って人を

	雇っている。月に 2,000FCFA 程度かかる。道路改修についても依頼しているが何のアクションもないため、自分たちで 120 万 FCFA を確保し、道路の改修を行ったりしている。このお金は、村の中にある会社から支払われる土地賃料等から捻出している。 ・市場の建設も途中まで自分たちで行ったが、お金が尽きたために現在ストップしている。税金を払っているのにそのお金は一体どこに行っているのかと聞きたい。 ・市役所には、住民を訪問し、人の声を聞いてほしい。 ・住民にインフラ整備等の恩恵を与えてほしい。 ・われわれは泣いている。市役所にはその状況を理解してもらい、われわれの涙をぬぐってもらいたい。

報告日：2017 年 2 月 19 日

場　所	Yopougon Sante 村、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 16 日（木）17 時 5 分～17 時 15 分
出席者	Mr. Djama Alain Yapo（42） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・エブリエの男性。若者グループのリーダー。若者グループ自体はかなり昔からあるが、現在のリーダーが現職に就いたのは 3 年前からである。グループの名前はなく、登録もしていない。メンバーも何人いるのかわからないが、エグゼクティブメンバーは 25 名である。エグゼクティブメンバーは民族混合で、ベテ、エブリエ、ディダ、ジュラ、ゲレ等がいる。若者グループのリーダーについても、村とサブカルティエでは異なっており、村では Village chief による任命制であるのに対し、サブカルティエではメンバーから選挙により選出される。（任命制であれば Village chief の親族等がなりやすい？）そういう傾向はあるかもしれないが、決定される前に、Chieftaincy でも協議がされている。 ・現在活動はしていない。皆仕事を探すなどの活動で忙しいためである。このグループが政治的な活動にかかわっていることはないが、各メンバーはそれぞれが支持政党をもっている。しかし、政治的な興味があるというわけではない。 ・グループ活動以外にコミュニティにおける役割等は特にない。

報告日：2017 年 2 月 19 日

場　所	SICOGI カルティエ（彼らの認識（SIDECI-SICOGI Location-Ventel））、Yopougon Commune
日　時	2017 年 2 月 18 日（金）11 時 15 分～13 時 40 分
出席者	管理ユニオンの長、若者や女性等 8 名程度（ジュラ側の人間は不在） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（社会統合に係る話になった途端に、それまで多く発言していた年配の男性たちの口が重くなった。それに対し、初めは話すのが怖いと言っていたものの 1 人の若者が口を開いたあたりから、特に若者が多く意見を言うようになった。特に、ナショナルレベルへの不満が多く聞かれたサイトでもある） ・ここは、SICOGI カルティエであり、INS が定めているカルティエの名前については聞いたこともないし、SIDESI が何を指すのかなどもわからない。行政区分については住民は特に気にしていないし、市役所等がどのように認識しているのかもわれわれは知らないが、市役所の区分が正しいのだろう。SICOGI カルティエは、

SICOGI 1～11 の 11 のサブカルティエからなる。

・人口はわからないが、1998 年のセンサスでは、バウレが 78,000 人、ジュラが 45,000 人、ゲレ・アニが 22,000 人、ベテが 35,000 人であったと記憶している。政治的な騒乱を経た今は人口分布は変わっているだろう。現在、キリスト教徒の方がイスラム教徒よりも多いと思われる。

・住民の仕事は、リタイアした人が多いが、テントの貸出業（葬式などに需要がある）、サウンドシステムの貸出、小売業、食料や豚肉などの販売（わざわざ豚肉を出したことに何か含みがあったのかどうかはわからない）、ドライバー等である。若者の少なくとも 70%は無職である。

・このあたりはもともと、エブリエの人たちがカカオなどを栽培している土地であった。この地域を政府がエブリエに補償を与えて入手し、土地の分割、レイアウトの作成が政府によって実施された。その際に SICOGI が道や家屋の整備を行っている。整備は 1971 年に開始された。以前は住民は政府に家賃を支払っていたが、1995 年に政府がそれらを住民に販売したため、現在は住民が所有している。とはいえ、正式な書類がなく、SICOGI に正式文書を依頼しているが、弁護士を伴ったエリアカルキュレーション等が必要で面積にもよるが 50 万 FCFA 程度かかるとのことで申請できていない。

・<u>老年男性</u>：社会統合については、騒乱以前はコンフリクトがあったが、現在は何も問題はない（騒乱以前のコンフリクトはと聞いたが、明確な回答はなく、別の人に回答を譲る）。

・<u>中年男性</u>:騒乱以前は住民は民族について考えることはなかったが、騒乱期に人々の間にコンフリクトが生じ、騒乱後に国民和解に係るアクションが起こされるべきであるものの、国家の長は何も行っていない。宗教のリーダーが住民レベルで、互いを許すようにと言っているにもかかわらず、国家の長は何もしない。宗教リーダーが大統領に国民和解についてのリクエストを出しているにもかかわらず、大統領は何もしていない。

・<u>老年男性</u>：宗教リーダーだけでなく、アソシエーションの長等も大統領に国民和解に係る依頼をしている。しかし十分なことが大統領からなされたとはいい難い。彼らもベストを尽くしているのかもしれないが、十分ではない。騒乱直後は、近くに寄ることや挨拶をすることさえ難しかったが、現在は互いに挨拶をしたり、一緒に飲んだり、騒乱直後に比べると関係性は近づいてきている。

・<u>老年男性</u>：市役所も人を集める際に、民族・宗教に関係なく人を呼んでいる。

・<u>中年男性</u>：人々の関係性を改善するために何かのアクションが起こされたわけではないが、路上などで挨拶をするうちに、近くに寄ることができるようになった。

・<u>女性</u>：騒乱以前は問題は何もなかったが、騒乱時にいろいろな悪いことが起こった。現在も関係性は変わっておらず、偽善的（表面的？）なものであり、相手を信頼しているということではない。

・<u>青年男性</u>：（この男性の発言以降、ネガティブな意見が比較的出るようになる）今聞き取りをされているこの会合であっても、互いに不信を感じながら座っている。ここで何か言ったら後で何か罰を受けるかもしれない。それが現実である。

・（話題を変えるために、住民の関係改善のためにできることに質問を移すが、彼ら自身からその後も現在の社会統合に係る現状が話される）

・<u>女性</u>：私はコートジボワール人である。政府関係者や公務員には同じ名前しか見当たらない（北の人たちの名前だけ）。このような不公平を政府がまず止めるべきである。それが、人を許すいい機会になる。

・<u>青年男性</u>：親類が今も投獄されている。この人たちが外に出されない限り、和解

はない。投獄されている人の子どもたちは学校にも通えずにいる。

- 青年男性：騒乱は終わっていない。政府は悪い行いを続けている。刑務所にいる人、国外追放された人がいる。彼らをフリーにしなければならない。国外追放した人をこの国に戻さなければならない。
- 老年男性・青年男性：最近政府の要職に 5 名、ハイランクのワタラ派の反逆者（army とも）が任命された。人の神経を逆なでする行為であるし、まだ闘う気なのかと思わせる人事である。ワタラは平和を望んでいない。
- 老年男性：フェアじゃない大統領、というのが問題。国民全員から支持されていなくても、国民みんなから感謝されることを行うのが大統領である。今の大統領は違う。
- （国家レベルでの解決に JICA が介入することはハードルが高いが、コミュニティレベルで何か住民の感情を改善するような方法はあるか？）
- 老年男性：2 つある。①刑務所に入れられている人の開放、②国外追放された人のコートジボワールへの帰還。
- 青年男性：それは困難ではあるが不可能ではない。騒乱以前は政治的な話も平和的に話せた。現在は、住民が強く政治に関連づけられるため、オープンにそのような話題について話すことができない。例えば、ジャーナリストから意見を求められて本当の話をした人は刑務所に 4 カ月も入れられてしまった。ジャーナリストのふりをした政府のスパイだった。こういう状況を変えないと無理である。
- 女性：そこで子どもや青年たちが遊んでいる。彼らには仕事がない。今は平和的に遊んでいるがそのうち喧嘩が始まる（飲んだりもするため）。警察は彼らを逮捕しにくるだろう。なぜなら彼らはベテだから。
- 青年男性：サッカー大会は若者、高齢者、女性すべてを集めるし、社会統合に対するセンシタイゼーションを行う良い機会になると思う。サッカー大会は、住民が容易に団結することができ、民族などの色がないという意味でやりやすい。オープンに話す機会を与えることができる。サッカー大会を実施するのであれば、民族は混合であることが望まれる。高齢者チーム、子どもチーム、若者チームなどを結成して闘うのが、いろいろな人を巻き込めて良い。サッカー大会の開催者が、住民自身や市役所であれば来ない人もいるが、JICA のような政治的な背景が全くない海外の機関であれば皆参加できる。例えば、EU もサッカー大会を市役所と一緒に実施したことがあるが、外国人による調整であったため良い機会になった。
- 老年男性：JICA が市役所に資金援助をして、市役所によって定期的に開催してもらいたい（上の市役所による開催では、政治色が出るとの意見とは矛盾するが）。
- 女性：ユースハウスの建設も人が集まる良い機会を創出する。ユースハウスでは、会合も開けるし、一緒に遊んだりもできる。安全な地域の提供ができる。コンサートの開催なども可能である。
- 女性：店舗（路上に並ぶ小さい店）の整備を市役所と一緒に行ってもらえれば、無職の青年がグループをつくって集まれる機会をつくれる。異なる支持政党の若者から集めて、グループをつくるのが良い。可能である。
- 青年男性：自分は嫌である。そんなに簡単に仲間にはなれない。どのように一緒に働けるのかを教えてくれれば可能かもしれない。いずれにしても時間はかかる。
- 老年男性：技術訓練校の整備も社会統合に寄与する。同じセッションに参加することで、彼らの関係性が強化される。
- 老年男性：センシタイゼーションが必要である。そのためにユースハウスの整備は重要である。この地域では、外部者、内部者によるセンシタイゼーションの機

会は一度も設けられていない。

・中年男性：スポーツハウスの整備もいい機会を与える。だれもが集まることができるし、家に籠っている人を外に連れ出すいい機会にもなる。
・老年男性：社会統合の阻害要因としては、多くの子どもたちが小学校を辞めているということが挙げられる。両親が貧しく、子どもたちをケアする時間がないためである。小学校を辞めて、ディプロマを取得しない低学歴の子どもたちが増えると、政治に簡単に巻き込まれ、利用されてしまう。いい職をもつことで政治に容易にコントロールされることなく、それが社会の安定につながる。
・女性：住民間の不信が阻害要因である。騒乱中、密告者（どの家の住民がバグボ派かをワタラ派に教えていく人）がたくさんいた。その人たちも一緒に住んでいるが、不信感は消えない。社会統合を促進するものとして、サッカー大会やインフラ整備等も挙がったが、彼らとも一緒に活動するためには、その事業が外国人によって実施されるものであることが必要である。密告者は政治にすぐに結びつけられてしまう。政治的な色が少しでもある事業であれば、彼らの巻き込みは無理である。一緒にかかわりたくない。
・老年男性：政治家や政治的な活動をする人たちが行うことは、秩序を乱すものであり、コンフリクトを生みだすことになる。
・老年男性：この地域は比較的安全である。
・女性：ミクロブがこの地域にも来る。2 週間ほど前にも、襲撃された人がいた。また、盗難も相次いでいる。すぐそこの家も先日朝 5 時頃に強盗にあった。警察には届けても来てくれない（遠くないところに警察署があるが）。彼らは燃料がなく、彼らが来るためにはわれわれが燃料代を払わなければならない。武器も持っていないのでそれほどあてにならない。
・老年男性：この地域は違法なドラッグ喫煙ハウスに囲まれている。行政に移転をお願いしているが、何もしてくれない。
・女性：排水溝が詰まっており、地域に悪臭が立ち込めている。ごみの回収もない。税金の徴収は多いのに、何の見返りもない。
・中年男性：蚊もいっぱいいるためにスプレーをお願いしているが、それも実施してくれない。
・老年女性（途中参加）：市役所の役割には満足している。マキ（飲食場）を取り壊してくれたおかげで静かになり、よく眠れるようになった。
・中年男性：市役所には満足している。必要な書類をくれたり、環境を守ってくれている。もっと役割を果たすべきではあるが。
・老年男性：駐車スペース等に人が多くたまっていて、その周辺も整備することで安全な場所にすることができる。
・女性：市役所による支援がないときには、ユニオンが地域の安全や、サニテーションに対して対応を決定している。しかし、ユニオンは現在は機能していない。
・青年男性：現在はコミュニティ活動は一切ない。以前は清掃活動等をやっていた。冠婚葬祭も民族を超えて一緒にやることはない。不可能である。
・この地域に存在するリーダーは、民族のリーダー、ユニオン（詳細を聞いたがわからないとのこと）、女性・青年グループのリーダーがいる。サブカルティエのチーフや CGQ はない。
・老年男性：ユニオンの長でもある：管理委員会のメンバーとしては、各サブカルティエのユニオンの代表者が適任である（ユニオンは全サブカルティエに存在する比較的新しい組織である。地域のインフラなどのメンテナンスに対する対応を行っている、との説明であったが、その後、すべてのサブカルティエにユニオン

	は存在しないことがわかり、どのサブカルティエにユニオンが存在するかもわからないとのことであった)。サブカルティエにユニオンがある地域はユニオンの代表者、ユニオンがないところは選挙によってキーパーソンから選出するのが良い。 ・女性：各カルティエから1名ずつを選定すべきである。 ・（各カルティエから1名となると、全員がベテ、全員がマリンケ等ということもあり得ると思うが問題ないか？） ・女性：民族ではなく、良い行いをしている人から選ぶべきである。 ・老年男性：結局は選挙になったときに、住民は民族で選ぶだろう。民族は混ぜた方がいいと思うが、パフォーマンスのいい人も入れるべきである。

報告日：2017年2月19日

場　所	SICOGI カルティエ〔彼らの認識（SIDECI-SICOGI Location-Ventel)〕、Yopougon Commune
日　時	2017年2月18日（金）11時15分～13時40分
出席者	Mr. Kouassi Clement（64） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
打合せの目的	聞き取り調査（社会調査）の実施
協議内容	・（全体的にグループインタビューのときから、発言が二転三転していたが、個別インタビューにおいても実態がよくつかめなかった） ・バウレの男性：ユニオンの長である。ユニオンのメンバーは、土地所有者である。2015年後半から活動している。われわれのユニオンがこの地域で初めてのユニオンである。 ・土地所有者の支援のために設立したが、環境整備、グリーンスペースの維持管理（葬式やプレイグラウンドとして使用される。使用は有料。2週間前にプレイグラウンドの管理をするための6名の青年を選出したばかり）等を行っている。 ・実際には現在は何も実施していない。メンバー間にリーダーシップに係るコンフリクトが起こり、新たなユニオンを設立した。市役所に承認されるまでまだ時間がかかる。 ・活動資金はわれわれのポケットから出ている。メンバーは現在12～14名、プレジデントはベテ（バウレでは？)、総書記がバウレ、会計係がジュラ等、民族混合である（他の詳細はよくわからなかった)。

報告日：2017年2月22日

場　所	連帯・社会統合・犠牲者補償省
日　時	2017年2月22日（水）10時30分～11時30分
出席者	連帯・社会統合・犠牲者補償省 DG 他2名 MEMIS: Mr.アベル（COSAY フェーズ1アシスタントコーディネーター） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	社会統合政策等に係る聞き取り
協議内容	・（COSAY フェーズ1時のアシスタントコーディネーターであった内務省アベル氏より、COSAY フェーズ1の説明がなされた。その際、COSAY フェーズ2についてもアボボ及びヨプゴン市にて同様のプロジェクトを継続するとの説明に加え、翌日のJICAとの協議の際に、DGより対象サイトの拡大について相談される予定であるとの発言があった)。 ・〔以下、発言はすべて連帯省 DG（以前は6年ほど ONUCI との調整部局にいた)〕

・本省で策定している社会統合に係る政策は、すべての社会統合プロジェクトにおけるガイドラインのような位置づけである。
・騒乱による負の影響を大きく受けたアボボ市及びヨプゴン市におけるプロジェクトの実施は、大変喜ばしいことであるが、JICA には対象地域の拡大も検討してもらいたい。他の地域においても社会統合の問題は残っている。例えば、Treichville 市や Koumassi 市が挙げられる。強い緊張関係は存在しないようにもみえるが、実際にはアボボ市・ヨプゴン市同様、社会統合に係る問題を抱えている。
・連帯省では、社会統合に係る促進・阻害要因を以下のとおり分析している。
  ・Security：どこにでもある問題である
  ・Economy：若者の失業率等
  ・Enforcement of the law
  ・Respecting elders/ institute
  ・Schooling：先月のストライキの問題等
  ・Displaced Persons：継続的に帰れるようにすることが必要
  ・Actor：村長等（Local leader, Authority）のキャパシティ・ビルディング（キャパビル）。彼らが社会統合のキーとなり得る。
  ・若者のキャパビル："Citizenship"に係るセンシタイゼーション。彼ら自身による社会への貢献が地域の発展を助けること等を理解してもらう必要がある（道路メンテナンス等にも役立つ）。
・本省では、2016 年まで Cultural chief 等に対するミーティングを開催し、センシタイゼーション等を実施してきた。
・本当はアビジャン以外にも展開を期待したい。西部地域においても、社会統合に係る同様の問題を抱えている。北西部についても同様である（ここで社会統合マップを示される）。マップで示されている赤い地域が特に状況が悪い地域、黄色が赤よりは落ち着いているが問題を抱えている地域、問題がない地域は緑となるが、現時点で緑はない。
西部地域は土地問題、北東部等は違法な鉱物採掘業による衝突、中央部は地域リーダーの問題等を抱えている。西部地域では、土地問題から海外へ逃亡している住民も多いほか、北西部では先日、マイニングに関連して 6 人が殺害される事件が起こっている。
これらの情報を管理するオブザバトリーが本省にはある。JICA にも情報提供は可能であるが、大臣の許可が必要であり、2016 年からアップデートされていないため、最新の情報ではない。
・社会統合を測る指標としては、土地問題や違法なマイニング、リーダーシップに係る問題（だれもがリーダーになりたがる。伝統的リーダーや政治家等）のほか、人々の間にある不信等が挙げられる。
・本省は独自の予算をもたない。パートナーからの支援に頼っている。過去・現在において、UN（UNPA や ONUCI）やアフリカ開発銀行からの支援を受けている。実際の活動はセンシタイゼーションのほか、社会統合に問題を抱えるサイトの特定をするための調査を実施している。本調査結果をもってドナーに支援の依頼をするためである。
・また、本省では、すべてのアクティブなパートナーとのコーディネートを重要視している。そのためにコーディネーションプラットフォームを設立し、全省庁へフォーカルパーソンの選定を依頼した。社会文化的な活動やソリダリティデイの開催等を話し合っている。内務省からもダイレクターのドゥエンド氏が選出されている。

	・社会統合に係るデータの収集・分析・報告に係るキャパビルワークショップの開催を予定しており、UNDP からの返事を待っている。また、北西部及び大アビジャン圏において社会統合の促進に係る人々へのセンシタイゼーションを、アフリカ開発銀行の資金で実施する予定である。現在サイトの選定（おそらく Andoki Koute も対象）を行っており、若者、特に無職の若者や社会的弱者を対象とする予定である。2017 年 6 月より開始予定。 ・女性のエンパワーメントも重要である。女性への権利、彼ら自身によるケア等を教えていく必要がある。政府機関においても同様である。意思決定に女性が内包される必要がある。ルワンダでは、女性が重要な役職に就いている。 ・政策にある平和委員会は、2011 年の騒乱後に各レジオンに設立された、コンフリクトマネジメントのための委員会である。メンバーは若者や女性、その他すべてのリーダーから成る。ドナーがその設立を支援し、彼らが集まり、問題について協議するための場所の整備を支援した。政策内では平和委員会としているが、設立したドナーによってそれぞれ名前が異なっている。名前は異なるが設立目的等は同じである。ドナーの支援により実施されていたときはよく機能していたが、現在はほとんど機能していない。西部地域においてもたくさん設立された。 ・平和委員会が機能していない現在、Central chief のキャパビルが重要である。機能強化をしないと消滅する可能性がある。 ・本省も COSAY にぜひ含めてもらいたい。社会統合に係るメソドロジー、評価モニタリング等で協力できると考えている。COSAY フェーズ 2 のフレーム作成のために訪れるというミッションにもぜひ訪問していただき、支援をお願いしたい。アフリカ開発銀行からのプロジェクトファンドとの重複を避けるための情報共有等も可能である。

報告日：2017 年 2 月 23 日

場　所	内務省
日　時	2017 年 2 月 23 日（木）10 時 45 分～11 時 30 分
出席者	内務省 DG、Mr. アベル（COSAY フェーズ 1 アシスタントコーディネーター） 他 2 名 JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	現地派遣報告書の提出及び説明
協議内容	・（この後に重要な会議があるとのこと、専門家より調査結果を簡潔に説明した） ・DG：JICA の支援には感謝している。JICA のプロジェクトはトレーニングセッションなどを通して平和構築に貢献している。COSAY フェーズ 1 の終了に際し、JICA は社会統合にプロジェクトが大きく貢献したと評価していたが、共有された調査結果のとおり、社会統合はまだ終わっていない。 ・地方分権局長：さまざまな社会的な問題が存在している。社会統合なくして何も成し遂げられない。報告書にある Suggestion については、市役所がキーエレメントとなる。プロジェクトの終了後も市役所が主導して活動を継続していく必要がある。また、騒乱後に当国ではさまざまな社会統合に係る組織が立ち上げられているが（連帯省など）、それらを巻き込んでいく必要をどのように考えているか。 ・（回答）連帯省が作成している社会統合に係る政策等は、COSAY においても踏襲していく必要、当国の政策課題に寄与していく必要があると考えている。具体的な協力の方法については、次のミッションやプロジェクト実施のなかで議論されるべきであると考える。

	・地方分権局長：市役所のキャパビルがとても重要である。市役所の役割は道路を整備するなどにとどまらない。問題への対応も求められている。 ・アベル氏（DG や局長に対して）：COSAY フェーズ 1 では、市役所を主体にプロジェクトを実施してきている。市長は CCGPP のプレジデントのような役割を担ってきた。国内外での多くの研修セッションを通して、能力強化が図られてきている。ヨプゴン市では、CCGPP の考え方をアソシエーションに適応させていきたいという意向もうかがっている。また、市役所主導で実施されるプロジェクトに、COSAY フェーズ 1 で作成されたハンドブックの適用も COSAY フェーズ 2 では実施される予定となっている。このような機会を通じて、市役所と住民の関係性の改善もねらっていきたい。 ・地方分権局長：住民の発言や調査報告書のまとめに記された、「社会統合が達成されたとはいい難い」という結論に驚いている。現在も住民が仲良く暮らしているところはないのか。 ・（回答）専門家も、調査を開始するときに想像していたよりも、住民間に緊張関係が強く残っていることに驚いた。しかし、ほとんどの地域でまだまだ不信を互いに抱きながら生活しているというのが調査を通じて感じた印象である。レポートにもあるように、今も仲良く暮らしていると見受けられたのは、一般に村であり、彼らは、自分たちは古くから互いを知っていた、騒乱に際して、村長が互いに争わないようにと人々に説いていたということが、騒乱の影響を大きく受けなかった理由としてインフォーマントから語られている。 ・DG：多くの地域で出たという公平性の確保も考えていかなければならないことである。スラムにおいても調査を実施したということであるが、スラムの状況はどうか。 ・（回答）社会統合という意味においては、特に一般の地域とスラムの間に大きな違いはみられなかったという印象である。ただし、調査した 1 つのスラムは騒乱による大きな影響を受けた場所であり、100 名の死者、9 名のレイプ被害者、多くの略奪行為等が報告された。密告者の存在も指摘されており、今も住民間の関係性は良くないということであった。 ・DG：レポートに示された社会統合に係る問題、阻害・促進要因等は、参考になる。調査によって現在の状況を知ることができたと思う。この調査を基に JICA が COSAY フェーズ 2 の内容を考えてくれることを望む。われわれはいつでも全面的に協力する。

報告日：2017 年 2 月 25 日

場　所	アボボ市役所
日　時	2017 年 2 月 23 日（木）15 時 30 分～16 時
出席者	カンボ氏（社会文化局アシスタント）、ヤオ氏・ドカス女史・コネ氏（技術局代理人） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	現地派遣報告書の提出及び説明
協議内容	・セミナーやアビジャンにいないなどの理由から、ダイレクター等が参加できなかったとのことで、COSAY フェーズ 1 のことをあまり知らない人たちの参加となった。アボボ市の調査結果について、報告書を基に専門家より説明した。 ・カンボ氏：報告の内容について、上司に報告する。透明性確保の重要性については、そのとおりである。だれもが何でも言えるようにする必要がある。市役所は、アソシエーションのリーダー等との関係改善が必要である。セレモニーの開催を

	計画しているが、日が近づいてからアソシエーションのリーダー等に連絡するため、不満も聞かれている。 ・コネ氏：技術局は、事業実施の際に住民を巻き込む必要があるが、市役所はほとんど何の事業も実施していない。市で実施されるプロジェクトの多くは District で実施されるものである。District Plan はあるが、内容は知らない。技術局でも所有していないと思う。市役所の 3 カ年計画については、まだどのプロジェクトも実施されていない。ただ開始が遅れているだけである。District で実施される事業は道路整備である。それ以外はない。 ・3 カ年計画の Action に COSAY に係る予算が積まれているが、COSAY フェーズ 1 でも同様に、プロジェクトの実施に際しては市役所からも費用を捻出している。各年 1,100 万 FCFA を積んでいるが、必要であろうということを見込んでの予算であり、内容は車の購入費等である。アソシエーションに対する支援等ではない（Operation ではなく Action に記載されているが、との問いには答えられず。あまり詳細をわかっていないような印象も受ける。その後、Deputy director に確認するように現地社会調査要員に指示するも回答得られず）。

報告日：2017 年 2 月 25 日

場　所	ヨプゴン市役所
日　時	2017 年 2 月 24 日（金）10 時 15 分～11 時 40 分
出席者	ベンガリ氏（社会文化局長）、カブロン氏（社会文化局アシスタント）、ワタラ氏（技術局 SG）、デボロ氏（人事局副局長） JICA expert team: Katayama, Mr. Dosso, Ms. Faouzia
入手データ	なし
打合せの目的	現地派遣報告書の提出及び説明
協議内容	・専門家から調査結果について報告。調査に同行してくれたカブロン氏からも追加報告。 ・カブロン氏：日々の調査結果については上司に共有済みである。調査報告につけ足すとすれば、市役所に対する住民の意見である。市役所職員に訪問を望む声が多く、市長の訪問が全くないという不満がたくさん聞かれた。 ・ベンガリ氏：調査報告の内容を市長にも報告してほしかった。市長はこの事実を知るべきである。市長との調整ができれば、副市長やその他のキーパーソンにも会えたのに。報告書のソフトデータの送付をお願いしたい。市長に報告しておく。報告書では、事実を和らげて書かれたのではないかと思うが、市長には現実を知ってもらうことが重要であると思う。カブロン氏にも日々の報告を依頼していたが、彼も比較的控え目に報告したのではないかと思っている。事実を知ることで市長の考え方を変えることができると思っている。市長に対する不満などが多く出てきたということであるが、そういうことも隠さず報告して問題ないと思っている（現地社会調査員が作成している議事録等を市長に共有しては、という意見が出たが、その場合は、必ずどの地域かわからないようにしてほしいと依頼したところ、カブロン氏も調査に同行しているのでカブロン氏が社会調査員作成の議事録を参考に作成するとのこと。地域が限定されないように留意し、JICA に責任がいかないようにするとのこと）。市長の考え方を変えない限り、市役所で実施する事業も変わらない。 ・ワタラ氏：(3 カ年計画について説明。市長の考え方だけで作成されているわけではない) ・ベンガリ氏：それは、理想の話であって、現実は市長がすべて決めている。その

ために住民の満足度も低い。COSAY フェーズ 1 ではコミュニケーションに予算がつかなかったが、COSAY フェーズ 2 ではつけてもらいたい。コミュニケーションとは、ラジオでこのプロジェクトについて流したり、プロジェクトの T シャツを作ったりすることである。選定された地域や人だけではなく、選定されなかった人にもきちんと情報を流し、このプロジェクトのことを知ってもらうことは意義のあることだと思う。

- ワタラ氏：3 カ年計画等によるプロジェクトを実施する前にニーズを知るべきである。市役所は住民のニーズを知らずに実施していることが多い。この状況を変える必要がある。3 カ年計画作成に先立ってニーズアセスメントなどを実施することは今のところはない。
- ベンガリ氏：3 カ年計画を作成する前に住民を集めた大きなミーティング等を実施し、住民との会話の機会等を設けたいと思ってはいるが、実現には至っていない。選挙の後に住民を 1 度集めただけである。予算等の問題以前に、いいことをできないという雰囲気がある。そういうことをすれば、「あいつは市長になりたいからやっているんだ」と言われたりする。市長が実施しないというよりは、市長に助言をする人たちがやらないように仕向けているような感じだろうか。
- ワタラ氏：1 年に 2 回くらいこういうことができると良いが、予算がないうえに、こういうことを企画しても同僚にボイコットされる。同僚等からの許可と予算が必要である。
- ベンガリ氏：ジュラ以外の人は、ジュラだけが支援を得ているというが、市役所はそのようなことはしていない。ジュラも支援を受けていないのが現実である。Authority はこの事実を知っているはずであるが、何もしない。
- ワタラ氏：次のミッションでは、必ず市長に会ってもらいたい。市長に会う前にわれわれだけで作戦会議を行うか、市長に先に会った方がよいかなどは、考える必要がある。
- （内務省でヨプゴン市では既存のアソシエーションに CCGPP の考え方を入れる計画があるとのことであったが？）
- ワタラ氏：具体的にはわからないが、アソシエーション等による清掃活動等に対して、市役所で支援する用意等がある。そのための予算もあり、購入した清掃機材（手押し車など）については市役所に保管されており、リクエストがあればいつでも提供できるようになっている。
- （アクションにあるようにアソシエーションに対する支援予算が確保されているが、選定はどのようにされているのか？）
- ワタラ氏：3 カ年計画にある Action は、何を実施するか、Operation はどのように実施するかが記載されていて、Action がアソシエーションへの支援というわけではない（彼の説明では Action と Operation は同じものが記載されるべきであるが、実際にはそうなってはいない。他の人から彼はおそらくわかっていないと言われたので確認はやめた）。アソシエーションの選定は、ベンガリ氏が行っている。
- ベンガリ氏：本当のことを話すべきである。私がアソシエーションの選定をしているということはない。（彼ら内部でいろいろと話し合っていたが、結局はだれが選んでいるのかは知らないということであった。）おそらく市役所内のキーパーソンになる人物が選定しているのだろうと思う。
- 市役所における開発については、市役所のもののほかに、確かに District やその他省庁によるものもある。その他省庁については、主に道路やマーケットの整備を実施しており、District については、村内道路の整備を行っている。District 計画が作成される際に、ミーティングに招集され、どのような計画内容にするかが

	共有されるが、それ以外のかかわりは一切ないため、実際の事業内容等は知らない。市役所で District plan ももち合わせていない。District についても、計画策定前にニーズアセスメント等をすることはない。WB のプロジェクトももうすぐ開始される（プロジェクト名等は不明）。道路メンテナンスやサニテーション等を実施する予定である。大きなモールの建設も PPP の枠内で実施されることとなっている。ソフト支援として、若者を塗装工として研修することも兼ねている。市役所も実施プロセスに含まれる。

ジャイカ

JICA